

平成20年度

学生による授業評価実施報告書

平成21年12月

鳴門教育大学 学校教育学部

は し が き

－学部教育改革の第一歩は授業評価から－

本学は、平成12年度からFD推進事業の一環として、学生による授業評価を実施し、公表してきた。この積み重ねにより授業評価は、教員、学生双方のあいだに定着した感がある。授業評価は、それを行った学生とそれを受けた教員とのあいだに相互作用を生み、創造的・自発的・協同的かつ発展的な教育研究環境の創成が期待される。受講生からの授業評価という絶えざるフィードバックを受けることにより、授業が教員からの一方向性のものではなくなり、教員と学生が協働して授業を構築していくという双方向性が生まれるであろう。授業評価におけるこの相互性や双方向性は、授業の質的向上をもたらすものと確信している。

授業評価は、「授業目標・計画・内容・熱意・教材・満足度」など主として授業担当者側を評価する項目と「予習・復習・積極性・出席・興味・関心」など主として受講者側に焦点を当てた評価項目から構成されており、データの分析が重層的に行えるようになっている。このような授業評価やその分析結果を有効に機能させるためには、学生と教員の双方の信頼関係が基本となることは論を待たない。

しかしながら、授業評価の項目にはない「何か (etwas)」（評価されがたいもの）が授業の中には滲み出るものである。おそらくは教員自身の人格的発露、あるいは教養とでもいうべきもの、そしてそれは学生にとっては人間的魅力として感得されるところのもの、そのような「etwas」を身につけることも教員にとっては必要なことである。

ともあれ、学部教育の質の向上のためには、「学生による授業評価」は不可欠であり、来年度以降は、教員の共通理解のもとに、原則全科目について授業評価を行いたいと考えている。今後、授業評価のマネリズムを防ぎ、これをより実効性のあるものにするための方策を検討する必要がある。

さて、本学は、平成17年度から学部教育課程を刷新し、「教員養成コア・カリキュラム－鳴門プラン－」を導入した。そのねらいは、複雑化・多様化する教育現場の今日的課題に対応できる実践的指導力を育成することにある。この新しい教育課程は、教育実践コア科目を中核に据え、他の教養基礎科目、教職共通科目、専修専門科目との構造化を図り、有機的に関連づけ編成されている。教育実践コア科目は、大略、以下の2つの科目群によって構成されている。ひとつは、教科の成立と人間理解を通して、教師という職業（キャリア）について様々な側面から理解し、あるべき教師像を考える「教育実践基礎演習」であり、今ひとつは、教科内容・授業構成・指導方法を学び、それを模擬授業で実践することによって、実践的指導力を育成する「初等中等教科教育実践（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」である。

本年度は、「教員養成コア・カリキュラム」の完成年度であり、その評価については、今後多面的に検証していかなければならない。当然のことながら、学生による授業評価も評価基準のひとつとなるであろう。学生による授業評価の詳細は本文に譲るとして、ここでは教育実践コア科目の授業評価を取り上げてみる。授業評価は5段階評価である。参考までに括弧内に平成19年度の授業評価得点を示している。教

育実践基礎演習（13科目）の評価は、平均4.1点（4.1）、教科教育実践Ⅰ（8科目）の評価は、平均4.4点（4.2）、教科教育実践Ⅱ（7科目）の評価は、平均4.4点（4.2）、教科教育実践Ⅲ（10科目）の評価は、平均4.3点（4.3）である。本カリキュラムのコアと位置づけられる科目は、いずれも4点以上であり、満足すべきラインにあるといえる。また、専修専門科目（計95科目）の評価は、平均は、4.3点（4.1）であった。これらの科目群は、昨年を引き続いて学生から高い評価を受けている。一方、昨年度においては若干不満足な評価であった教養基礎科目（8科目）の評価は、平均4.1点（3.7）、教職共通科目（39科目）の評価は、平均は4.1点（3.8）であり、いずれも昨年度を上回っている。授業担当教員のご尽力の賜であろう。しかしながら、学生側の課題として、学生自身の授業への取り組みに対する自主性・主体性は、平均3.6点（3.6）であり、昨年同様今ひとつはかばかしくない。学生が、自主的、主体的に授業に取り組むように興味・関心を引き起こし、授業を魅力あるものにするにはどうしたらよいのであろうか。各授業担当教員の工夫のしどころである。

さて、先にも少し触れたが、来年度以降は、評価項目の見直しを行うとともに、原則として全ての科目について授業評価を行いたいと考えている。大学院の授業科目についても同様である。授業評価の趣旨・目的をご理解いただき、先生方、学生諸君のご協力をぜひあおぎたい。

今後、本学は教育の理論と教育現場の経験知・実践知の往還を通して、学生や教育現場のニーズに十分応えうる授業を提供していきたいと考えている。

最後になったが、本報告書の作成にあたっては、学部教務委員会ならびに学生による授業評価専門部会委員各位、授業担当教員および学生諸君、関係の事務職員にご尽力、ご協力を頂いたことを記すとともに、改めてこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成21年12月

学校教育学部教務委員会
委員長 田 中 雄 三

目 次

はしがき

I 学生による授業評価の意義	1
II 学生による授業評価の結果と考察	3
1. 調査の方法と種類・形態別回答数	3
2. 教養基礎科目に関する結果の概要と特徴	4
3. 教育実践コア科目に関する結果の概要と特徴	5
4. 教職（基礎・共通）科目に関する結果の概要と特徴	7
5. 専修専門科目に関する結果の概要と特徴	9
6. アンケート様式	24
III 学部授業評価の結果報告書	33

あとがき

I

学 生 に よ る
授 業 評 価 の 意 義

I 学生による授業評価の意義

本学で、学部授業の改善を旨として「ファカルティ・ディベロップメント推進事業」が本格的にスタートしたのは平成13年のことである。これは、平成12年11月の大学審議会答申『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について』に記された大学の教育活動に対する自己点検・評価の一層の推進を受けてのことであった。「学生の学習意欲の向上に資するために、学生にとって授業をよりわかりやすくする為の工夫を行うなど、学生の視点に立った授業改善を行うことが必要であり、これに役立てることを目的として、各大学においては、学生による適切な授業評価を実施するとともに、その結果の公表等を通じて教員の教育改善への取組に生かしていくこと必要である。」（下線は引用者による。）

平成13年以来、本学のファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development) は、本学が求める教育目標を明確にするとともに、学生の実態・特質を見据えた教員の授業内容や教育方法などの改善・向上を目的とした組織的な取り組みを開始し、学生による授業評価を通して、将来教員を目指す学生たちの学習をどう保証し、高めるかを練り上げてきた。平成12年度の「学生による授業評価実施報告書」では、初回ということもあって、1学期、2・3学期の講義のみを評価対象とし、演習や実習についての評価は行わなかった。その点で他大学の授業評価よりも、若干遅れているとも受け取れたが、自由記述の結果にコメントを付し、学生の評判が良く、満足度の高い授業とは、具体的な事例を使った話題の豊富さ・話術の巧みさ・双方性の授業形態をとっていることが明らかになった。その一方で、内容が濃く、深みがあるために、内容量が要求されるものを学生は敬遠することも顕著となった。

こうした学生の学習意欲の動向を追い続けるため、今年度も昨年同様、レーダーグラフを用い、学生の授業への取り組みが明確に分かるようにした。レーダーグラフの特徴から、教員の授業の進め方等と学生の授業への取り組みが明確に区別できるようになった。つまり、教員は学生が不十分だと感じている進め方等の問題を把握し、改善を進めるとともに、学生もまた、学習意欲の度合いが明確であるため、今後の授業態度の改善に役立てることもできるようになった。これに伴い、「学生による授業評価実施報告書」は教員と学生が一体となって一つの授業をつくりあげていく手がかりであり、そのための出発点となることが益々望まれてきている。来年度からは本学の全科目の授業評価を実施するために、今年度を最後に教員のコメントは廃止するが、はたしてこれが授業改善に繋がるのか一抹の不安が残る。

II

学生による授業評価の 結果と考察

Ⅱ 学生による授業評価の結果と考察

1. 調査の方法と種類・形態別回答数

平成20年度の授業評価は、学生によるアンケート調査をもとに、引き続き各教員が調査結果に対するコメントをつけて公表するという形態を採った。

調査は教養基礎科目・教職共通科目・専修専門科目の授業科目の中から、各教員が原則として前期、後期それぞれ1授業科目以上を選択して実施することとした。これらの授業科目におけるアンケート用紙は、各授業科目の授業形態に応じて、「主として講義用」、「主として演習用」及び「主として実験・実習・実技用」の中から選択し用いた。そして、これらの質問項目はほとんど共通であるが、授業科目の内容や性質に合わせて、質問内容が若干異なっている部分もある。なお、平成17年度より新設された教育実践コア科目については、「初等中等教育実践基礎演習」、「初等中等教科教育実践Ⅰ」、「初等中等教科教育実践Ⅱ」、「初等中等教科教育実践Ⅲ」等の全科目を原則として授業評価の対象とした。教育実践コア科目のアンケート様式及び教職共通科目「ふれあい実習」のアンケート様式は、特に授業内容に関する質問項目がその他の科目のアンケート様式と異なっている。

質問紙の大枠は次の通りである。以下の大項目の下に質問項目が設けられ、授業科目や授業形態によりその数は多少異なっている。

- | | |
|-------------------------|---------------|
| 1. 授業概要について | (質問項目：2) |
| 2. 授業の内容等について | (質問項目：4－6) |
| 3. あなたの授業への取り組みについて | (質問項目：5－6) |
| 4. 教員の授業の進め方について | (質問項目：7－8) |
| 5. 授業に対する満足度 | (質問項目：1) |
| 6. あなたからの提言 | (自由記述項目：2) |
| 7. 先の1から5までの項目以外で設定する項目 | (教員が自由に追加できる) |

質問紙は、自由記述項目以外は各質問項目に「5. 非常にそうである」「4. かなりそうである」「3. どちらともいえない」「2. あまりそうでない」「1. 全くそうでない」の5件法で答える形式になっている。有効回答数は次の通りである。

学生による授業評価の種類別・形態別有効回答数

	講 義	演 習	実験・実習・実技	合 計
教 養 基 礎 科 目	325 (98)	121 (33)	23	469 (131)
教 育 実 践 コ ア 科 目	—	438 (10)	—	438 (10)
教 職 共 通 科 目	2,008 (4)	257 (129)	77	2,342 (133)
専 修 専 門 科 目	1,429 (122)	146 (22)	112	1,687 (144)
合 計	3,762 (224)	962 (184)	212	4,936 (408)

()内の数字は、P11～P23の集計結果に含まれていない数で内数。

学生による授業評価の種類別・形態別実施授業科目数

	講 義	演 習	実験・実習・実技	合 計
教 養 基 礎 科 目	4 (1)	5 (1)	1	10 (2)
教 育 実 践 コ ア 科 目	—	40 (2)	—	40 (2)
教 職 共 通 科 目	34 (1)	10 (5)	1	45 (6)
専 修 専 門 科 目	71 (3)	16 (2)	13	100 (5)
合 計	109 (5)	71 (10)	15	195 (15)

() 内の数字は、P 11～P 23 の集計結果に含まれていない数で内数。

2. 教養基礎科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

本年度に実施された教養基礎科目に対する授業評価は、8科目である。

授業評価の結果については、授業形式ごとに図1～図3に示している。これらの図では、全20の質問項目を授業概要、授業内容、学生の授業への取り組み、教員の授業の進め方、授業に対する学生の満足度の5つの大項目に区分した上で、各質問項目における有効回答数に占める1～5の5段階の評価の割合を帯グラフで、さらに、その実数をグラフ内の数字で表示している。これらの図と大項目ごとの平均値や質問項目ごとの平均値をもとに以下に調査結果の概要を述べる。

講義形式の授業に対する評価の総合平均値は4.0であった。「授業概要について(1～2)」の平均値は4.35、「授業内容について(3～6)」の平均値は4.28であった。「学生の授業への取り組み(7～11)」の平均値は3.52であり、先の2項目と比較すると自己評価点は低い。中でも、項目(7)の「授業によく出席した」が4.5、項目(10)の「教員の説明をよく聞いた」が4.1と高い評価を示すのに対して、項目(8)の「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、項目(9)の「授業中に積極的に発言や質問をした」、項目(11)の「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の3項目は、それぞれ3.2、2.6、3.2と評価値は著しく低い。一方、「教員の授業の進め方について(12～19)」の平均値は4.15と高い評価を得ており、「授業に対する満足度」も4.3と高い評価を得ている。

演習形式の授業に対する評価の総合平均値は4.1であった。「授業概要について(1～2)」の平均値は4.25、「授業内容について(3～6)」の平均値が4.15、「授業の進め方について(12～19)」の平均値が4.19、「授業に対する満足度(20)」の平均値も4.3と高い評価を得ている。それに対して、「あなたの授業への取り組みについて(7～11)」は、平均値も3.82と低い。特に、その中でも「予習・復習」を問う項目(9)の平均値が3.5、「調べ学習」を行う項目(11)の平均値が3.7と他の質問項目と比較すると若干低い評価が出ている。

実習形式の授業に対する評価の総合平均値は4.1であった。「授業概要について(1～2)」の平均値は4.4、「授業内容について(3～6)」の平均値が4.0、「あなたの授業への取り組みについて(7～11)」の平均値が4.12、「教員の授業の進め方について(12～19)」の平均値が4.05、「授業に対する満足度(20)」の平均値も4.4と、いずれの大項目も4.0以上の高い評価が得られている。あえて取り上げるならば、質問項目(11)の「分からないことや疑問に思ったことは調べた」が3.1と低い評価であった。

2) 評価結果の特徴

講義、演習、実習の3つの授業形式において、総合的評価は各々4.0、4.1、4.1であり、平成18年度の3.78、4.23、4.08や平成19年度の3.3、3.9、3.6と比較しても平均してレベルアップしていることがわかる。また、授業概要、授業内容、教員の授業の進め方や授業に対する満足度は、共通して4.0以上の高い評価が出ており、授業改善に対する教員側の意識が高くなっている傾向が窺える。僅か8科目という少ない科目数からの推定であるが、本学で毎年実施しているFD研修の効果が徐々にではあるが教員全体に浸透しつつあるように思える。それに対して、学生の授業への取り組みについては、いずれの授業形式においても4.0以下の評価を示す質問項目が目立ち、とりわけ講義形式の授業でその傾向が顕著に認められる。

次に各授業形式別の特徴を見る。まず、講義形式の授業では、学生の主体性を示す「授業への取り組み」の自己評価が低かった。特に「予習・復習」、「授業中での発言・質問」や「調べ学習」に対する自己評価が低く、授業への出席率は良いが、授業への積極的な参加の意識に欠ける点が気にかかる。こうした問題点を解決するためには、授業時間の確保という大きな問題があるが、授業の中で学生全員が参加できるようなグループごとの課題発表や実習形式の授業方法を取り入れてみるのも1つの方法であろう。

演習形式および実習形式の授業では、講義形式の授業に比べて「授業への取り組み」に対する自己評価が高い。ただ、個人やグループで作業を実施する実習形式の授業では、質問項目全体として高い評価が認められるのに対して、演習形式の授業では評価のばらつきが見られる。演習形式の授業では、予習・復習や積極的な発言が要求される課題発表担当者以外の学生に積極的な授業参加を促す有効な手立てを検討する必要があるであろう。

3. 教育実践コア科目に関する結果の概要と特徴

1) 教育実践基礎演習 (図10)

① 評価結果の概要

平均値が4ポイント以上の高い評価を得た項目は、全22項目中18項目であった。これらのうち、平均値が4.3以上の特に高い評価を得た項目は、次の7項目である：「教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった」(4.4)、「教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった」(4.4)、「教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった」(4.4)、「授業によく出席した」(4.6)、「熱心に指導した」(4.3)、「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.3)、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.4)。

平均値が4未満の項目は、「成績評価の方法は明確に示されていた」(3.5)、「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」(3.6)、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.2)、「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」(3.6)であり、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の評価がとくに低かった。

② 評価結果の特徴

教職の意義の理解、教職に対する興味・意欲の喚起など授業目的や授業概要を中心として、高評価であった。しかし、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の評点が特に低く、その他、授業に対する準備や復習、授業内容についての話し合いなどの学習に対する態度・心構えに関する事項で評点が低い。この傾向は他の授業にもみられるものであり、根本的な改善策を探って

いく必要がある。さらに授業概要については、成績評価の方法をより明確化する必要がある。

2) 教科教育実践Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ (図 11, 12, 13)

① 評価結果の概要

「教科教育実践Ⅰ」と「教科教育実践Ⅱ」では、全 22 項目中、項目 13 を除く 21 項目において、「教科教育実践Ⅲ」では、全 22 項目中、項目 10, 13 を除く 20 項目において、平均値が 4 以上の高い評価を受けていた。また、平均が 4.3 以上の特に高い評価を得ていた項目が、「教科教育実践Ⅰ」、「教科教育実践Ⅱ」、「教科教育実践Ⅲ」それぞれで、17 項目、18 項目、15 項目あった。これらの内容と評点は以下のとおりである。

教科教育実践Ⅰ：「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.4)「授業概要のねらいにそった授業内容であった」(4.5)、「学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」(4.5)、「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」(4.5)、「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」(4.5)、「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」(4.5)、「授業によく出席した」(4.6)、「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」(4.3)、「教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ」(4.3)、「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」(4.3)、「熱心に指導した」(4.6)、「授業内容を分かりやすく伝えた」(4.4)、「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」(4.4)、「教育用機器や設備など教具の利用は適切だった」(4.3)、「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.6)、「与えられた課題のレベルや分量は適切だった」(4.4)、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.6)。

教科教育実践Ⅱ「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.4)「授業概要のねらいにそった授業内容であった」(4.4)、「初等中等教科教育実践Ⅰで学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった」(4.3)、「学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」(4.4)、「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」(4.6)、「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」(4.6)、「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」(4.5)、「授業によく出席した」(4.5)、「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ」(4.3)、「教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ」(4.4)、「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」(4.4)、「熱心に指導した」(4.6)、「授業内容を分かりやすく伝えた」(4.5)、「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」(4.4)、「教育用機器や設備など教具の利用は適切だった」(4.4)、「教員の声は、聞き取りやすかった」(4.5)、「与えられた課題のレベルや分量は適切だった」(4.3)、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.6)。

教科教育実践Ⅲ：「目標・授業計画・内容は、明確に示されていた」(4.4)「授業概要のねらいにそった授業内容であった」(4.4)、「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱで学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった」(4.3)、「学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」(4.3)、「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」(4.3)、「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」(4.4)、「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」

(4.4), 「授業によく出席した」(4.5), 「積極的に実験, 実習, 実技等に取り組んだ」(4.3), 「熱心に指導した」(4.5), 「授業内容を分かりやすく伝えた」(4.3), 「教科書や配布資料等の教材は, 内容を理解する上で適切だった」(4.3), 「教員の声は, 聞き取りやすかった」(4.5), 「与えられた課題のレベルや分量は適切だった」(4.3), 「この授業は, 自分自身にとって満足できるものであった」(4.5)。

教科教育実践Ⅰ, Ⅱ, Ⅲで共通して4.3未満の項目は2, 10, 13, 14の4項目であり, それぞれの平均値は, 「成績評価の方法は明確に示されていた」では4.2, 4.1, 4.2, 「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」では4.0, 4.2, 3.9, 「分からないことや疑問に思ったことは調べた」では, 3.5, 3.8, 3.7, 「授業に関連した内容について友人や教員と話し合った」では4.1, 4.2, 4.0であった。さらに, 教科教育実践Ⅰにおいて「ふれあい実習での体験をふまえた, 幼稚園と小学校教育の関係について理解できる授業内容であった」が4.2であり, 教科教育実践Ⅲでは「教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ」が4.2で, 「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」が4.2で, 「教育用機器や設備など教具の利用は適切だった」が4.2であった。

② 評価結果の特徴

評価結果の概要から, 教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲすべてが, かなり高い評価を得ていると思われる。これらに共通して評点が4未満の項目は「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の1項目のみであり, その項目以外に教科教育実践Ⅰ・Ⅱでは評点が4未満の項目は無かった。教科教育実践Ⅲでは, 「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」で評点が4未満であった。今回の授業評価結果から, 教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては, 受講生の自発的な学習を活性化する必要がある点を除けば, 特に大きな問題点は見当たらない。これら教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは, 学部カリキュラムの根幹をなすコア・カリキュラムの中心部分を構成するものであり, 特に重視すべき科目群である。授業評価において高い評点を得ていることは, これらの科目が, 課された大きな役割を着実に果たしていることの一つの証であると思われる。ただし, 評価が若干低い項目について, コア授業においても改善策を探っていく必要がある。

4. 教職共通科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

教職共通科目(講義)の評価結果については, 授業形態ごとに図4, 5, 6に示してある。

講義形式の授業で学生の評点の高い項目(4ポイント以上)は, 「目標・授業計画・内容は, 明確に示されていた」(4.1), 「成績評価の方法は, 明確に示されていた」(4.1), 「授業内容は, 授業概要に沿っていた」(4.2), 「授業内容は, 教養や専門性を高めるものだった」(4.2), 「授業内容は, 教育に対する見方や考え方を学べるものだった」(4.1), 「授業によく出席した」(4.5), 「熱心に指導した」(4.2), 「教科書や配布資料等の教材は, 内容を理解する上で適切だった」(4.0), 「教員の声は, 聞き取りやすかった」(4.1), 「授業の進む速さは, 適切だった」(4.0), の10項目であった。一方, 評点の低い項目は, 「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(3.1), 「授業中に積極的に発言や質問をした」(2.8), 「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.1)の3項目であった。

演習形式の授業で学生の評点の高い項目は, 「目標・授業計画・内容は, 明確に示されていた」(4.5), 「成績評価の方法は, 明確に示されていた」(4.4), 「授業内容は, 授業概要に沿っていた」(4.5),

「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった」(4.5)、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」(4.3)、「授業内容は、興味・関心を引くものだった」(4.4)、「授業によく出席した」(4.6)、「積極的に課題に取り組んだ」(4.2)、「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」(4.1)、「学生参加型の授業だった」(4.5)、「熱心に指導した」(4.4)、「授業内容を分かりやすく説明した」(4.3)、「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」(4.4)、「視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった」(4.3)、「授業の進む速さは、適切だった」(4.4)、「学生の疑問や質問に適切に答えた」(4.4)「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(4.4)の17項目であり、全20項目の85%であった。一方、評点の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(3.4)、「授業中に積極的に発言や質問をした」(3.4)、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.5)の3項目であった。

ふれあい実習の評価ポイントは、実習概要4.2～4.5、事前オリエンテーション3.5～4.0、交流実習・観察実習4.5～4.7、事後指導3.7～4.2、取り組み4.3～4.6、満足度4.5と、おおむね良好であった。

講義形式と演習形式の最終項目「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」(授業への満足度)は、演習4.4に対し講義3.9と、0.5ポイントの開きがあった。この差が生じる要因を探りながら、評価結果の特徴を分析する。

2) 評価結果の特徴

講義形式と演習形式で共通しているのは、授業概要についての項目と授業の内容等の項目では概して評価が高く、よく出席したと答えている一方、授業への取り組みについての項目のうち、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、「授業中に積極的に発言や質問をした」、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の3項目に対する評点が低いという点である。これらの結果から、授業にはよく出席するが、学習への積極的な取り組みや努力には欠けるという学生像がうかがえる。

講義形式の授業では評点が低く、演習形式の授業では評点が高い項目がいくつかある。学生の参加しやすさを問う項目では、演習形式4.5に対し講義形式3.8と、0.7ポイントの開きがある。さらに授業内容では、興味・関心を引くものだったかを問う項目(演習4.4、講義3.9)、学生の理解状況を確認しながら授業を行ったかを問う項目(演習4.1、講義3.6)、授業内容を分かりやすく説明したかを問う項目(演習4.3、講義3.9)や視聴覚機器及び教育用機器の利用の適切さを問う項目(演習4.3、講義3.9)でも、0.4～0.5ポイントの開きがある。これら5項目の差が、授業への満足度の差をもたらしたと考えられる。講義形式と演習形式には、それぞれ特徴と役割があるが、互いの長所を取り入れながら、「授業には出席するが、積極的には参加していない状況」を改善していくことが求められる。

ふれあい実習の評価はおおむね良好であるが、「教育用機器や設備などの教材の利用」(事前オリエンテーション3.5、事後指導3.7)、「教員の声は、聞き取りやすかった」(事前オリエンテーション3.9)や「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」(事後指導3.7)の事項でやや評点が低かったため、今後改善することが必要である。

5. 専修専門科目に関する結果の概要と特徴

1) 評価結果の概要

専修専門科目の評価結果については、授業形態ごとに図7, 8, 9に示してある。

講義形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」(4.5)「授業によく出席した。」(4.6)「熱心に指導した。」(4.4)であった。一方、評価の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(3.4)「授業中に積極的に発言や質問をした。」(3.1)「分からないことや、疑問に思ったことは調べた。」(3.5)であった。

演習形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」(4.6)「授業によく出席した。」(4.6)「熱心に指導した。」(4.6)であった。一方、評価の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(3.6)「授業中に積極的に発言や質問をした。」(3.6)「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.7)であった。

実験・実習・実技形式の授業で学生の評価の高い項目は、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」(4.8)「授業によく出席した。」(4.8)「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。」(4.7)「設備、器材、用具等の利用は、適切だった。」(4.7)「教員の声は、聞き取りやすかった。」(4.7)一方、評価の低い項目は、「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」(3.8)「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.9)であった。

2) 評価結果の特徴

高い評価を分析すると、授業の内容等に関してどの授業形態も良かったのは、「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」であった。また授業の進め方に関しては講義形式、演習形式で「熱心に指導した。」があり、実験・実習・実技形式では「設備、器材、用具等の利用は、適切だった。」「教員の声は、聞き取りやすかった。」であった。それから授業への取り組みにおいてどの授業形態でも評価の高かったのは「授業によく出席した。」であった。授業への取り組みの質問項目が他の質問項目より相対的に低い評価の中で、どの授業形態でも評価が高かったわけだ。これは一見何でもないことのように見えるが、たとえ主体的に授業に取り組んでいなくとも学生の基本姿勢として一番大切なことであると考えられる。また実験・実習・実技形式で「積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。」の評価が高かったのは、この授業形態が主体的に取り組むことで授業が成り立っていることと他の授業形態よりも具体性が高い授業方法であるからだと考える。

次に低い評価、反省しなければならない点を述べる。授業への取り組みで「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」「分からないことや疑問に思ったことは調べた」がどの授業形態でも低いのが気にかかる。特に講義形式、演習形式で「授業中に積極的に発言や質問をした。」が低い評価であることから、総合的には、素直で言われたことをきちんとなしていき受け身の学生像とともに独創性や主体性に欠ける学生像もイメージされる。ここ数年、該当の項で同じ反省点が挙げられていることから改善しあぐねている現状があるが、教員養成大学の宿命的課題という気がする。ただこれらの自主性・主体性の評価が他と相対的にみて低いというだけであり、極端に低い評価でないと考えたいのだが判断に難しいところである。

これに関してもう少し詳述する。たとえば授業への取り組みに関する質問項目の「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」と「授業中に積極的に発言や質問をした。」を講義形式と演習形式で18年度、19年度、20年度と比較してみる。「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」の講義形式における評価は18年度(3.2)、19年度(3.3)、20年度(3.4)である。また

演習形式は18年度(3.3)、19年度(3.9)、20年度(3.6)である。これを見ると講義形式は微増しているし、演習形式も全体的に見れば上向いていると解釈できる。次に「授業中に積極的に発言や質問をした。」の講義形式における評価は18年度(3.0)、19年度(2.9)、20年度(3.1)である。また、演習形式は18年度(2.9)、19年度(3.8)、20年度(3.6)である。講義形式はあまり進展が見られず、演習形式の評価はおおむね高くなりつつある。以上、この局所的な観点から結論を導き出すのは早計かもしれないが、少し評価が上向いている部分があるので、全体的にはどの授業形態も例えば授業中に発言が活発に行われるような授業内容・授業方法の工夫等、各教員のさらなる努力が期待される。

最後に総合的に評価結果の特徴を見る。専修専門科目の総合評価は講義形式が4.1、演習形式が4.3、実験・実習・実技形式が4.5であり平均すると4.3であった。また、この結果から予想されるように、授業に対する満足度を問う「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」という質問に対しては、講義形式が4.2、演習形式が4.5と実験・実習・実技形式が4.6と評価され「あまりそうでない」「全くそうでない」と評価した学生は、講義形式で6.1%、演習形式で1.6%、実験・実習・実技形式では0.9%とわずかであった。つまり全体的にはかなりの学生が授業への取り組みに少々問題点があったにせよ満足している現状がある。このことからあまり反省をしすぎてしまい、これまでの授業内容や授業方法の良さを見失ってしまっただけでは本も子もないと考える。ただ、先述したが、理想とされる教師像が様々なことを省察しながら主体的に諸問題に立ち向かっていく資質を求められていることからすると学生の主体性、自主性を授業の中でどのように伸ばしていくかが課題であることは間違いない。

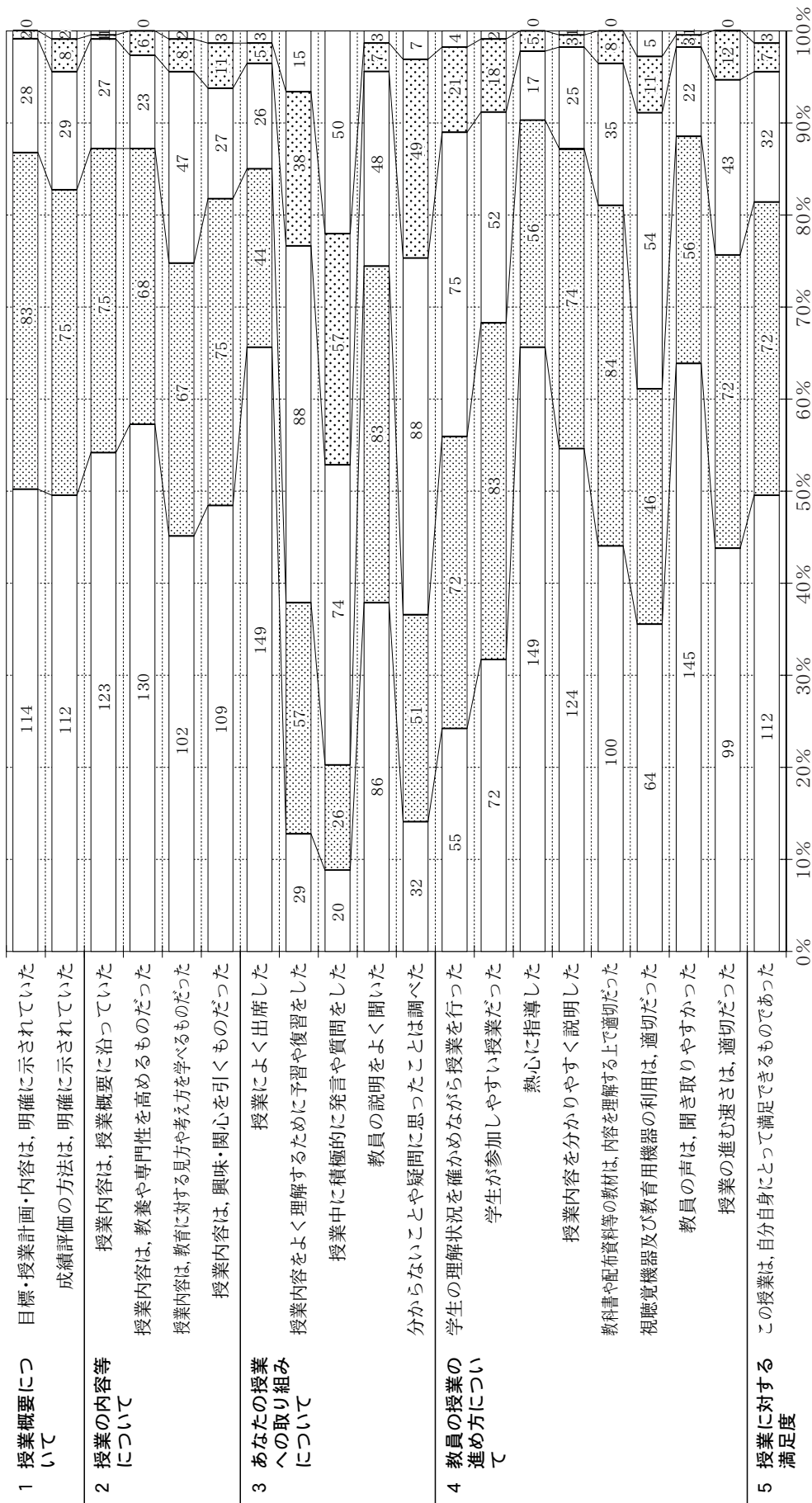
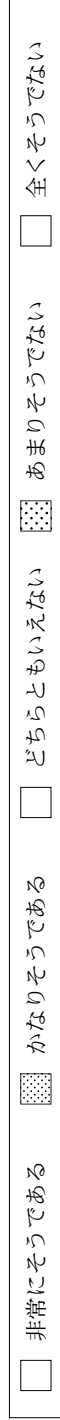


図1 教養基礎科目(講義)に対する評価結果

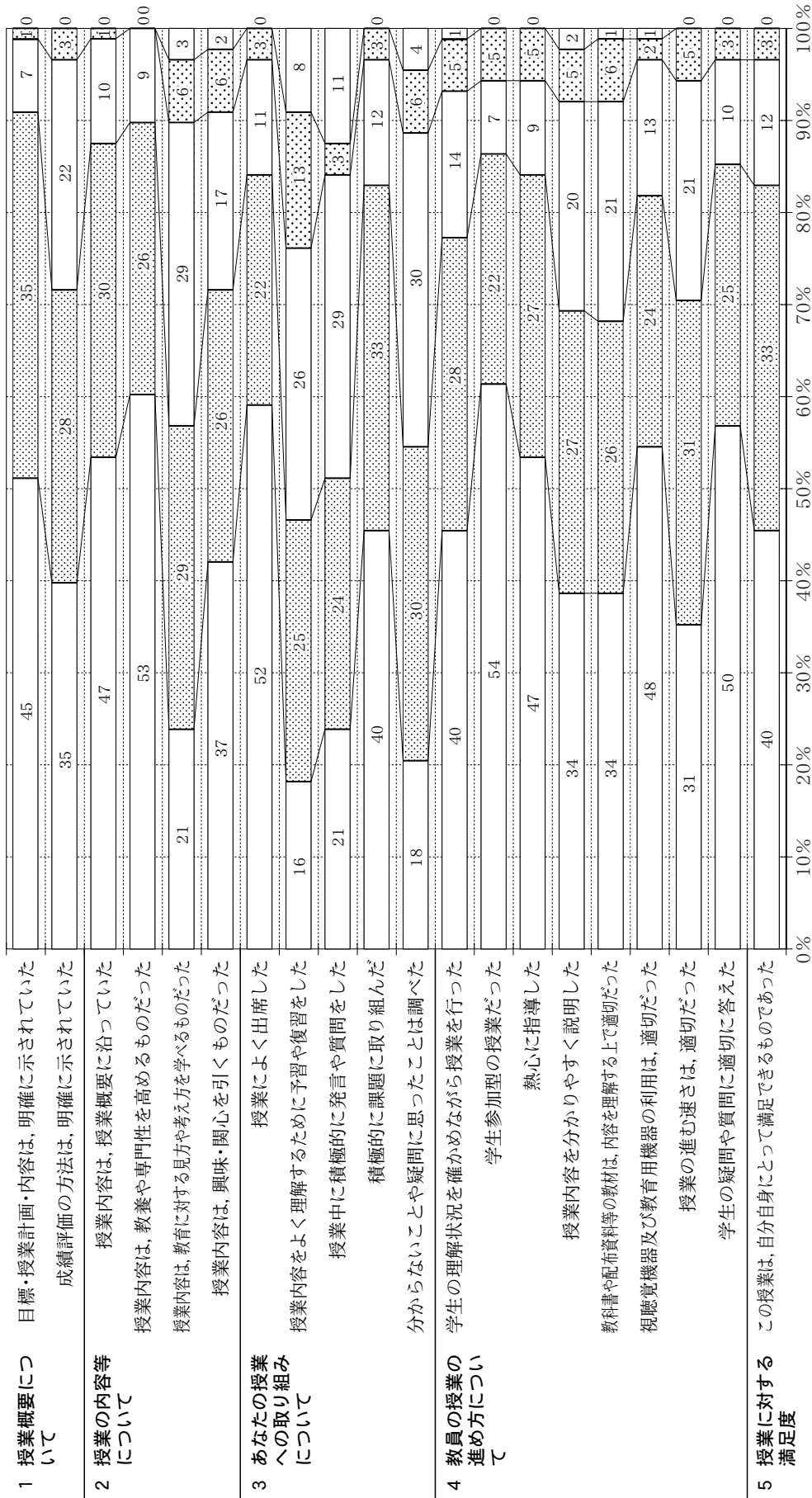
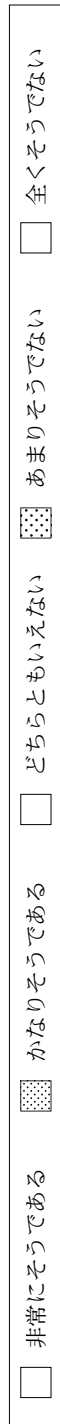


図2 教養基礎科目(演習)に対する評価結果

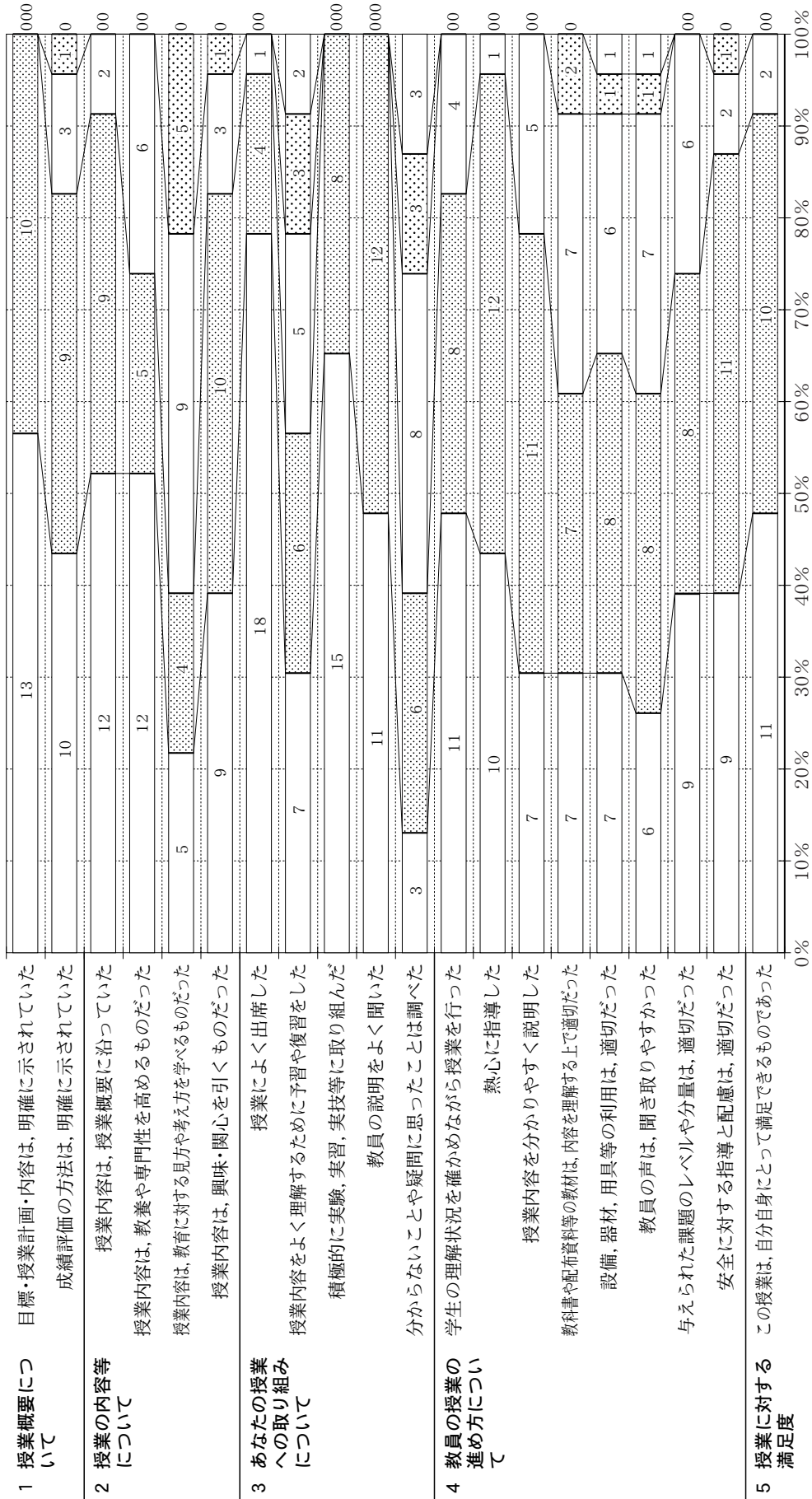
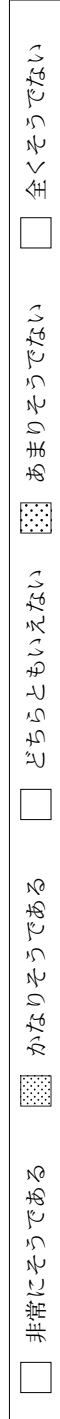


図3 教養基礎科目(実験・実習・実技)に対する評価結果

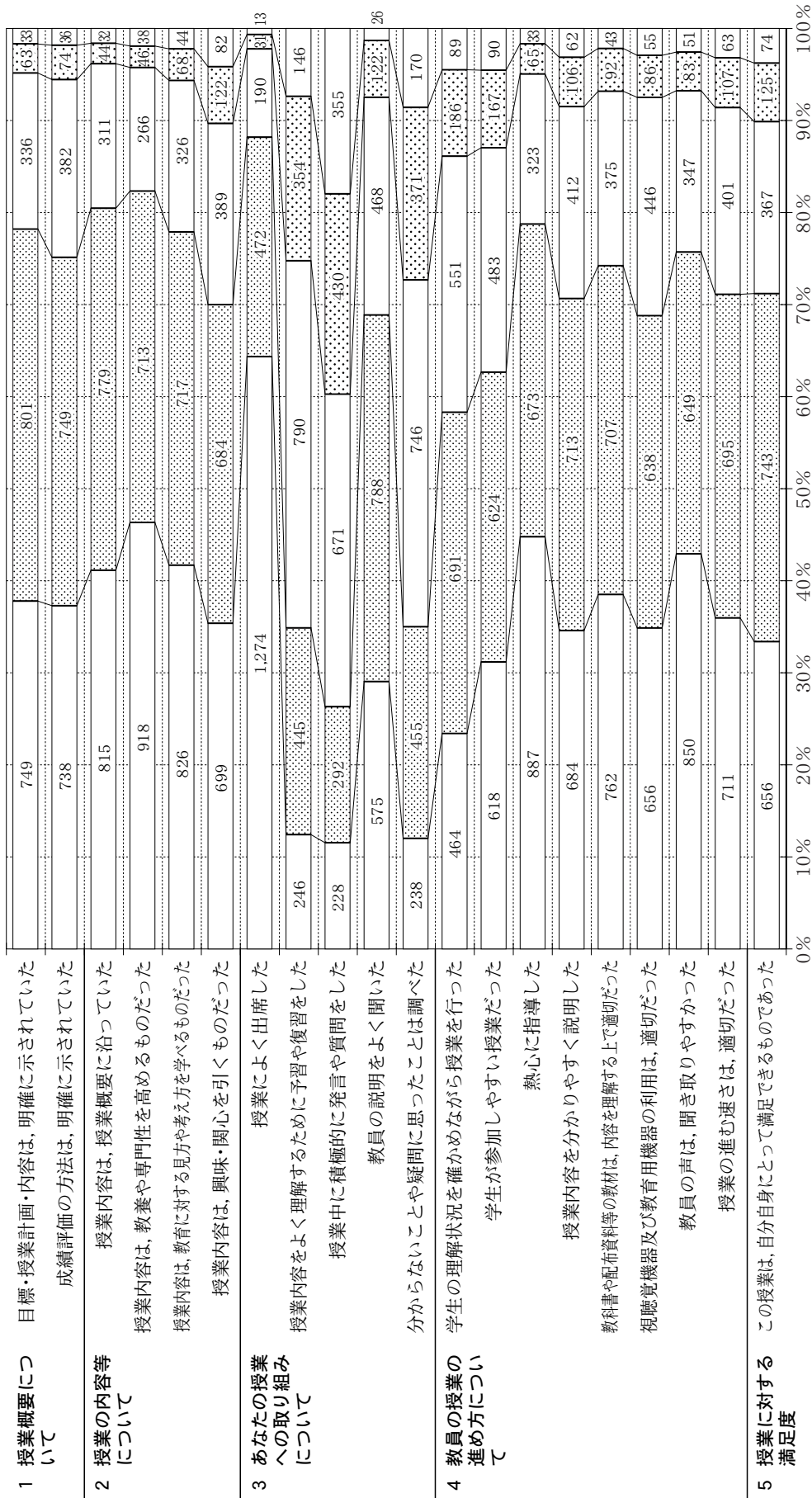
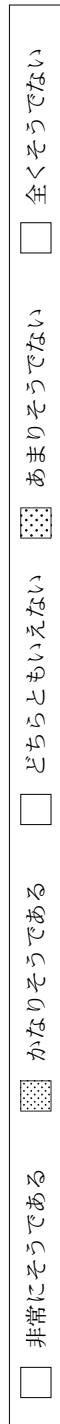


図4 教職共通科目(講義)に対する評価結果

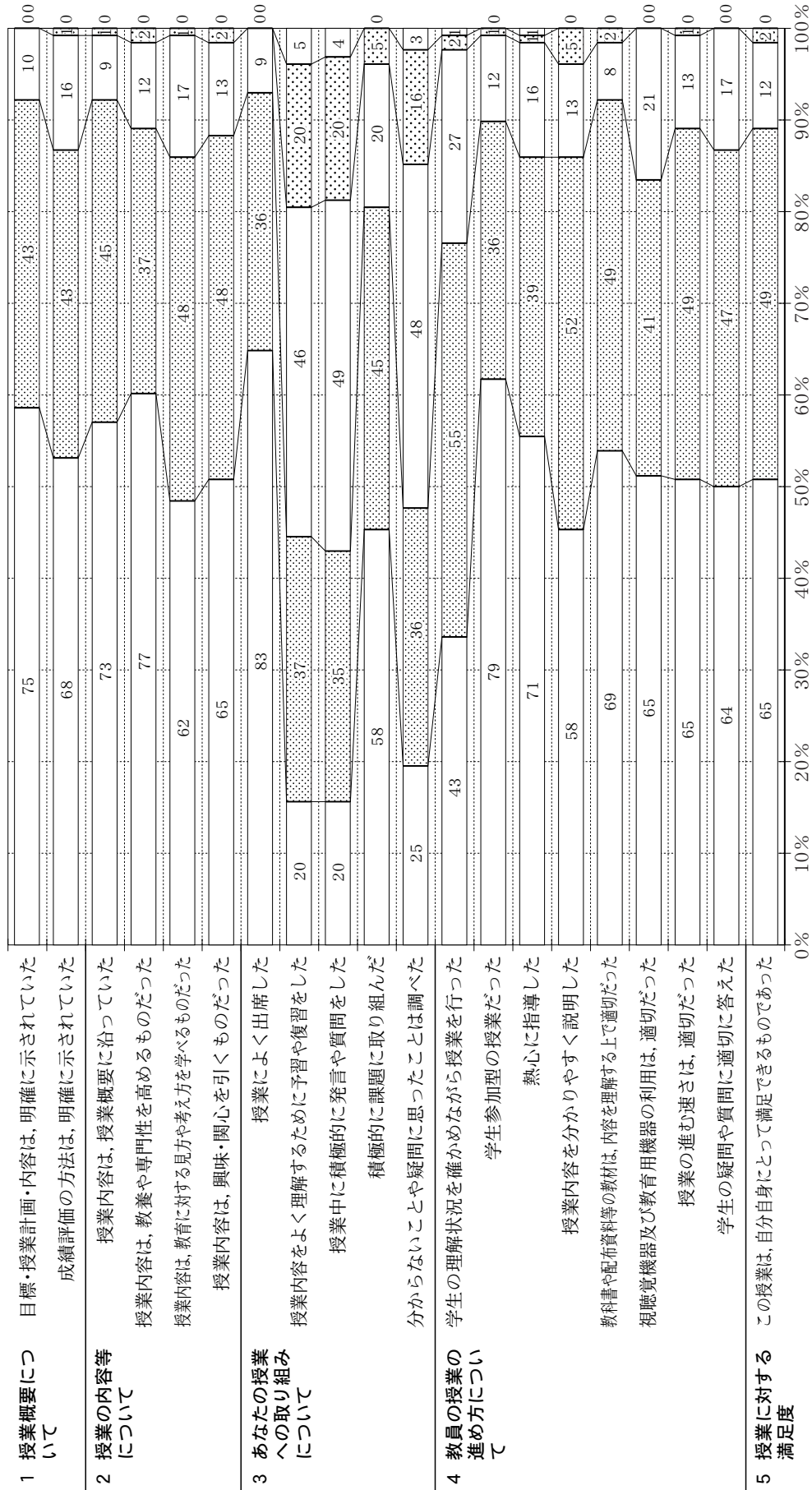
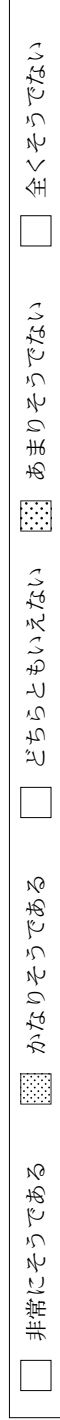


図5 教職共通科目(演習)に対する評価結果

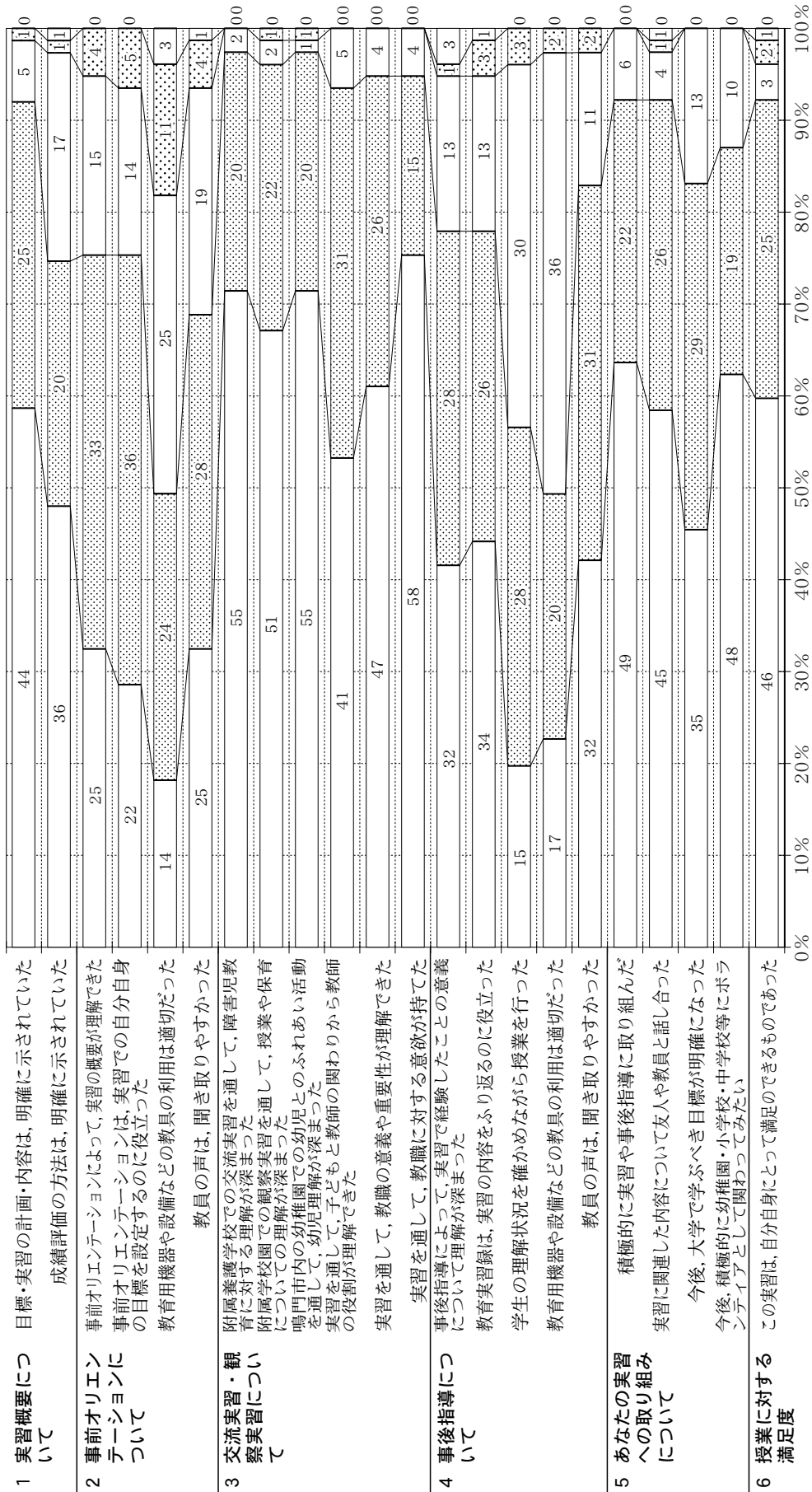
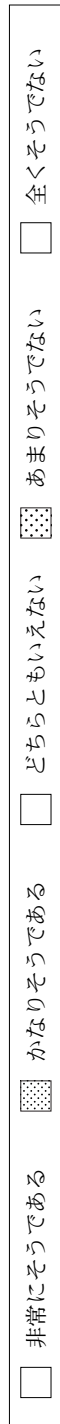


図6 教職共通科目(ふれあい実習)に対する評価結果

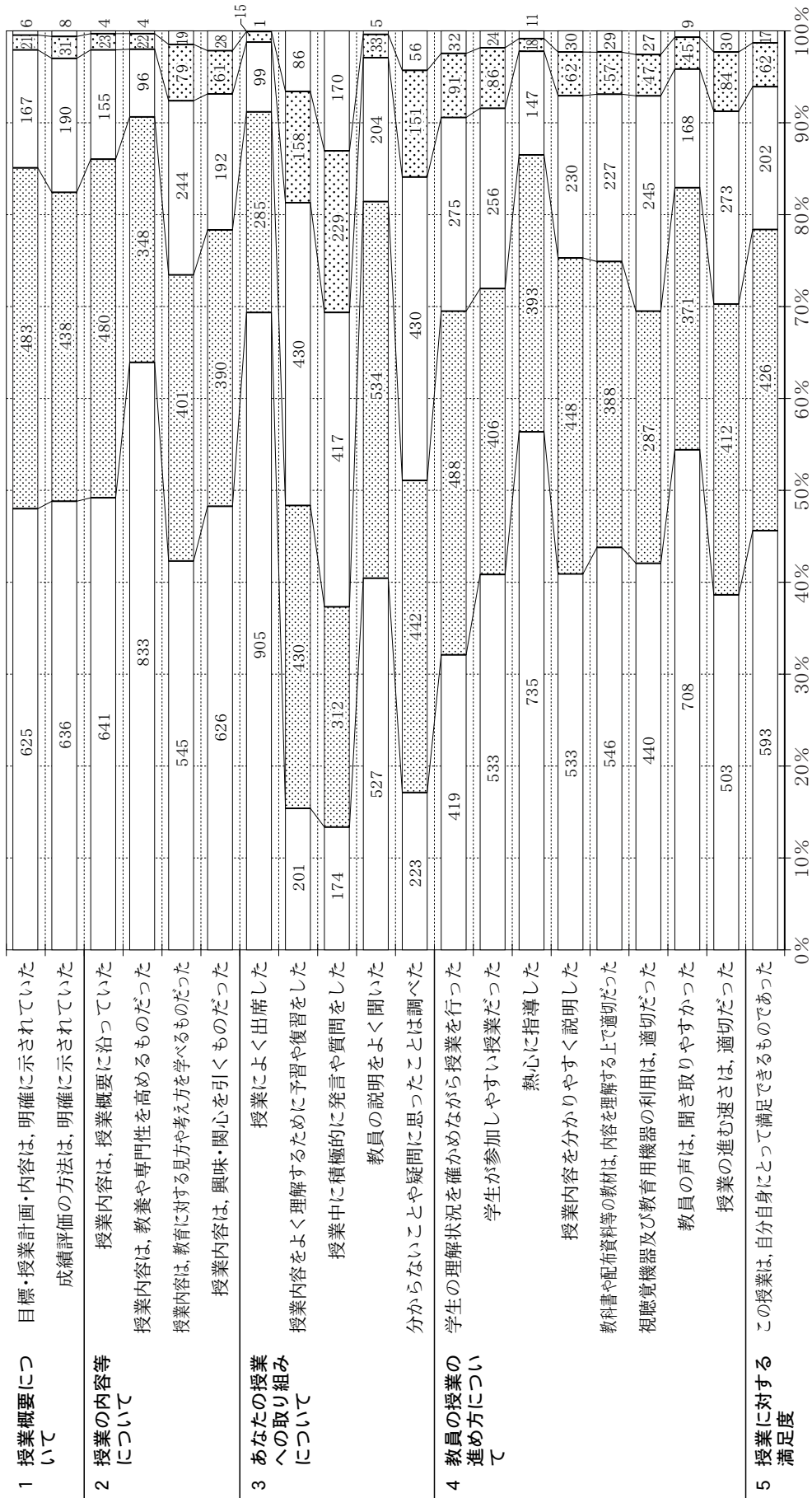
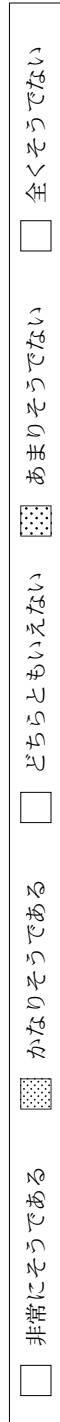


図7 専修専門科目(講義)に対する評価結果

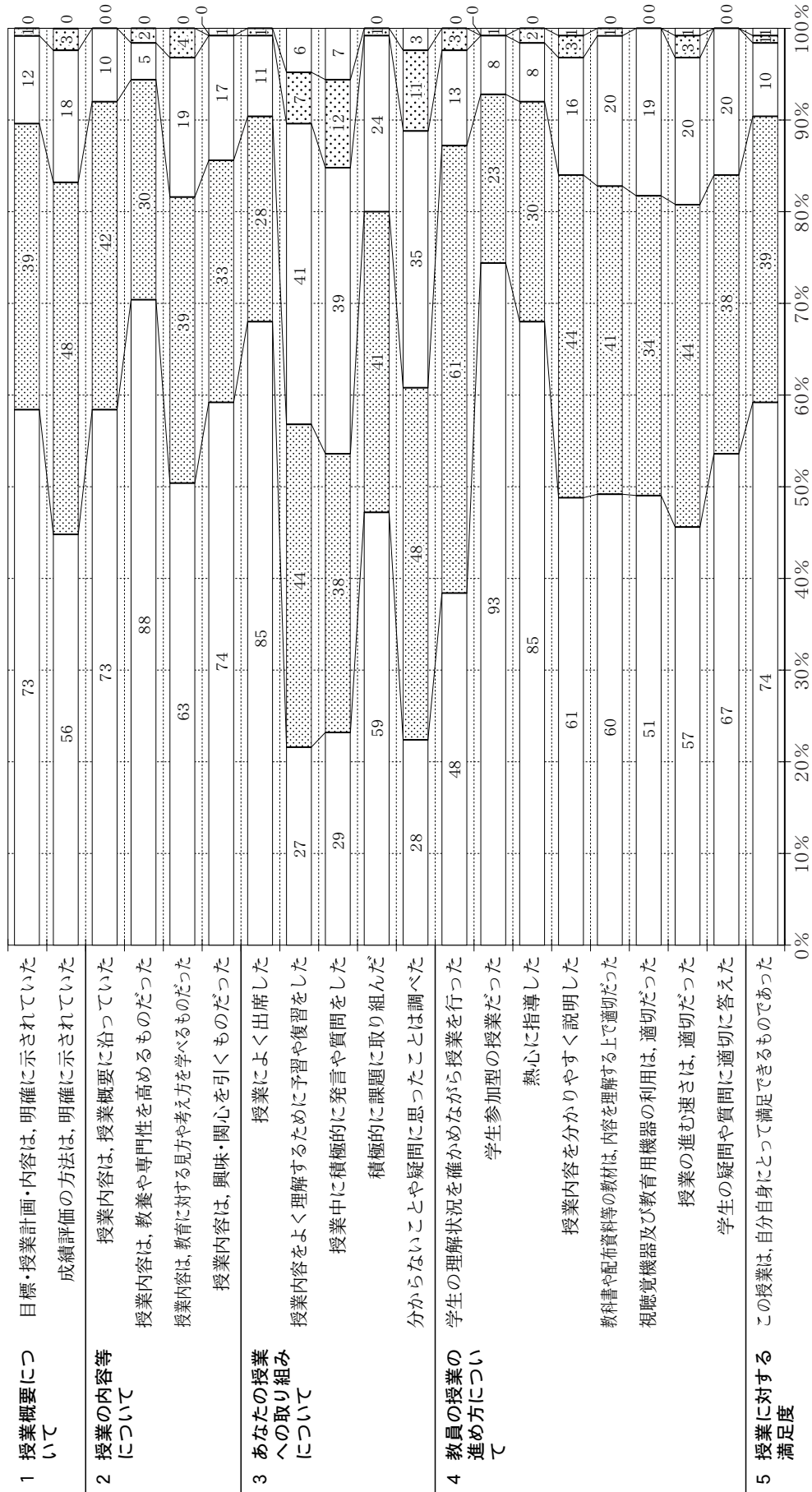
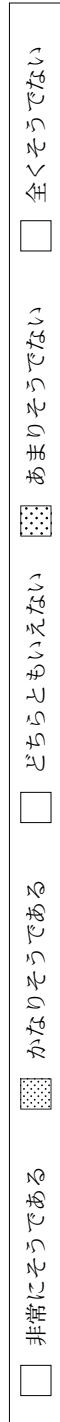


図8 専修専門科目(演習)に対する評価結果

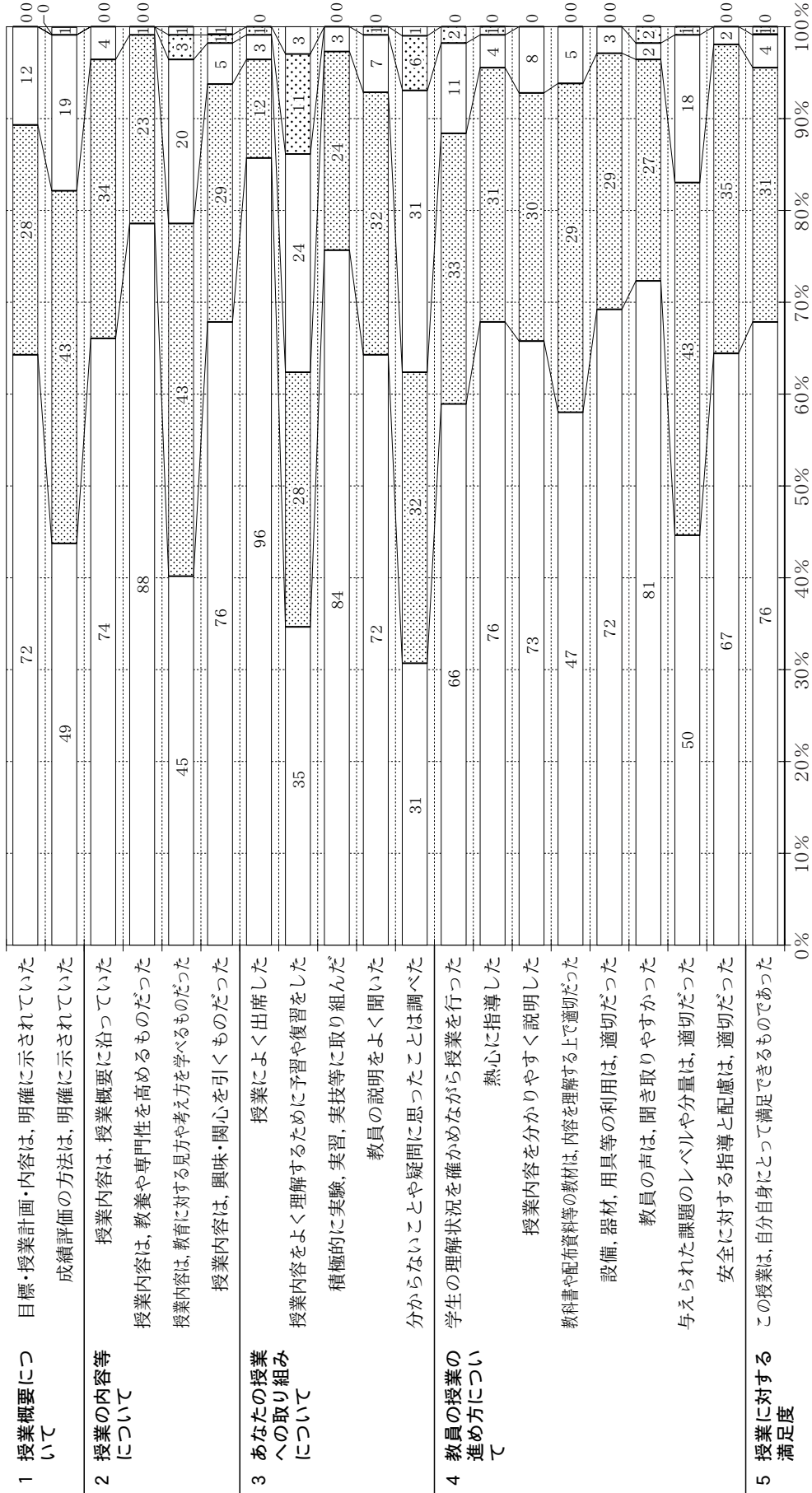
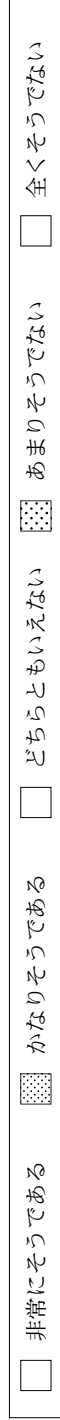


図9 専修専門科目(実験・実習・実技)に対する評価結果

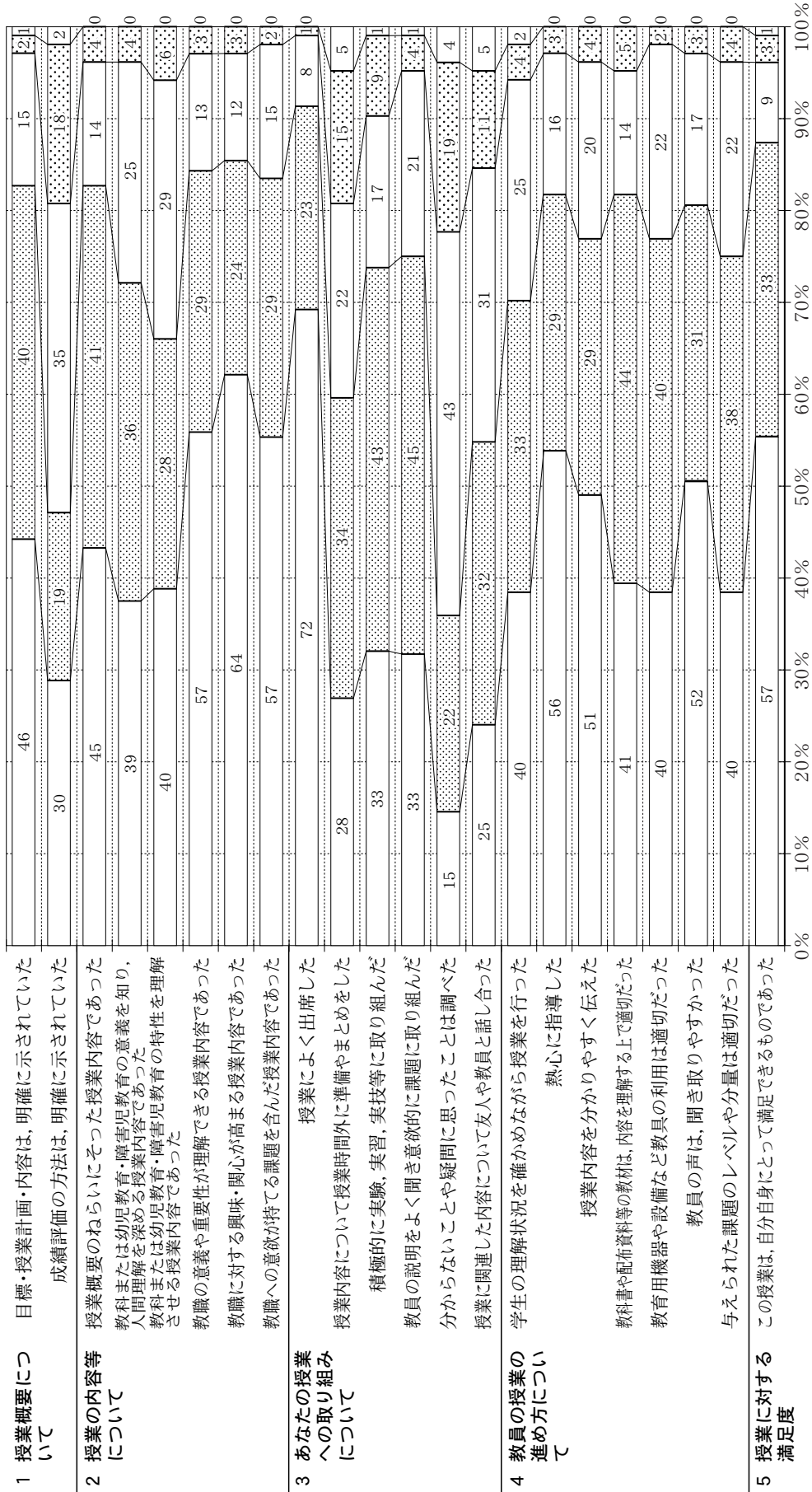
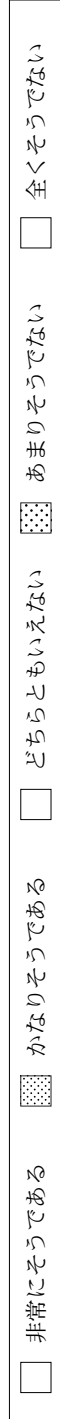


図10 教育実践コア科目(基礎演習)に対する評価結果

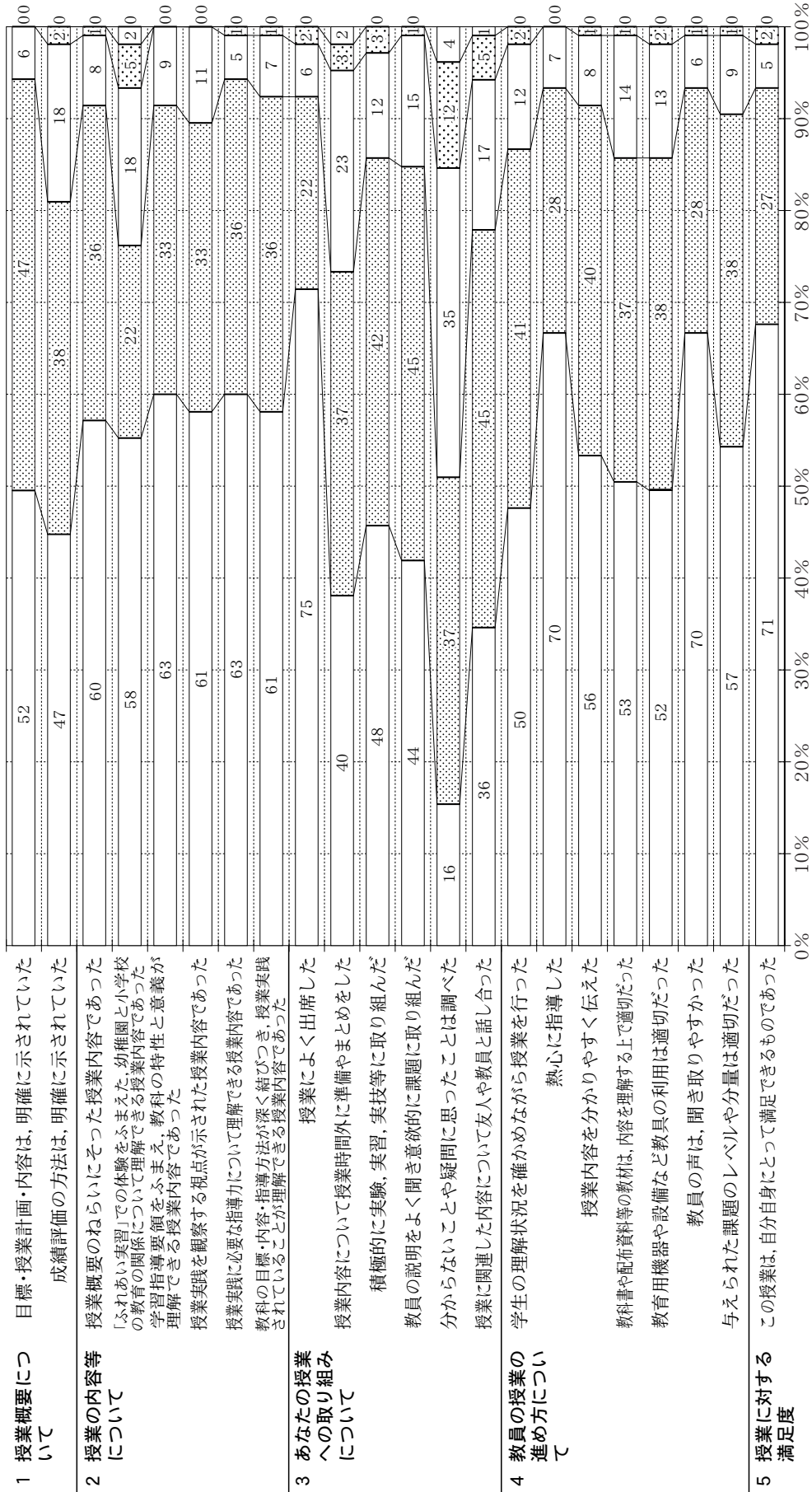
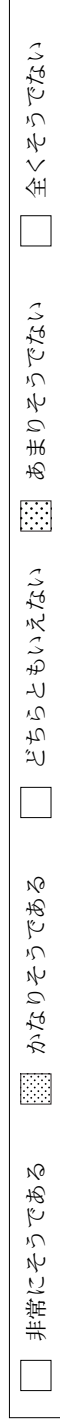


図11 教育実践コア科目(教科教育実践Ⅰ)に対する評価結果

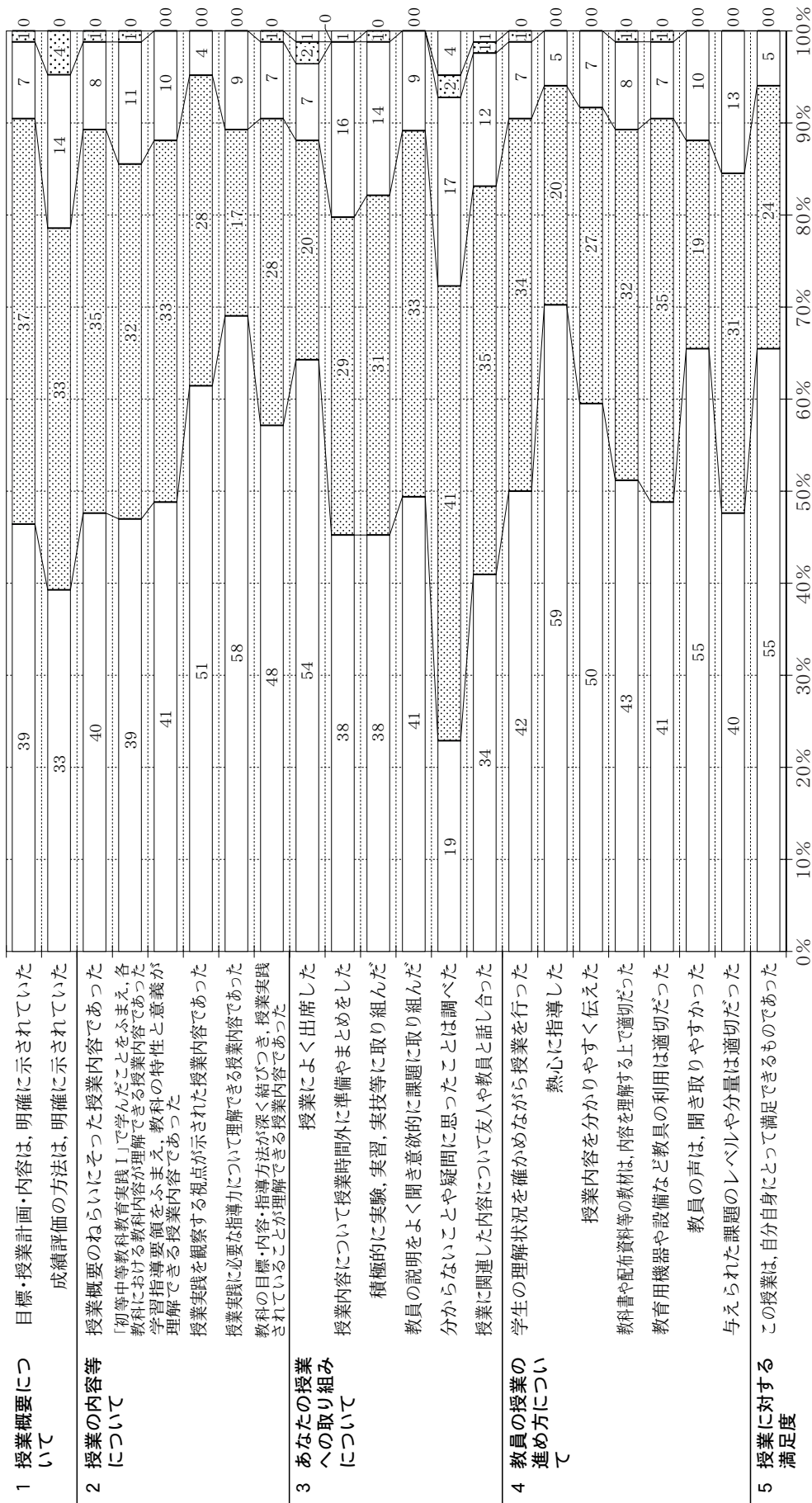
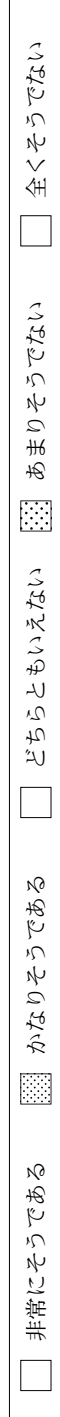


図12 教育実践コア科目(教科教育実践Ⅱ)に対する評価結果

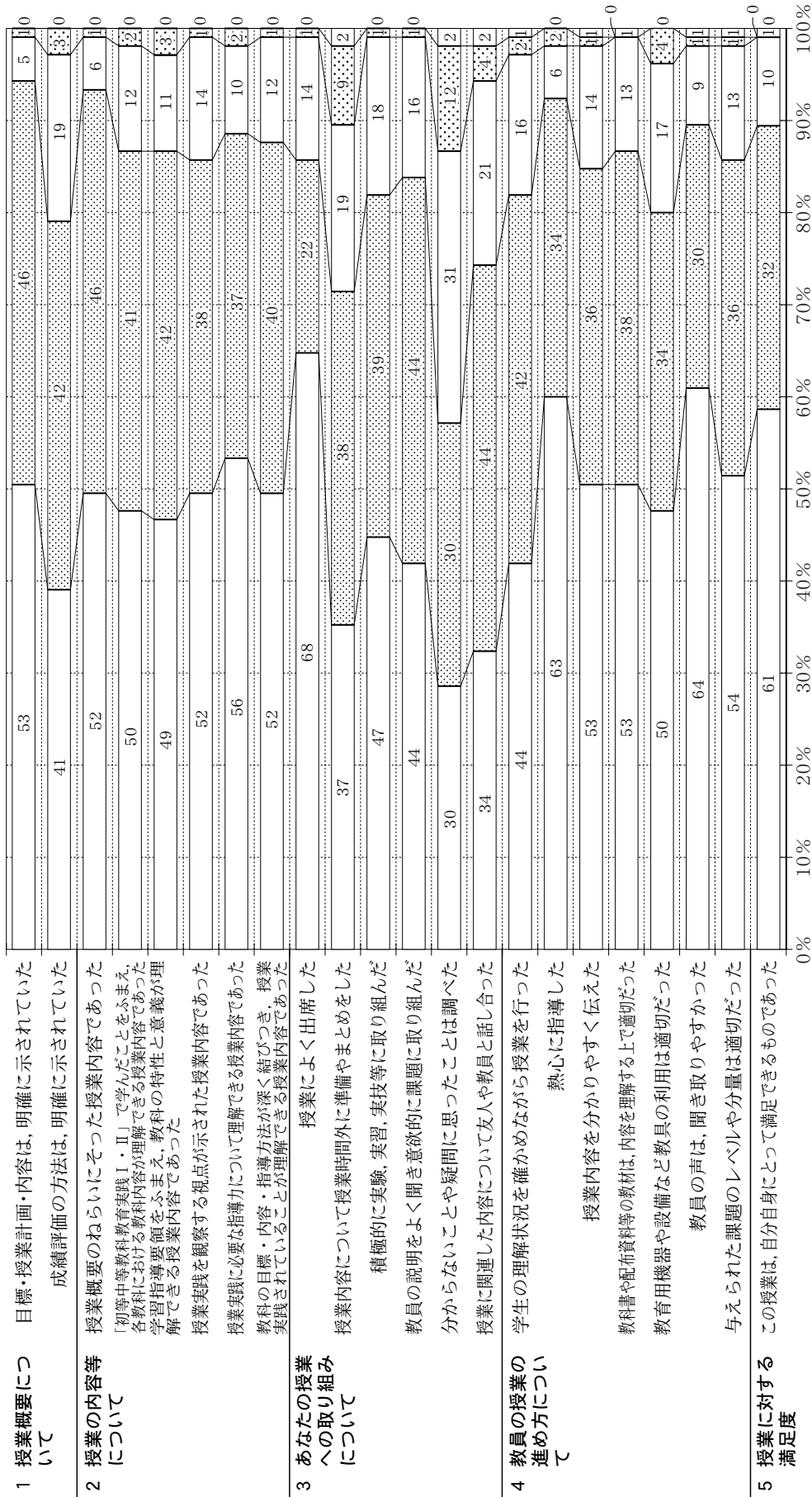
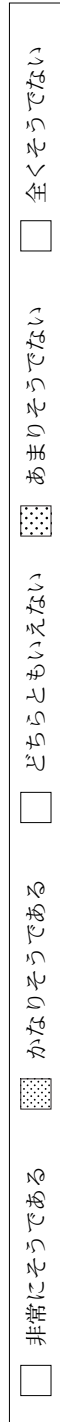


図13 教育実践コア科目(教科教育実践Ⅲ)に対する評価結果

様式1 (主として講義用)

平成20年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 前期・後期 曜日 時限

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職共通科目 3. 専修専門科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。

マークのしかた
良い例 悪い例



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 教員の説明をよく聞いた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 学生が参加しやすい授業だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(15) 授業内容を分かりやすく説明した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 授業の進む速さは、適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

6 あなたからの提言

(21)この授業でよかったことを書いてください。

(22)この授業で改善したほうがよいと思うことを書いてください。

7 先の(1)から(20)の項目以外で、本授業で設定する項目

- | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|
| (1) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

【ご協力ありがとうございました。】

注 この頁は、6と7の順番を変えても、7の項目を増減しても結構です。先生方の独自の授業評価アンケートに加工することが可能な頁です。ただし、6の(21)と(22)の項目に相当する提言は必ず学生に書かせてください。

様式2 (主として演習用)

平成20年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 _____

前期・後期 _____ 曜日 _____ 時限 _____

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職共通科目 3. 専修専門科目

担当教員名 _____

受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。

マークのしかた
良い例 悪い例
● ○

1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。
(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。
(10) 積極的に課題に取り組んだ。
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。
(13) 学生参加型の授業だった。
(14) 熱心に指導した。
(15) 授業内容を分かりやすく説明した。
(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。
(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。
(18) 授業の進む速さは、適切だった。
(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。

⑤ ④ ③ ② ①

様式3 (主として実験・実習・実技用)

平成20年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 _____

前期・後期 _____ 曜日 _____ 時限 _____

授業区分 1. 教養基礎科目 2. 教職共通科目 3. 専修専門科目

担当教員名 _____

受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。

マークのしかた
良い例 悪い例



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。
(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。
(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。
(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (7) 授業によく出席した。
(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。
(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。
(10) 教員の説明をよく聞いた。
(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。
(13) 熱心に指導した。
(14) 授業内容を分かりやすく説明した。
(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。
(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。
(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。
(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。
(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。

⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①
⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度

- (20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。

⑤ ④ ③ ② ①

様式4 (教育実践コア科目用)

平成20年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

前期 曜日 時限

・幼児教育実践基礎演習

授業科目名 ・初等中等教育実践基礎演習(コース)

・特別支援教育実践基礎演習

授業区分 教育実践コア科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。

マークのしかた
良い例 悪い例

1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

- (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

平成20年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日
後期 曜日 時限

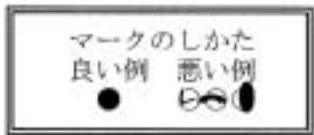
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅰ (コース)

授業区分 教育実践コア科目

担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。
なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。



- | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 授業概要について | | | | | |
| (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 2 授業の内容等について | | | | | |
| (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 3 あなたの授業への取り組みについて | | | | | |
| (9) 授業によく出席した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 4 教員の授業の進め方について | | | | | |
| (15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (16) 熱心に指導した。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| 5 授業に対する満足度について | | | | | |
| (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 | ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |

平成 20 年度 授業評価アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

授業科目名 ふれあい実習

集中講義

授業区分 教職共通科目

担当教員名 _____

受講者数 _____ 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。

2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。

マークのしかた

良い例 悪い例

● ○

1 実習概要について

(1) 目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。

⑤ ④ ③ ② ①

(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。

⑤ ④ ③ ② ①

2 事前オリエンテーションについて

(3) 事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。

⑤ ④ ③ ② ①

(4) 事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。

⑤ ④ ③ ② ①

(5) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。

⑤ ④ ③ ② ①

(6) 教員の声は、聞き取りやすかった。

⑤ ④ ③ ② ①

3 交流実習・観察実習について

(7) 附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。

⑤ ④ ③ ② ①

(8) 附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。

⑤ ④ ③ ② ①

(9) 鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。

⑤ ④ ③ ② ①

(10) 実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。

⑤ ④ ③ ② ①

(11) 実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。

⑤ ④ ③ ② ①

(12) 実習を通して、教職に対する意欲が持てた。

⑤ ④ ③ ② ①

4 事後指導について

(13) 事後指導によって、実習で経験したことの意義について理解が深まった。

⑤ ④ ③ ② ①

(14) 教育実習録は、実習の内容をふり返るのに役立った。

⑤ ④ ③ ② ①

(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。

⑤ ④ ③ ② ①

(16) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。

⑤ ④ ③ ② ①

(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。

⑤ ④ ③ ② ①

5 あなたの实習への取り組みについて

(18) 積極的に実習や事後指導に取り組んだ。

⑤ ④ ③ ② ①

(19) 実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。

⑤ ④ ③ ② ①

(20) 今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。

⑤ ④ ③ ② ①

(21) 今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。

⑤ ④ ③ ② ①

6 授業に対する満足度

(22) この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。

⑤ ④ ③ ② ①

平成20年度授業評価アンケート

評価実施日 年 月 日

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ (コース)

後期 曜日 時限

授業区分 教育実践コア科目

担当教員名 受講者数 名

このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。4. かなりそうである。3. どちらともいえない。
2. あまりそうでない。1. 全くそうでない。

マークのしかた
良い例 悪い例



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
(16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

- (22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。 ⑤ ④ ③ ② ①

平成 20 年度 授業評価アンケート

評価実施日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
 授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ (コース _____) 後期 _____ 曜日 _____ 時限 _____
 授業区分 教育実践コア科目
 担当教員名 _____ 受講者数 _____ 名

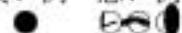
このアンケート調査は、今後の授業の改善に役立てることを目的として行うものです。以下の各項目について、次の5段階で回答し、その該当する番号をマークしてください。アンケート回収後にコンピュータ処理を行いますので、下記の「マークのしかた(良い例)」のとおりマークしてください。

なお、このアンケートの結果が皆さんの成績などに影響することはありませんので、率直に回答してください。

5. 非常にそうである。 4. かなりそうである。 3. どちらともいえない。
 2. あまりそうでない。 1. 全くそうでない。

マークのしかた

良い例 悪い例



1 授業概要について

- (1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。 ⑤ ④ ③ ② ①

2 授業の内容等について

- (3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における ⑤ ④ ③ ② ①
 教科内容が理解できる授業内容であった。
 (5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが ⑤ ④ ③ ② ①
 理解できる授業内容であった。

3 あなたの授業への取り組みについて

- (9) 授業によく出席した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。 ⑤ ④ ③ ② ①

4 教員の授業の進め方について

- (15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (16) 熱心に指導した。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (17) 授業内容を分かりやすく伝えた。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (20) 教員の声は、聞き取りやすかった。 ⑤ ④ ③ ② ①
 (21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。 ⑤ ④ ③ ② ①

5 授業に対する満足度について

III

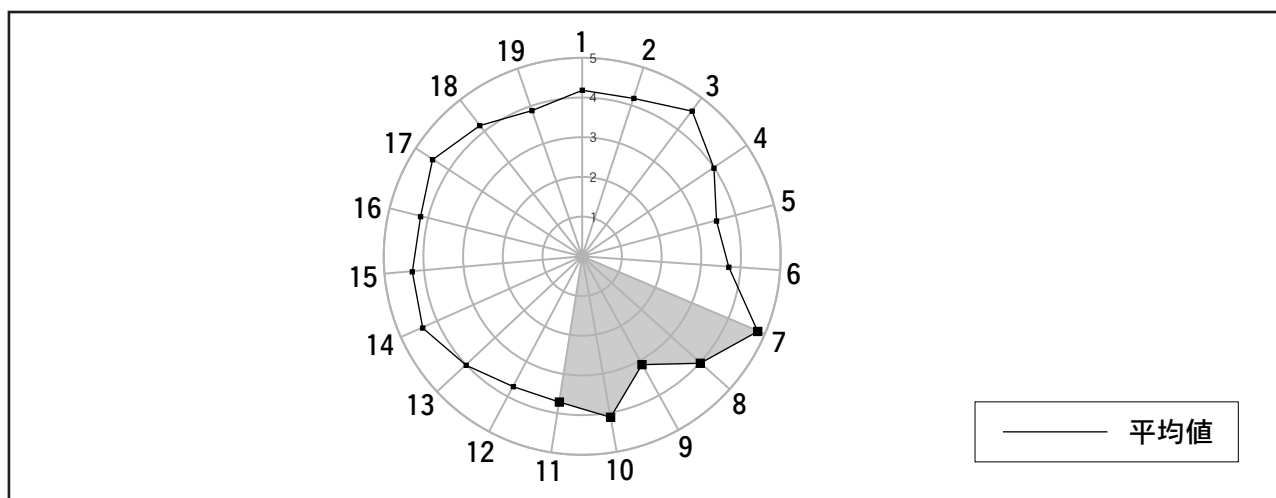
学部授業評価の 結果報告書

教 養 基 礎 科 目

授業科目名 英語リーディング I A
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 夫 明美

回答者数 40名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	15	8	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	21	10	6	2	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	26	12	2	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	16	13	7	4	0	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	11	14	5	2	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	14	7	7	1	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	32	8	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	12	17	10	1	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	7	15	10	2	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	15	16	5	4	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	12	12	6	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	20	7	3	2	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	15	14	8	2	1	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	23	11	6	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	18	15	7	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	19	12	7	2	0	0	4.2
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	25	9	6	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	18	14	6	2	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	15	7	5	0	0	3.9



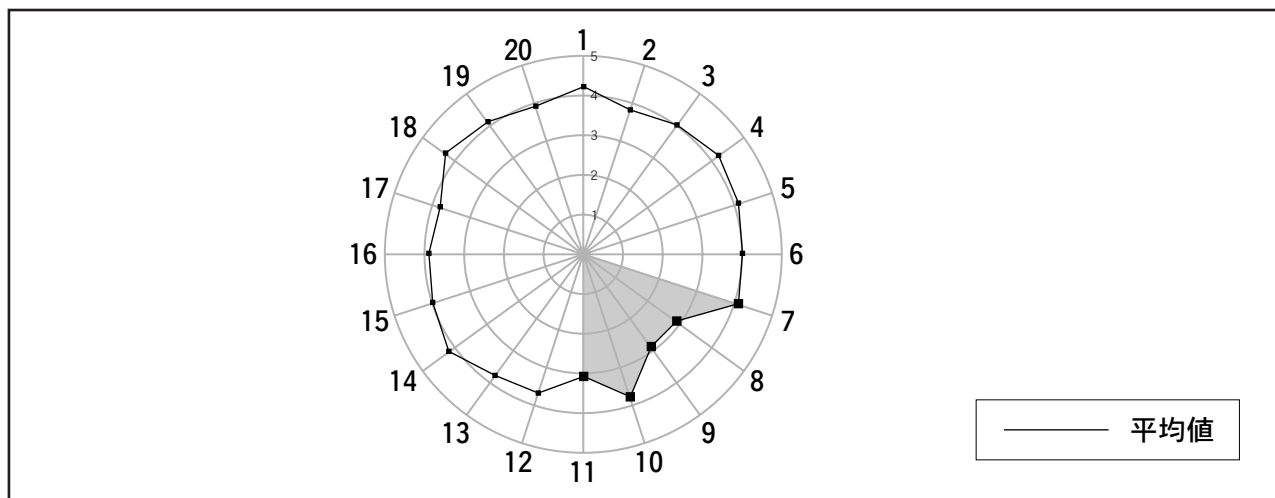
教員のコメント

概ね好意的な評価を得ている。教科書の他にも語彙を強化するために辞書の使用法を説明し、各自が「単語ノート」を作成した。中間テスト・期末テスト時に担当教員が添削し、コメントを添えて返却している。この学習を熱心に行った学生も約半数いることが自由記述欄でのコメントからも分かる。「ボキャブラリーの向上に頑張った」「単語帳を整理した」など

授業科目名 開発と環境
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 西村 宏, 近森 憲助, 青葉 暢子

回答者数 54名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	20	24	9	1	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	15	19	14	5	1	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	20	19	13	1	1	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	24	19	9	2	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	21	19	12	2	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	30	7	1	2	1	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	25	15	11	2	1	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	5	25	13	5	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	7	6	19	16	6	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	20	17	2	1	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	9	21	15	2	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	12	20	15	6	1	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	13	23	14	3	1	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	19	27	6	2	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	17	25	10	1	1	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	28	10	3	0	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	17	15	16	4	1	1	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	27	18	7	1	1	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	18	23	11	2	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	23	11	1	2	1	3.9



教員のコメント

本講義は教養基礎科目であり、1～3年次生の混合クラスとなっている上、隔年開講であるため、授業の際の受講者の混雑度は非常に高く、おまけに第1時限目の授業とあって、遅刻者が続出する授業の典型であった。さらには、授業に遅刻することへの罪悪感がまったく見られず、1時間近く遅れても堂々と講義室に入場してくるに至っては、注意する気にもならない状況が比較的頻繁に見られた。このような状況に鑑みると、将来的に教育実習現場および教員採用審査に臨む際に一抹の不安を感じてしまうところである。また、これとは対照的に、授業開始前から着席して居眠りもせず授業の提示物を凝視して聴講している非常にまじめすぎるほどの学生もいることを考えると、前者のような学生の存在は後者のような真面目な学生の日ごろの努力に水をさす行為であり、オリエンテーションの際に、大学の授業に臨む際の心構えなどについて、十分な事務的および説得的指導が行われる必要を感じる。特に他人に対する迷惑をどのように自分の中に位置づけるかに関しては、本授業の当初にも少しは話しているものの、その時間帯には本来聞いておいてほしい類の受講者が来ていないという矛盾点もあり、さらに個人的に遅刻者に対して授業中に注意を促すと、いわば逆切れの状態になってしまうという、対処に困る状況も見られた。厳しい出口の評価が必要と言いつつ、このような対処に困る状態に直接手を下せない授業者の位置づけは回復されなければならないと感じる。

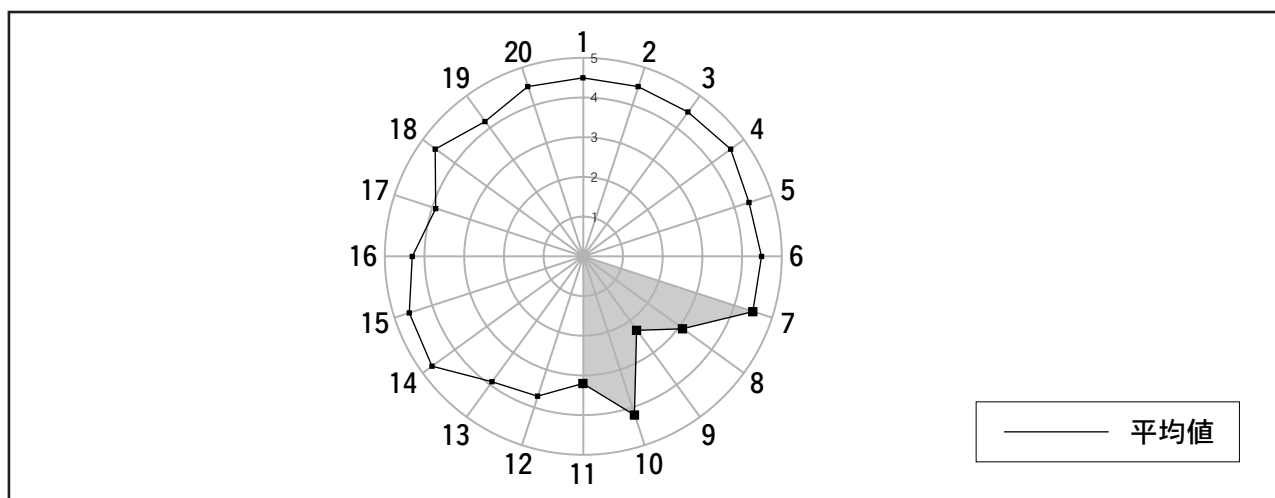
少なからぬこのような受講者が混じった集団が行った「学生による授業評価」にどれだけの意味が見出せるかについては、疑問があることは否めない。授業者としては、授業の前にまず受講者の自己評価する態度から厳しく指導していくことのほうが先決であるものと判断できる。ただ、このような不埒な学生だけではないので、出てきた値を統計的にのみ意味を持つ「授業評価」と捕らえてみたとき、自学自習をしているかどうかについての質問以外の部分については、評価値が4程度となっており、所期の目的は達せられているものと判断できる。

少し長くなるが、最も気になった点をひとつだけ挙げると、「(2)成績評価の方法は、明確に示されていた。」の質問に対して、20人もの学生の評価が1, 2または3となっている。シラバスには、「筆記試験の成績、討論における発言と内容、出席の比率を6:3:1にする」ことおよび「筆記試験の評価規準3項目」を具体的に掲げているので、いったい受講生は授業概要を見て受講しているのが非常に疑わしく、シラバスの意味を成しているのかについても、莫大な努力と金銭的負担によって作成している割にはその効果が現れていないことを物語るように感じる。学生が隅から隅までシラバス内容を見ず、利用もしない、いわば「体裁で作る」シラバスなら、教員の自己満足に過ぎないこととなり、不必要である。

授業科目名 日本国憲法
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 133名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	77	44	11	1	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	76	46	9	1	0	1	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	77	44	12	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	90	36	7	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	73	37	21	1	0	1	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	85	31	13	3	0	1	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	92	21	15	3	2	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	11	35	53	24	10	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	7	13	40	31	42	0	2.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	57	47	26	1	2	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	15	30	55	28	5	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	35	32	53	12	1	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	44	46	30	13	0	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	107	18	5	3	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	89	34	8	2	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	68	44	18	3	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	47	31	38	7	4	6	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	93	29	9	2	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	63	35	26	8	0	1	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	83	34	14	1	1	0	4.5



教員のコメント

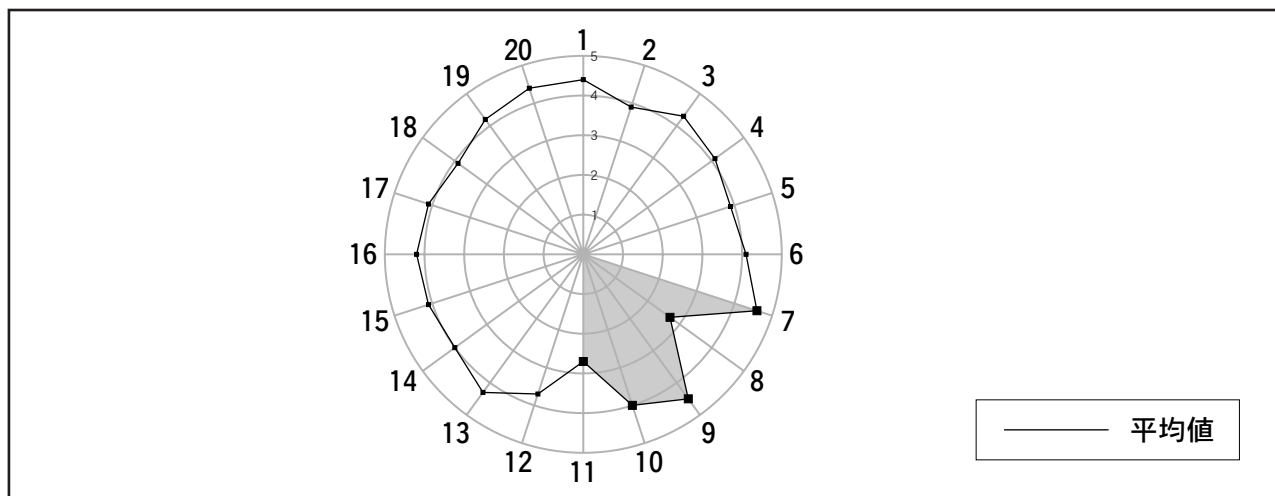
入学して初年度の講義であり、しかも100名を超える大教室という環境、90分間という長丁場の大学講義にあたって、学生においては環境に慣れないなか、戸惑いを覚えることも少なくないと思うが、本年度はとても一体感のある講義ができたように思われる。それは何よりも、学生の受講姿勢によるものであると考えている。

憲法が教員免許取得の要件として規定されていることは、この規範をめぐる主体的なリーガルマインドを、すべての教員が修得すべきであるという事情による。今年度は教育実践という文脈にとくに引きつけて、憲法学を講じることに専念した。個人的な印象としては、この方向性は当面維持するに値するものであると評価できるように思われた。

次年度以降においても、教員養成という本学の使命を常に認識しながら、学生にとって主体的に講義に臨んでもらえるような内容にしていきたいと考えている。話す速度が速いという点、板書の文字が汚いという点など、多くの課題が指摘される教育内容ではあるが、可能な限り、多くの課題を修正、克服し、学生の立場からみて信頼に値する講義内容にしていきたいと強く考える次第である。

授業科目名 阿波学
 評価実施日 平成20年9月24日
 担当教員名 大石 雅章, 皆川, 中津, 久米, 赤松, 立岡, 山根, 内藤, 南, 梶井, 山森 回答者数 98名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	53	33	9	3	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	30	27	32	6	0	3	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	53	26	15	2	1	1	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	43	26	21	6	1	1	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	32	30	26	7	2	1	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	42	30	21	1	3	1	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	73	14	9	1	0	1	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	10	16	24	27	20	1	2.7
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	59	26	9	1	1	2	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	40	28	21	4	3	2	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	18	29	17	23	2	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	29	30	23	9	5	2	3.7
	(13) 熱心に指導した。	53	27	13	1	2	2	4.3
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	35	33	24	2	1	3	4.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	39	29	22	3	2	3	4.1
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	44	30	14	7	0	3	4.2
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	43	20	27	4	0	4	4.1
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	29	32	27	5	2	3	3.9
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	43	32	14	6	0	3	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	50	31	13	0	1	3	4.4



教員のコメント

平成19年度までのシラバスを刷新し、特色的な授業内容を構成して開講した。すなわち、四国の文化アイデンティティである遍路について、学生が講義形式の授業によって基礎理解を得るとともに、実際に2泊3日で遍路道を歩いて実践的・体験的に学ぶことをねらいとした。基礎と実践を組み合わせた授業を展開した。

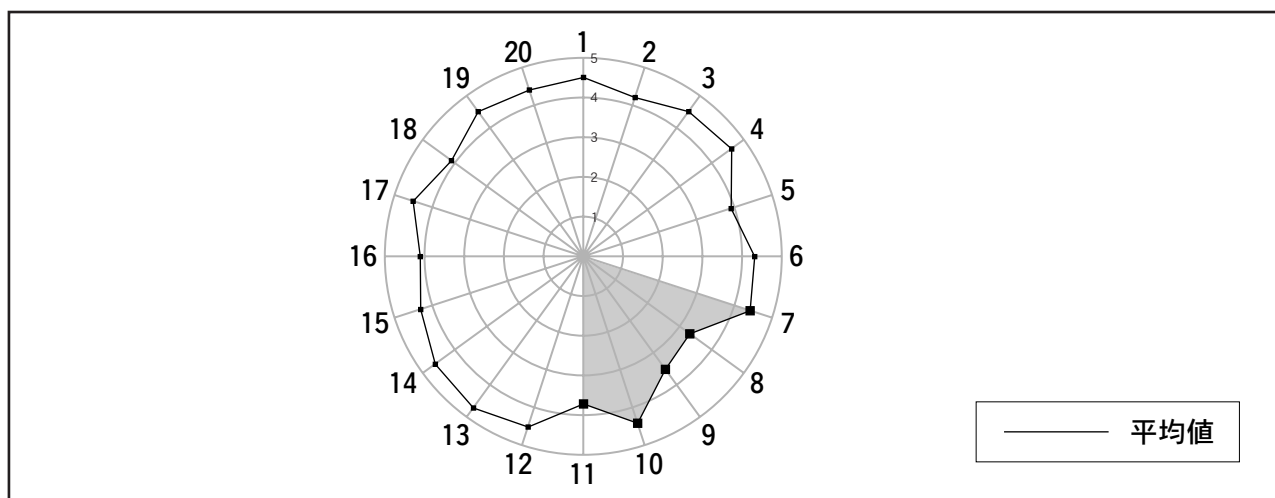
項目1（平均値4.4）にあらわれているように、学生は本授業の有する特色的なねらいを理解している。そして、学生が授業に対する高い満足度を示しているのは（項目20:平均値4.4）、本授業で提供されたプログラムとその意義が支持されたことをあらわす。

取り組むべき課題は、項目8（平均値2.7）や同11（同2.7）の結果に明らかなように、学生の学習活動を授業外へも展開させるためにはどうしたらよいかである。図書館には阿波学コーナーが設置され、学習環境は相当程度整っている。学生の興味や関心が単なる気分でおわらず、どう具体的な行動へと促しうるか。今後も授業改善につとめたい。

授業科目名 実践情報教育ⅡA
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 曾根 直人

回答者数 30名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	12	2	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	13	10	6	1	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	17	10	3	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	20	8	2	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	8	11	0	1	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	14	12	3	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	19	6	4	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	10	9	1	5	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	9	13	1	2	0	3.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	16	10	4	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	11	11	1	1	0	3.7
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	17	10	3	0	0	0	4.5
	(13) 学生参加型の授業だった。	22	6	2	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	19	10	1	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	10	6	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	11	10	9	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	19	8	3	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	11	11	8	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(9) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	18	9	3	0	0	0	4.5
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	14	2	0	0	0	4.4



教員のコメント

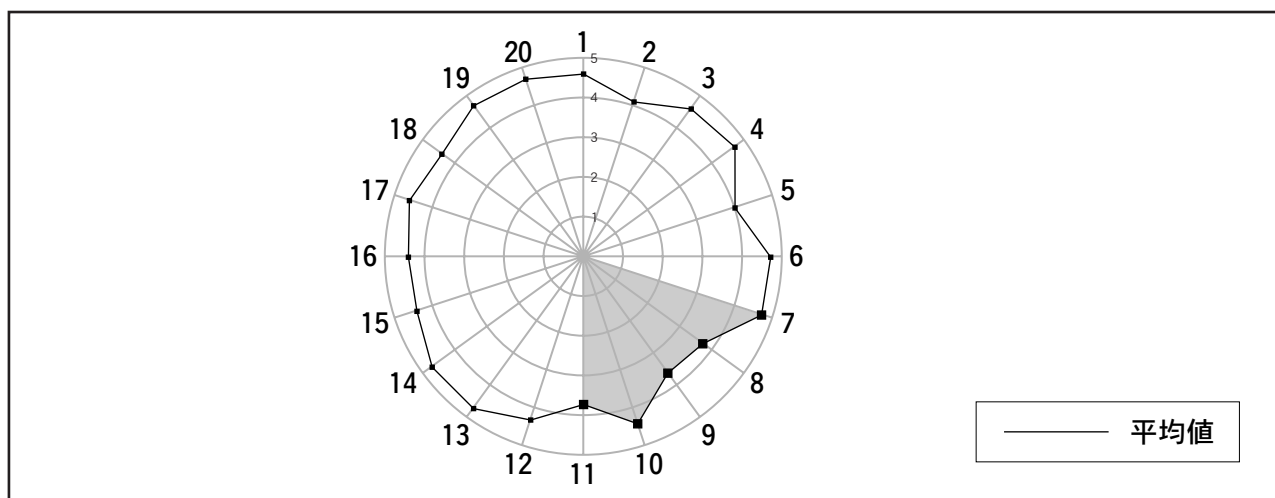
アンケート結果は概ね高い評価となったが、予習・復習や質問、疑問点の確認など学生自身の取り組みに関する項目が低くなっている。大学の端末室を利用した実習を行っているため、予習・復習の時間を確保できないのかもしれない。利用しているソフトウェアは無料で利用できるものを主体としており、自宅PCでも同じソフトを整備することで、予習・復習に利用できる。今後は、ソフトをダウンロードしてインストールするといった環境整備に関する内容も授業内で紹介するよう工夫したい。また、授業で取り上げる内容は画像やビデオの加工であるが、課題は各自、各グループが独自に工夫して作業を行っているため、主体的に作業に取り組んでおり、評価も高くなっている。学生に自由に作業をさせることで、こちらの予想以上に立派な作品を作成するグループもある一方、主体的に行動できず、作業が進まないグループも存在するといった問題もある。今後は作業が進んでいないグループにはこちらから積極的に助言を行うなどの取り組みを行いたい。

この授業ではフリーのLMS Moodleを利用し、授業中に利用した資料をいつでもブラウザから確認できるようにした。インカレや介護等実習、体調不良などで授業を欠席した場合、後日資料にアクセスできることは好評であった。

授業科目名 実践情報教育ⅡB
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 曾根 直人

回答者数 32名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	19	12	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	13	9	9	1	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	19	12	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	23	8	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	11	8	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	22	9	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	24	7	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	10	7	5	1	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	4	12	0	4	0	3.6
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	16	14	2	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	9	9	4	1	0	3.7
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	17	11	3	0	1	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	25	4	2	1	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	23	7	2	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	17	12	3	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	18	10	4	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	21	10	1	0	0	0	4.6
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	18	10	4	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	24	6	2	0	0	0	4.7
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	22	9	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

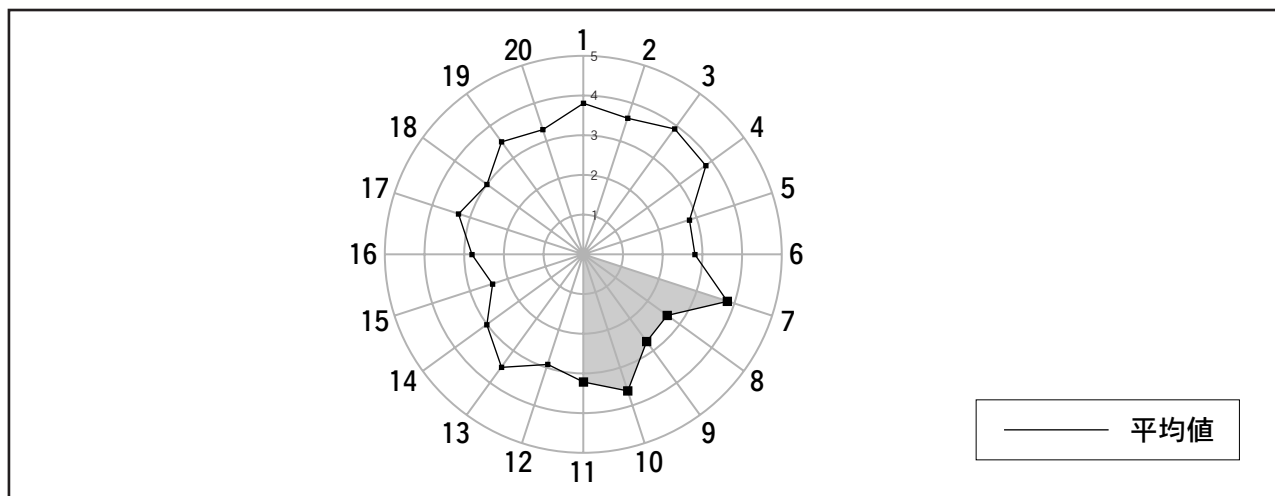
アンケート結果は概ね高い評価となったが、予習・復習や質問、疑問点の確認など学生自身の取り組みに関する項目が低くなっている。大学の端末室を利用した実習を行っているため、予習・復習の時間を確保できないのかもしれない。利用しているソフトウェアは無料で利用できるものを主体としており、自宅PCでも同じソフトを整備することで、予習・復習に利用できる。今後は、ソフトをダウンロードしてインストールするといった環境整備に関する内容も授業内で紹介するよう工夫したい。また、授業で取り上げる内容は画像やビデオの加工であるが、課題は各自、各グループが独自に工夫して作業を行っているため、主体的に作業に取り組んでおり、評価も高くなっている。学生に自由に作業をさせることで、こちらの予想以上に立派な作品を作成するグループもある一方、主体的に行動できず、作業が進まないグループも存在するといった問題もある。今後は作業が進んでいないグループにはこちらから積極的に助言を行うなどの取り組みを行いたい。

この授業ではフリーのLMS Moodleを利用し、授業中に利用した資料をいつでもブラウザから確認できるようにした。インカレや介護等実習、体調不良などで授業を欠席した場合、後日資料にアクセスできることは好評であった。

授業科目名 実践情報教育 I A
 評価実施日 平成20年 7 月25日
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	3	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	2	6	1	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	4	3	1	0	0	3.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	4	5	0	0	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	4	4	2	2	0	2.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	3	5	3	1	0	2.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	3	3	2	0	0	3.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	7	5	0	0	2.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	5	2	1	4	0	2.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	4	5	1	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	8	1	0	0	3.2
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	3	5	4	0	0	2.9
	(13) 学生参加型の授業だった。	3	4	1	4	0	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	1	3	3	5	0	0	3.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	1	5	4	2	0	2.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	2	3	5	1	0	2.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	2	6	1	1	0	3.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	3	3	5	0	0	3.0
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	2	4	4	2	0	0	3.5
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	3	6	2	0	0	3.3



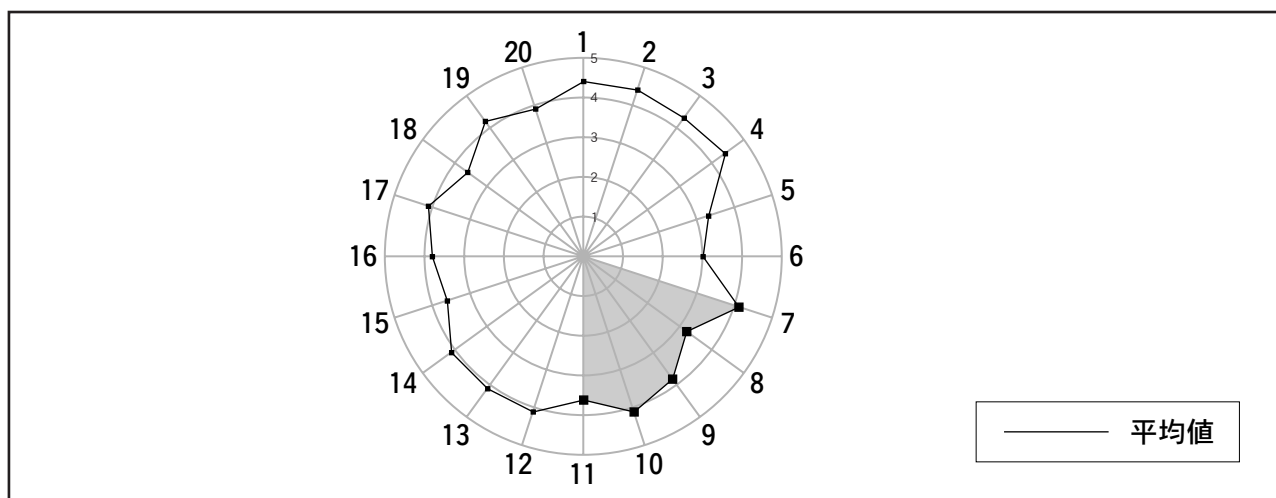
教員のコメント

1 時限目を実施している実践情報教育 I Aは、2 時限目の実践情報教育 I Bと同じ授業内容であるが、アンケート結果は実践情報教育 I Bと比べて全般的に低い傾向であったので比較して考察する。質問項目(9)「授業中に積極的に発言や質問をした。」の相対的な比較から、授業中の質問が実践情報教育 I Bは活発で平均値 3.8 であったことに比べて、実践情報教育 I Aは平均値 2.7 で少ない傾向にある。また、質問項目(10)「授業によく出席した。」は、平均値に大きな差異はみられない(実践情報教育 I A (3.8), 実践情報教育 I B (4.1)) が、記録されている延べ人数の遅刻回数の比較では、実践情報教育 I Aが 18 回であるのに対して、実践情報教育 I Bではその半数の 9 回である。従って、授業の開始の時間には、授業内容の趣旨を説明したり、学習管理システム moodle に蓄積されていく質問に回答したり、課題の手がかりを与えたりする時間として授業を進めていたが、1 時限目の授業では、それらの情報を効果的に活用できていないことが考察できる。また、必要な情報を整理・解釈して活用できるかどうかも課題を進めるうえで必要になるが、そのような趣旨が実践的に理解されていないことが授業中の質問等の状況からも示唆される。詳細な分析は、課題の進捗状況を把握できるように学生へのフィードバックも兼ねて毎週のように moodle を活用した質疑応答も行っていたので、その履歴の比較や解析を進めて今後の参考にしていきたい。

授業科目名 実践情報教育 I B
 評価実施日 平成20年 7 月25日
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	6	1	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	7	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	4	3	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	6	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	6	6	2	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	2	8	2	1	3.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	6	3	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	3	2	2	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	6	2	1	1	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	6	5	1	2	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	7	2	0	2	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	4	3	1	0	4.1
	(13) 学生参加型の授業だった。	4	8	2	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	4	7	3	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	4	6	1	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	4	5	1	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	4	3	1	0	4.1
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	7	6	0	0	3.6
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	6	6	1	1	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	7	3	1	0	3.9



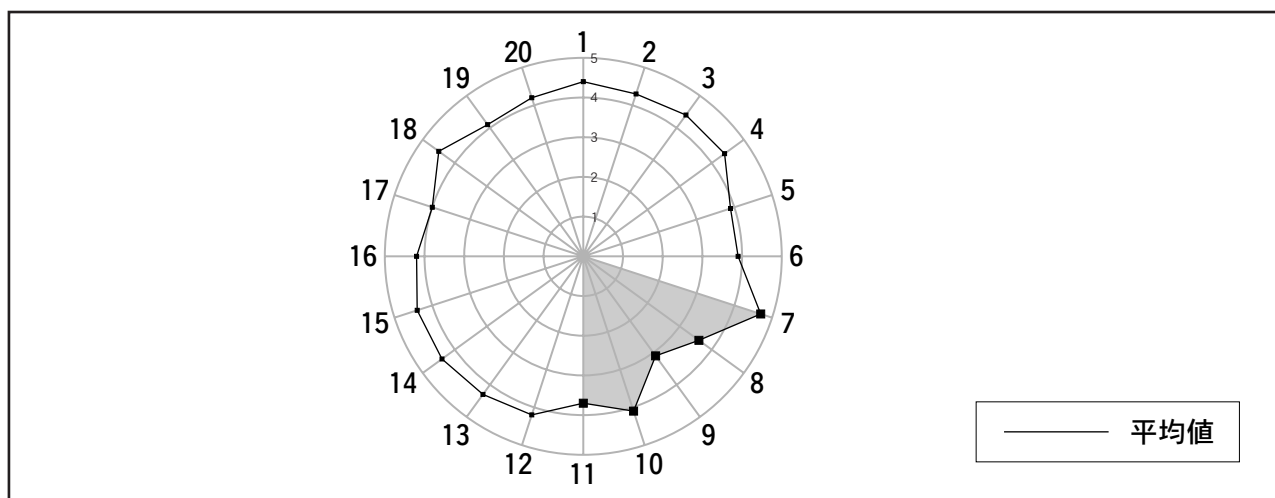
教員のコメント

2時限目を実施している実践情報教育 I Bの授業内容は、1時限目の実践情報教育 I Aと同じ授業内容であるが、アンケート結果では実践情報教育 I Aに比べて全般に高い傾向が観察された。その考察は、実践情報教育 I Aとは相対的に逆のことが示唆されるので、そちらを参照いただきたい。その他に特筆すべき点は、今年度は先輩学生（大学院生達）が主導する学習支援の取組みを試験的に始めたことにより、実践情報教育 I の授業課題の取組みの質的な向上がみられたことである。学生によるサポートは他大学でも注目を集めており類似の取組みや組織はあるが、今回実施された取組みでは学習サポートの場づくりに特徴があったり、教員養成を重視した大学である点を踏えていたり、他大学の先導的な実践モデルになり得る。この取組みは2008 PC Conferencで発表したところ優秀論文賞を受賞して好評であった。詳しくは「野村・永野・林：学生主導型の情報系サポートシステム－学生同士で学び合う「ラウンジ」活動－、2008 PC Conferenc, pp.270－273, 2008, (<http://www.gakkai-center.jp/pcc/2008/papers/pdf/53.pdf>)」を参照いただきたい。この取組みは、どのような方でも気軽に参加しやすくなっている。また、教えることで学ぶことや先輩・現職教員院生等の豊富な経験等にも触れてみたいと少しでも思う学生は、相談を受ける側としても参加して、今後の活動が継続されることを期待したい。

授業科目名 英語リーディングⅡB
 評価実施日 平成21年2月27日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 33名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	13	4	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	15	3	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	15	3	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	16	13	4	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	12	10	7	4	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	11	7	1	2	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	23	9	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	8	12	2	2	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	9	10	6	4	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	16	4	2	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	8	13	3	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	16	9	7	0	1	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	17	10	6	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	18	11	4	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	16	2	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	15	5	0	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	13	12	6	0	2	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	19	11	2	1	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	14	12	5	1	1	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	14	5	1	0	0	4.2



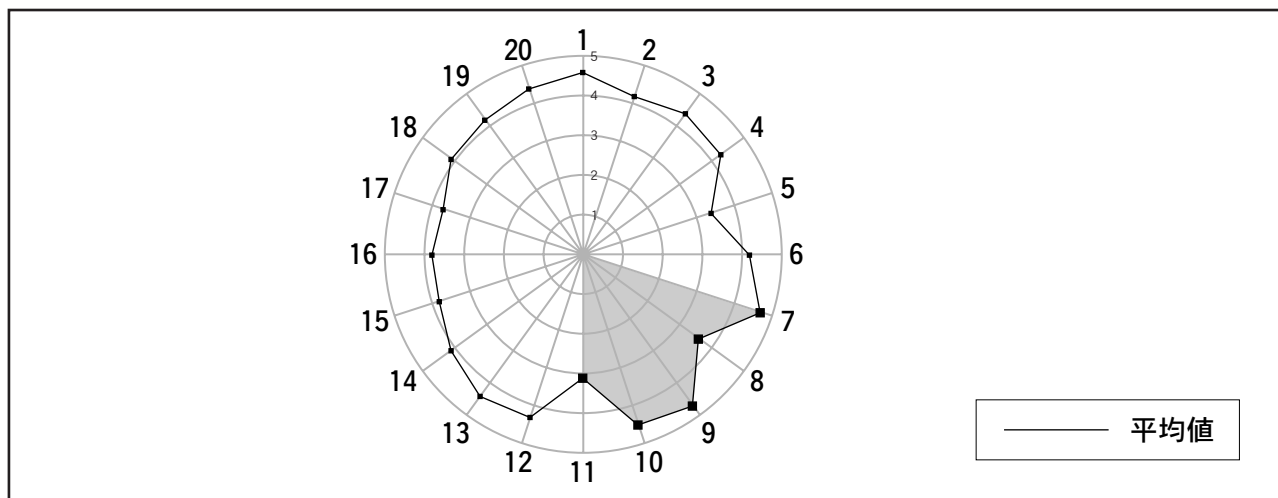
教員のコメント

本授業は、英語能力試験として広く活用されているTOEICに対応したリーディングテキスト及び最新の英字新聞の記事を教材とし、国際化・情報化に対応できる英語リーディング能力、つまり、英語で書かれた内容を正確かつ迅速に読みこなす能力の育成を目指すものであった。授業評価の結果から判断する限り、決して高くないが、概ね好意的な評価を得られたものと思われる（20項目全体での平均は4.14、受講生の授業への取り組みに関する項目を除いた15項目、すなわち教師の授業方法に関する15項目の平均は4.20）。なお、受講生から寄せられた感想から判断する限り、毎時間の授業の前半に行った英字新聞の記事を使ったリーディング活動は、前年度に引き続き今年度も比較的好意的に受け取られているようである。具体的には、「新聞記事で英語以外にも色々なことが勉強になった」「新聞を使って国際時事を知れて良かった」「英語に興味があいた」「テレビがないので、英字新聞から新しい情報を仕入れることができてよかった」「英字新聞を初めて読む機会となり、苦手な英語を楽しく感じる事ができた」などの好意的な意見が寄せられた。英語読解力の向上に加え、受講生の視野を世界へ広げるという当初の目的がある程度達成されたものと思われる。授業の進め方に関しては、32名中2名から改善意見が寄せられたが、何れもテスト時間（60分）が短かったという意見であった。今後の検討課題としたい。

授業科目名 健康・スポーツ科学Ⅱ
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 坂本 和丈

回答者数 23名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	10	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	9	3	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	9	2	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	5	6	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	4	9	5	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	10	3	1	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	18	4	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	6	5	3	2	3.6
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	15	8	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	12	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	6	8	3	3	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	8	4	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	10	12	1	0	0	4.4
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	11	5	0	0	4.1
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	7	7	2	0	3.8
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	8	6	1	1	3.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	8	7	1	1	3.7
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	9	8	6	0	0	4.1
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	9	11	2	1	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	10	2	0	0	4.4



教員のコメント

本授業は学部3年生の実技及び理論（講義）の授業である。実技の授業は、ゴルフスキルの習得とスキル習得のための認知的方略の学習がねらいであり、一方理論の授業は実技の授業で提示された授業計画に基づいて、ゴルフスキルや認知的方略のポイントについて教示することが主な目的であった。

授業評価の結果から、授業概要、授業の内容等（項目(5)を除き）、教員の授業の進め方などについては、ある程度高い評価を得ている。しかし、学生の授業への取り組みについては、項目(8)及び(11)の評価はかなり低い結果であった。項目(8)については、全体の授業計画に関する資料に基づいて説明を行い、また項目(11)については、毎時間に疑問点や質問を要求してきたが、両者ともに運動教材の特性から学生にとっては不十分であったと反省しているものと考えられる。これらのことについては教師自身の反省でもあり、今後改善をしなければならない。最後に、授業に対する満足度（平均値4.4）からみれば、学生は授業においてゴルフスキルの習得や認知的方略を身に付けたものと考えられる。

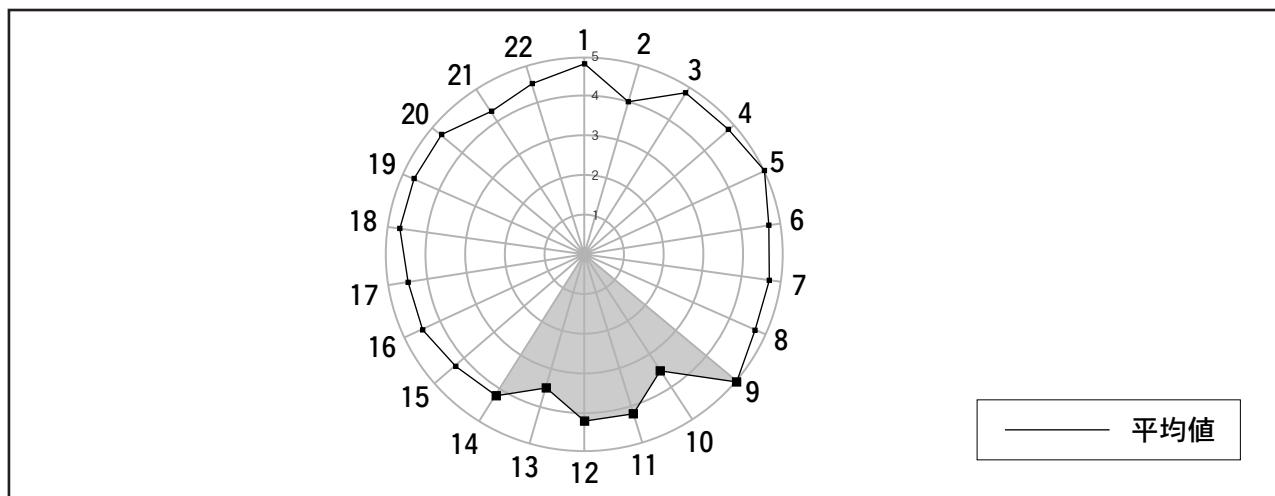
教育実践コア科目

授業科目名 幼児教育実践基礎演習

評価実施日 平成20年7月23日

担当教員名 田村 隆宏, 橋川喜美代, 浜崎 隆司, 塩路 晶子, 木村 直子, 阪根 健二 回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	1	1	1	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	1	0	0	0	4.8
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	5	1	0	0	0	4.8
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	6	0	0	0	0	5.0
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	0	1	0	0	4.7
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	0	1	0	0	4.7
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	2	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	0	0	0	0	5.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	1	1	2	0	3.5
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	3	1	0	0	4.2
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	1	2	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	1	2	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	1	2	0	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	2	1	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	3	3	0	0	0	4.5
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	3	0	0	0	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	0	1	0	0	4.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	0	1	0	0	4.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	0	1	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	0	2	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	0	0	0	4.5



教員のコメント

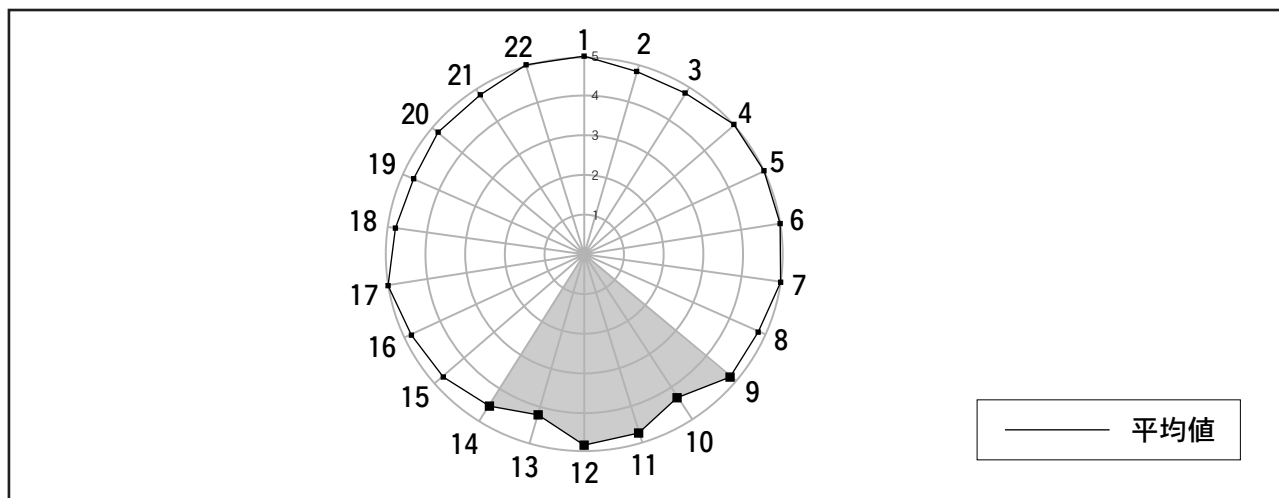
質問項目の結果は全22項目中20項目において4点台であり、授業概要との対応、内容面、授業の進め方、学生の授業に対する取り組みや満足度については概ね肯定的な評価が得られた。ただし、学生の授業への取り組みに関して「授業内容について授業時間外に準備やまとめをした」、「わからないことや疑問に思ったことは調べた」の項目についてはともに3点台の評価点ということで、それほど強い肯定的なものではなかった。これらについては、受講生に対してさらに望ましい取り組み方を促す必要性が示唆され、今後の授業の中で十分に配慮していく必要がある。自由記述の結果では、よかった点として「様々な専門を持つ多くの先生の色々な分野について深く学べ、興味・関心が喚起されたのがよかった」、「幼児の特徴、社会の実状について学ぶことがたくさんあった」などが挙げられた。改善すべき点としては「担当の先生が次々と変わって引き継ぎが不十分だった」ことが挙げられた。よい点と改善すべき点はいずれも複数の教員で担当することに関わることであるが、これに関わる利点をさらに生かし、問題点についてはできるだけ教員同士の引き継ぎを十分にしようさらに工夫していく必要がある。

授業科目名 特別支援教育実践基礎演習

評価実施日 平成20年7月23日

担当教員名 八幡ゆかり, 井上(と), 大谷, 島田, 津田, 高原, 田中(淳), 阪根 回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	3	0	0	0	0	4.5
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(16) 熱心に指導した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業は将来特別支援教育に携わる学生に特別支援教育の実践現場を体験させ、教育の現状の大まかな把握を目的として実施している。アンケートの結果からは概ねその目的は達成されたと考える。

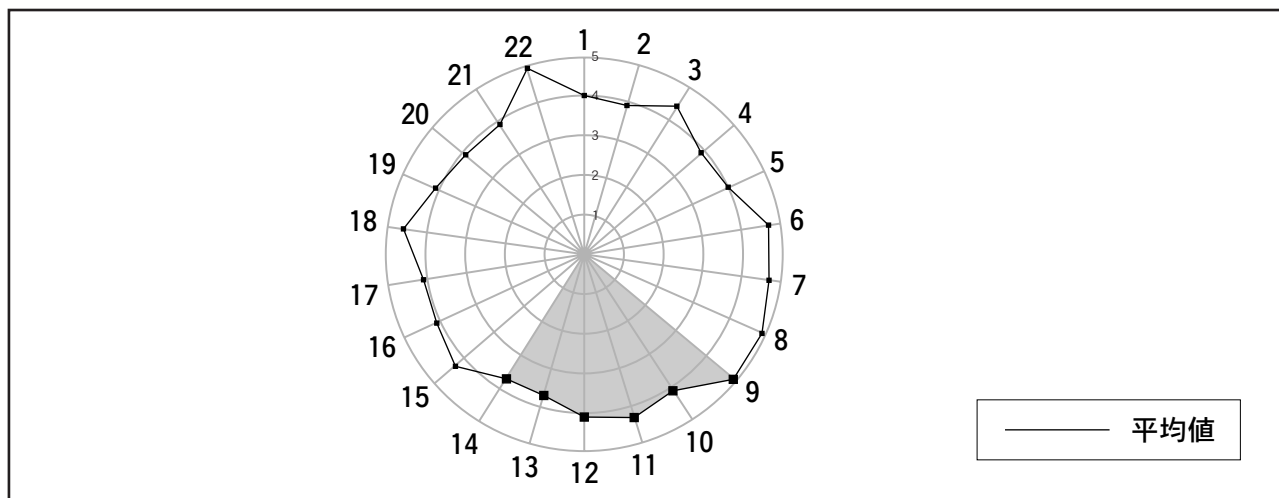
学生の授業への取り組みは積極的であり、授業への満足度も高かった。次年度も同様の方針、内容での実施が適切であると考えます。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（学校教育）

評価実施日 平成20年7月23日

担当教員名 伴 恒信, 今田, 栗飯原, 梶井, 井上 (和), 山崎 (勝), 阪根 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	1	2	1	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	3	1	1	0	0	3.9
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	2	2	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	1	2	0	0	0	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	1	6	0	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	1	1	0	0	3.7
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	2	2	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	5	0	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	6	0	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	4	2	0	0	0	3.9
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	2	3	1	1	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	0	0	0	4.9



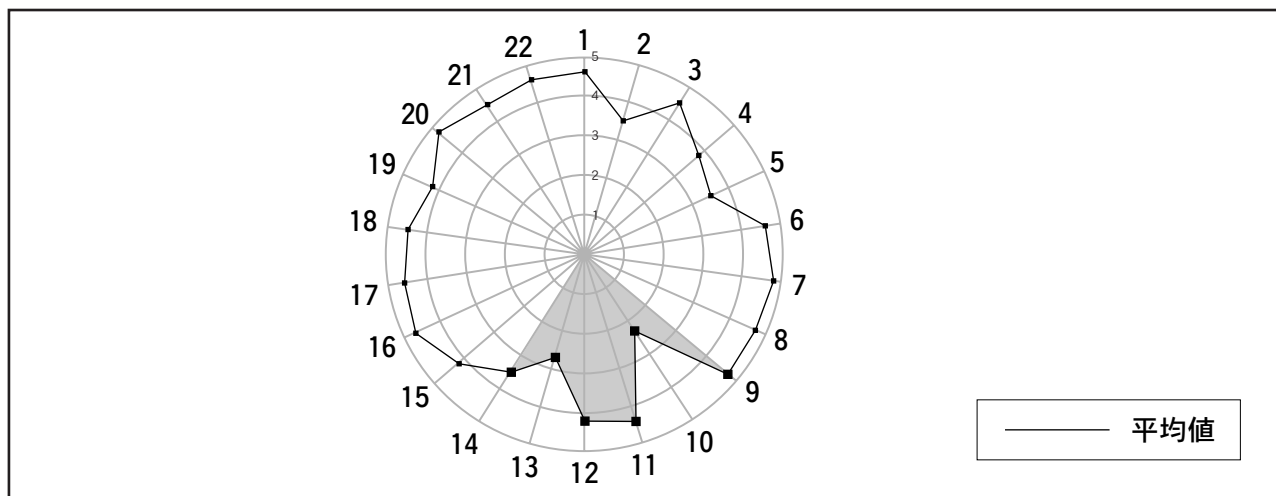
教員のコメント

本授業は、7名の教員によるアラカルト方式の授業で、ふつうは内容が拡散して受講者の評判が良くない傾向にあるはずが、実際は極めて評価が高く、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」が4.9点、「教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。」も4.9点と最高点をつけ、「教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。」「教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。」の両項目も4.7点と、本授業の目的である教職の理解と教職への動機づけを十分果たしたものとなっており、授業としては間違いなく大成功であったと言える。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（国語）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 赤松 万里, 小野, 永田, 幾田, 茂木, 原, 阪根

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	5	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	4	3	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	7	0	0	0	4.5
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	6	5	0	0	3.8
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	3	8	0	0	3.5
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	9	3	1	0	0	4.6
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	10	3	0	0	0	4.8
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	9	4	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	10	2	1	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	1	4	6	2	2.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	4	0	1	0	4.4
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	7	0	1	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	5	5	1	2.7
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	4	3	2	1	3.5
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	2	2	0	1	4.2
	(16) 熱心に指導した。	9	4	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	10	2	0	1	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	5	1	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	4	3	0	0	4.2
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	3	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	8	4	1	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	1	2	0	0	4.6



教員のコメント

本授業では、話す・聞く・読む・書く・話し合う・調べるといった活動に取り組むことを基礎として、4年間をともに学ぶ仲間同士の理解を深めることを企図した。授業全体に対する満足度の平均値は4.6であり、おおむね肯定的に評価してもらえたようであるが、個々のコメントを参照すると課題も少なくない。

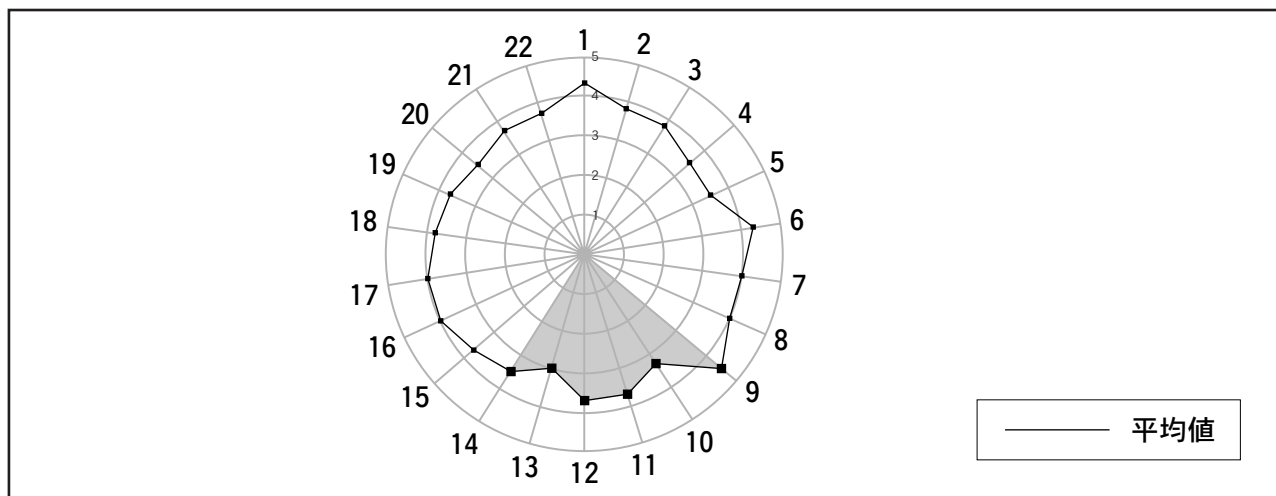
授業内容について、本授業では意図的に教科に関する専門的な内容は扱わず、受講生が取り組みやすいのではないかと授業者が考えた課題を設定した。一方、コメントでは、教科専門に関する内容をもう少し学びたかったという記述も少なからず見られた。次年度の方向として、活動課題を設定する際には、ある程度は国語科の内容と関連する話題を取り入れた方がよいと思われる。

また、入学したばかりであった受講生のニーズは、教師として必要な能力とは何かを考えることにあった。そうした点から見ると、設定した個々の活動が教師としての基礎的能力としてどのような意味を持つのかを自覚する過程が必要であった。そのような点をふまえ、活動のふり返りの仕方等にも工夫を考えていきたい。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（英語）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 前田 一平, 太田垣正義, 山森 直人, 阪根 健二

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	0	2	1	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	1	4	0	1	0	0	3.8
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	1	1	4	0	0	0	3.5
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	0	4	1	1	0	0	3.5
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	3	0	3	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	3	2	1	0	0	3.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	1	2	1	0	0	3.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	1	2	3	0	0	0	3.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	3	0	1	0	3.0
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	1	2	0	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	2	3	0	0	0	3.7
	(16) 熱心に指導した。	3	1	1	1	0	0	4.0
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	1	2	3	0	0	0	3.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	1	1	2	0	0	3.5
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	1	2	3	0	0	0	3.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	3	1	1	0	0	3.7



教員のコメント

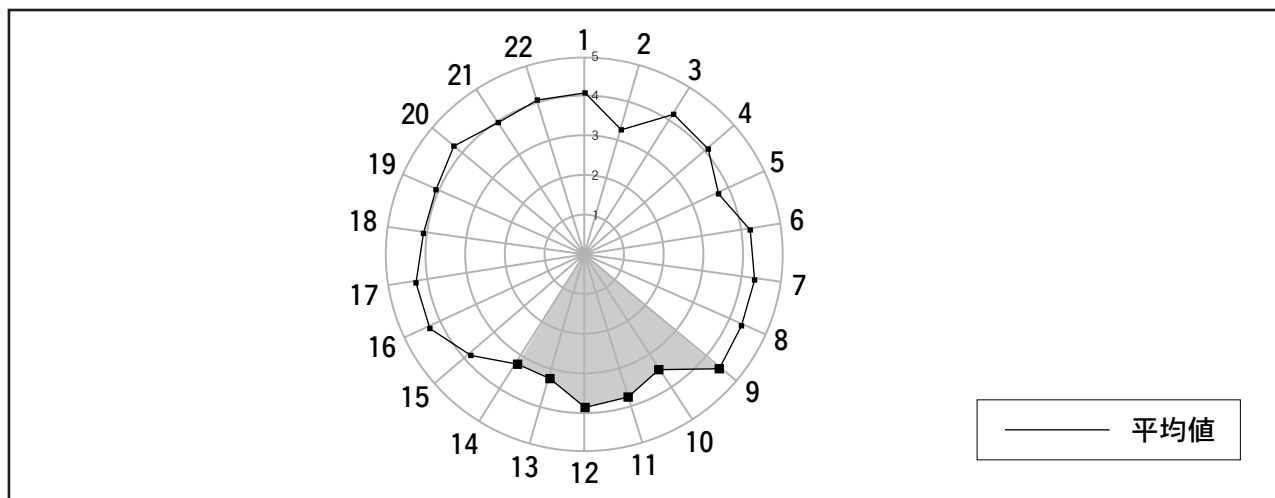
各質問項目に対する評価平均値は13番を除いて3.5から4.5の間にあるので、一応の肯定的評価を得ていると判断される。しかし、「3」と評価した受講生がいずれの質問項目にも多くいるので、反省点を探らなければならない。尚、この授業は本学入学後の最初のインプットの段階であるので、13番の質問に関して平均値3.0という低い自己評価をするのは致し方ないかと判断する。

おおよそ全ての質問にわたって評価が分かれているのは、本授業の性格、目的、意義が教員の間でも、ということは受講生の間でも、十分に認識されていないからではないかと推測される。オムニバス形式の授業のマイナス点はよく指摘されることであるし、類似した授業もあるので、「実践」と名のつく授業科目の再考が求められる。

受講生からの提言は少なかったものの、いずれも「説明がわかりやすかった」、「授業を聞きながら何度か教員になろうと思った」、「楽しかった」という積極的な評価内容であった。しかし、回答者6名中3名はなんら提言をしていないわけで、これを消極的評価と捉えて、今後の反省にしなければならない。ともかく、本授業の目的、意義、実施方法について、全学的にもっと明確な共通認識が必要であるように思える。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（社会）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 木原 克司, 青葉 暢子, 町田 哲, 阪根 健二, 萬玉 吉博 回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	2	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	5	2	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	6	1	0	0	4.2
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	7	1	0	0	4.1
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	1	4	4	0	0	3.7
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	5	1	0	0	4.2
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	4	4	1	0	0	4.3
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	4	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	3	0	1	0	4.4
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	3	5	1	0	3.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	7	0	2	0	3.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	5	2	1	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	5	2	0	3.2
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	1	4	3	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	5	2	1	0	3.8
	(16) 熱心に指導した。	5	3	2	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	3	2	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	9	0	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	7	1	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	4	1	0	0	4.3
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	2	7	0	1	0	4.0
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	6	0	1	0	4.1



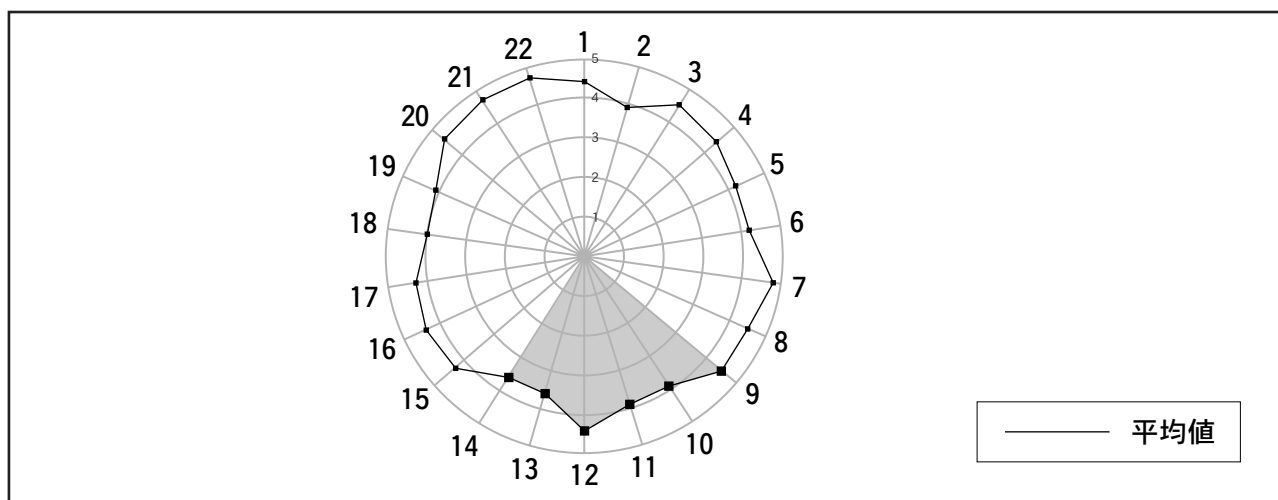
教員のコメント

大卒の質問項目についての平均値は、1 授業概要 3.7, 2 授業内容 4.1, 3 学生の授業への取り組み 3.6, 4 教員の授業の進め方 4.1, 5 授業に対する満足度 4.1 である。2・4・5については4以上の評価を得ており大きな問題はないように思える。しかし、1と3はやや評価が低い。1については授業構成そのものが5名の教員で実施したものであり、主担当の私以外は2コマという授業であるため授業目標や成績評価の点で明確性を出せないのは仕方がないと思う。7コマを担当した私は、基礎演習という授業でもあるため、講義の時間は2コマと少なくし、残りの5コマを「鳴門市中心部の土地利用」調査にあてた。鳴門市1万分の1地形図と住宅地図を使用しグループ別に実地調査をさせ、その成果を発表させた。各授業がこうした演習型式を取り入れた授業を実施できれば項目3に対する評価も高くなると思えるが、授業時間の関係上無理であるように思える。この授業の性格そのものを全学的に検討する必要がある。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（算数・数学）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 成川 公昭, 阪根 健二

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	3	1	2	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	5	3	1	1	0	0	4.2
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	4	3	2	0	0	1	4.2
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	6	3	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	3	0	0	2	0	3.9
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	4	0	1	1	0	3.9
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	3	2	1	1	0	3.6
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	4	3	0	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	4	0	1	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	6	2	2	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	4	0	1	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	5	1	1	0	0	4.0
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	2	2	1	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	7	3	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	1	1	0	0	1	4.7

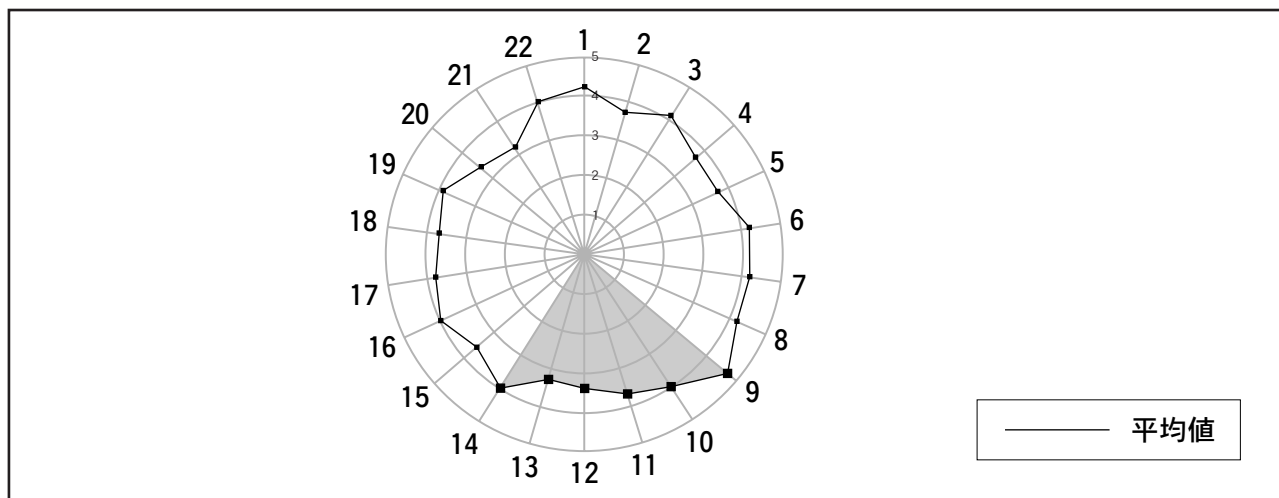


教員のコメント

3の「あなたの授業への取り組みについて」の項目を除いたほとんどすべての項目で4点台の評価となっており十分に評価された授業であったと判断できる。この授業では学校数学における内容と深く関わっているとされるテーマを指定し、学生自ら調査し、その結果を発表するといったかたちで進めた。特に、日常的な曖昧な表現ではなく、論理的な解説ができるよう細かいところに気を遣って指導を行った。このような訓練は高校までの教育では為された経験が乏しいようであった。そのためか最初とまどった学生が多く、なかなか自分の思ったことを正確に表現できない学生が多かった。しかし、今後専門科目を行う上においても、また教師として子どもたちの指導を行う上においても特に必要とされることを繰り返し伝えた結果、その必要性とそのための訓練を十分に認識したようである。6の「あなたからの提言」においては、授業中に模擬授業のような実践的なことができ、その授業に対しての改善点を指摘しあえたことがとてもよかった、とか、取り上げる分野について詳しく調べたり質問があった場合どうか考えたり、教師になる上で考えさせられたことが多かった、といった意見が述べられていた。高校までの授業と異なり、自分で考え、説明することの重要性とその面白さを感じさせることができた授業であったと評価できる。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（理科）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 今倉 康宏, 米澤 義彦, 村田 守, 松川 徳雄, 阪根 健二 回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	1	2	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	1	4	4	0	0	0	3.7
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	2	3	3	1	0	0	3.7
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	1	3	0	0	0	4.2
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	3	2	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	4	1	1	0	0	4.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	0	6	3	0	0	0	3.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	1	3	4	1	0	0	3.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	5	1	0	0	3.3
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	5	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	2	4	1	0	0	3.6
	(16) 熱心に指導した。	5	0	3	1	0	0	4.0
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	3	4	0	0	0	3.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	7	1	1	0	0	3.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	0	8	1	0	0	0	3.9
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	1	5	1	0	0	3.4
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	0	4	3	2	0	0	3.2
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	6	0	1	0	0	4.0

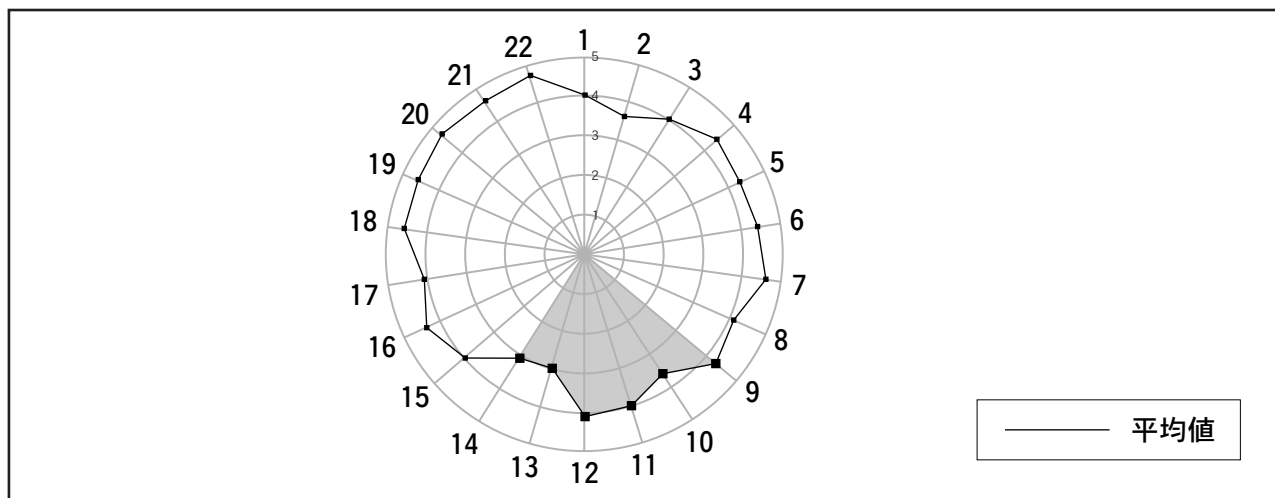


教員のコメント

本講義は、理科コース教員4名の講義（演習）終了後、全コース共通の実務家教員の講義2コマからなっている。アンケートは実務家教員講義終了後に取られるために、学生は性格の違う講義のどちらを評価するのか迷っており、その結果を集計しても意味がなく、そのコメント作成は時間の無駄である。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（音楽）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 西園 芳信, 山田 啓明, 阪根 健二, 米田 幸子, 富士 都美 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	2	1	1	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	3	1	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	4	1	0	2	0	0	4.0
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	5	1	0	1	0	0	4.4
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	4	2	0	1	0	0	4.3
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	1	0	1	0	0	4.4
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	2	4	1	0	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	1	2	0	0	0	4.3
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	2	1	2	0	0	3.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	5	1	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	2	3	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	1	3	2	0	0	3.1
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	0	2	1	0	0	4.0
	(16) 熱心に指導した。	5	1	0	1	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	1	1	1	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	1	1	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	1	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	2	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

本授業は、教員としての実践的指導力育成のための中核になるもので、それを音楽科の教科の成立やキャリア教育の視点から展開するものである。そのため、この授業の目的は、教科の成立やキャリア教育の視点から、音楽科の教師に求められる専門的知識や技能・経験を理解することによって、初等中等の音楽科授業を展開するための実践的指導力を育成することである。

授業に関する目標等、22項目の学生評価の平均値を平均すると4.5となる。このことからこの授業は、学生に概ね理解できる内容で、授業の進め方も実践的指導力を育成するという観点から実践的な内容を多く取り入れたが、このことも概ね評価できるものと言える。従って、コア・カリキュラムのコア授業となる本授業のねらいについては、概ね達成できていると言える。

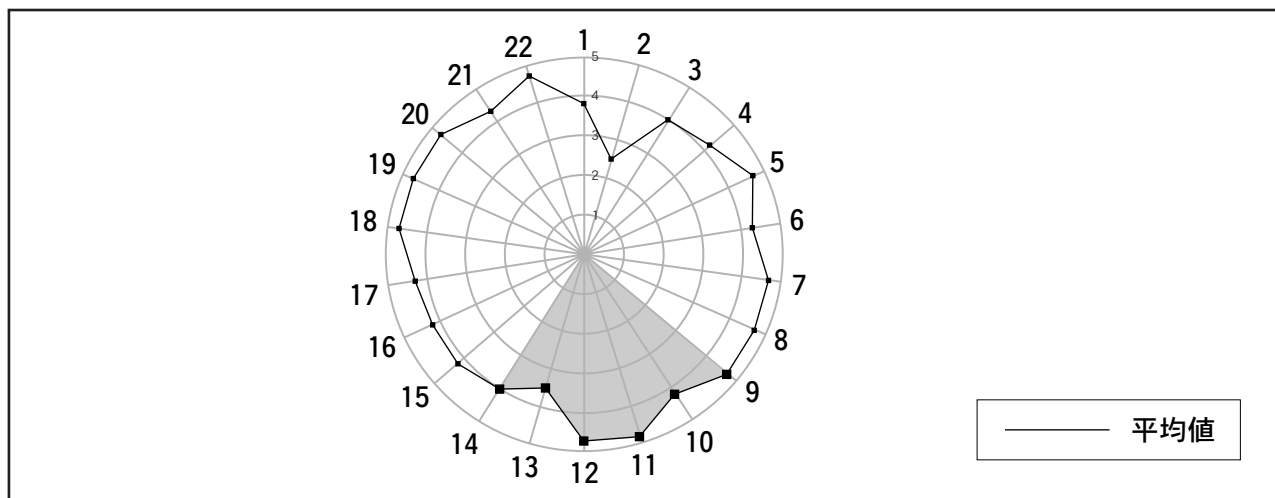
特に授業において改善すべき点は、「分からないことや疑問に思ったことを調べた。」という評価項目についての平均値が3.0となっている。このことから、学生に課題を与えるなどして授業の内容に積極的に関わるように促すことである。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（図画工作・美術）

評価実施日 平成20年7月23日

担当教員名 長岡 強, 武市 勝, 松島正矩, 小川 勝, 西田威汎, 阪根健二 回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	1	2	2	1	0	2.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	0	1	0	0	0	4.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	0	3	1	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	2	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

今年度の授業においては、教育実践コア科目として相応しい授業内容、授業方法となるように受講者の視点に立った見直しを図り授業を展開した。

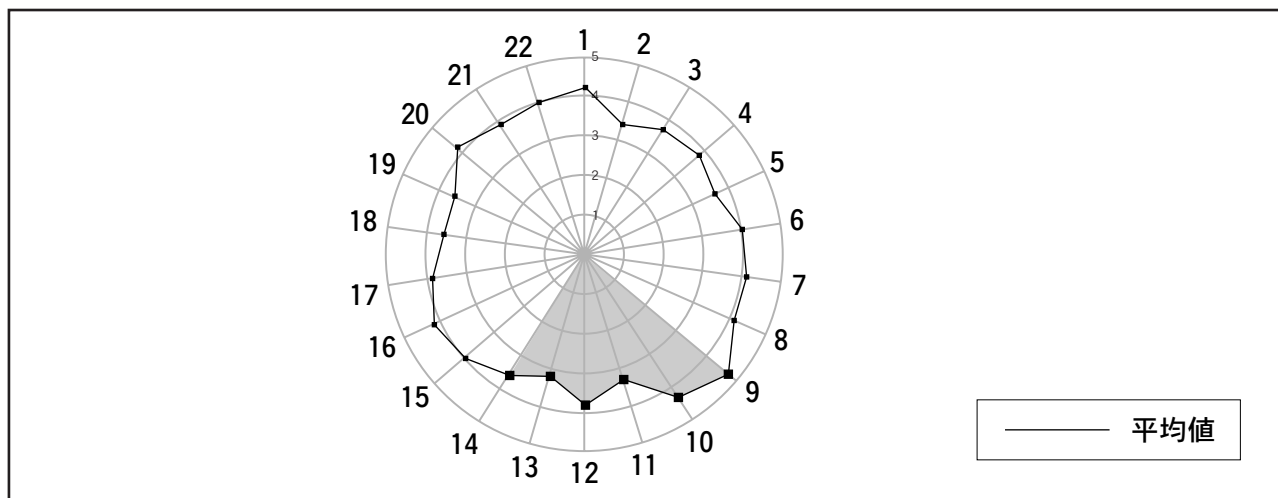
記述表現には、「様々な分野を経験・理解することが出来た。」という感想が多くみられ、受講生にとって満足のいく内容であったようだ。

次年度の課題は、項目2の調査結果にあるように、5分野それぞれにおいて、成績評価の方法を明確に示していく必要がある。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（体育・保健体育）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 乾 信之、阪根 健二

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	3	4	1	0	0	3.4
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	2	5	0	0	0	3.7
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	3	1	5	0	0	0	3.8
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	1	3	5	0	0	0	3.6
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	4	1	1	0	0	4.0
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	4	3	1	1	0	0	4.1
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	3	1	1	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	2	2	0	0	0	4.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	0	4	4	1	0	0	3.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	4	2	1	0	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	7	0	0	0	3.2
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	1	6	0	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	3	3	0	0	0	4.0
	(16) 熱心に指導した。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	2	4	0	0	0	3.9
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	4	3	1	0	0	3.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	1	6	0	0	0	3.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	2	4	3	0	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	3	0	0	0	4.0



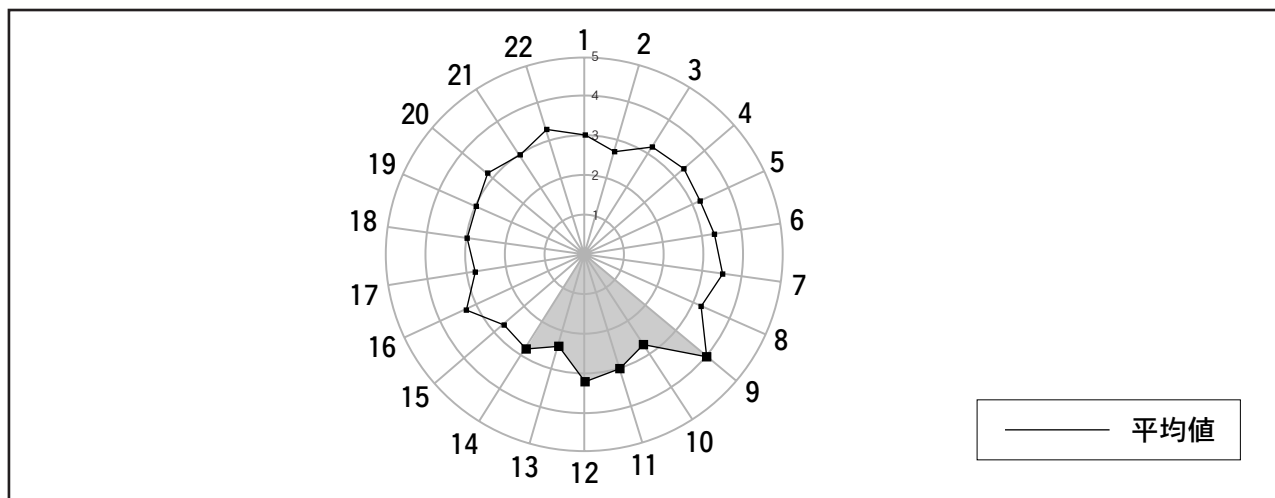
教員のコメント

この演習では本田由紀著「多元化する『能力』と日本社会」(NTT出版)の抄録とその発表を課し、受講生主体の授業を展開した。この種の本は受講生になじみが薄いのが、大学と高校との違いを認識し、背伸びをして理解してほしいという願望で選択した教材である。教授者の熱意は伝わっているが、受講生は分担していない箇所を勉強しないので、最後に読書感想文を課した。その結果はかなり良く書けており、特に9名中2名の感想文は優れていた。また、受講生の中には発表形式を工夫したり、発問に対する優れた応答を示す者もいた。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（技術）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 尾崎 士郎, 伊藤, 菊地, 木下, 宮下, 米延, 阪根, 安田

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	2	3	0	1	0	3.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	1	3	1	1	0	2.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	0	2	3	1	0	0	3.2
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	1	1	3	1	0	0	3.3
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	1	0	4	1	0	0	3.2
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	1	1	3	1	0	0	3.3
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	2	0	3	1	0	0	3.5
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	1	0	4	1	0	0	3.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	0	2	2	1	0	2.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	0	3	2	0	0	3.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	1	1	3	0	1	0	3.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	2	3	0	1	2.4
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	0	2	3	0	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	0	5	0	1	0	2.7
	(16) 熱心に指導した。	0	2	4	0	0	0	3.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	0	0	5	1	0	0	2.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	1	4	1	0	0	3.0
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	0	1	4	1	0	0	3.0
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	1	5	0	0	0	3.2
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	0	0	6	0	0	0	3.0
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	2	2	0	1	0	3.3

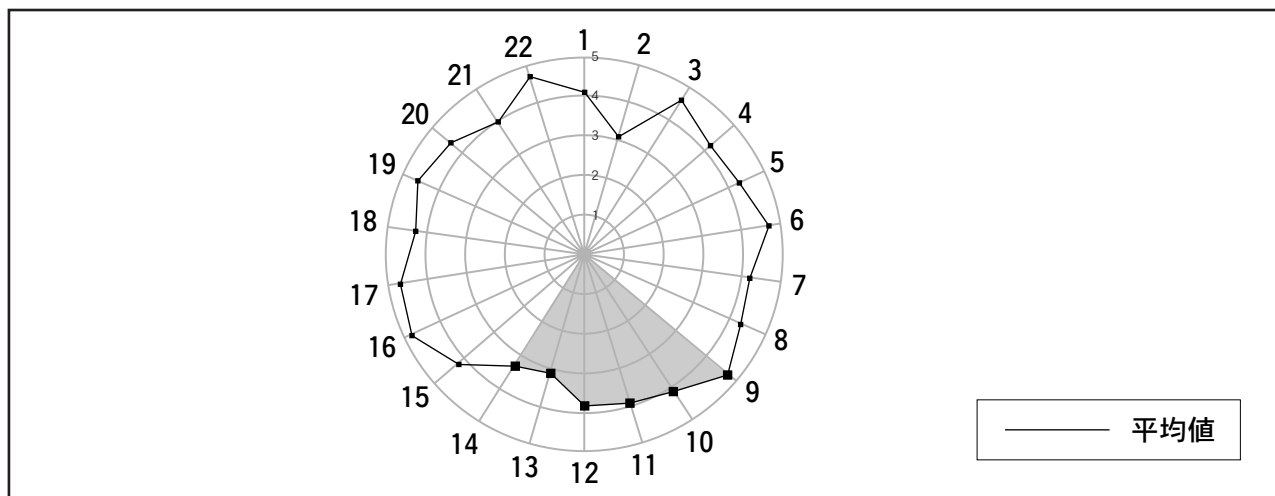


教員のコメント

「(9)授業によく出席した。」では評価の平均値が4.0、これ以外は2又は3点台であり、評価が低い。「(22)この授業でよかったこと」として、・教職に対する展望が開けた、・技術科に関する授業だったのでよかった、・指導計画の作成の練習が今後に役立つそうだ、・教師の使命や必要性について学べた、・自分の考えを1分程度で述べる練習、・環境問題に関する内容がとても有益、・ヨットの手作りに感動した、・地球温暖化についてよくわかった云々と、各授業担当者の工夫を理解し、多くの内容が受講者によく伝わっているように見受けられる。その一方で、「(24)この授業で改善したほうがよいと思うこと」として、6名中5名が、・教員が変わりすぎと記述し、1名が、・ずっと座学はつかれると回答している。これまでの授業運営と評価を通して、多数の教員が細切れに授業を担当する方式については、学生はもとより教員の側でも問題が多いと感じることがあったが、今年度の評価では特にこの点が顕在化している。このような授業運営や方式については、抜本的に再検討する必要があると強く感じる。

授業科目名 初等中等教育実践基礎演習（家庭）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 西川和孝, 黒川衣代, 金 貞均, 阪根健二, 阿望聡子, 高田修作 回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	0	7	1	0	0	3.1
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 教科または幼児教育・障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	4	4	0	1	0	0	4.2
	(5) 教科または幼児教育・障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	6	1	1	1	0	0	4.3
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	4	4	0	1	0	0	4.2
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	5	2	2	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	6	1	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	5	1	1	0	0	3.9
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	0	7	2	0	0	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	5	0	1	0	3.1
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	5	1	0	2	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	3	2	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	1	7	1	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	3	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

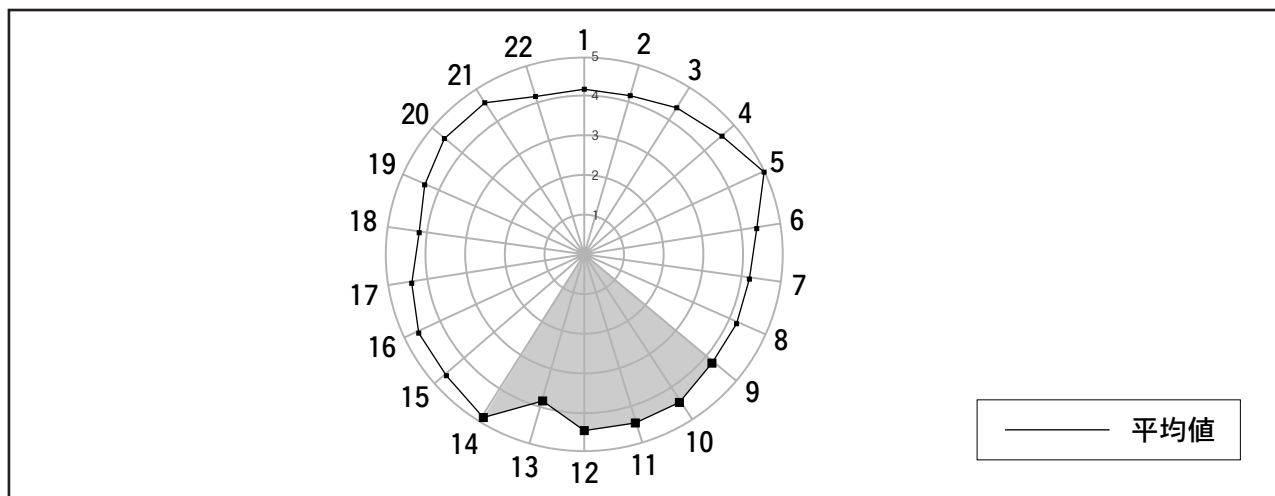
本授業科目は、教科の理論的な話と現場の教員としての体験をふまえた具体的な話とがうまく関連づけられ、概ね高い評価につながったものと考えられる。特に、「教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。」(項目6)及び「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。」(項目22)が比較的高い評価であった。また、学生の自由記述から、家庭科の成立・特性や専門職としての家庭科教師の資質について理解し、具体的に家庭科教師像をイメージできるようにするという授業の目標がほぼ達成できたものと思われる。ただ、授業評価では、「成績評価の方法は、明確に示されていた。」(項目2)及び「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」(項目13)の評価が他の項目に比べて低いので、評価方法の見直しと学生への明確な説明についてより検討し、更なる改善に取り組みたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (コース 図画工作・美術)

評価実施日 平成21年2月4日

担当教員名 山木 朝彦, 武市 勝, 野崎 窮, 田村 隆宏, 森 裕二郎 回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	4	0	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	4	0	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	4	0	1	0	0	0	4.6
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	2	2	1	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(16) 熱心に指導した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	4	0	0	0	0	4.2



教員のコメント

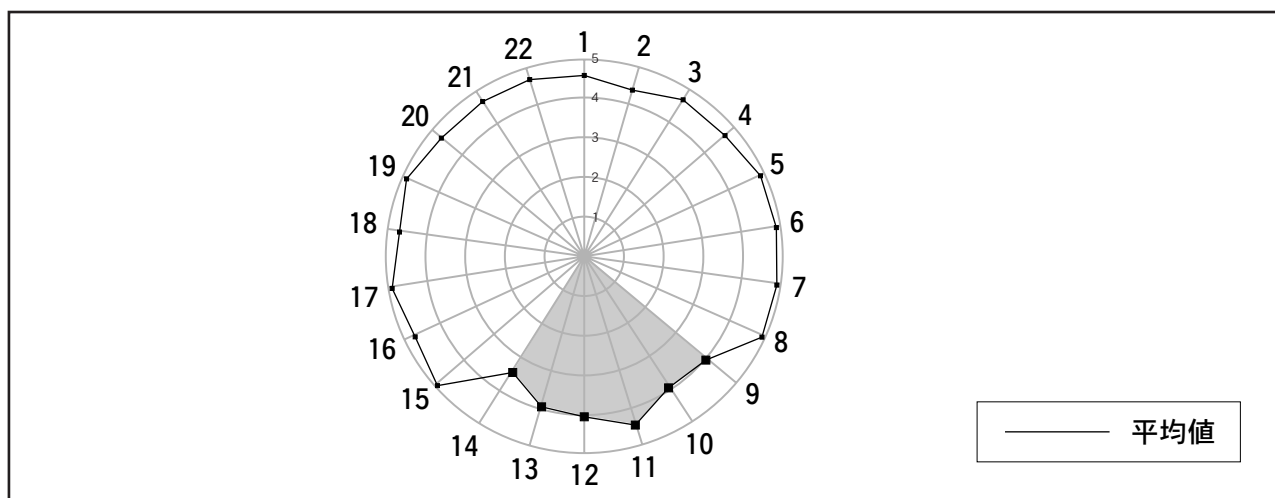
これは、複数の授業担当者が教育実践力の育成のためにコア科目として計画・立案した授業である。授業運営上、二つの困難な条件、すなわち、(1)学部一年生に対して教育実践力を育成するという目的がやや高度であることと、(2)附属学校の教員との連携を図るとともに、実技系の教員と理論系の教員がともに協力する必要が求められていることがあるにもかかわらず、受講生による授業アンケートの結果は、22項目中の21項目が4.2以上という優良な結果となった。複数授業者間の授業内容の伝達(受け継ぎ)がしっかりとできたこと、実技を伴う実践的な内容が多かったことなどがよい結果につながったものと思われる。「学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった」かどうかを問う問い5では、受講生全員が5という評価をしていることが、後者の裏付けとなっている。この評価をみる限りでは、あまり授業内容を変更しないほうがよさそうだが、1項目だけ、3.8という相対的に低い項目があったので、この点を改善したい。それは、受講者自身に「分からないことや疑問に思ったことは調べた」かどうかを問う項目である。この項目の評価を上げるには、課題として語義を調べさせるとともに、学生に対して、普段から電子辞書など各種の辞典や事典を携帯させるようにし、言葉の意味を調べる習慣を身に付けさせる必要があると考えられる。この点、次年度の指導で徹底したいと考えている。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (音楽)

評価実施日 平成21年 月 日

担当教員名 西園 芳信, 頃安 利秀, 田村 隆宏, 佐伯 順一, 清水 美穂 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	1	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	4	2	0	0	0	3.9
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	1	5	1	0	0	0	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	6	1	0	0	0	3.9
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	4	2	1	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(16) 熱心に指導した。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	2	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	2	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

この授業は、教育実践を中核にし、その中で教科内容・教科教育・教育実践を関連させながら捉えられるようにすることにより、小学校低学年の授業を展開するための実践的指導力を育成することを目的とする。

授業に関する目標等、22項目の学生の評価についての平均値は、4.5となる。このことからこの授業は、学生に十分理解できる内容であったと評価できるものと言えよう。つぎに、この授業は教員養成のカリキュラムの中で実践的指導力を育成するためのコアになるものであることから、このコアの内容を端的に示す評価項目(5)(6)(7)(8)についての評価の平均値は4.9となる。また、授業に対する満足度の評価は平均値4.7となっている。このことから、この授業は、本学のコア授業としての目的を達成していると言えよう。

授業において改善すべき点は、授業の中で学生に積極的に発言を促すことや、もっと授業に積極的に参加するように促すことである。

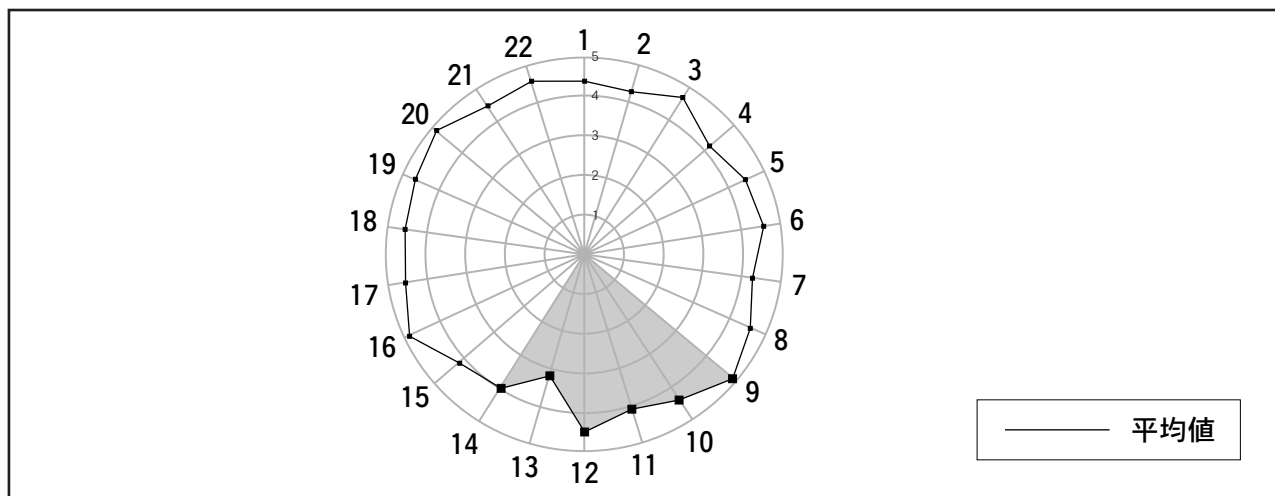
授業科目名 初等中等教科教育実践 I (コース 保体)

評価実施日 平成21年 2月18日

担当教員名 綿引 勝美, 木原 資裕, 田村 隆宏, 安田 哲也

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	7	0	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	2	3	0	0	0	4.2
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	4	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	4	0	1	1	3.2
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	3	3	0	0	1	4.0
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	5	0	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	4	0	0	0	0	4.6



教員のコメント

運動の発達について、基本的な知識をレポートにまとめ、発表するという形式をとった。触れ合い実習の経験もあるとはいえ、子供の運動発達についての特徴を具体的なイメージと重ね合わせながら学ぶことの必要性を痛感している。教師としての経験をつみかさねていかないと、実際の発達のダイナミズムを理解できないのではあるが、概論として、運動発達の特徴をつかむことは重要であると考えた。

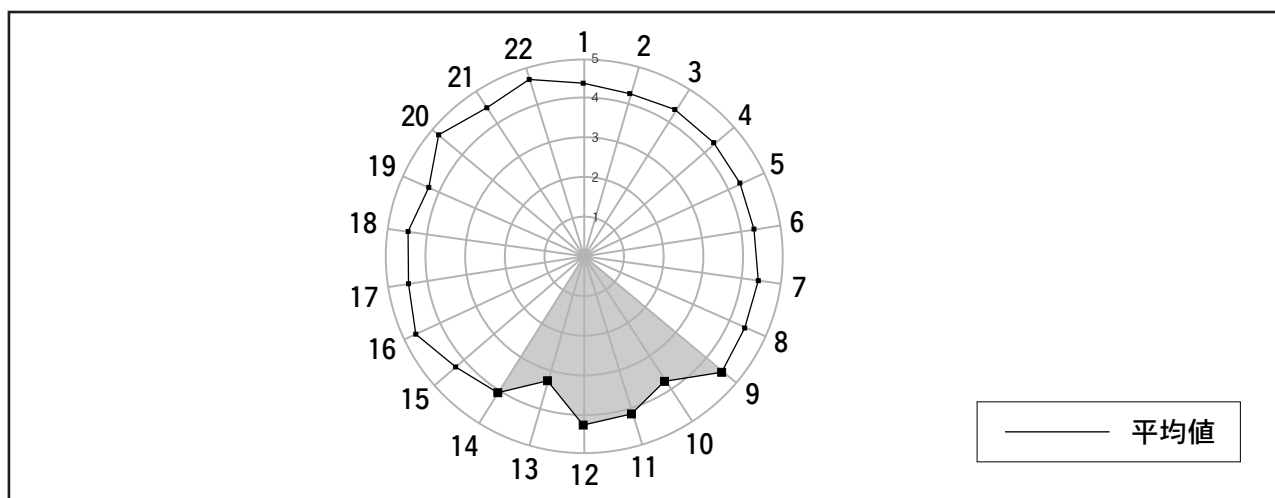
受講者は、積極的にレポート作成し、発表資料も充実したものであった。次年度は周辺資料などの収集や実際の子どもたちの映像情報などの収集なども試みてみたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (コース 国語)

評価実施日 平成21年 2月18日

担当教員名 余郷 裕次, 原 卓志, 田村 隆宏, 藤島小百合, 住友 章芳 回答者数 31名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	15	14	2	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	8	7	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	17	9	5	0	0	0	4.4
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	19	5	7	0	0	0	4.4
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	15	13	3	0	0	0	4.4
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	16	11	4	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	18	11	2	0	0	0	4.5
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	18	9	4	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	21	7	3	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	9	11	8	1	2	0	3.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	14	11	5	1	0	0	4.2
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	14	13	4	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	6	15	2	3	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	11	14	5	1	0	0	4.1
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	14	12	5	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	23	7	1	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	18	12	1	0	0	0	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	18	11	2	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	14	11	6	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	26	4	1	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	19	10	2	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	23	7	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

初等中等教科教育実践 I (国語) も、4年目となり授業の内容や進め方は、かなり安定してきた。昨年までと同様、授業評価からは、授業に毎回熱心に出席し ((9)平均値:4.6)、教員側の熱意を評価しつつ ((16)平均値:4.7)、全体として満足している ((22)平均値:4.7) ことがわかる。特に、項目分析(16)「熱心に指導した。」については、5の評価が74%、4の評価が23%で、3の評価は3%で高評価だった。今回も教員が熱心に指導すれば、学生はそれを受けとめ評価してくれることが確かめられた。

しかし、「3 あなたの授業への取り組みについて」は、「(13)分からないことや疑問に思ったことは調べた。」の平均値が3.3と群を抜いて低い数値を示した。自学自習の態度を形成する工夫は、今回も課題として残った。

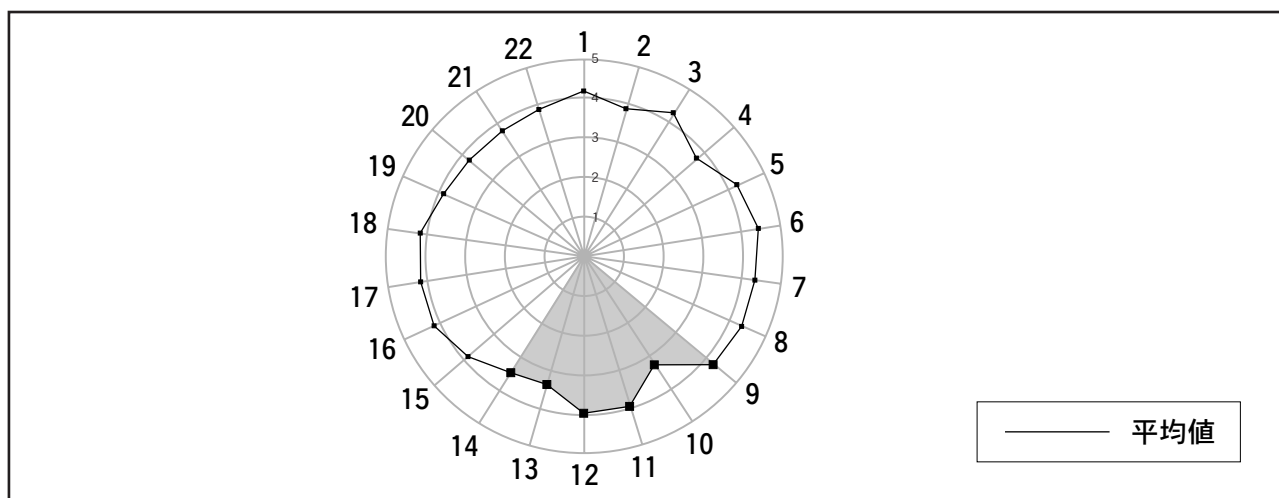
「6 あなたからの提言」では「絵本のすばらしさに気付いた。」や「たくさんの絵本にふれることができた」など、「絵本とその読み聞かせ」に関する授業内容を「よかった」と評価する記述が多く見られた。また、「いい授業の実践事例を提示してもらえたので指導法などわかりやすかった。」や「国語の「読み方」についてより専門的な知識が得られた。」など国語科授業実践に関する授業内容を「よかった」と評価する記述も見られた。今後も、教科教育実践の主旨を生かし、教科内容、指導方法と関わらせながら、絵本や教材の音読・読み聞かせの基礎的パフォーマンスを鍛える授業内容を展開していきたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (算数・数学)

評価実施日 平成21年 2月18日

担当教員名 秋田 美代, 樋上 和弘, 齋藤 昇, 田村 隆宏, 石川 和幸 回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	7	2	0	0	1	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	4	2	2	0	1	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	8	2	2	1	0	1	4.3
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	4	2	0	2	1	3.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	7	3	3	0	0	1	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	8	3	2	0	0	1	4.5
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	8	3	1	1	0	1	4.4
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	8	3	1	1	0	1	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	3	0	2	0	1	4.3
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	2	7	2	0	1	3.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	4	3	1	0	1	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	4	3	1	0	1	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	2	4	0	1	3.4
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	5	3	3	0	1	3.5
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	4	2	2	0	1	3.9
	(16) 熱心に指導した。	6	4	3	0	0	1	4.2
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	5	1	1	0	1	4.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	3	0	0	1	4.2
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	4	2	2	0	1	3.9
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	6	3	1	0	1	3.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	5	5	0	0	1	3.8
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	4	2	2	0	1	3.9



教員のコメント

本授業は、教員を目指す学生が、幼児・小学校低学年の算数教育における指導内容、実践方法及び保育園・幼稚園における指導と小学校算数の指導の繋がり・系統性について理解すること等を目的としている。幼稚園教育要領の内容等については幼児教育担当の教員が、教科の専門的な内容については教科担当の教員が、学習指導要領・教科書等に沿った指導内容・方法については教科教育担当の教員が、教育実践方法については教育経験が豊富な実地指導講師が、講義と演習を行った。

この授業に対する受講者の評価平均値は4.0であった。平均値が高かった質問項目は、「授業実践を観察する視点が示された授業内容であった」、「授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった」、「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」であり、受講者の実践的指導力の向上に役立ったことがうかがえた。評価結果から、授業の目標は概ね達成できたと考えられた。しかし、2名の学生が、実地指導講師が担当する教育実践方法は理解しやすかったが、大学教員が担当する理論面の講義は理解しにくい点があったことを提言として記述していたことから、次年度は、理論と実践の一層の結びつきを図る工夫が必要であると考えている。

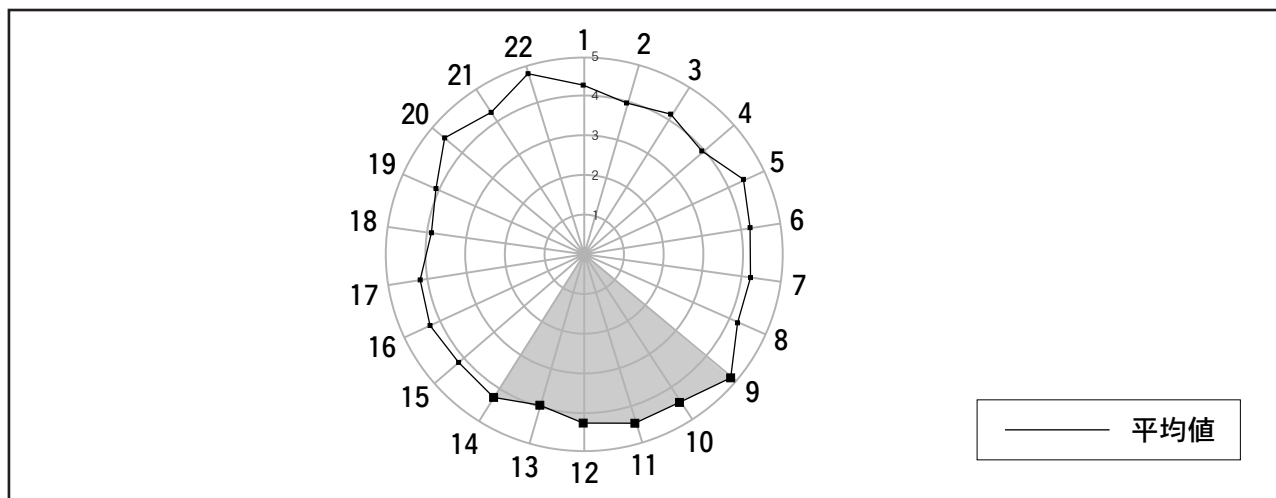
授業科目名 初等中等教科教育実践 I (コース 理科)

評価実施日 平成21年 2月 4日

担当教員名 香西 武, 本田, 工藤, 武田, 村田 (守), 田村, 森下

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	8	0	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	6	3	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	8	1	0	0	0	4.2
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	6	2	2	2	0	0	4.0
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	7	4	1	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	5	2	0	0	0	4.3
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	8	0	0	0	0	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	3	9	0	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	11	1	0	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	4	2	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	7	1	1	0	0	4.0
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	8	0	0	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	6	2	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	6	4	2	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	4	3	0	0	0	4.2
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	7	3	0	0	0	3.9
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	7	2	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	0	0	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	8	0	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

授業に関する満足度は、4.8 でほぼ授業の目的は達成できたと思われる。各項目の中で、今後の課題としてあげられるのは、「教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった」「成績評価の方法は明示されていた」の評価が低いことである。前者については、今後資料配付、資料の紹介等の場において、配慮していく必要がある。また、後者については、授業当初に授業概要について、説明することにより改善していきたい。

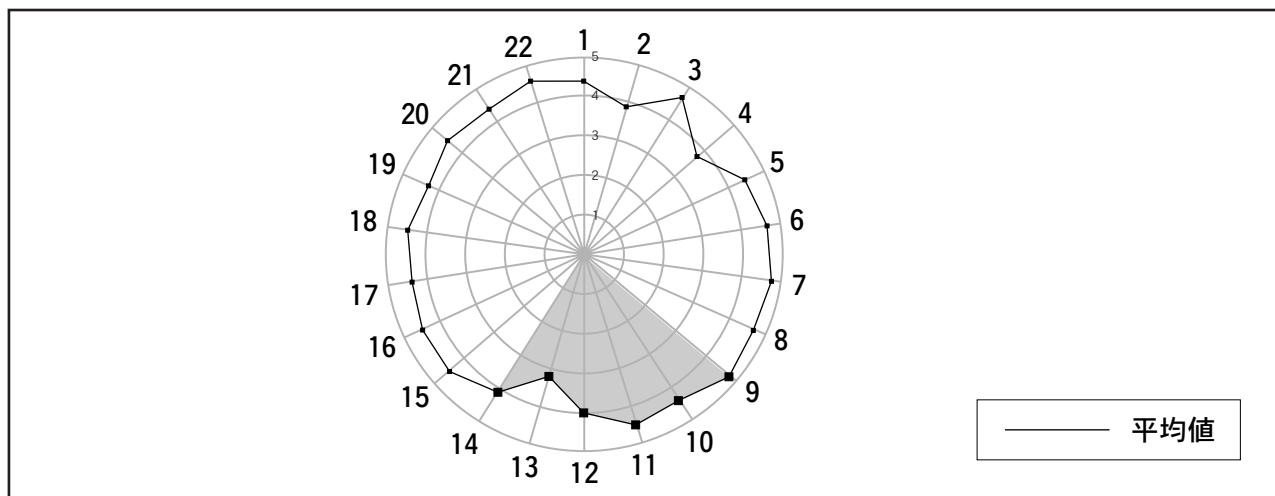
授業科目名 初等中等教科教育実践 I (コース 家庭)

評価実施日 平成21年 2月 4日

担当教員名 渡邊 廣二, 前田, 黒川, 金, 鳥井, 田村, 町口, 江西, 香川

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	4	2	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	4	5	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	9	4	0	0	0	0	4.7
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	5	3	2	3	0	0	3.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	9	2	2	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	10	2	1	0	0	0	4.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	11	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	9	4	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	8	2	3	0	0	0	4.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	5	4	0	0	0	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	5	5	3	0	0	3.2
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	6	4	2	0	1	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	7	5	0	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	1	2	0	0	0	4.6



教員のコメント

授業の内容のうち、とくに授業実践に関する内容は、次に示すように高い評価が得られた。すなわち、「(6)授業実践を観察する視点が示された授業内容であった (4.7)。(7)授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった (4.8)。(8)教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった (4.7)。」また、教員の授業の進め方についてもおおむね高い評価が得られた。

こうして総合的にみた学生による授業に対する満足度は4.6と高い評価を得た。したがって、この授業科目の基本的な目標は達成できた。

これに対して評価が相対的に低く、したがって課題として残されていることは、学生による授業への取り組みである。なかでも次の2項目の評価が低い。すなわち「(13)分からないことや疑問に思ったことは調べた (3.2)。(14)授業に関連した内容について友人や教員と話し合った (4.1)。」

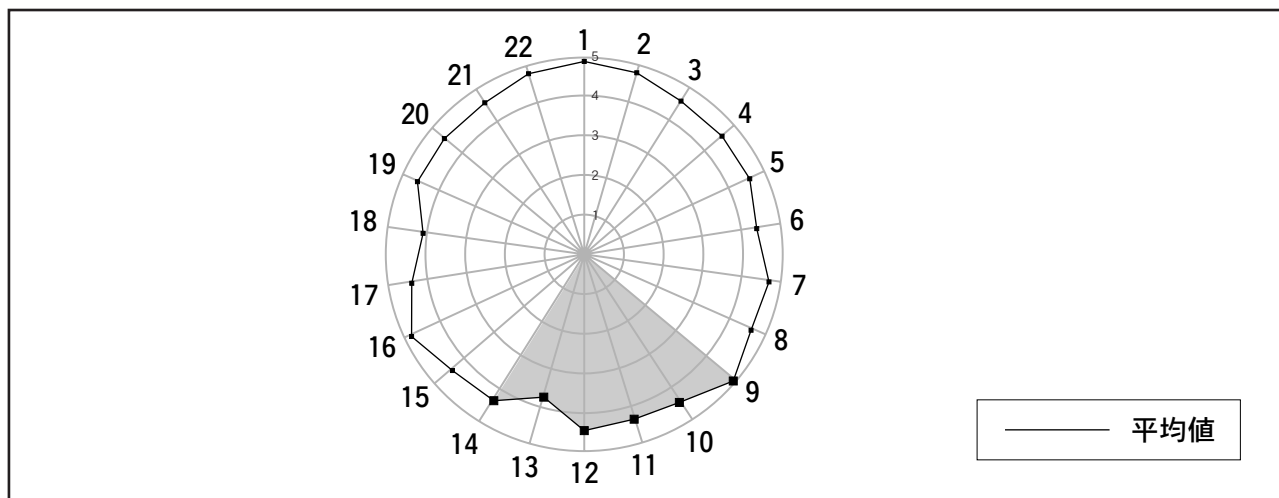
授業の前後に、教室の外で行われるはずである学生の自習を促すには、宿題を課すなどの工夫が必要である。

授業科目名 初等中等教科教育実践 I (社会科コース)

評価実施日 平成21年 2月18日

担当教員名 田村 隆宏, 坂田 大輔, 青葉 暢子, 立岡 裕士, 草原 和博, 吉岡 壮吉 回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	3	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	9	5	0	0	0	0	4.6
	(4) 「ふれあい実習」での体験をふまえた、幼稚園と小学校の教育の関係について理解できる授業内容であった。	9	4	1	0	0	0	4.6
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	9	5	0	0	0	0	4.6
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	8	4	2	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	10	4	0	0	0	0	4.7
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	9	4	1	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	12	2	0	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	7	5	2	0	0	0	4.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	5	1	1	0	0	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	7	6	1	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	2	5	2	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	6	6	2	0	0	0	4.3
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	6	1	0	0	0	4.4
	(16) 熱心に指導した。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	7	5	2	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	3	1	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	9	4	1	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	3	1	0	0	0	4.6
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	11	1	2	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	3	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

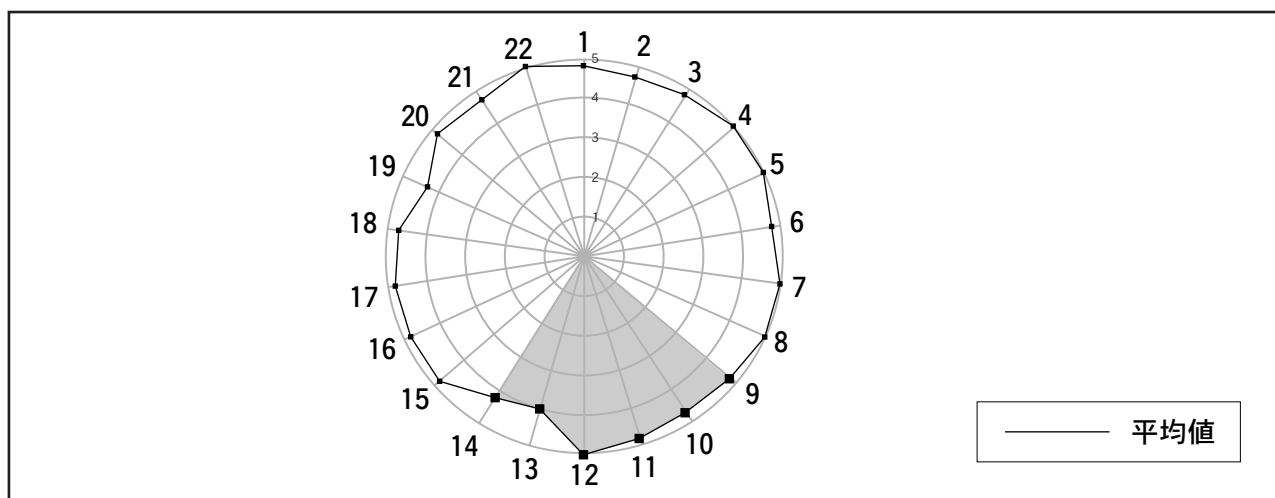
ほぼ全ての項目で平均値が4以上であり、学生のコメントを見ても、授業に対する満足度がうかがえる。「分からないことや疑問に思ったことは調べた」という項目のみ平均値が3.7であるが、当該科目は1学年に配当されており、必修科目が多い中では授業時間外に自分で調べるのは難しいと思われる。しかし、教科教育実践 I の授業内容は、教科教育実践 II, III等で理解が深まるので、特に問題はないであろう。

授業科目名 特別支援教育実践 I

評価実施日 平成20年7月9日

担当教員名 島田恭仁, 田中淳一, 八幡ゆかり, 井上とも子, 大谷博俊, 津田芳見, 高原光恵, 加藤賢治 回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	0	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(4) 障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	6	0	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(11) 積極的に実習、実技等に取り組んだ。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	6	0	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(16) 熱心に指導した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

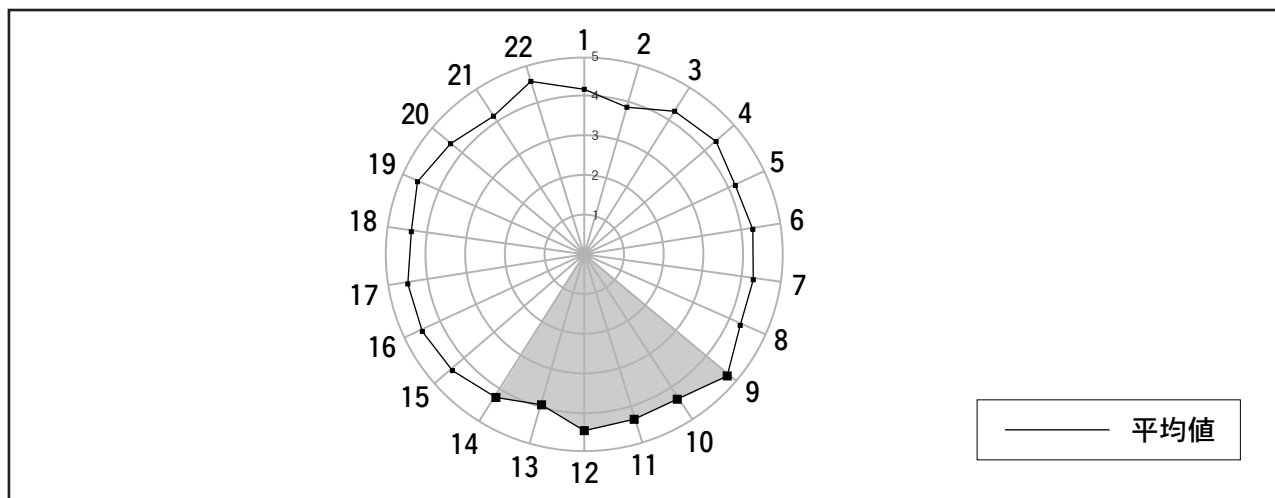
本授業は将来特別支援教育に携わる学生に特別支援教育の基礎的理解と実践的支援についての基礎的な理解を目的として実施している。アンケートの結果からは概ねその目的は達成されたと考える。学生の授業への取り組みは意欲的であり、授業への満足度も高かった。次年度も同様の方針、内容での実施が適切であると考えている。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（コース 理科）

評価実施日 平成21年2月3日

担当教員名 佐藤 勝幸, 栗田 高明, 今倉 康宏, 香西 武, 村田 守, 東條 直人 回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	6	1	0	0	1	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	2	1	0	1	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	7	0	0	0	1	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	5	4	1	0	0	1	4.4
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	3	6	1	0	0	1	4.2
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	3	7	0	0	0	1	4.3
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	5	1	0	0	1	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	5	1	0	0	1	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	1	1	0	0	1	4.7
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	7	0	0	0	1	4.3
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	3	2	0	0	1	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	6	0	0	0	1	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	7	2	0	0	1	3.9
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	6	1	0	0	1	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	6	0	0	0	1	4.4
	(16) 熱心に指導した。	6	3	1	0	0	1	4.5
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	5	5	0	0	0	1	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	4	1	0	0	1	4.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	4	0	0	0	1	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	4	1	0	0	1	4.4
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	4	2	0	0	1	4.2
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	4	0	0	0	1	4.6



教員のコメント

本授業は、物理学、化学、生物学、地学の4領域の教員による分担で行われ、その内容は、物理学領域では「原子と原子核」に関する講義、化学領域では小学校5年～中学3年までの単元内容と教材開発、生物学領域では授業構想力を育成するため学習指導案の作成、地学領域では中学校の単元内容と野外実習を含めた学習指導案の作成であった。

学生による授業評価結果によると、(22)の「授業に対する満足度」の評価が4.6であり、教育実践力育成に重きを置いた講義として良好な評価であると思われる。次年度も理科授業実践に根ざし講義計画を推進することが大切であると思われる。ただ、(2)の「成績評価方法の明示」に関する項目と(13)の「分からないことや疑問について調べるか」との項目についての評価だけが共に3.9とやや低かった。次年度の講義においては、成績評価の方法の明示や説明に注意を払う必要がある。また、学生自ら調べることの大切さに言及し、調べることを促す工夫を行う必要があるといえる。

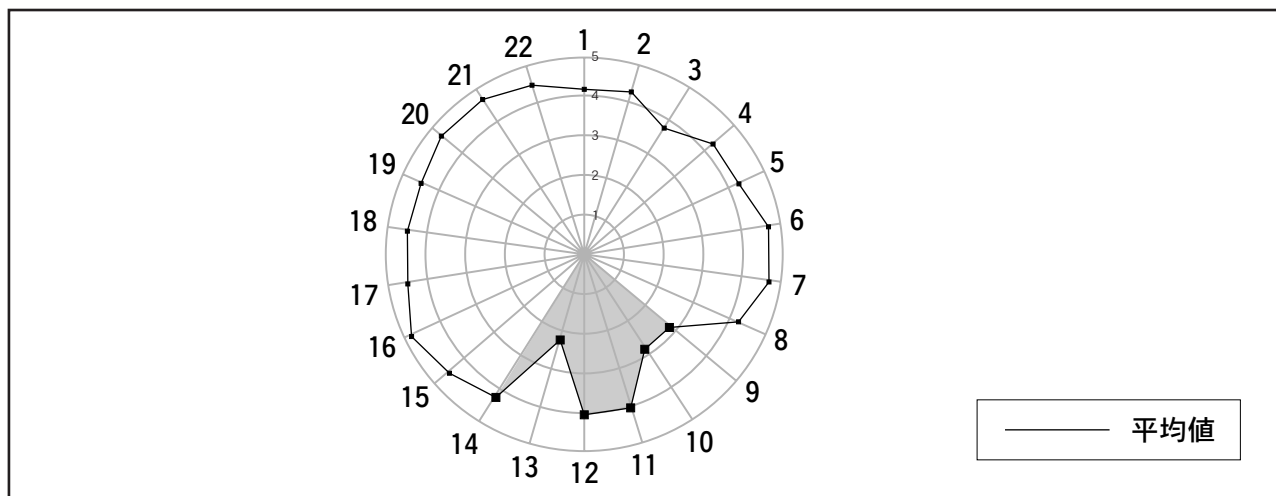
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（コース 音楽）

評価実施日 平成21年2月17日

担当教員名 長島 真人, 森 正, 上田 光江, 佐伯 順一

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	1	0	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	5	0	1	0	0	0	4.7
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	3	2	0	1	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	1	1	1	2	1	0	2.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	1	4	0	1	0	2.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	1	1	2	1	2.2
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	0	1	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	0	0	0	0	4.5

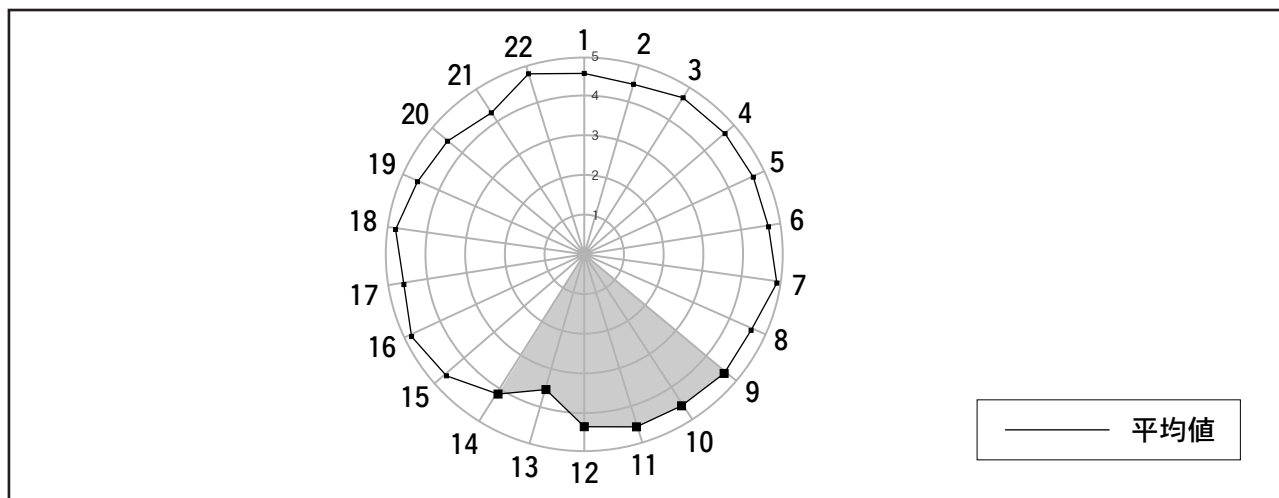


教員のコメント

この授業は、音楽の授業において重要な教材提示の技となるピアノ伴奏の技の向上を目指すことを何よりも中核的な内容とし、一方、実地指導講師には、鑑賞や創作、そして、身体表現等の指導力の向上を目指す内容を扱っていただいている。授業内容や教員の授業の進め方に関する評価には、特に、酷評は見られなかった。「(22) この授業でよかったこと」に関しては、「音楽教師の能力は何かが必要かということがよく分かった。」「伴奏の実際の練習ができてよかった。」「音楽教育の専門的な内容が学べた。」「指導案について一から教えてくれてよかった。」「授業の構想、展開、評価に何かが必要かを学ぶことができた」という記述が見られた。ただ、今年度は、音楽科の授業実践力評価スタンダードを積極的に活用する授業内容を新たに組み込んだので、授業概要に示した当初よりも豊富な内容を扱うことになった。そのために、「(3) 授業概要のねらいにそった内容であった。」の評価だけが3.8とやや低くなったように思われる。次年度は、シラバスの記載内容を変更したいと思っている。学生たちの授業に対する取り組みに関する省察の結果は、例年よりも低い評価が出ているように思われる。特に、「(9) 授業によく出席した。」と「(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。」の評価の平均が2.8、また、「(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。」の評価の平均が2.2、という結果は、注意しなければならない現象のように思える。この授業だけでなく、他の授業においても、遅刻や欠席が非常に多いクラスであったので、大学生活そのものを改善させるように促していく必要を感じている。引き続き担当することになる「初等中等教科教育実践Ⅲ（コース 音楽）」では、学生たち一人ひとりとの関わりを、これまで以上に深いものにし、学生たち一人ひとりの存在感がより強力なものになるように指導方法を工夫していきたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（コース 家庭）
 評価実施日 平成21年2月3日
 担当教員名 福井 典代, 黒川 衣代, 西川 和孝, 鳥井 葉子, 元木 康代, 井原 和美 回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	6	0	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	7	3	0	0	0	1	4.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	7	4	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	7	2	2	0	0	0	4.5
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	6	1	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	6	3	0	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	6	0	0	1	0	4.1
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(16) 熱心に指導した。	9	2	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	2	0	0	0	0	4.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	1	0	0	0	4.5
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	6	2	3	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

授業の総合的評価と考えられる「5 授業に対する満足度（「22 この授業は、自分自身にとって満足できるものであった）」の平均値は、4.8 とかなり高かった。特に、平均値の高かったのは、「8 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった」の4.9であった。低かったのは、「13 分からないことや疑問に思ったことは調べた」の3.5であり、学生の授業への取り組みの改善は、以前からの課題でもあり、引き続き検討して新たな指導方法を取り入れたい。

「授業でよかったこと」には学生から次の意見が出された。「今まで知らなかった授業方法を学べ、よりよい授業をつくるために考えさせられる授業だった。また、マイクロティーチングやグループでの模擬授業もためになった」「現職の先生に来ていただき、私たちが行う模擬授業のよい点、改善点を言っていたこと。また、授業を行う上でのポイント等を教えていただいたこと。模擬授業をする機会があること」「授業内で模擬授業が多く取り上げられていたので、実践力につながったと思う」「教育実践をふまえて適切な学習のつくり方を細かく学べ、何より現職の先生に授業評価をしていただけたことはとても役に立った。黒川先生の指導要領の分析は指導内容・方法が最も的確に分かってよかった」「たくさん自分で考え、実践することができ、より深く考えることができたこと」「外部の先生（現職の先生）に模擬授業をみていただき、現場の意見、様子などを織り交ぜながら授業の評価をしていただけたのがよかった」「模擬授業を項目に分けて行った後、全体を通して行うという風に二段階構成になっていたこと。他の人の授業も参考になることが多かった」である。

「改善したほうがよいと思うこと」への意見は、「食生活・衣生活分野に関する指導内容・方法の授業は、もっと具体的に指導法（指導に関する留意事項等）などを教えてほしかった」があった。

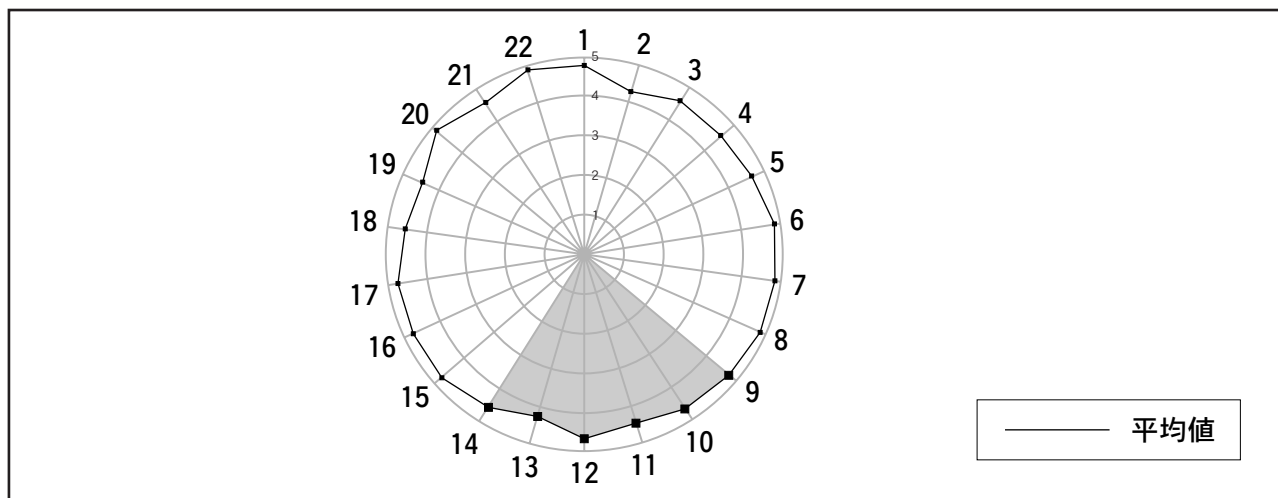
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（コース 社会）

評価実施日 平成21年2月24日

担当教員名 梅津 正美, 町田 哲, 井上 隆, 濱口恒一郎

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	8	2	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	10	6	0	0	0	0	4.6
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	9	6	0	0	0	1	4.6
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	11	5	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	15	1	0	0	0	0	4.9
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	15	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	14	2	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	13	2	1	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	11	5	0	0	0	0	4.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	10	5	0	1	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	11	4	0	0	0	1	4.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	8	0	0	1	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	9	6	0	0	0	1	4.6
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	13	3	0	0	0	0	4.8
	(16) 熱心に指導した。	13	3	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	7	0	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	8	8	0	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	2	0	0	0	0	4.9
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	11	3	2	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

本授業は、社会科教育実践力の基礎を養成するために、小・中学校社会科歴史学習の授業構想・授業展開（マイクロティーチング）・授業評価（実践した授業の分析・評価・改善）の内容・活動を組み込んで展開した。授業の分析・評価・改善についての議論では、「知の総合化ノート」を活用した。

本授業に対する22項目の評価の平均値は4.7、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(22)の平均値は4.9であり、授業全体に対して良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)(7)(8)の平均値は4.8、授業の展開・態度に関わる項目(15)(16)(17)(18)(19)(20)(21)の平均値は4.7であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(9)(10)(11)(12)(13)(14)の平均値は4.6であり、この数字は前年比で+1.3ポイントである。昨年同様、大学全体で共通理解されたコア科目「初等中等教科教育実践」の趣旨・目的・内容構成の原則に即して本授業を実践した。学生は学校現場での豊かな実践の姿に触れ、それらの分析・検討を経てグループで授業を構想し、実践し、評価・改善していく活動に取り組んだ。学生の真摯な取組の態度と成果が、自己評価にも反映してきていると考えることができる。

コア科目については、その設置の理念・内容・方法をふまえて、PDCAの研修サイクルに則った授業構成により学生の授業力の向上に努めていきたい。

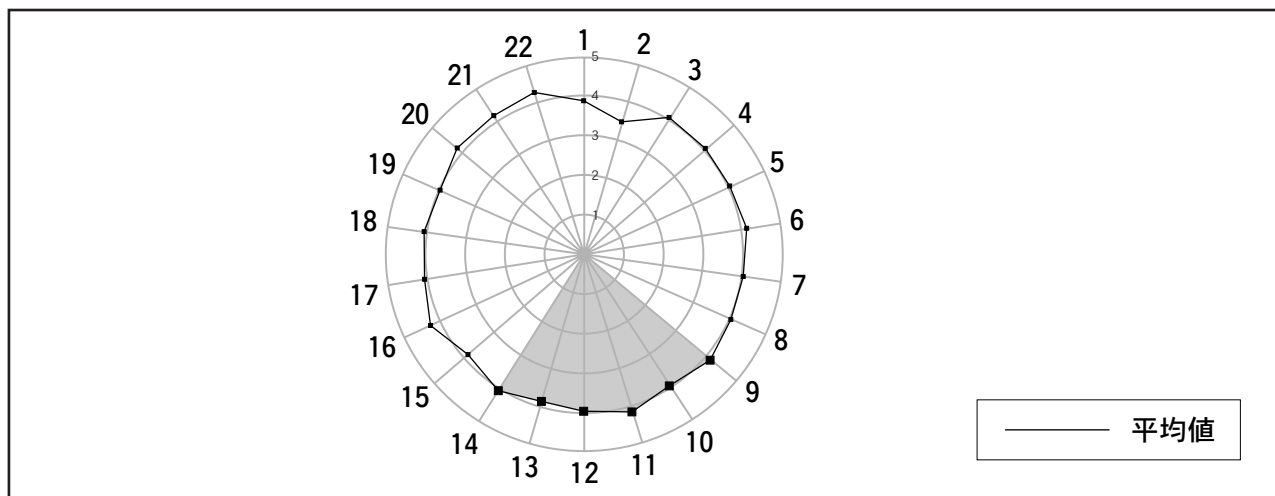
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（コース 国語）

評価実施日 平成21年2月17日

担当教員名 村井万里子, 赤松 万里, 立石 由起, 瀧川 靖治

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	4	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	6	5	2	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	3	5	0	0	0	4.1
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	6	5	4	0	0	0	4.1
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	4	5	0	0	0	4.1
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	6	3	0	0	0	4.2
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	5	4	0	0	0	4.1
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	6	4	5	0	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	8	2	0	0	0	4.2
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	3	6	0	0	0	4.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	4	4	0	0	0	4.2
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	5	5	0	0	0	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	6	4	1	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	7	4	3	1	0	0	4.1
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	5	5	4	1	0	0	3.9
	(16) 熱心に指導した。	8	3	4	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	4	5	0	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	5	0	0	0	4.1
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	4	4	1	0	0	4.0
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	2	5	0	0	0	4.2
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	6	6	3	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	4	0	0	0	4.3



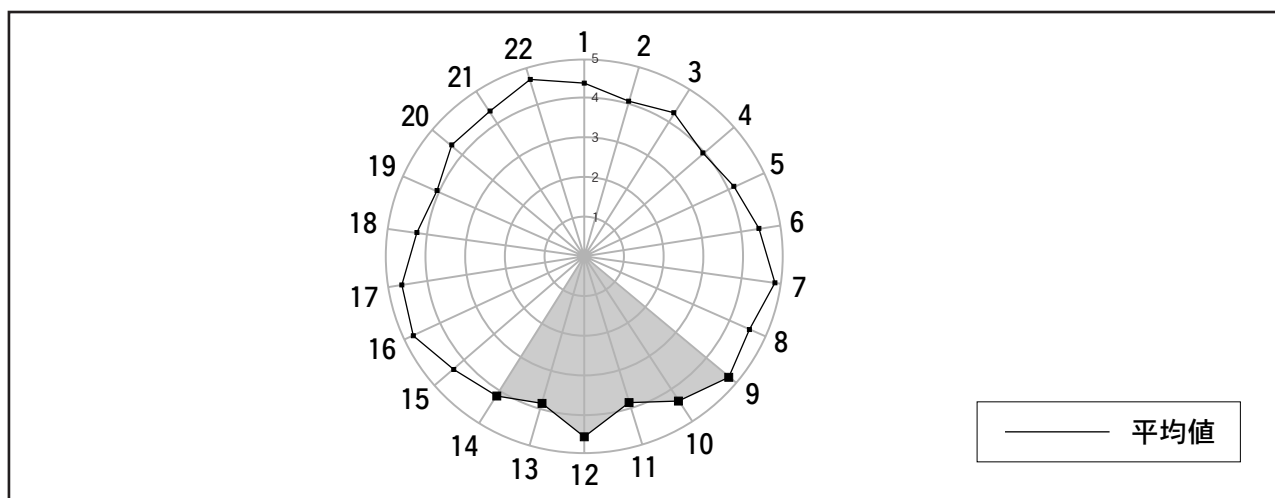
教員のコメント

中等国語科教員必須の「古典指導力の育成」をめざした「TT」授業である。
 評点の多くの項目が「4」を超えていること、かなり真円に近いバランスのよさが結果に出たことは、予想以上の好結果であった。
 カリキュラム上、国語科の教科専門科目（とくに、時代ごとの古典学習）が少なめであるため、本授業では、古典のなかでも「韻文」（古今和歌集）と「散文」（枕草子）両方を対象に、一度に「演習」を行うという欲張った学習を企図した。この形をとったのは、今年で2回目であるが、成功率の高い方法であるという見通しが立った。
 中学生相手の「古典パフォーマンス」が、古典教材研究と学習者研究の経験の浅い「学部2年生」段階では、有効性の高い内容・方法であることが、この結果から立証されたとみられる。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（コース 算数・数学）
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 齋藤 昇, 平野 康之, 秋田 美代, 石川 和幸

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	7	1	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	6	3	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	8	1	0	0	0	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	4	7	2	1	0	0	4.0
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	9	1	0	0	0	4.2
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	7	7	0	0	0	0	4.5
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	12	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	9	5	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	7	6	1	0	0	0	4.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	3	6	0	0	0	3.9
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	9	4	1	0	0	0	4.6
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	5	0	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	6	5	3	0	0	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	8	0	0	0	0	4.4
	(16) 熱心に指導した。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	10	4	0	0	0	0	4.7
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	10	0	0	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	8	2	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	2	0	0	0	4.4
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	9	0	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	4	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

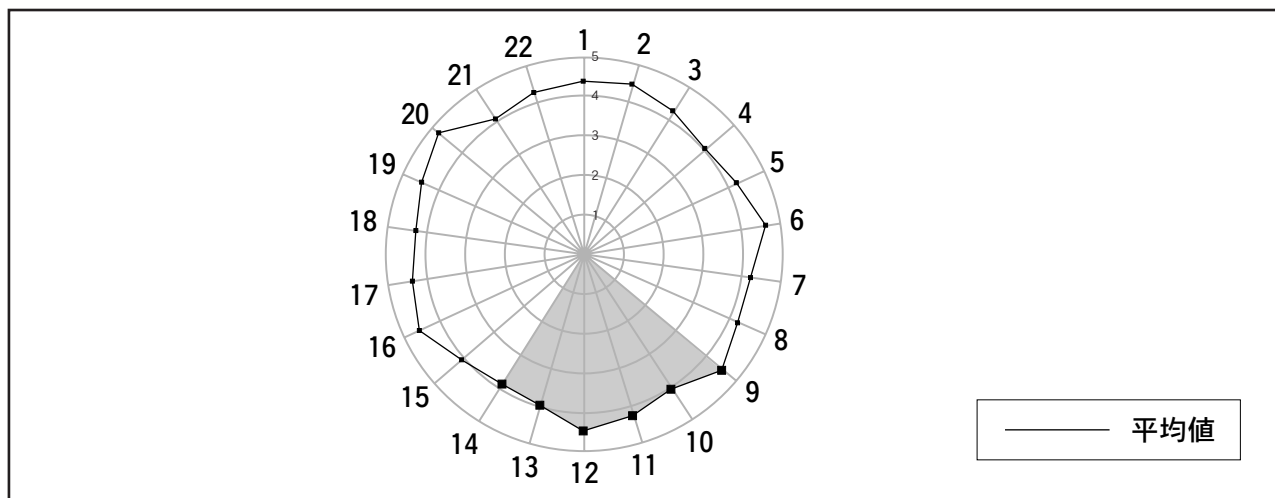
本授業は、教員を目指す学生が、小・中学校の算数・数学教育における指導内容、実践方法、小学校算数と中学校数学の繋がり・系統性について理解し、授業実践力を高めることを目的としている。教科の専門的な内容については教科担当の教員が、具体的な指導内容・方法については小学校学習指導要領・中学校学習指導要領・小学校算数教科書・中学校数学教科書を使用して教科教育担当の教員が、教育実践方法については教育経験豊富な教育現場の教員が、理論と実践を対応づけながら講義と演習を行った。

この授業に対する受講者の評価平均値(学生自身の自己評価項目は除く)は4.4であった。受講者にとっては、小学校算数・中学校数学の教科書に出てくる公式や数式は読み取れるが、その公式や数式の意味や背景になっている数学的理論についての理解がやや難しかったようである。しかしながら、「授業実践に必要な指導力について理解できる内容であった」「教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる内容であった」「授業によく出席した」「熱心に指導した」「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」という項目の評価が4.6以上で高く、受講者の関心が高かった様子がうかがわれた。

次年度は、授業実践力をより高める方法を工夫し授業を行いたいと考えている。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅱ（保健体育コース）
 評価実施日 平成21年2月10日
 担当教員名 松井 敦典, 坂本 和丈, 田中 弘之, 田中 伸幸, 福田 一敏 回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	7	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	2	2	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	6	1	0	0	0	4.3
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	4	5	3	0	0	0	4.1
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	4	2	0	0	0	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	9	2	1	0	0	0	4.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	3	3	0	0	0	4.3
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	5	6	1	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	3	1	0	0	0	4.6
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	5	3	0	0	0	4.1
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	8	0	0	0	0	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	8	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	5	4	0	0	0	3.9
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	7	2	0	0	0	4.1
	(16) 熱心に指導した。	7	5	0	0	0	0	4.6
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	5	1	0	0	0	4.4
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	1	1	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	3	0	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	5	3	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	7	1	0	0	0	4.3



教員のコメント

本授業は、体育科・保健体育科の教育実践コア科目であり、小学校体育科および中学校保健分野の教育法と指導法、またそれらに関連する内容論として、運動生理学とバイオメカニクスを取り扱っている。本学教員3名に加え、附属小学校・中学校教諭各1名の協力により、後に受講する附属校園実習で実践活用できる内容を取り扱っている。

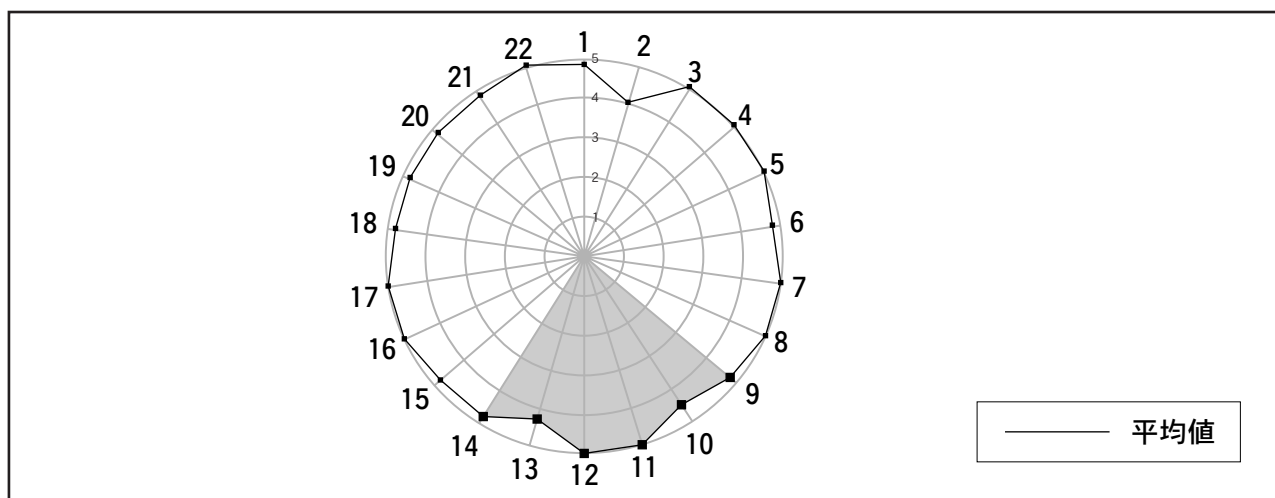
受講生の評価得点の各項目の平均値は、おおよそ4.0以上であり、概ね良好な評価を得ていると考えられる。特に、附属学校教員による授業計画や指導案の作成法等の講義を高く評価するコメントがみられた。また、複数教員が担当するため、開講方法や授業の引き継ぎについての不満を述べるコメントもみられた。他のコア科目授業との関連性や、学生の自己学習や仲間との共同学習を促す方法に留意しながら展開していく必要があるようである。

授業科目名 特別支援教育実践Ⅱ

評価実施日 平成20年7月10日

担当教員名 島田恭仁, 田中淳一, 八幡ゆかり, 井上とも子, 大谷博俊, 津田芳見, 高原光恵 回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	1	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 障害児教育の意義を知り、人間理解を深める授業内容であった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 障害児教育の特性を理解させる授業内容であった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 教職の意義や重要性が理解できる授業内容であった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(7) 教職に対する興味・関心が高まる授業内容であった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 教職への意欲が持てる課題を含んだ授業内容であった。	4	0	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(11) 積極的に実習、実技等に取り組んだ。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	0	0	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(16) 熱心に指導した。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	0	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業は特別支援教育実践Ⅰをうけ、将来特別支援教育に携わる学生に特別支援教育の実践現場を体験させ、教育の現状理解の深化を目的として実施している。

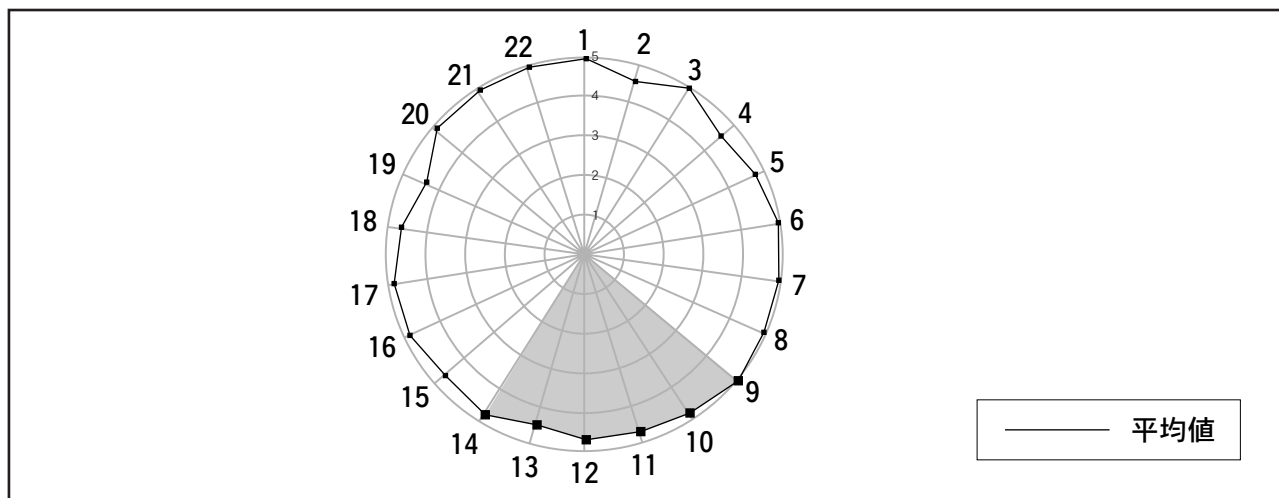
アンケートの結果からは概ねその目的は達成されたと考える。学生の授業への取り組みは意欲的であり、授業への満足度も高かった。

次年度も同様の方針、内容での実施が適切であると考えている。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（国語）
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	3	2	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	14	1	0	0	0	0	4.9
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	10	3	1	1	0	0	4.5
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	11	4	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	13	2	0	0	0	0	4.9
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	13	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	13	2	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	15	0	0	0	0	0	5.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	12	3	0	0	0	0	4.8
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	10	5	0	0	0	0	4.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	11	3	1	0	0	0	4.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	5	1	0	0	0	4.5
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	12	3	0	0	0	0	4.8
	(15) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	3	1	0	0	0	4.7
	(16) 熱心に指導した。	14	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	14	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	11	3	1	0	0	0	4.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	9	3	3	0	0	0	4.4
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	13	2	0	0	0	0	4.9
	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

本授業では、教育実習を視野に入れ、教材分析、指導案作成、模擬授業を一つの流れとして、演習形式で授業を構成した。

項目(20)の授業に対する満足度の平均値は4.9と、非常に高い評価を得られた。コメントを見ても、やはり模擬授業を通して得られたことが非常に大きかったようである。特筆すべきは、自身の取組についての項目がすべて4.5以上の平均値であったことである。事前準備から授業実施まで、受講生自身が主体的に、また真摯に活動に取り組んだことが、授業全体への高評価となったといえよう。受講生諸氏自身が、授業を実のあるものとしてくれたのである。

次年度に向けては、おおむね本年度の授業内容をふまえる方向で考えている。コメントの中では、模擬授業にペアで取り組んだこと、単元計画全体をふまえて学習指導案を作成したことについて、肯定的な記述があった。こうした点も意識的に取り入れたい。

個々の場面における指導は授業者の力量が大きく影響する。授業作り、模擬授業後のディスカッションなど、個々の場面において、授業者の支援が十分であったとは言い難い。授業者の力量は簡単に伸びるものではないが、努力してその向上を図っていきたい。

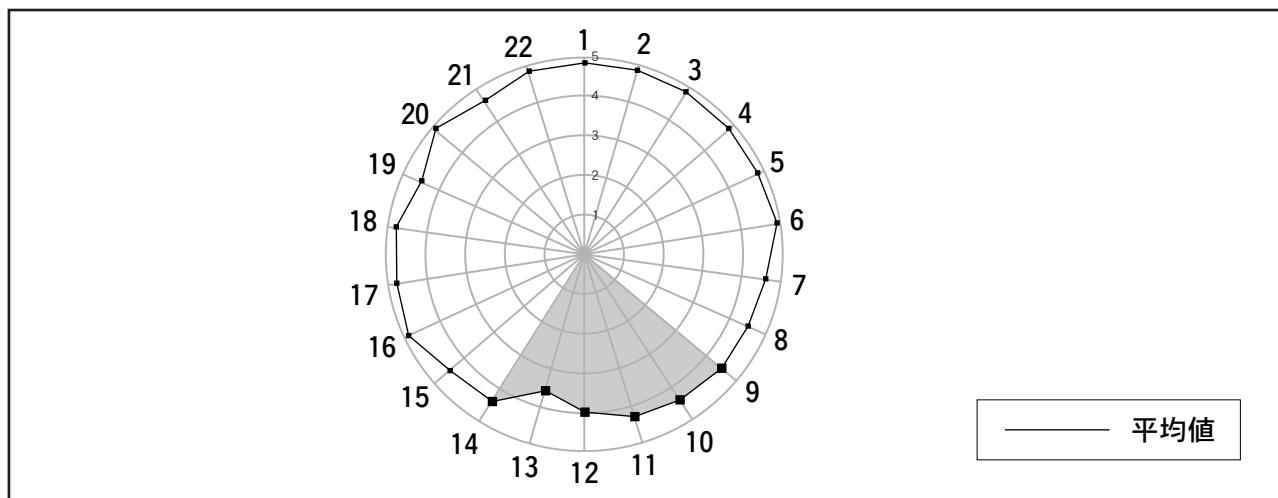
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（英語）

評価実施日 平成20年8月7日

担当教員名 太田垣正義, 山森 直人, 小川 雅功, 大牛 英則

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	2	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	1	1	0	0	0	4.6
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	4	4	0	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	5	2	1	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	5	0	0	0	0	4.4
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	2	2	0	0	0	4.3
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	2	3	0	0	0	4.0
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	5	0	0	0	3.6
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	4	3	1	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	4	0	0	0	0	4.5
	(16) 熱心に指導した。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	2	1	0	0	0	4.5
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	1	0	0	0	0	4.9
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	6	1	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	2	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

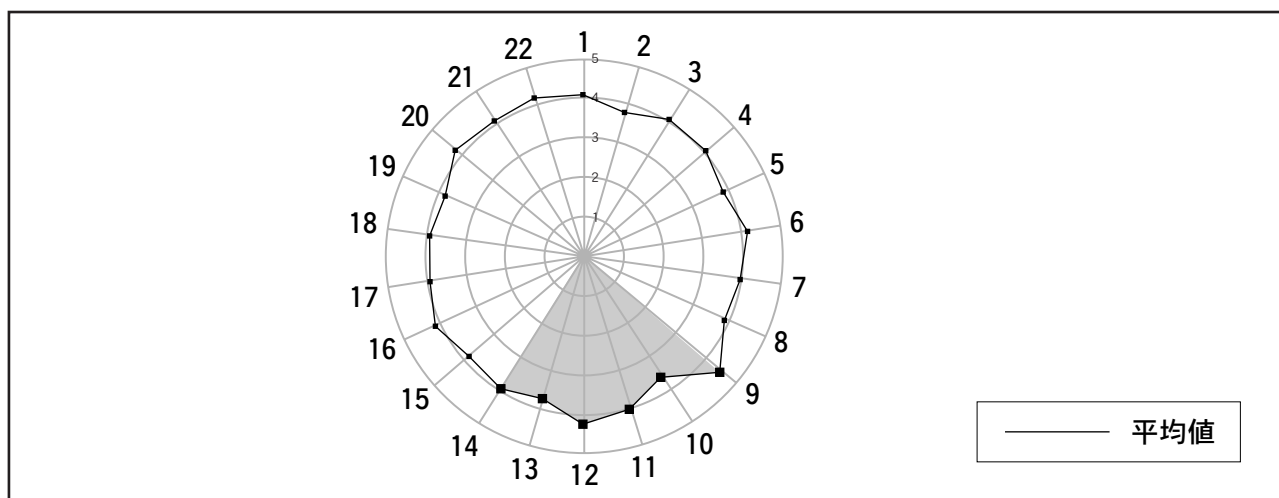
全体的にはほぼ4を越えており、高評価を得たと考える。本授業は教育実習との関連性も高く、授業の主旨が受講生にイメージしやすいためと考える。しかし、授業方法や内容の点からまだまだ改善の余地があり、授業実践力評価スタンダードや授業映像データベースの活用の仕方を今後継続的に考えていきたい。その一方で、大項目「3 あなたの授業への取り組みについて」に関する評定がその他の大項目に比べ相対的に低い。学生の積極性をいかに高めていくかが今後の課題である。特に「(12)教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。」は3.6ポイントであった。このような状況に対応すべく、授業改善につとめていきたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（社会）

評価実施日 平成20年7月31日

担当教員名 西村 公孝, 麻生 多聞, 仁木 博史, 立岩 一彰, 高倍 昭治 回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	10	1	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	6	4	1	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	12	0	0	0	0	4.1
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	4	7	3	0	0	0	4.1
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	3	6	0	0	0	3.9
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	5	7	2	0	0	0	4.2
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	6	4	0	0	0	4.0
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	3	7	4	0	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	7	7	0	0	0	0	4.5
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	2	7	2	3	0	0	3.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	4	5	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	5	3	0	0	0	4.2
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	5	5	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	9	2	1	0	0	3.9
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	4	5	1	0	0	3.8
	(16) 熱心に指導した。	5	6	3	0	0	0	4.1
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	7	4	0	0	0	3.9
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	8	4	0	0	0	3.9
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	5	3	2	0	0	3.8
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	9	1	0	0	0	4.2
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	8	2	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	7	2	0	0	0	4.2



教員のコメント

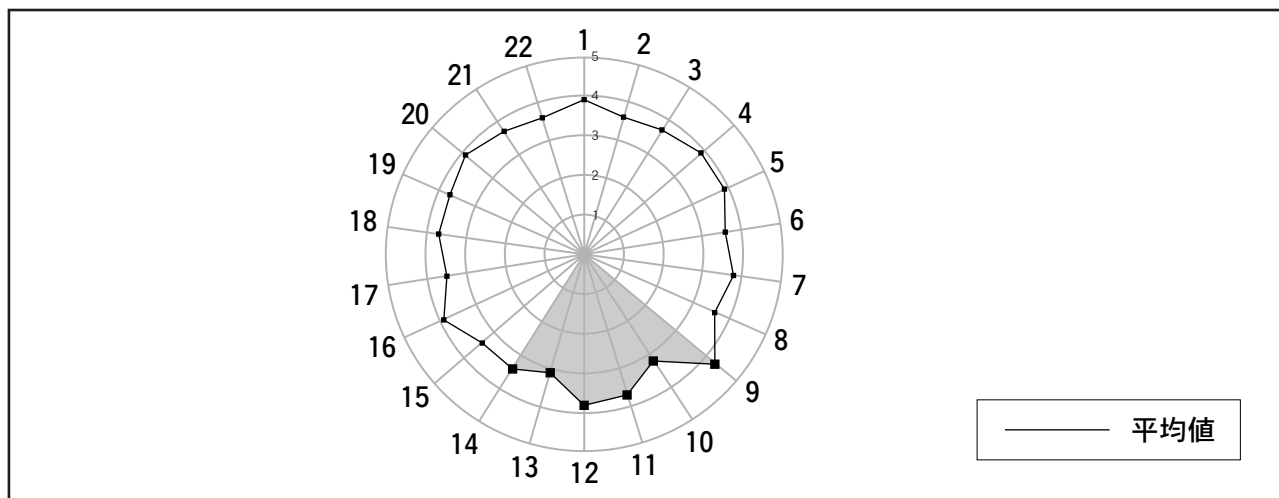
本授業は憲法担当の麻生、社会科教育学の西村、附属中学校の仁木、立岩、外部講師の高部の5人で実践した。昨年度の反省から授業のストーリー性とより実践的な力量形成を課題とした。評価者14名の回答を見ると大旨4.0前後であり「この授業は自分にとって満足できるものであった。」4.2%と評価されている。しかし、「授業内容について授業外で準備やまとめをした。」3.6%、「分からないことや疑問に思ったことを調べた。」3.7%と消極的な受講姿勢も見られた。

本年度は、現地調査として平和教育の材料となる鳴門市の戦没者の墓碑調査などを加えて、教材開発・授業づくりの準備を進めることができ社会科教師としての実践力を高められたと考えられる。その成果は模擬授業と次のアンケート項目「教員の説明をよく聞き、積極的に課題に取り組んだ。」4.2%の評価に見られる。課題は内容学の担当者が限られ実践ⅠからⅢへとバランスよく発展できない点である。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（算数・数学）
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	10	2	1	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	8	5	1	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	0	11	3	1	0	0	3.7
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	8	3	1	0	0	3.9
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	1	12	1	1	0	0	3.9
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	6	6	1	0	0	3.6
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	2	9	3	1	0	0	3.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	1	8	5	1	0	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	9	3	2	1	0	0	4.3
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	1	5	6	2	1	0	3.2
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	2	7	6	0	0	0	3.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	3	7	4	1	0	0	3.8
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	5	4	5	0	0	3.1
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	8	6	0	1	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	7	5	1	1	0	3.4
	(16) 熱心に指導した。	4	8	1	2	0	0	3.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	6	5	1	1	0	3.5
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	4	6	0	1	0	3.7
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	4	5	2	0	0	3.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	8	2	0	1	0	3.9
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	6	3	1	1	0	3.7
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	8	4	0	1	1	3.6



教員のコメント

ほぼ全般的に値が3～5に集中しており、「この授業は自分自身にとって満足のいくものであった」という質問項目に対する評価では平均値3.6であり、「熱心に指導した」に対しては平均値3.9と評価が良かったので、受講者は概ね、この授業に満足しているものと思われる。

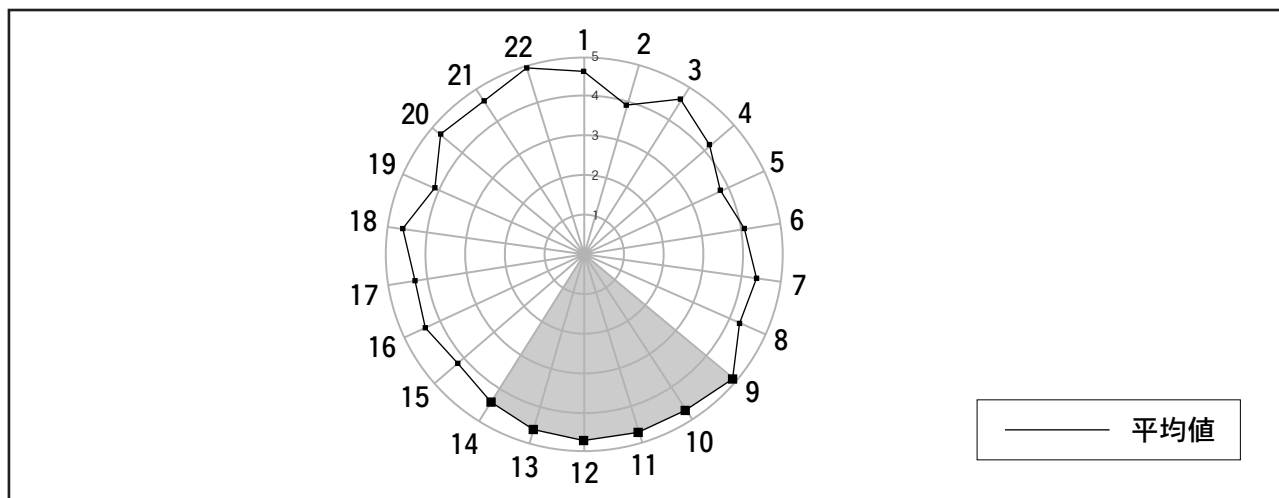
また、授業の目的・授業計画・内容、成績評価の方法についての明確さについても平均値が高かったことで、これらのことが受講生に明確に伝わったものと理解している。「学生が授業によく出席した」は平均値4.3であった。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んでくれたことに対しては感謝したい。受講生の発表、発言する場をたくさん設けたつもりであるが、「授業時間外に準備やまとめをした」、「わからないことや疑問に思ったことは調べた」の平均値が意外と低かったので、そのことを反省し、もっと受講生が積極的に授業に取り組んでいく方策を取るよう心掛けるべきであると考えられる。授業の内容等、進め方についても評価の平均値が高かったので、受講者は概ね、満足しているものと思われる。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（理科）

評価実施日 平成20年7月10日

担当教員名 本田 亮, 香西, 佐藤（勝）, 工藤, 今倉, 村田（守）, 武田, 米澤, 日下 回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	5	1	1	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	5	1	0	0	0	4.2
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	1	6	1	1	0	0	3.8
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	4	5	0	0	0	0	4.4
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	3	6	0	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	2	1	0	0	0	4.6
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	7	0	0	0	0	4.2
	(16) 熱心に指導した。	4	5	0	0	0	0	4.4
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	6	0	0	0	0	4.3
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	6	1	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	5	4	0	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

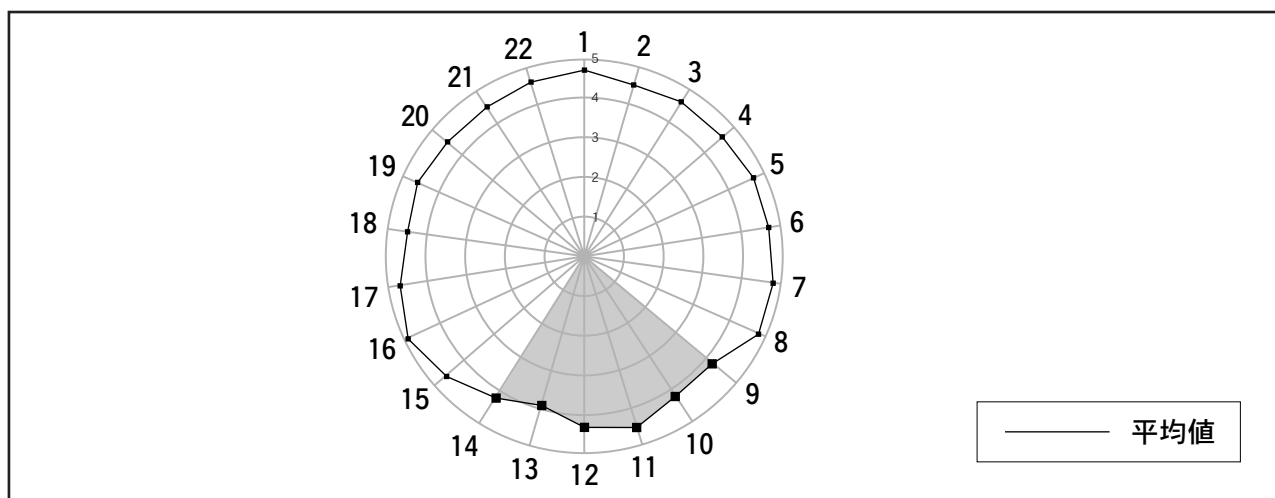
この授業では、栽培実習、フレンドシップ事業の一環としての理科実験教室を行うことを中心とした授業内容である。栽培実習は、教員として現場に出た際に、当然必要とされる技能の習得を目指している。また理科実験教室は、鳴門市内の小学校との連携として行うことにより、まさに、理科の専門科目等で学んだ知識や自ら書物やインターネットなどで得た情報を、実験活動を交えて児童に教授する技能の習得を目指している。

アンケートの結果は、全般に高いスコアを示しており、高い評価を得たものと考えている。しかしながら、設問(2)と(5)では、低い評価をつけた受講者もいた。設問(2)に関しては、実習形式で実施されている授業内容の特質により、出席を重要視している。特にグループ活動を行う場面が多いことから、欠席はグループ内他者に大きな負担を強いる。大学生であれば、このことは当然のこととして理解されていると考えていたが、それは必ずしも正しくはないようである。来年度からはその旨徹底する。設問(5)では、特に理科実験教室で、日常的な学校現場とは異質な形の実践を設定したため、学習指導要領には準拠していない。その部分は評価が低いかもしれない。しかしながら、この質問においてより本質的な後半部分「教科の特性と意義」について理解が深まったことを期待している。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（音楽）
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 長島 真人, 松岡 貴史

回答者数 11名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	1	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	7	4	0	0	0	0	4.6
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	9	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	9	2	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	4	5	2	0	0	0	4.2
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	4	5	2	0	0	0	4.2
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	6	1	0	0	0	4.3
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	3	3	1	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	5	3	3	0	0	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(16) 熱心に指導した。	10	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	8	3	0	0	0	0	4.7
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	1	0	0	0	4.5
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	8	2	1	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	3	1	0	0	0	4.5
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	6	4	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	2	1	0	0	0	4.6



教員のコメント

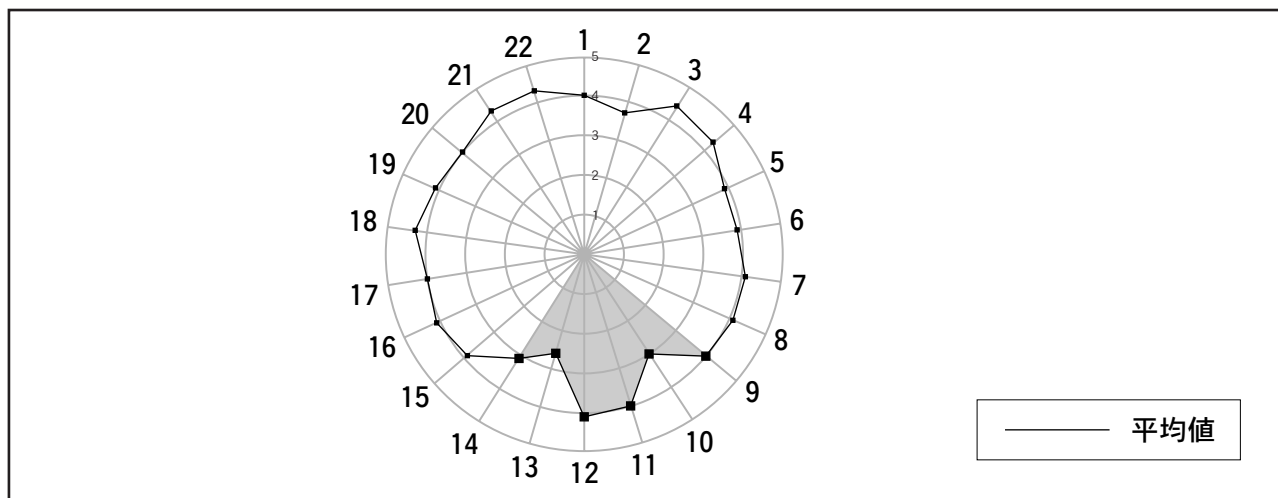
二回目の実践で、今回も、基本的に大学教員が担当する授業はITで授業を行った。つまり、教科教育学と教科専門の双方から、学生たちの探究活動を支援した。教材研究レポートや模擬授業の学習指導構想、模擬授業を学生と教員による協働的な活動の中で行い、多様な指導方法の可能性が見え始めてきた実践であったように思う。また、音楽科授業実践力評価スタンダード（詳細版）を提示し、自分自身の実践力の省察を行うことが出来るように配慮したことによって、課題意識が触発され、例年よりも作業課題に積極的に取り組んでいるように思われた。このような成果は、評価アンケートの評定が「5」と「4」に集中していることから確認される。特に、「3. あなたの授業への取り組みについて」の項目の評定が、やや高くなったことが、この授業の内容と指導方法の工夫に一定の成果があったことを実証しているように思われる。学生たちからのコメントとしては、「この授業でよかったこと」として、「実践的な内容が多くてよかったです」、「模擬授業を沢山したこと」、「模擬授業を行い、その評価やアドバイスを受けられたこと」、「授業力の評価の観点を明示してくれたこと」、「先生が学生のことをしっかりと見ていてくれて、学生がどういったことを考えているのだろうか、何を学んでいるのだろうか、を考えてくださっていたので、とても分かりやすかったです」等の記述があった。一方、「改善したほうがよいと思うこと」として、「教員の行う指導法に、みんなとられすぎて、パターン化されてしまったこと」、「他の授業でもやってください。授業を増やしてください。とても、勉強になります」という指摘があった。今後は、「望ましい指導の技は、学習者との関わりで決定されること」を大切に考えていきたい。また、「他の授業」とは、報告者が担当している他の授業のことを意味していると解釈した。このコア科目のような臨場的な場面を想定した演習の多い授業形態の特性を参考にしながら、知識ベースの拡大と論理的な思考力の拡大を目指す教科教育関係の講義においても、協働的な作業課題を多様に活用していく必要があるように思われてきた。今後の授業改善の視点としていきたい。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（図画工作・美術）

評価実施日 平成20年7月31日

担当教員名 小川 勝, 西田 威汎, 内藤 隆, 山木 朝彦, 宮越 千佳 回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	5	1	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	3	3	0	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	2	3	1	1	0	0	3.9
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	2	3	0	0	0	3.9
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	2	4	1	0	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	2	4	0	1	0	3.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	5	1	0	0	0	4.0
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	4	0	2	0	2.6
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	1	1	4	0	1	0	3.1
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	4	2	0	0	0	3.9
	(16) 熱心に指導した。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	5	0	0	0	0	4.3
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	2	1	1	0	0	4.0
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	1	0	0	0	4.3



教員のコメント

全体的に良好な結果を得られた。もっとも良い評価を得た項目の2-3は、コア科目としての目的にかかわる問いであるので、授業運営の基本はおさえられていたということだろう。項目3以外の指導方法等にかかわる部分のなかで最も評価が低い問いは、成績評価方法の明確化にかかわるものであった。複数担当者による評価については厳密に行なっているが、そのことが学生にうまく伝わっていない点について反省しなくてはならない。項目3は、受講者自身の授業中の取り組みと予習・復習に関わる項目だが、このうち、前者の自己評価は高く、後者はアンケート全体のなかで低かった。今後、課題（宿題）を課すことも検討したい。自由記述欄には、実習に役立つ実践的な内容を含んでいたという複数の記述と、専門的によかったという一つの記述が書き込まれていた。どちらも、今後、発展させていきたい方向である。

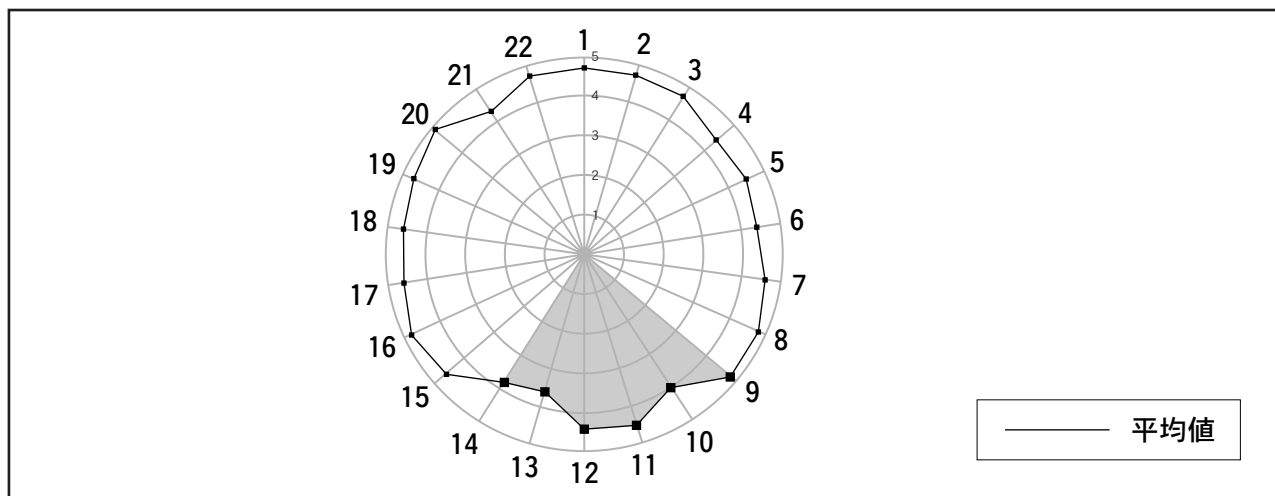
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（体育・保健体育）

評価実施日 平成20年7月31日

担当教員名 藤田 雅文, 梅野 圭史, 南 隆尚, 福田 一敏

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	3	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	7	3	0	0	0	4.7
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	5	4	1	0	0	4.4
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	5	5	0	0	0	4.5
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	4	6	0	0	0	4.4
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	6	4	0	0	0	4.6
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	8	2	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	9	0	1	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	3	4	3	0	0	4.0
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	5	0	0	0	4.5
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	4	6	0	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	2	3	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	2	5	2	1	0	3.8
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	4	0	0	0	4.6
	(16) 熱心に指導した。	8	2	0	0	0	4.8
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	4	0	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	0	0	0	4.6
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	7	3	0	0	0	4.7
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	1	0	0	0	4.9
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	4	5	1	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	3	0	0	0	4.7



教員のコメント

項目ごとの平均値は、以下の通りである。授業に対する満足度が4.7であることから、総合的には高い評価を得たと考えている。

- 1 授業概要 (4.70)
- 2 授業の内容等 (4.57)
- 3 あなたの授業への取り組み (4.18)
- 4 教員の授業の進め方 (4.60)
- 5 授業に対する満足度 (4.70)

「この授業でよかったこと」について、10名中5名が回答しており、その内容は次の通りである。

- 「教育実習のためになる授業だった。」
- 「指導案の詳しい立て方がわかった。」
- 「授業実践に必要な力が身に付いた。」
- 「ネイチャーゲームの模擬授業がよかった。」
- 「どんなことに注意して指導すればよいのか具体的に分かった。」

「この授業で改善した方がよいと思うこと」について、10名中2名が回答しており、その内容は次の通りである。

- 「授業計画を立てる等、もっと実践的なことをしたかった。」
- 「附属の先生との連絡、予定の確認を徹底してほしい。」

今後は、附属教員との連絡をより密にし、予習・復習を促すような小テストやレポートの課題提示などに取り組みたい。

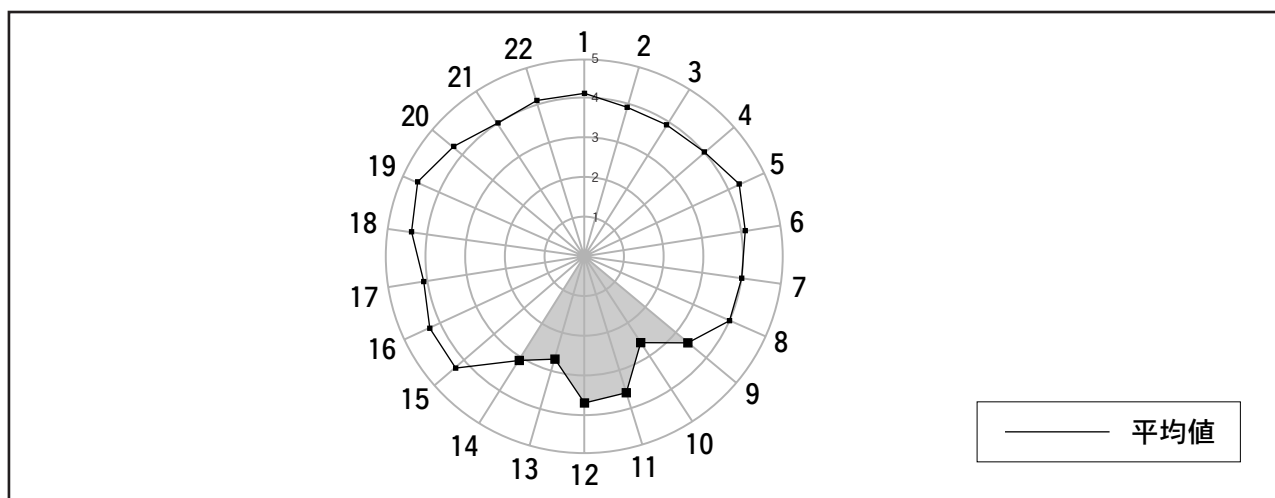
授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（技術）

評価実施日 平成20年7月31日

担当教員名 菊地 章, 尾崎 士郎, 伊藤 陽介, 大泉 計

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	4	2	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	2	2	3	0	0	0	3.9
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	2	3	2	0	0	0	4.0
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	4	1	2	0	0	0	4.3
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	3	2	1	1	0	0	4.0
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	2	3	2	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	1	1	5	0	0	0	3.4
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	0	1	2	4	0	0	2.6
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	1	3	2	1	0	0	3.6
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	0	5	2	0	0	0	3.7
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	3	3	0	0	2.7
	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	0	3	2	2	0	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	3	2	2	0	0	0	4.1
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	1	2	0	0	0	4.3
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	3	1	3	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	2	0	0	0	4.1



教員のコメント

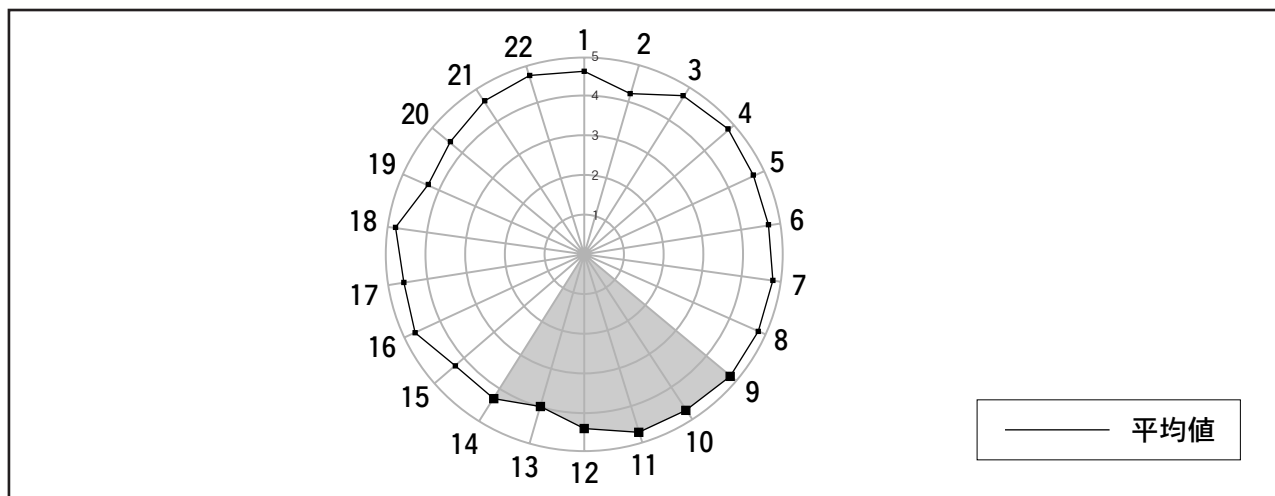
本授業は概ね反応が良く、好意的な回答が多かった。特に、「授業の目標等の明確さ」、「学習指導要領との関連」、「授業の進度」、「熱心な指導」、「授業内容の分かり易さ」、「配布教材」、「教育用機器の利用」、「教員の声の聞き取り易さ」、「満足できる授業内容」等の回答が好意的であった。逆に反応の悪かった項目は「時間外の準備」、「自分で不明な点の調査」、「疑問点の友人等との話し合い」であり、自己学習活動が弱い状況であった。自由記述回答はほとんどないが、「ロボットのプログラミングが楽しかった。」の記述があり、現在子供用のロボットコンテストが全国的に盛んに行われており、教員になった後の教育活動との関連を意識しての反応かと思われる。今後は学生の自発的な活動を啓発するように授業を改善したい。

授業科目名 初等中等教科教育実践Ⅲ（家庭）

評価実施日 平成20年7月31日

担当教員名 鳥井 葉子, 西川 和孝, 金 貞均, 元木 康代, 島田 郁子 回答者数 9名

質問項目	評価選択人数					平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	4	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	5	1	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業概要のねらいにそった授業内容であった。	6	3	0	0	0	4.7
	(4) 「初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ」で学んだことをふまえ、各教科における教科内容が理解できる授業内容であった。	7	2	0	0	0	4.8
	(5) 学習指導要領をふまえ、教科の特性と意義が理解できる授業内容であった。	6	3	0	0	0	4.7
	(6) 授業実践を観察する視点が示された授業内容であった。	6	3	0	0	0	4.7
	(7) 授業実践に必要な指導力について理解できる授業内容であった。	7	2	0	0	0	4.8
	(8) 教科の目標・内容・指導方法が深く結びつき、授業実践されていることが理解できる授業内容であった。	7	2	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業によく出席した。	8	0	1	0	0	4.8
	(10) 授業内容について授業時間外に準備やまとめをした。	6	3	0	0	0	4.7
	(11) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	3	0	0	0	4.7
	(12) 教員の説明をよく聞き意欲的に課題に取り組んだ。	5	3	1	0	0	4.4
	(13) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	2	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(14) 授業に関連した内容について友人や教員と話し合った。	3	6	0	0	0	4.3
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	4	4	1	0	0	4.3
	(16) 熱心に指導した。	6	3	0	0	0	4.7
	(17) 授業内容を分かりやすく伝えた。	6	2	1	0	0	4.6
	(18) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	2	0	0	0	4.8
	(19) 教育用機器や設備など教具の利用は適切だった。	5	2	2	0	0	4.3
	(20) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	1	2	0	0	4.4
	(21) 与えられた課題のレベルや分量は適切だった。	6	2	1	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(22) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	3	0	0	0	4.7



教員のコメント

学生から、この授業でよかったことに「授業実践ができた上、皆で反省、批評することができ、授業づくりへの関心が高まった」「模擬授業で附属の先生に来ていただいて評価してもらうのはすごく勉強になって良かった」「中学校の先生に授業を見てもらえたこと」「中等の食・住・その他、一つの分野についての教材、授業実践の考え方・作り方がわかった」「『総合』（筆者注…領域を総合した課題研究・発表等）の模擬授業をすることができた」があげられ、現職の先生による模擬授業が特に好評であった。

この授業で改善したほうがよいと思うことには「模擬授業を見てくださる先生との連絡をきちんとしてほしかった」であり、次年度は改善したい。

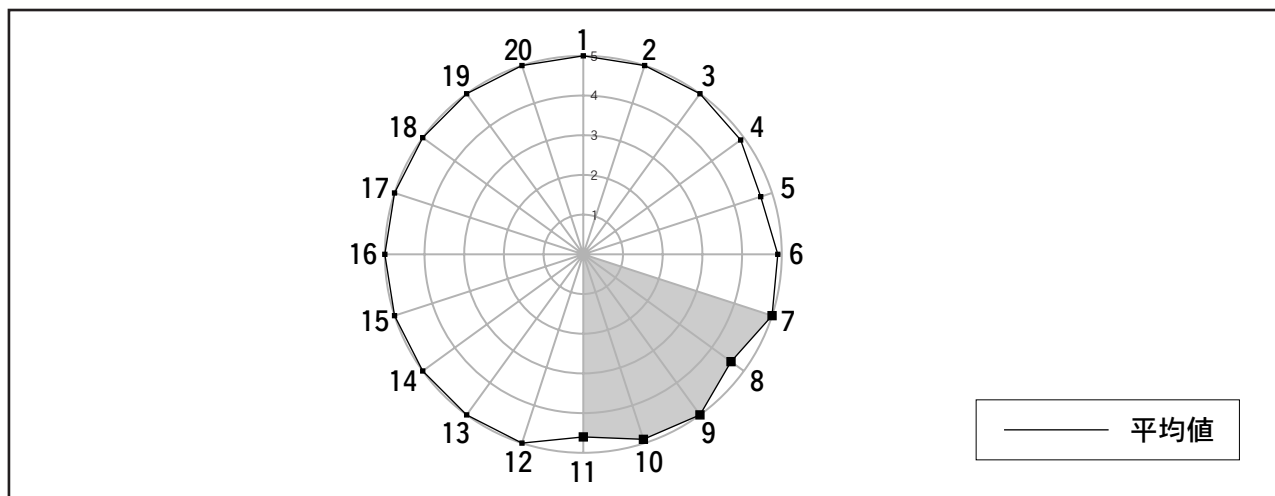
22項目の平均値は4.0～4.8と非常に高かった。今後の課題としては、平均値が4.0と最も低かった項目「13 分からないことや疑問に思ったことは調べた」、ついで4.2と低かった項目「2 成績評価の方法は明快に示されていた」について、指導方法を検討して改善したい。

教 職 共 通 科 目

授業科目名 中等社会科教育論
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数					平均値 (科目別)	
		5	4	3	2	1		N.A
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	7	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	10	3	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	19	6	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	21	3	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	23	2	0	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	16	6	3	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	10	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	5	12	3	2	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	2	12	5	3	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	10	4	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	5	11	4	2	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	15	3	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	12	2	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	21	4	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	8	2	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	21	3	1	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	13	9	3	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	24	1	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	17	7	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	19	5	0	1	0	0	4.7



教員のコメント

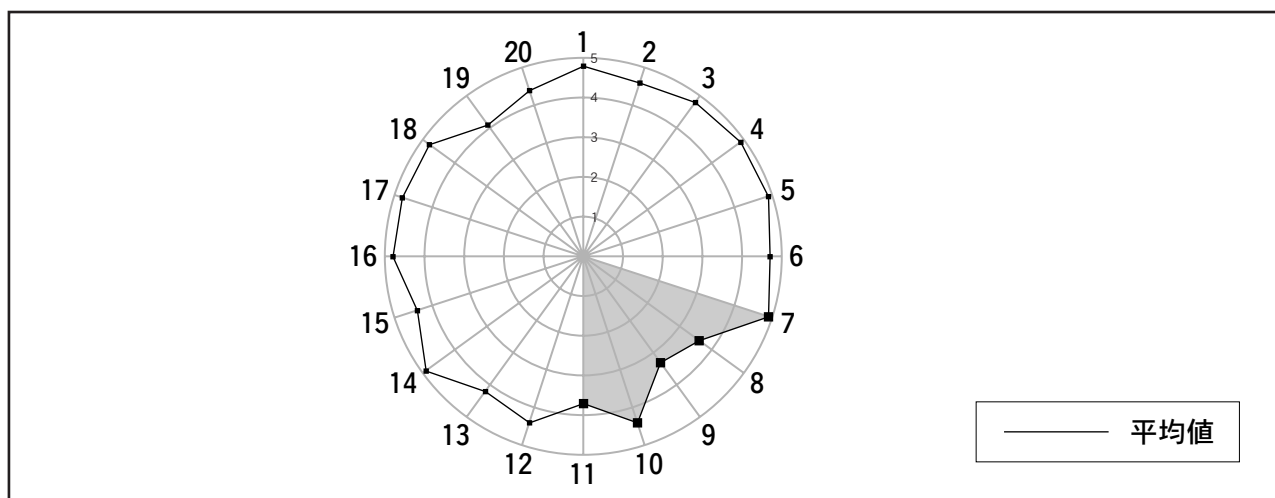
本授業では、中等社会系教科教育の本質・目的・内容・授業の構成に関する基本的な知識を、具体的な教材や模擬授業実践を通じて受講生に教授した。

本授業に対する20項目の評価の平均値は4.4、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(20)の平均値は4.7であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)の平均値は4.8、授業の展開・態度に関わる項目(12)(13)(14)(15)(16)(17)(18)(19)の平均値は4.6であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(7)(8)(9)(10)(11)の平均値は3.6であり、相対的に低くなった。学生たちの、よく授業に出席しまじめな授業態度であるが、予習・復習が十分できていない、あるいは発言や質問が十分できていないという学習の姿は、本学学生の一般的な傾向とも言える。例年のこの傾向を改善するために、今学期は適宜宿題を課すことをしたが、受講生の自己評価は低いままであった。授業の中で、作業課題に対する討論や発表会を行うなどアクティビティ型の授業方法をさらに工夫しなければならない。

授業科目名 地理歴史科教育論
 評価実施日 平成20年7月15日
 担当教員名 梅津 正美, 草原 和博

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	2	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	2	1	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	2	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	1	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	3	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	1	3	2	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	4	2	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	3	1	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	3	1	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	3	1	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	3	2	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	8	1	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	3	1	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	2	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	7	2	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	2	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	4	2	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	3	1	0	0	4.4



教員のコメント

本授業では、地理歴史科のカリキュラム編成及び授業構成の諸類型とそれらの特質・限界について、授業計画書の分析や講義者による模擬授業を通じて理解し、高校地歴科教育を指導できる実践的力量的の基盤を形成しようとした。

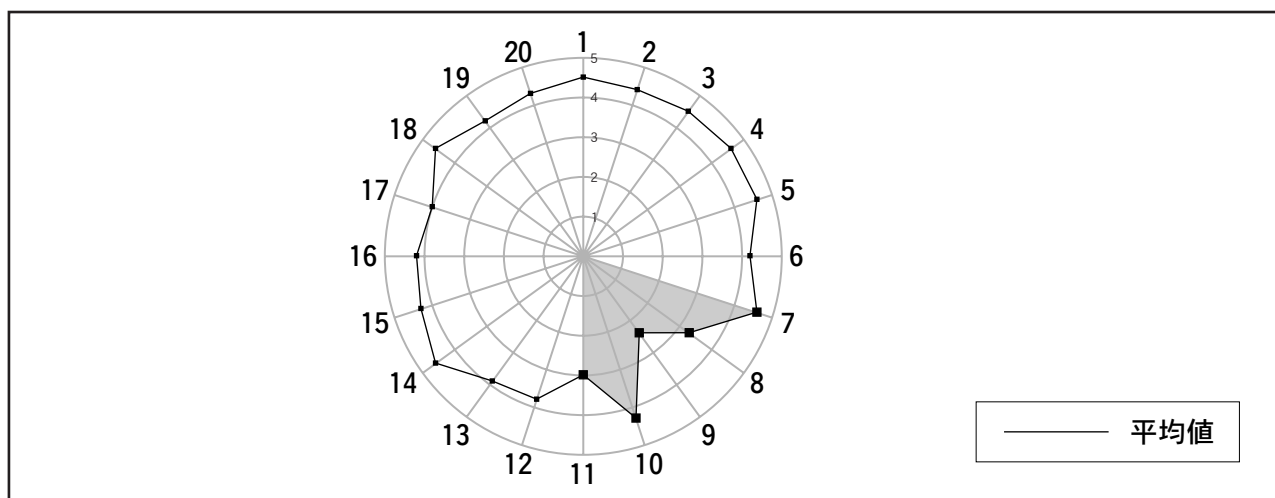
本授業に対する20項目の評価の平均値は4.5、授業全体に対する学生の満足度を示す項目(20)の平均値は4.4であり、授業全体に対して概ね良好な評価を得ることができた。授業の内容に関わる項目(3)(4)(5)(6)の平均値は4.8、授業の展開・態度に関わる項目(12)(13)(14)(15)(16)(17)(18)(19)の平均値は4.6であった。これに対して、学生の授業への取組に関わる項目(7)(8)(9)(10)(11)の平均値は4.0であり、相対的に低くなった。

学生たちの、よく授業に出席し、よく教員の説明を聞きながら、予習・復習が十分できていない、あるいは発言や質問が十分できていないという学習の姿は、本学学生の一般的な傾向とも言えるが、教員採用試験を間近にひかえた4年次生前期の授業は、過度の演習課題を出すことが難しい。本授業が、教員採用試験における集団討論や模擬授業の構想と実践に役に立つように、授業担当者は地歴科教育をめぐる授業の参観と合評・討論の機会を多く盛り込むなどの工夫をした。4年次生を対象とした教科教育法の授業のあり方のひとつの姿を示し得たと考えている。

授業科目名 体育科教育論
 評価実施日 平成20年6月26日
 担当教員名 梅野 圭史

回答者数 176名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	108	54	14	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	91	58	26	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	107	57	11	1	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	119	45	9	2	0	1	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	115	45	14	2	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	84	60	23	6	3	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	128	30	13	2	2	1	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	27	54	56	31	8	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	16	53	37	57	1	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	85	61	26	3	1	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	20	33	67	37	18	1	3.0
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	48	69	45	9	5	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	59	59	44	10	4	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	126	37	12	1	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	90	60	20	3	2	1	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	82	58	27	8	1	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	63	63	42	7	1	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	117	44	11	2	1	1	4.6
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	77	59	29	6	3	2	4.2
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	88	56	24	5	3	0	4.3



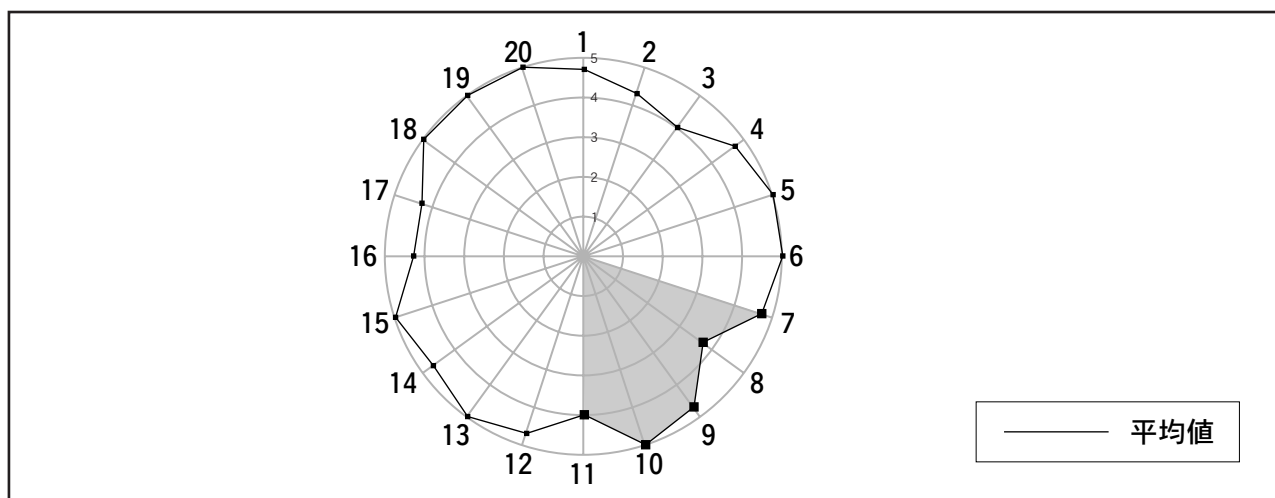
教員のコメント

この講義は、約170名にわたる大人数の授業である。オリエンテーションで試験問題を提示し、これについて毎授業講義する方法を採っている。1授業1つの内容のためか、学生諸君はよく講義に喰らいついてきてくれた。試験の成績も良く、一応の満足がある。一面、再試験を受けなければならない学生も増えていることを考えると、講義のしかたを工夫する必要がある。

授業科目名 数学科教育学特論
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 秋田 美代, 齋藤 昇

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	3	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	2	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	1	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	1	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	0	0	0	0	5.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	0	1	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	0	1	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

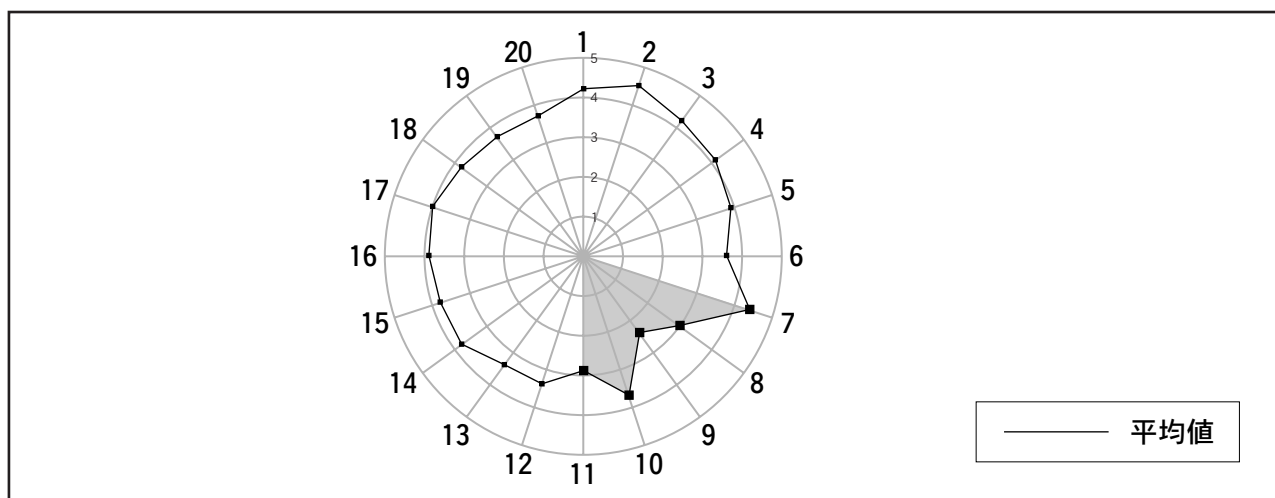
本授業では、教員を目指す学生が、数学科教育の現状・課題を知り、数学科教育の課題を解決するための指導方法・評価方法等に関する理解を深めて、数学科を担当する教員として必要な授業実践力・改善力を高めることを目的とした。授業では、まず、数学科教育の現状と課題を明確にし、数学科教育の課題に対応した内容と指導方法、評価等を論説した。その後、受講者が、数学科教育の現状と課題を基にして、課題を解決するための教材開発、授業設計、指導案作成、模擬授業等を行った。

受講生が3人と少なかったので、発表・討論に十分な時間を取ることができた。この授業に対する評価は、ほとんどの項目で「4または5」であった。回答から、授業が受講者にとって教育に対する見方や考え方を学べるものだったこと、興味・関心を引くものだったこと、参加しやすい授業であったこと等がうかがわれた。受講者は、授業実践方法、評価法等について強い関心を示し、意欲的に授業に取り組んだ。数学科の授業展開等における実践的な指導力の向上につながる資質や能力が養えたものと考えられる。

授業科目名 教育工学
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 川上 綾子

回答者数 50名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	26	7	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	28	18	3	1	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	19	25	5	1	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	16	26	5	3	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	27	10	2	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	21	19	3	1	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	28	18	3	0	1	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	11	21	13	2	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	19	14	12	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	27	14	4	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	9	19	11	6	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	22	14	5	4	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	21	17	5	3	3.4
	(14) 熱心に指導した。	10	26	11	2	1	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	14	20	12	2	2	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	22	8	6	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	14	26	7	3	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	22	12	4	1	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	24	15	1	2	3.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	26	14	2	1	3.7



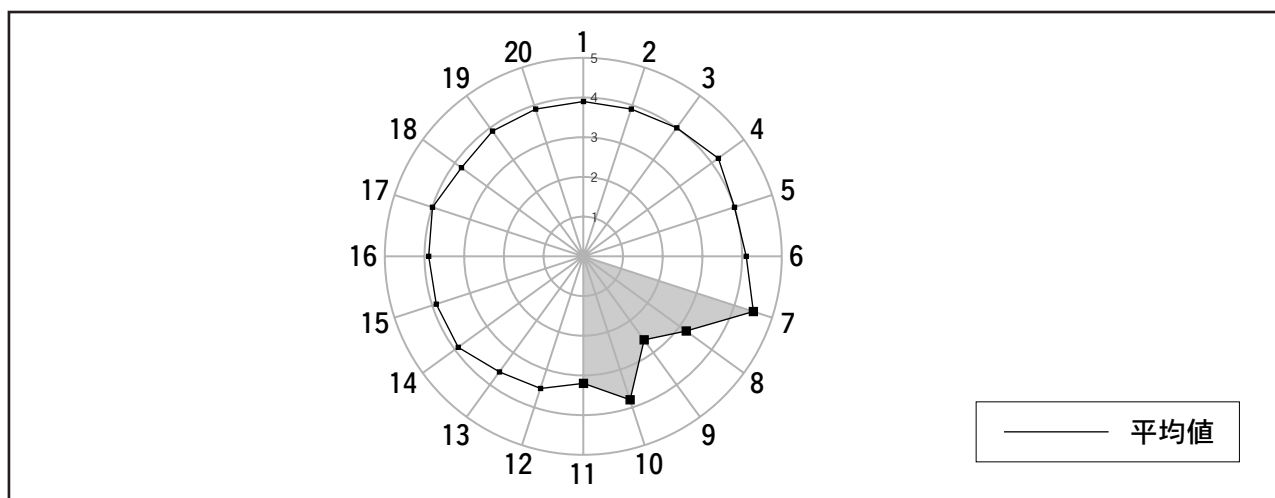
教員のコメント

各質問項目の平均値を見ると、項目(8)(9)(11)が他の項目と比べて低い評定値となっていた(3点以下)。この傾向は昨年度と同様であり、授業に主体的・積極的に取り組んでいる受講生が少ないことを表している。項目(9)については、受講者数が多いため(登録者は約70名)その場で進んで発言するのは難しいであろうことが要因の一つとして考えられるが、(8)(11)については授業内容の魅力の程度、すなわち受講生の興味関心を喚起する内容であるかどうかが大きく影響していると思われる。受講生の主体的な学習につながるよう、講義内容の精選、さらにはそれらの構成や授業の進め方等、改善を図っていきたい。自由記述欄への回答では、よかった点として「実践に役立ちそう」「専門性が高まった」「具体例が示されてわかりやすかった」等があげられていた。しかし「提示資料等、教材に力が入っていた」「丁寧な指導だった」といった意見がある一方で、「PPシートが見にくい」「進み方が速い」という記述も見られた。また、上記の評定結果にも現れた通り「受講生の参加を促す場を増やしてはどうか」との改善案もあった。こちらからの一方的な情報提示に偏ることなく、受講生とのやり取りを増やし理解度を確認すること、個々に質問ができるような場を設けることなど、工夫していきたいと思う。

授業科目名 カウンセリング論
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 久米 禎子, 吉井 健治

回答者数 149名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	37	65	43	4	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	38	69	34	7	0	1	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	42	75	28	4	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	59	69	18	3	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	44	66	33	5	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	55	63	22	9	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	102	28	15	3	1	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	17	42	58	19	13	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	16	19	43	32	38	1	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	33	65	40	10	1	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	19	38	56	23	13	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	18	52	61	16	2	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	28	54	50	14	3	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	39	63	41	5	1	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	40	65	35	7	1	1	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	40	63	38	8	0	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	43	64	39	3	0	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	42	58	37	8	4	0	3.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	41	65	34	9	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	43	64	28	9	2	3	3.9



教員のコメント

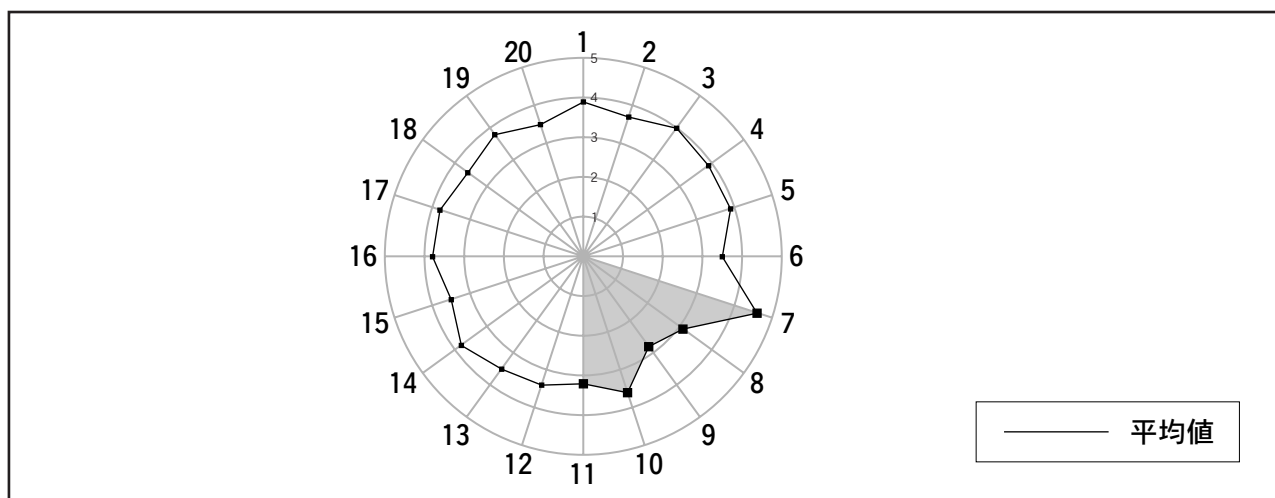
平均値の得点分布は、2.6が1項目、3.2～3.6が4項目、3.8～3.9が9項目、4.0～4.5が6項目だった。平均値の最高値（4.5）は「授業によく出席した」、最低値（2.6）は「授業中に積極的に発言や質問をした」だった。

授業の内容等については、「教養や専門性を高めるものだった」（4.2）、「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」（4.0）、「興味・関心を引くものだった」（4.1）のように、高い評価が得られた。学生の授業への取り組みについては、授業によく出席するのだが、積極的な発言や質問は少ないという結果だった。この点は例年の課題であるが、今後もさらに改善していきたい。教員の授業の進め方については、「視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった」（4.0）が比較的高い評価だったが、これはビデオを通じて学生がイメージをしやすいような工夫を行ったことが反映されている。学生の感想には、「ビデオを通じて実践的に学べて良かった」、「ビデオの内容が具体的で分かりやすかった」などがあった。

授業科目名 人間形成原論
 評価実施日 平成20年8月4日
 担当教員名 木内 陽一, 梶井 一暁

回答者数 177名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	40	80	52	5	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	43	60	61	12	1	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	48	74	52	2	0	1	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	44	74	53	5	1	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	45	76	49	5	2	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	32	54	68	15	5	3	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	128	30	17	2	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	18	36	78	35	10	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	14	25	70	39	27	2	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	30	70	59	16	2	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	19	49	66	33	10	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	24	54	65	28	6	0	3.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	26	64	58	23	6	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	40	73	54	9	1	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	28	63	63	18	4	1	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	41	70	53	13	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	43	67	55	11	1	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	31	70	56	17	3	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	40	72	51	14	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	24	66	67	16	3	1	3.5



教員のコメント

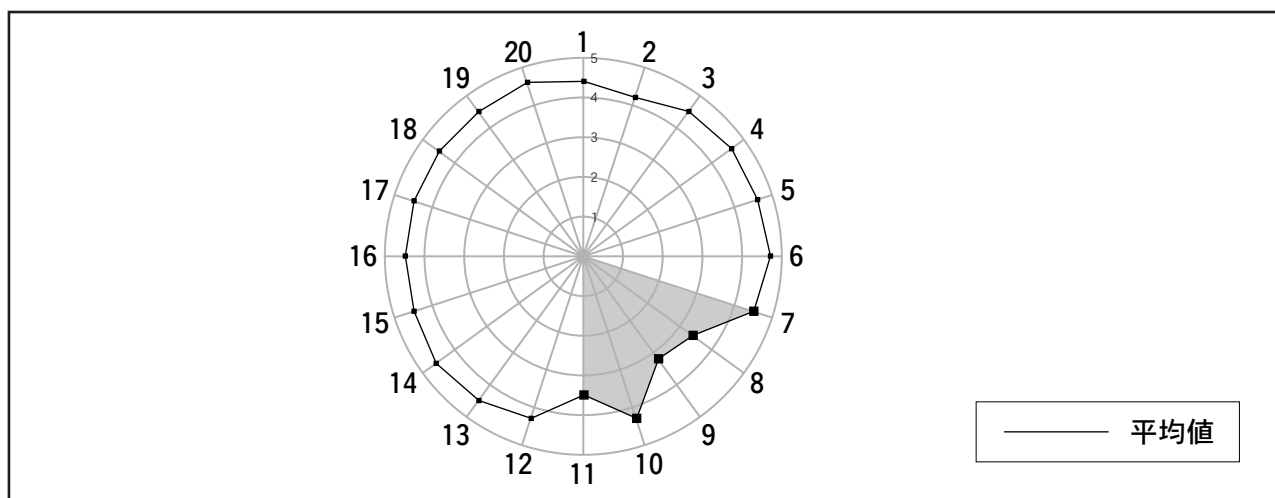
本講義は、学部一年生の必修科目であり、しかも長期履修院生が加わって、180人近い受講生に対して、大教室で講義をしなければならないので、種々困難な点を感じている。

- ・多数の受講生に対し、人間形成の基礎概念を教授するという目標から、テキストを定め、テキストに沿う形で講義を進めた。受講生は基礎的な知見を身につけることができたと思う。
- ・多人数の講義ということで、学生の参加を促すことは、相当困難であると思う。適時、指名して、自己の見解を披瀝することを求めたが、B 101 教室は独特の雰囲気もあり、積極的に発言したり、質問したりするのは、困難であると感じる。
- ・それゆえ、受講生の授業への取り組み度は低いものになってしまう。今後の課題としては、予習・復習をする際の留意点、あるいは、HPや書籍の紹介を具体的にして、自分で取り組めるようにしたらよいと考えている。
- ・その際、今までは、日本語文献のみを紹介してきたが、英語やドイツ語文献も紹介し、また、これらの外国語文献も試験の出題範囲として、本講義を、高度な教職の専門性と豊かな人間愛を備えた高度専門職業人の養成の第一歩としたい。

授業科目名 幼児教育課程論
 評価実施日 平成20年8月1日
 担当教員名 橋川喜美代

回答者数 48名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	24	19	5	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	18	23	7	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	27	18	3	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	33	12	2	1	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	31	15	2	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	34	13	1	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	28	16	4	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	19	21	5	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	11	27	7	0	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	19	22	7	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	23	17	5	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	21	23	3	1	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	27	16	5	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	32	12	4	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	27	17	4	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	28	16	3	1	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	32	10	6	0	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	29	14	5	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	30	14	4	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	33	13	1	1	0	0	4.6



教員のコメント

全体的に見ると、評価5の項目が多く、概ね受講生は満足してくれているものと理解できる。とはいえ、授業内容に対する評価に比べ、授業概要に関わる設問(2)の「成績評価の方法」や、授業の進め方の設問(12)の「学生の理解を確認しながら授業を行った」の評価が低いことから、なお留意すべき点が残されている。

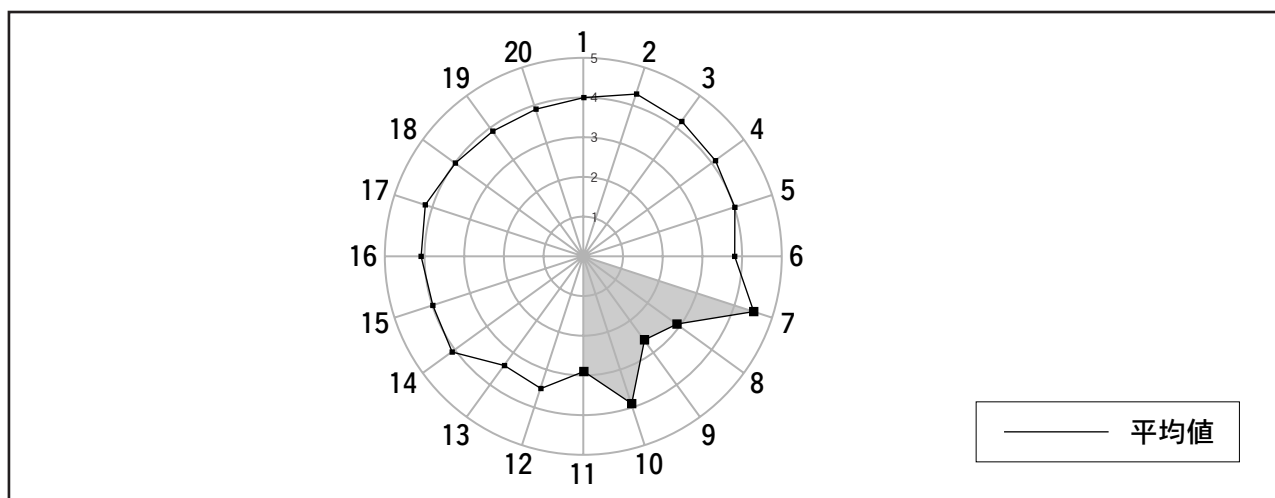
また、受講生自身の授業への取り組みについて見ると、設問(8)の「授業内容を理解するために予習や復習をした」では3.4、設問(9)の「授業中に積極的に発言や質問をした」では3.2、設問(11)の「分からないことや疑問を確認した」では3.5と、昨年よりも若干よくなっているが、積極的な態度を喚起しているとはとても言い難い状態である。なお一層の工夫を図る必要がある。

受講生からのコメントとして評価しているのは、実際に幼稚園や保育所の乳幼児と関わった点である。その一方で、実習先の園の先生から話がうかがえないことや次の授業に影響し時間的な余裕がなくなるといったマイナスのコメントも含まれていた。この授業で幼稚園や保育所に出向き乳幼児と関わるのは、先生からお話をうかがうことよりも、子ども理解を図ることが目的であったことから、参加する受講生の理解を深め、どのように機会を有効に使うかといった説明を徹底させておく必要を感じた。

授業科目名 教育社会学
 評価実施日 平成20年8月1日
 担当教員名 伴 恒信

回答者数 57名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	15	30	10	2	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	27	22	8	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	18	32	7	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	19	27	8	2	1	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	22	21	9	4	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	25	11	5	1	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	32	20	5	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	9	26	16	3	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	6	22	20	7	0	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	28	12	4	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	8	28	11	6	0	2.9
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	22	21	5	1	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	10	16	20	10	1	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	23	19	13	2	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	17	23	15	2	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	23	20	12	2	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	28	15	10	3	0	1	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	20	19	15	3	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	19	19	14	4	1	0	3.9
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	24	12	4	1	0	3.9



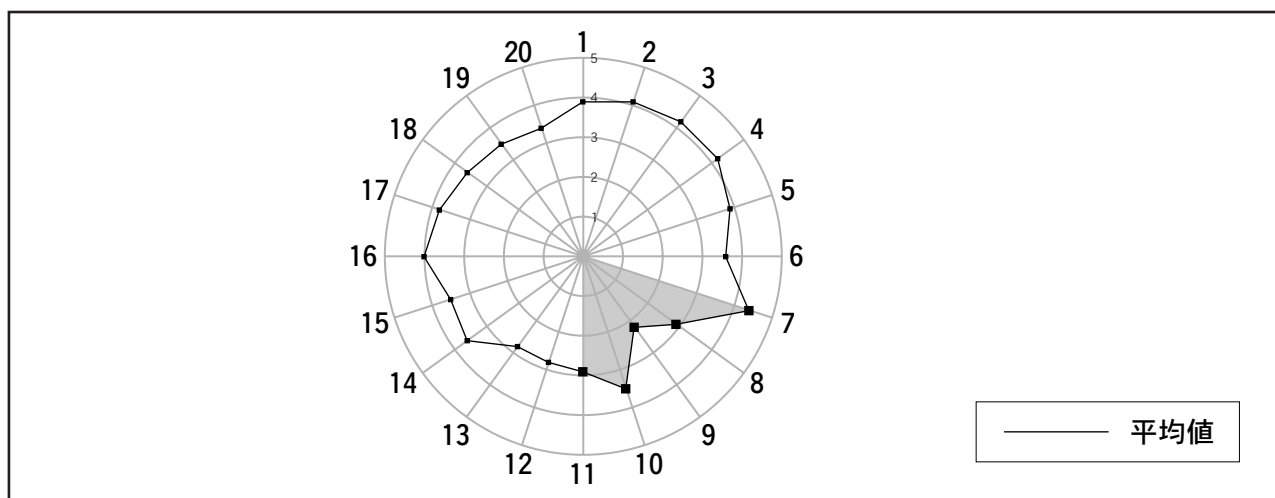
教員のコメント

教育社会学という学問は、国家を越えた国際比較のマクロ・レベルから学級内の個々の子どもの人間関係といったミクロ・レベルまで取り扱う内容や方法論が多岐にわたるので、どうしても講義の密度が高くなる。したがって、受講者のもともとの取り組む姿勢で授業への興味や感想も大きく異なってくる。「大変ためになる授業でした。どの単元も興味深い内容で、先生もすごく熱心で良かったです。」「今までにない型の授業で、たくさんの知識を得ることができました。」「教育を様々な視点でみることができた。」「毎回、興味深い内容だったので、ひきつけられた。」「教育は社会につれということがよく分かりました。」など、教育社会学のその豊富な内容と幅広さから魅力を感じてくれる学生もいれば、「ノートに写す時間をもう少し欲しかったです。」「もう少し易しい言語で説明してもらいたかった。」と講義の過密さを指摘する者もいた。これからは、少し内容を絞り講義のスピードをゆるめる必要があるであろう。

授業科目名 教育心理学
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 皆川 直凡

回答者数 98名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	27	38	25	8	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	42	32	14	7	3	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	38	39	20	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	35	46	15	2	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	27	40	25	6	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	24	30	29	11	4	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	52	32	12	2	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	14	44	22	10	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	5	26	30	32	0	2.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	20	33	28	14	3	0	3.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	20	30	27	12	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	18	35	28	10	0	2.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	12	43	20	14	0	2.8
	(14) 熱心に指導した。	23	32	29	12	2	0	3.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	19	28	38	10	3	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	33	34	28	2	1	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	29	30	31	5	2	1	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	21	32	32	8	5	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	20	30	28	15	5	0	3.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	34	31	15	4	0	3.4



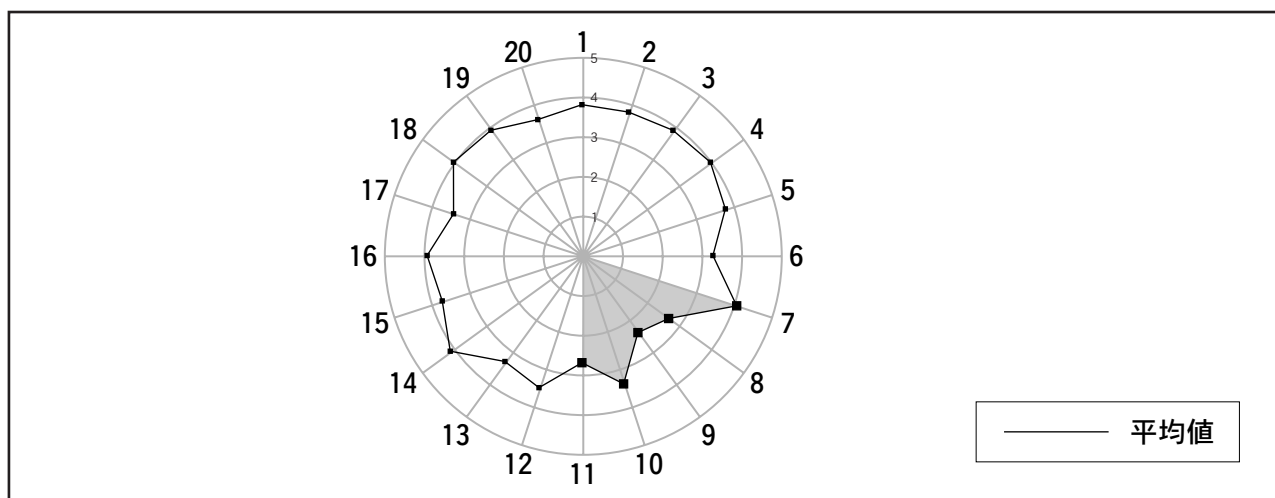
教員のコメント

評価の平均値と評価段階別回答者数分布を総合的に考察すると、成績評価の方法を含めた授業概要の示し方が明確であり、授業内容は教養や専門性を高め教育に対する見方・考え方を学べるものであり、教材(本授業では、配付資料)や教育用機器(パワーポイント)の利用は内容理解の上で適切であったが、学生の理解状況の確認と授業への参加しやすさについてはやや不十分であったと評価されたことになる。予習・復習、調べ学習といった自主的な学習はあまり行われていないことも判明した。実際、今回の回答者にはさまざまな受講態度をとる学生が含まれていた。今後は、授業最終日だけでなく授業中間日にも授業評価を行う、随時、授業の進め方や理解度についての意見聴取を行うなどして、受講態度が良好な学生の声に選択的に耳を傾ける機会を増やし、授業改善に努めたい。

授業科目名 初等国語科教育論A
 評価実施日 平成20年7月30日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 92名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	48	22	4	1	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	23	36	28	5	0	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	22	43	23	4	0	0	3.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	28	40	20	3	1	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	20	43	25	3	1	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	33	35	11	4	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	39	28	20	5	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	10	42	25	11	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	7	40	27	17	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	31	40	10	2	0	3.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	10	41	29	9	0	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	9	41	32	8	2	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	10	26	42	11	3	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	34	41	13	2	2	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	20	37	26	8	1	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	26	36	26	4	0	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	14	29	37	4	7	1	3.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	30	42	15	4	1	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	26	41	18	7	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	40	33	5	3	0	3.6



教員のコメント

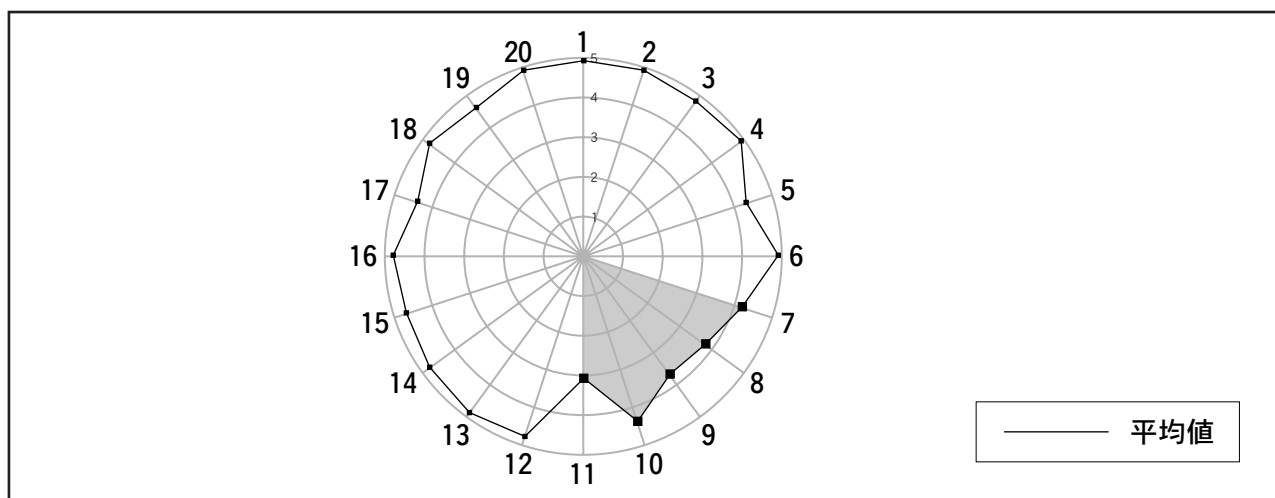
(20)授業の満足度に対する評価の平均値が3.6であったことが示すように、授業自体は受講生の興味・関心を十分に満たしたとは言いがたい。問題点は山積しているが、授業者としては課題と改善方向を以下のよう

- 参加型の授業形態を模索すること。本授業では授業者が先走りすぎ、受講生は座学に終始してしまった。100人に近い授業の中で受講生参加型の授業形態を実施することは容易ではないと思われるが、可能な限りその方向を検討したい。
- 授業内容を精選し、カリキュラムを構造的にすること。今年度は、多くの内容を盛り込みすぎたり、不要な部分で時間をかけすぎたりと、ふり返ってみると授業内容の軽重を授業者自身が十分におさえ切れていなかった。シラバス全体、一時内の展開の両方において、重点をはっきりさせてカリキュラムを検討し直したい。
- 具体的な教材や授業場面に即した授業内容とすること。本年度も具体的にすることは心がけたつもりであるし、その面にはある程度肯定的なコメントはもらっているが、不十分であったことは否めない。実際の授業場面の映像を取り入れることなども含め、授業内容を構成するときに十分に配慮したい。上記の方向での授業を実現できるように努力したい。

授業科目名 英語科教育論Ⅲ
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	1	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	2	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	2	2	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	5	1	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	4	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	3	1	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	5	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	3	3	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	2	0	0	0	4.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	1	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	7	2	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	3	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	2	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	1	2	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	2	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	4	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	1	0	0	0	4.9



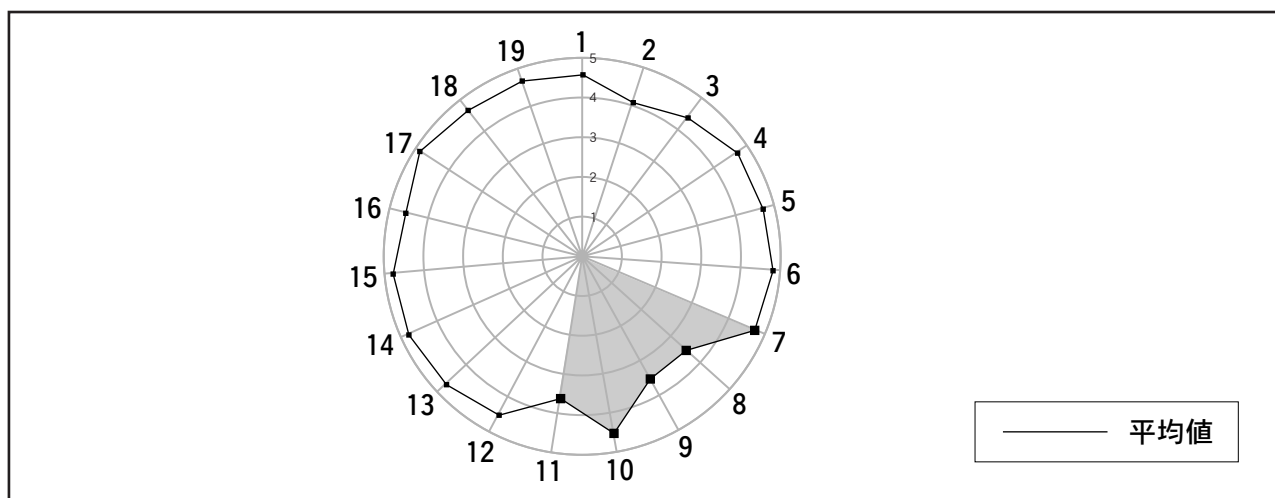
教員のコメント

本授業の目的は、附属中学校での教育実習を視野に入れて、英語の授業を構成している教授活動について理論的な考察を加えながら、英語の授業を組み立てていく具体的方法を、受講生によるマイクロティーチング（模擬授業）や実地指導講師による実践的授業を交えながら学習していくことに置かれている。授業への取り組みについての受講者自身の評価はさほど良くなかったが（5項目の平均が3.8）、授業への満足度に関してはかなり高い評価（4.9）を得ることができ、評価対象となった20項目全体でも4.5と高い評価を得ることができた。「実際に授業を組み立てる上でとてもためになることをたくさん学べた」、「授業の作り方、進め方などがよく分かった」、「授業の展開やその注意点を知ることができた」という好意的意見を受講生から得ることができた。これらの好意的評価は授業担当者にとって大きな励みとなっているが、その一方で、「小学校むけの授業の作り方も知りたかった」とか「もう少し用語説明を詳しくしてほしい」という改善意見も寄せられた。今後、これらの改善意見や本学のコア・カリとして実施されている「初等中等教科教育実践Ⅰ～Ⅲ」との整合性をどう確保するかという課題とも連動させながら、受講生の授業への取り組みをより積極的にさせる方法について検討を続けていきたい。

授業科目名 初等国語科教育論B
 評価実施日 平成20年7月30日
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 55名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	38	13	4	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	24	17	12	2	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	29	20	5	1	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	42	11	2	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	42	9	4	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	45	9	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	39	14	1	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	13	16	15	8	3	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	15	12	19	6	3	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	31	21	2	0	1	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	14	14	19	6	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	33	18	4	0	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	44	8	3	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	44	10	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	42	12	0	0	0	1	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	35	16	3	0	0	1	4.6
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	47	8	0	0	0	0	4.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	42	12	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	43	10	1	1	0	0	4.7



教員のコメント

本年度から、「初等国語科教育論A」を、長期履修学生専用とした。学部2年生と分離し、立場や志望を共有する受講集団とすることで、学習への集中度を高めようとしたためである。結果として、「(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」= 4.7、「(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」= 4.7、「(6) 授業内容は、興味関心を引くものだった。」= 4.8という授業内容に関する平均値が出た。「初等国語科教育論A」を、長期履修学生専用にしたことは、成功だったと言える。

また、「(13) 学生が参加しやすい授業だった。」= 4.7、「(14) 熱心に指導した。」= 4.8、「(15) 授業内容を分かりやすく説明した。」= 4.8、「教員の声は、聞き取りやすかった。」= 4.9という指導に関する平均値が出た。ここにも「初等国語科教育論A」を、長期履修学生専用とした成果が出ていると言える。

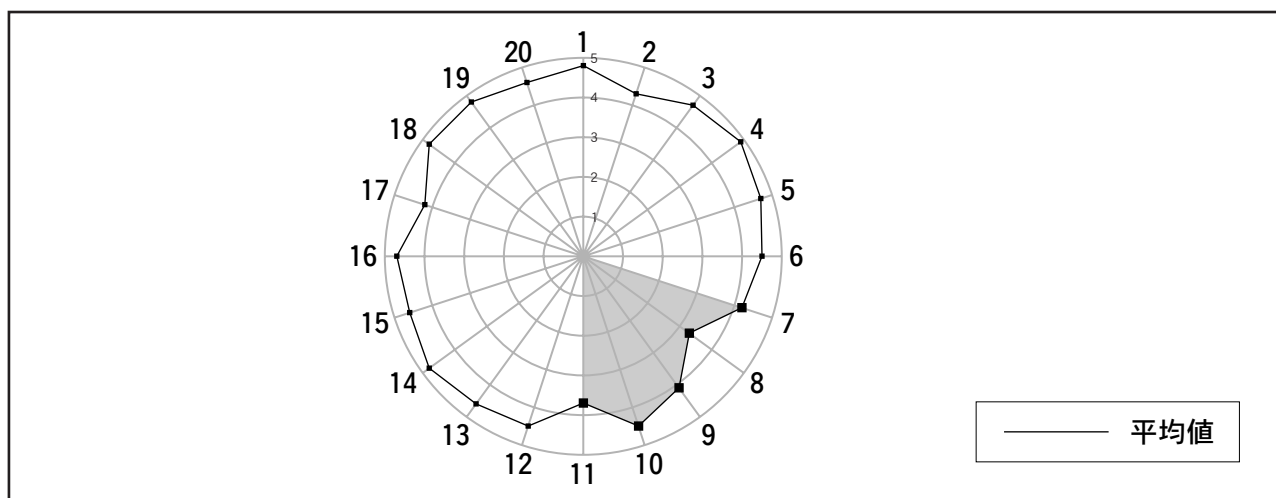
ただ、学生自身の授業へ取り組みに関する項目には、「(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」や「(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。」= 3.5など、比較的低い平均値を示す項目があった。長期履修学生の場合、既得免許の有無などによって個人差はあるが、小学校免許を取得するために、多くの授業を履修する必要がある、しかも長期1年目に集中する傾向にある。従って、安易に課題やレポートを課すことについては、慎重でなければならない。

「5. 授業に対する満足度」= 4.7であった。来年度もこれを維持向上させるように努力したい。

授業科目名 中等国語科教育論
 評価実施日 平成20年7月30日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	3	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	8	2	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	13	3	1	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	16	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	13	3	1	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	4	1	1	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	5	4	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	6	10	1	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	3	3	1	1	4.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	3	3	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	7	1	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	6	1	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	14	1	1	1	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	13	4	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	5	1	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	1	2	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	3	5	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	3	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	14	2	1	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	2	0	0	1	4.6



教員のコメント

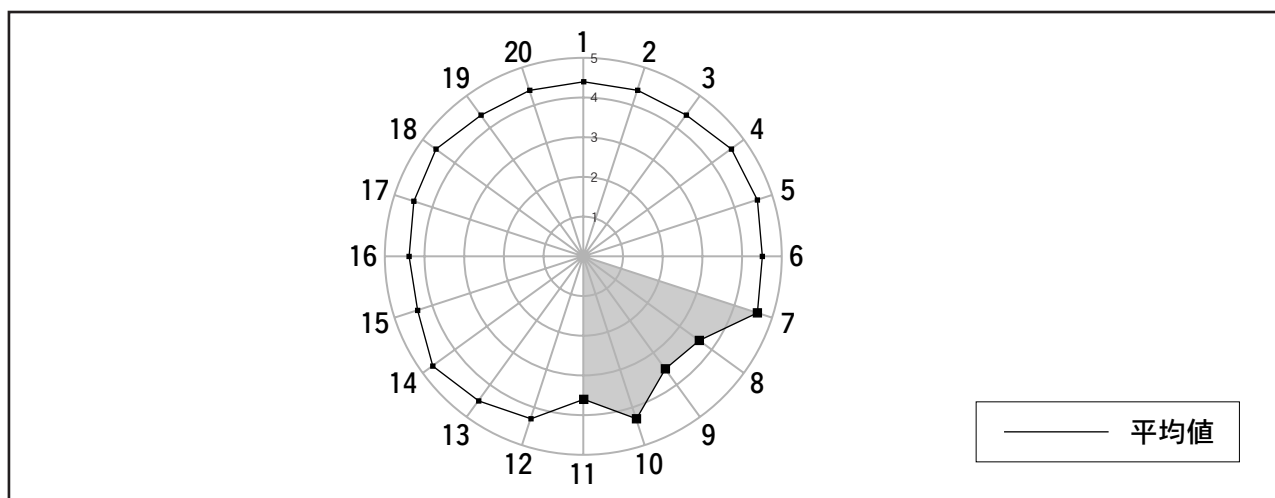
昨年度の評価を受けて、受講生の活動を取り入れた双方向的な授業構成をできるだけ多く取り入れることを心掛けた。十分にこなしきれなかった部分も多々あるが、項目(20)の授業に対する満足度の平均値は4.6であり、おおむね肯定的な評価を得られたようである。これは、授業において受講生が積極的に発言し、参加してくれたことによる部分が多い。本授業を意義のあるものと感じられるようにしてくれた受講生諸氏に、何より感謝したい。授業内容については、項目(4)教養や専門性についての平均値が4.9、(6)授業内容への関心の平均値が4.5であり、受講生の目的意識に沿った内容を取り上げられたようである。

とはいえ、課題も多く残されている。授業内容をさらに精選し、構造化したカリキュラム構成、各時の課題の設定等は、常に考えていきたい。また、課題解決過程において適切な支援を行えるような授業者の力量の向上を心がけたいと考えている。

授業科目名 教育課程論
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 村川 雅弘

回答者数 74名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	36	32	5	1	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	37	31	5	0	0	1	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	38	29	7	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	48	23	3	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	42	31	1	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	44	25	5	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	52	17	5	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	16	21	29	6	2	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	15	19	30	6	4	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	30	36	8	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	17	22	27	6	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	33	30	9	1	0	1	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	41	28	4	1	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	53	20	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	39	29	6	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	38	29	7	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	43	27	4	0	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	48	23	3	0	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	37	30	6	1	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	34	37	2	0	0	1	4.4



教員のコメント

教育課程は学部学生にとって馴染みが薄く興味のわきにくいものである。そのために、映像資料や新聞・雑誌からの資料等を活用したり、特に今年度は指導要領改訂の年でもあるので中教審答申や学習指導要領のポイント整理なども盛り込み、できるかぎり興味関心を引きつつ、具体的な実践とつなげて、教育改革の方向や内容も理解してもらえるように工夫した。

殆どの項目が4.3以上で全体的に高い評価を得ることができた。項目の4～6及び14から20において評価が特に高いことはこれらの工夫が反映していると考えられる。自由記述でも「指導要領の変遷がよく分かった」「教採にも役立つ」「映像資料が多く分かりやすかった」「様々な学校の事例があり、よかった」と肯定的な意見が多かった。

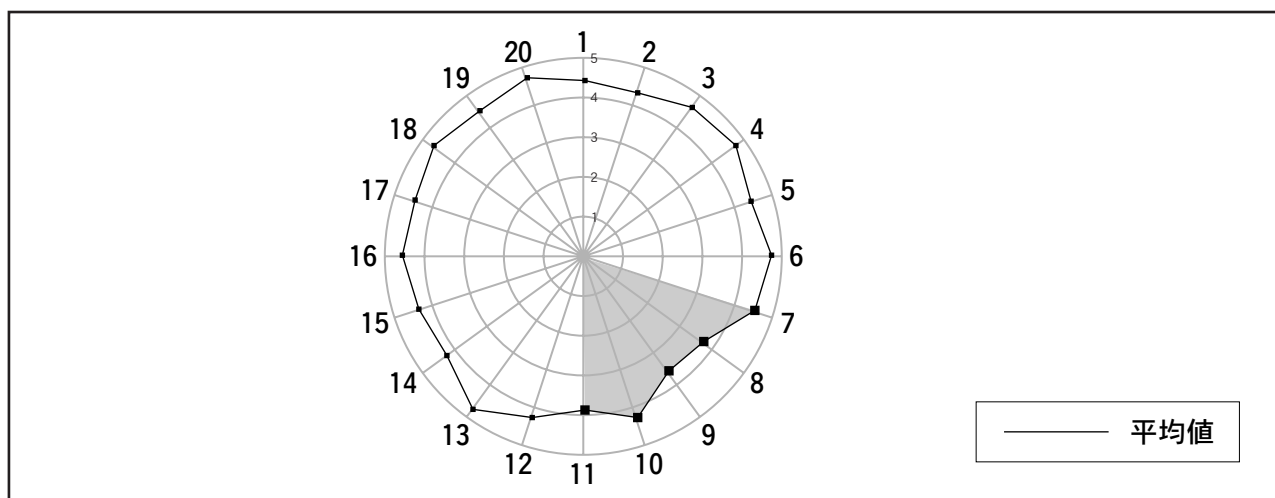
比較的評価得点が低いのは、8及び9、11である。予習復習や自宅での調べ学習を奨励しなかったこと、受講人数(84名)が多いために授業中における発言の機会を保障できないことが反映した結果だと言える。「グループ活動がよかった」という自由記述が散見されたように、グループでの話し合いを随時入れたことは評価されている。

また、受動的な学びに陥らないように、毎時間のようにワークシートを用意し、その場で書き込ませ、その内容を何人かに発表させた。「書くことで自分の考えを整理できた」という自由記述に見られるように好評であった。「パワーポイントの資料が欲しかった」との記述も一つあった。ワークシートにポイントを自分で書くことを奨励しているので、書くための時間をもう少し設ければ解決できると考えられる。

授業科目名 数学科教材論
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 齋藤 昇, 秋田 美代

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	8	1	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	10	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	7	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	5	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	9	5	2	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	5	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	6	1	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	5	5	2	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	10	3	2	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	4	2	1	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	6	3	2	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	8	2	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	14	1	1	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	9	4	1	2	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	5	2	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	7	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	4	2	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	12	3	1	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	10	4	2	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	2	1	0	0	4.7



教員のコメント

本授業では、中学校数学科担当教員を目指す学生が、中学校数学の教科書に現れる教材・教具について、そのねらい・利用方法等を深く理解できること、さらに必要に応じて自ら教材・教具を研究開発できる能力を育成することを目的とした。授業では、中学生がつまづく内容に対する教材・教具、例えば①「負の数の引き算」を理解させるための教具、②四角形を切断して長方形に変形する方法を考えさせる教材、③因数分解の意味を説明する教具、④1つの正方形を2つの正方形に分割する方法を考えさせる教材、⑤「三平方の定理」を自ら創出させるための教具等を開発・作成させるとともに、その教具を使用した学習指導案を作成させた。

授業に対して、「非常にそうである」「かなりそうである」という反応を合わせると、受講生の約90～100%が、授業内容について「教養や専門性を高めるものだった」「教育に対する見方や考え方を学べるものだった」「興味・関心を引くものだった」、授業の進め方について「参加しやすい授業だった」「分かりやすく説明した」、授業に対する満足度について「満足できるものであった」と回答していた。

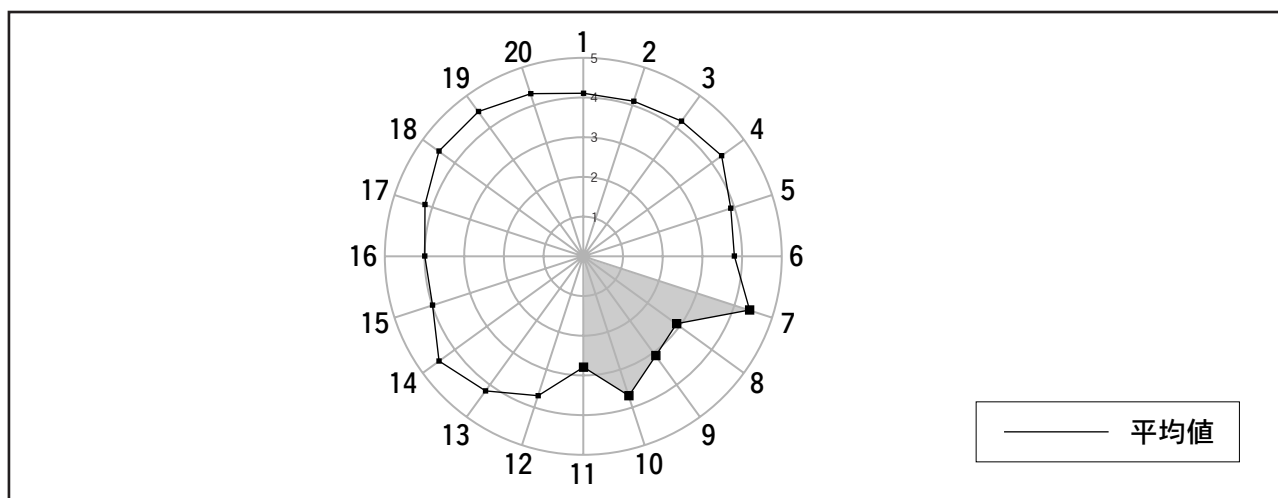
また、記述式のアンケートでは、「教材づくりの楽しさや数学の奥深さがわかった」「教材に対する考えが深まった」「どのように指導すれば生徒が理解できるようになるのがわかった」「教材に対する価値観が変わってきた」「教員になったらこの授業で習った教材・教具を使ってみよう」等の回答があった。

これらの反応から判断すると、授業の目標は、おおむね達成できたと思われる。次年度も理論と実践を融合した授業を行うことを考えている。

授業科目名 保健体育科教育論 I
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 綿引 勝美

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	3	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	6	3	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	9	1	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	7	1	0	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	4	5	0	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	7	4	0	0	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	4	2	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	8	0	2	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	7	2	1	0	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	5	6	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	4	5	1	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	4	5	1	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	2	1	2	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	5	4	0	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	5	4	0	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	4	3	0	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	6	0	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	6	0	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	8	0	0	0	1	4.3



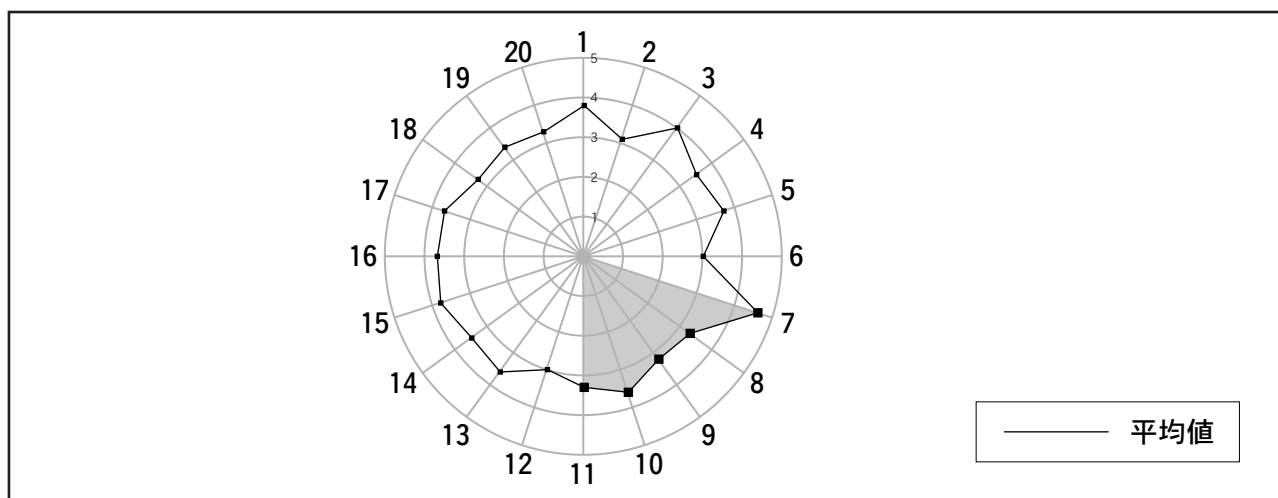
教員のコメント

入学まもない学生が、将来の教員としての学びをはじめる最初の段階に、本授業が位置づいている。内容的には、保健体育科の目標の考え方、その背景を、しっかりと抑えることを重視した構成である。教えられるという立場から、教える立場に変わり目にあたるという意味で、理解の難しい内容をあえて提示している。学生がみずから学びながら授業がすすめられるように、心がけているが、受験的な学びではない、課題をみつけ自ら学習するという姿勢が自然発生的には身につかない、ということが認識された。今後は自ら課題をみつけるための、予備的な学び方の指導を狙いの一つとして位置づけなくてはならない。具体的には、調べ方学習、レポートの書き方、発表やプレゼンテーションの仕方、など、一連の基本的な学びのスキル向上に力を注ぎたい。

授業科目名 中等音楽科授業論
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 西園 芳信

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	7	2	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	5	1	2	0	3.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	6	3	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	5	3	1	1	0	3.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	6	3	0	1	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	5	4	1	2	0	3.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	3	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	4	3	1	2	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	6	0	2	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	6	4	1	0	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	5	2	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	3	4	3	1	0	3.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	4	5	1	0	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	2	4	5	0	1	0	3.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	4	4	1	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	3	5	1	0	0	3.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	8	1	2	0	0	3.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	4	5	2	0	0	3.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	4	3	3	0	0	3.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	6	4	2	0	0	3.3



教員のコメント

この授業は、教員として教科の実践的指導力を育成するための基盤になるもので、それを音楽科教育の理論と実践から展開するものである。そのため、この授業の目的は、中学校における音楽科の教育を実践的に展開するために必要な理論と展開方法を学ぶことである。

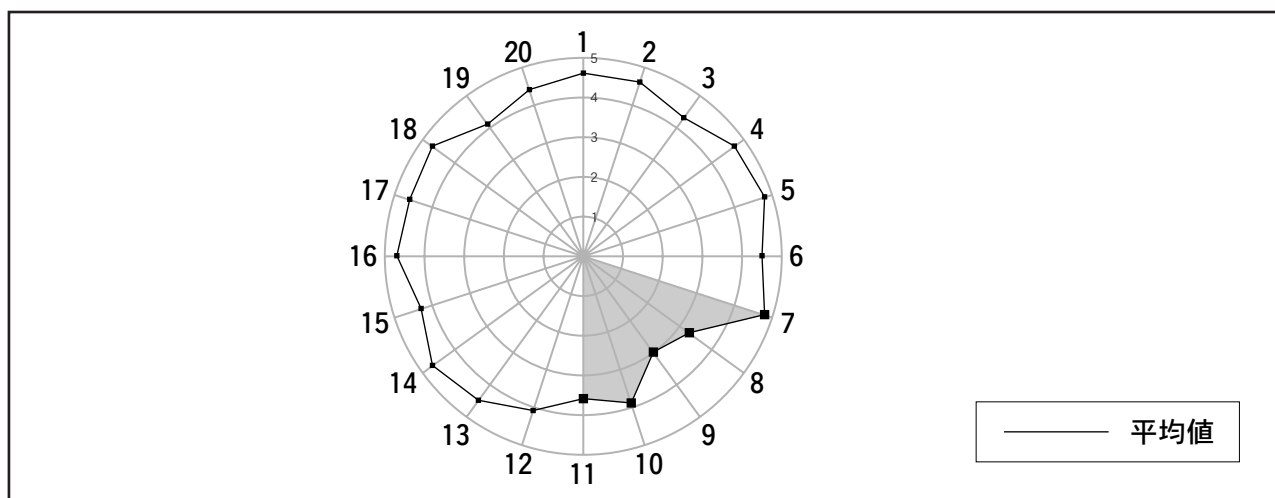
授業に関する目標等、20項目の学生評価の平均値の平均は、3, 5となる。このことからこの授業は、学生に概ね理解できる内容で、授業の進め方も実践的指導力を育成するという観点から実践的な内容を多く取り入れたが、このことも概ね評価できるものと言える。

授業において改善すべき点は、授業の中で学生に積極的に発言を促すことや、学生の理解状況を確かめながら授業をすることである。

授業科目名 英語科教育論 I
 評価実施日 平成20年8月6日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	5	2	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	18	5	2	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	13	8	3	1	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	7	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	19	6	0	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	11	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	20	5	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	11	7	2	3	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	8	5	4	5	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	7	6	3	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	6	7	4	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	8	3	3	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	15	8	2	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	19	5	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	13	7	5	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	17	8	0	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	16	8	1	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	19	5	1	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	11	7	5	2	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	11	2	0	0	0	4.4



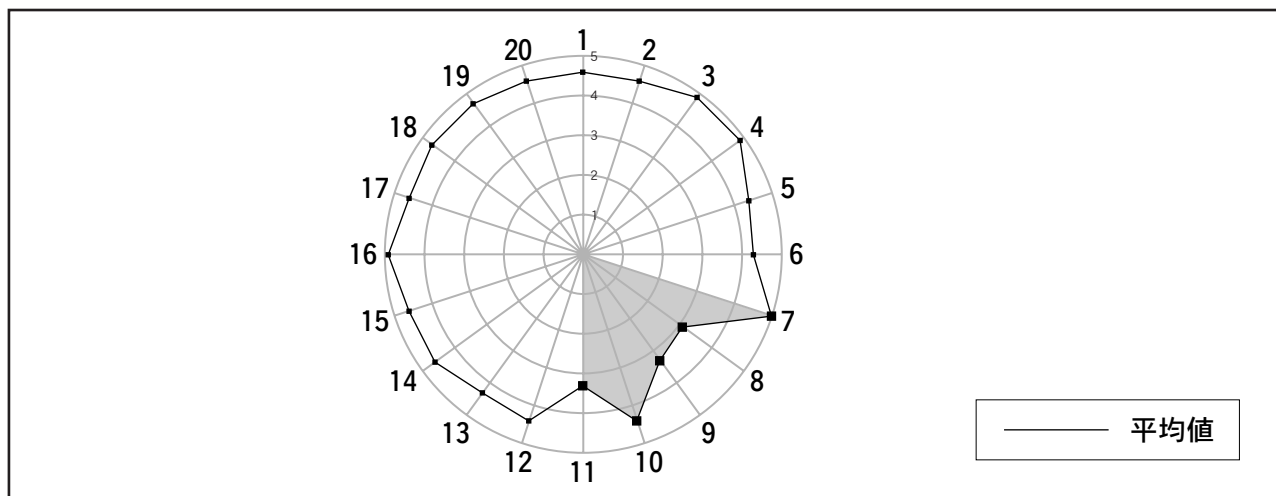
教員のコメント

「1. 授業概要」「2. 授業の内容等」「教員の授業の進め方」「授業に対する満足度」についてはいずれの項目も平均値が4以上であることをふまえると、本授業は受講生にとって高評であったと考えられる。特に、これまでの継続課題であった「授業を進める速さ」（項目19）については4点台に達した。授業内容を精選した結果であると考えられる。しかし「3. あなたの授業への取り組み」（(7)を除く）については3点台と相対的に評定が低く、例年同様、受講生の取り組み姿勢について十分な結果を得ることができなかった。授業中に受講生が発言・質問するなどの機会を増やしたり授業外での学習を促すことに加え、到達目標を明確化するとともに、学生が自身の取り組み状況を把握できるような仕組みを考えたい。また、アンケートの自由記述欄に授業者の授業中の「余談」に関する指摘が複数見られた。個人的には授業開始時のウォーミングアップ材として、また、授業中のリフレッシュ材として、授業内容から逸れない程度に話をしたつもりであったが、必ずしもそのようには受け取られなかったようである。この点に関しても検討し次年度の授業改革につなげたい。

授業科目名 中等家庭科教育論
 評価実施日 平成20年8月7日
 担当教員名 鳥井 葉子

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	3	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	3	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	2	1	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	5	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	4	1	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	2	2	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	2	1	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	3	1	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	4	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	3	1	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	4	3	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	3	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	3	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	2	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	3	0	0	0	4.6



教員のコメント

学生から、この授業でよかったことに「指導案の書き方を学び、みんなや先生の意見を聞いたこと」「中等家庭科の勉強をきちんとしたのは初めてだったのでよかった」「指導案をじっくりと時間をかけて書いて、共有できたのはよかった」「家庭科の授業実践に、即、活用できる内容であった」「受講している人たちが互いに学べることができ、それぞれが意欲的に取り組むことができたと思う」「中学校、高校の現職の先生のお話が聞いたこと」「専門的な分野を学ぶことができてよかった」とあり、特に指導案の書き方、現職の先生の講義が好評であったので、継続したい。

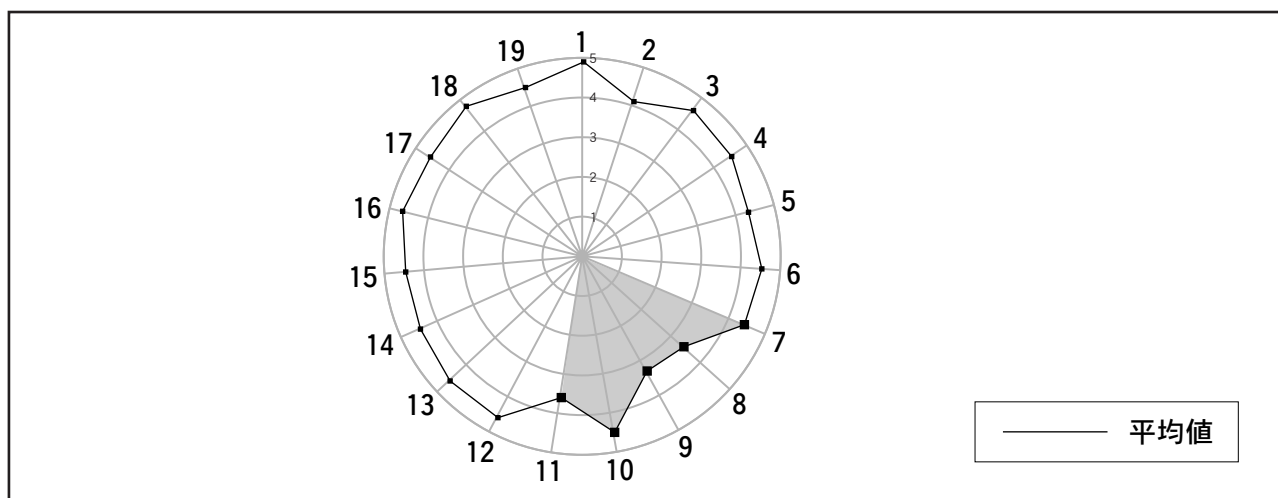
この授業で改善したほうがよいと思うことには「指導案について、学生での意見交換はできたが、もう少し先生からの助言がほしかった」「この授業で使った教科書がわかりにくかった」とあったので、今後改善したい。

20項目のうち、平均値が低かったのは、「あなたの授業へ取り組み」に関する項目で、「8 授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(3.1)、「9 授業中に積極的に発言や質問をした」(3.3)、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」(3.3)であった。積極的な学習・研究態度を培うことが以前からの指導の課題であり、難しいが、今後も検討して改善したい。

授業科目名 公民科教育論
 評価実施日 平成20年7月22日
 担当教員名 西村 公孝

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	1	3	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	1	1	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	1	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	1	1	1	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	2	1	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	3	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	4	1	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	0	4	2	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	4	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	2	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	1	1	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	1	1	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	5	2	1	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	2	1	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	2	0	0	0	4.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	1	1	0	0	4.6
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	2	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	1	0	4.5



教員のコメント

本講義は高等学校の公民科が創設されて以来、社会科教育法から独立した科目として設定されている。本学のように義務教育の教員を目指す教員養成大学では、社会科の免許以外に地理歴史科、公民科の免許を取得する学生は少ない。毎年、大学院生を含めた10人前後の受講生である。

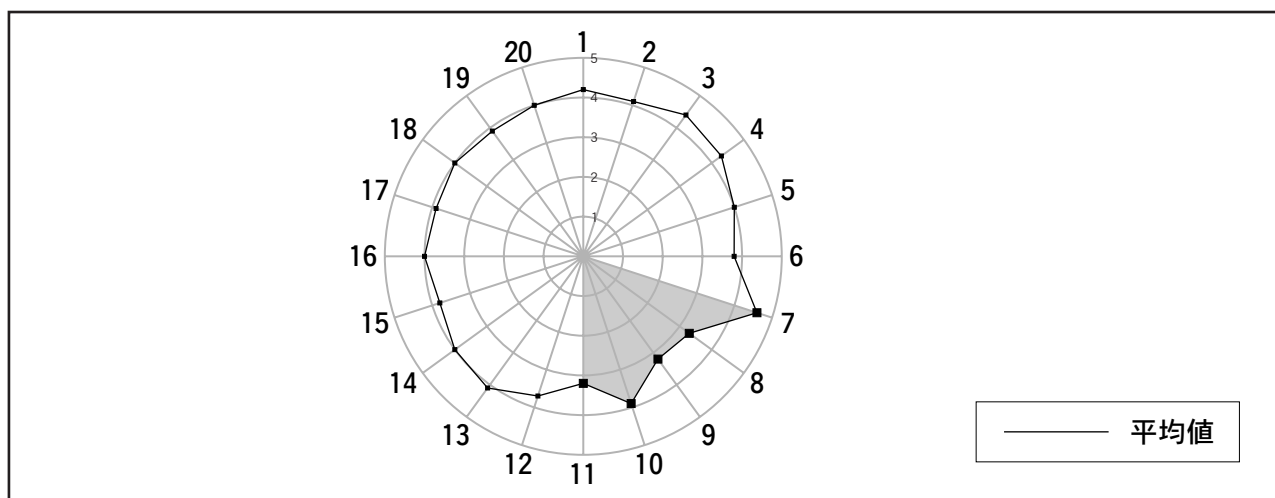
本年度の8名は、学部生4人、大学院生4人（社会系2人、他2人）であった。前半は公民科の歴史、教科の基本的性格、目標と内容、指導と評価などの理論を教授し、後半で課題探究学習の指導方法論を具体的な教材選択で開発する演習的な展開とした。

受講生の評価は、平均的に好評であり4.5以上が13/19項目ある。評価が3点代であったのは、授業への取り組み姿勢の項目であり、学生・院生の自己評価が低いものと思われる。本評価の回答を見る限り、この授業は計画された内容が目的にしたがって実践され成果を修めたのではないかと考えている。改善点を挙げるとするともう少し、学生の質問や発言を促すなどの工夫がいるということになるだろう。来年度以降、受講生の実態を把握した上でよりよい教科教育の授業を目指したい。

授業科目名 初等家庭科教育論
 評価実施日 平成21年2月12日
 担当教員名 福井 典代, 鳥井 葉子

回答者数 154名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	60	67	25	2	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	52	67	32	3	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	81	52	19	2	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	69	64	19	2	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	52	64	31	6	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	41	59	42	10	2	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	107	33	9	4	0	1	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	19	41	63	23	7	1	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	22	40	45	37	9	1	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	35	70	40	8	0	1	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	15	42	61	25	10	1	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	25	74	39	14	2	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	54	65	29	5	1	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	50	64	33	5	2	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	33	69	40	9	3	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	51	67	28	8	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	45	55	44	6	4	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	59	52	30	7	6	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	51	50	43	8	2	0	3.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	40	68	40	2	1	3	4.0



教員のコメント

授業の総合的評価と考えられる「5 授業に対する満足度（「22 この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」）」の平均値は4.0であり、「7 授業によく出席した」「3 授業内容は授業概要に沿っていた」「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」の項目の値は比較的高かった。しかし、「9 授業中に積極的に発言や質問をした」「11 分からないことや疑問に思ったことは調べた」「8 授業内容を理解するために予習や復習をした」の項目の値は低く、学生の授業への取り組みの消極性は、他の授業でも以前からみられる課題であり、引き続き改善策を検討したい。

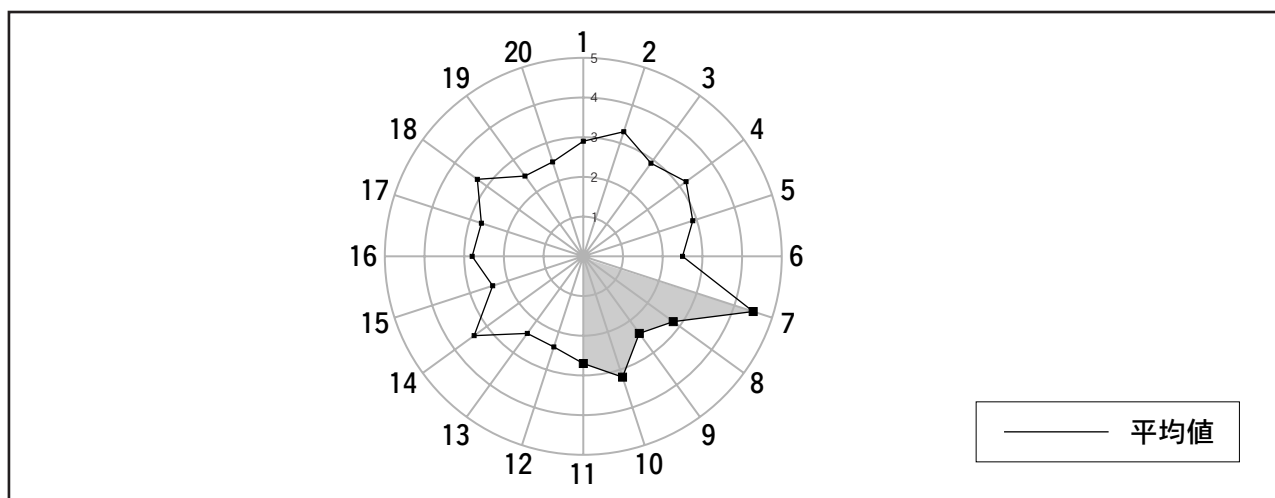
「授業でよかったこと」には、多くの学生が模擬授業の経験と他の班の多様な模擬授業が観察できたことを挙げていた。その次に多かったのは、さまざまな実験ができたことであった。また、指導案の書き方については、学べてよかったと記述した学生がいる一方で、もう少し詳しく学びたいという学生もみられた。「改善したほうがよいと思うこと」には、「実験とそれを活用した模擬授業の準備期間が1週間では短い」という意見が挙げられた。

これらの授業評価を受けて、今後も今年度と同様に家庭科の学習内容を代表する実験とそれを生かした模擬授業を中心とした授業を進め、さらに充実させるために、学生の意見を取り入れて改善していきたい。

授業科目名 算数教育論B
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 117名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	25	39	18	17	8	2.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	18	39	26	11	15	8	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	22	48	14	16	8	2.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	32	31	11	17	8	3.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	13	23	30	19	23	9	2.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	19	23	25	33	8	2.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	79	15	9	1	5	8	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	15	49	18	18	8	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	7	10	38	23	31	8	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	16	29	39	16	9	8	3.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	20	39	28	17	8	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	14	39	22	30	8	2.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	14	30	27	32	8	2.4
	(14) 熱心に指導した。	28	29	30	8	14	8	3.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	19	27	31	28	8	2.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	17	35	22	23	8	2.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	19	36	21	22	11	2.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	27	25	27	13	17	8	3.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	7	16	34	22	29	9	2.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	19	17	33	30	9	2.5



教員のコメント

月曜と金曜にあり、昨年と同様、休日により月曜の算数教育論AがBよりかなり遅れた。そのため、土曜日に集中講義を行った。

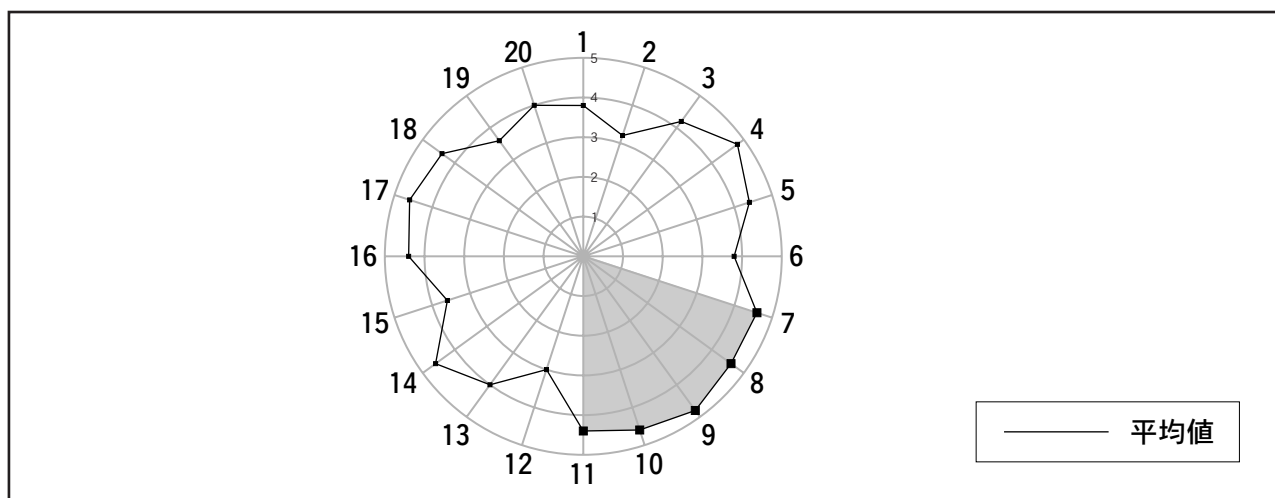
本年度は、各授業時間の最初に算数教育に関する英文の訳を行った。教員採用試験に対して実施する旨を最初に説明したが、学生のブーイングがアンケートに表れているようである。親の心子知らずか。

また、指導案の書き方を講義し、指導案を書かせたが、授業を聴いていないせいか、話にならない指導案が多くあった。もちろん、書かせるだけでなく、一つ一つ添削をし、返却し、清書させた。しかし、清書しても、まだ修正の必要がある指導案については、さらに添削をし、返却し、清書させた。ところが、これもアンケートから判断すると、学生にとっては、じゃまくさく、迷惑なことのようなのである。学生の半分以上は教員として採用されていくのであるが、危機感を抱く次第である。楽しんで手間をかけずが、当世学生気質か。

授業科目名 美術科授業論
 評価実施日 平成21年2月10日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	1	1	1	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	3	1	0	1	0	3.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	1	0	1	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	4	1	0	0	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	0	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	2	2	0	1	0	3.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	3	1	0	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	3	2	0	0	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	1	0	2	0	0	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	1	2	0	0	0	4.0



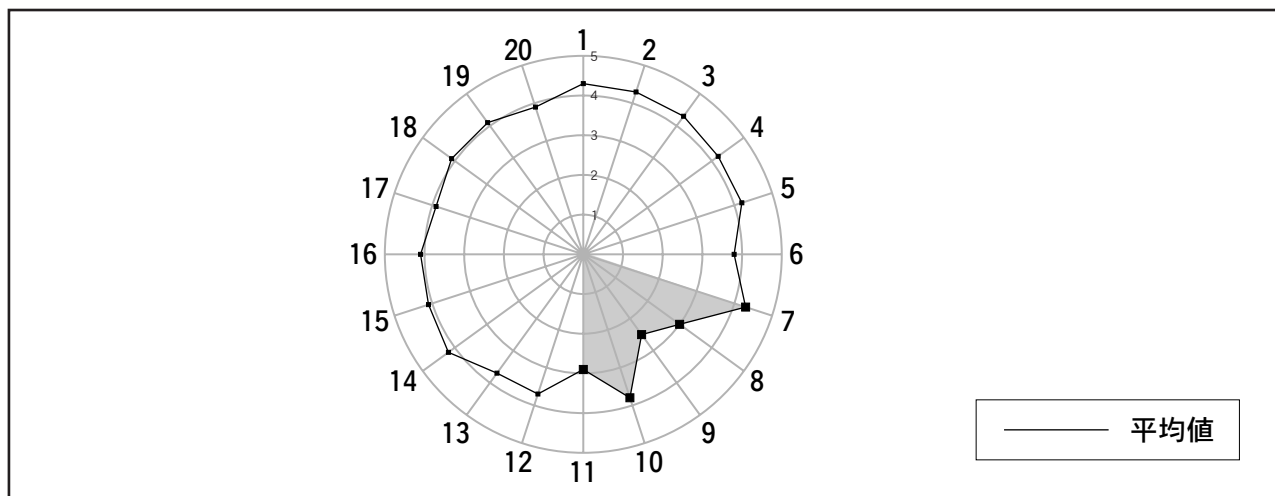
教員のコメント

授業への取り組みに関する受講生の自己評価が、いずれも4.4から4.8という高い評価であったことが、何よりもこの授業の成果である。いかにすれば自発的で積極的な学習姿勢を身に付けることができるか方法論を検討した結果、現在の形態になった授業なので、当然といえば当然である。しかし、問い(7)の授業への出席に関しては、授業者の把握している実態とは異なる。私が担当しているほかの授業では、すべての回に出席する全出席者も少なくないが、この授業ではそのような学生は少なかった。いろいろな理由で欠席をする者が少なからずいた。そのために課題を出す流れが複雑になり、足並みを揃えて発表を行なわせることができなかつた。結果として、個々の受講生によって進度が異なつたという趣旨の自由記述欄における問題点の指摘に繋がつた。できるかぎり、受講生の興味・関心に沿い、さらに希望を入れてスピードを調整したが、これらの項目の得点が低いのは皮肉な結果である。振り返つて反省するのは、もう少し、毅然とした態度で、授業内での課題の提出締め切りなどを守らせるよう努めるべきだつたことである。自由記述欄にて、時間の延長について述べる者もいたが、十分なサポートと各ステップの区切りを速く終えたいために、授業が長引くことがあつた。この点については、反省している。

授業科目名 初等社会科教育論
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 西村 公孝

回答者数 164名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	72	74	17	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	68	71	24	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	65	80	16	3	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	74	62	20	6	2	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	71	62	25	5	1	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	44	67	35	12	4	2	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	90	45	23	6	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	20	24	68	36	16	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	18	9	56	40	40	1	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	37	74	36	15	2	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	17	26	63	35	23	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	38	56	55	13	2	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	42	55	48	15	4	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	69	69	16	8	1	1	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	54	72	32	4	1	1	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	58	75	22	8	1	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	53	58	42	8	2	1	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	60	68	29	5	1	1	4.1
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	55	73	31	2	1	2	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	47	69	31	10	2	5	3.9



教員のコメント

本講義は学部1年を対象とした社会科教育に関する基礎理論の科目である。社会科教育の歴史や基本的性格、学習内容と指導方法・評価など基礎的な理解をねらいとしている。この授業には長期履修生の50名が受講しているために、全体では163人を対象とした講義になっている。全体の満足度は3.9であり、大講義室での163人の評価としてはこのくらいの数値になると思われる。講義への出席に関する項目も4.3と高く、授業概要や進め方に関する項目の評価も4.3となっている。

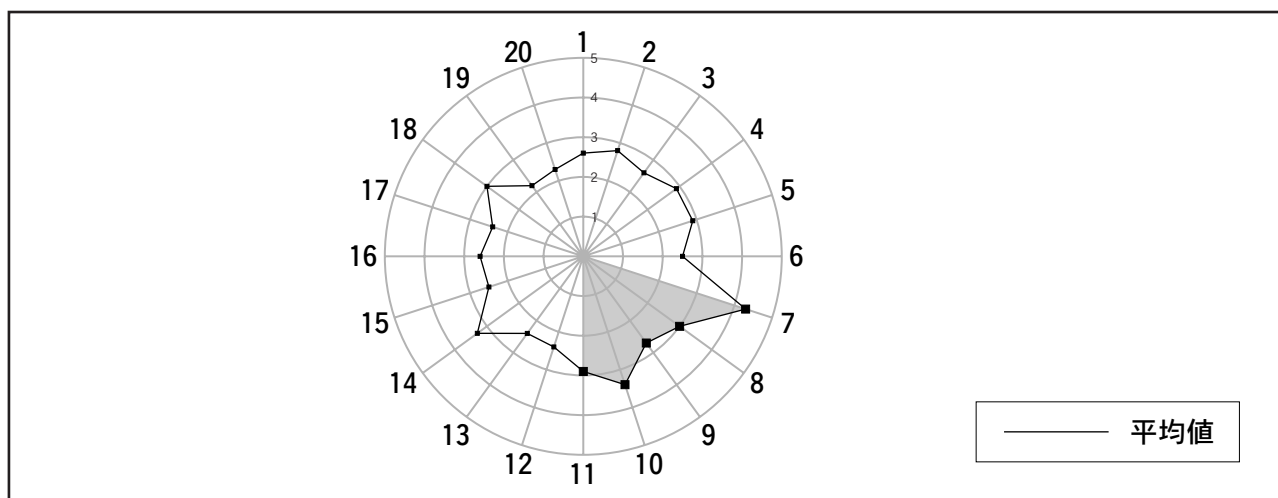
評価されている項目は、「熱心に指導した」4.2、「分かりやすく説明した」4.1などである。反対に評価が低かったのは、「積極的に発言や質問をした」2.5、「分からないことや疑問に思ったことは調べた」2.9などである。既述したように163名を対象とした講義ではこのような評価になるのは当然であり、改善のためには講義を分けるなどの教務的な手当が必要となる。

時間数の関係で学習指導案を作成して模擬授業を体験するところまではできなかったが、現職派遣の院生による授業づくりや教材開発の手順の講話を取り入れるなど改善をした。そのため、最終講義でのテストの際のコメントには、「今まで社会科を勉強してきてどうして社会科が必要なのか、その存在意義が理解できた」「社会科がどうして私たちの生活に大切かが分かった」「実際の授業づくりの大変さや面白さが理解できた」など、本講義のねらいに到達した意見も多々見られ、本講義の成果が確認された。

授業科目名 算数教育論A
 評価実施日 平成21年2月16日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 40名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	4	13	6	12	0	2.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	14	5	11	0	2.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	4	10	5	14	0	2.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	6	14	2	11	0	2.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	6	11	8	8	0	2.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	5	10	5	15	0	2.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	25	5	7	1	2	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	4	16	9	4	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	15	9	8	0	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	11	11	7	2	1	3.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	6	17	7	6	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	3	8	9	15	0	2.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	1	10	9	14	0	2.4
	(14) 熱心に指導した。	11	6	12	5	6	0	3.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	5	8	7	15	0	2.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	4	9	6	14	0	2.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	2	13	6	14	1	2.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	8	11	3	10	0	3.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	3	8	7	18	0	2.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	4	6	7	18	0	2.3



教員のコメント

月曜と金曜にあり、昨年と同様、休日により月曜の算数教育論AがBよりかなり遅れた。そのため、土曜日に集中講義を行った。

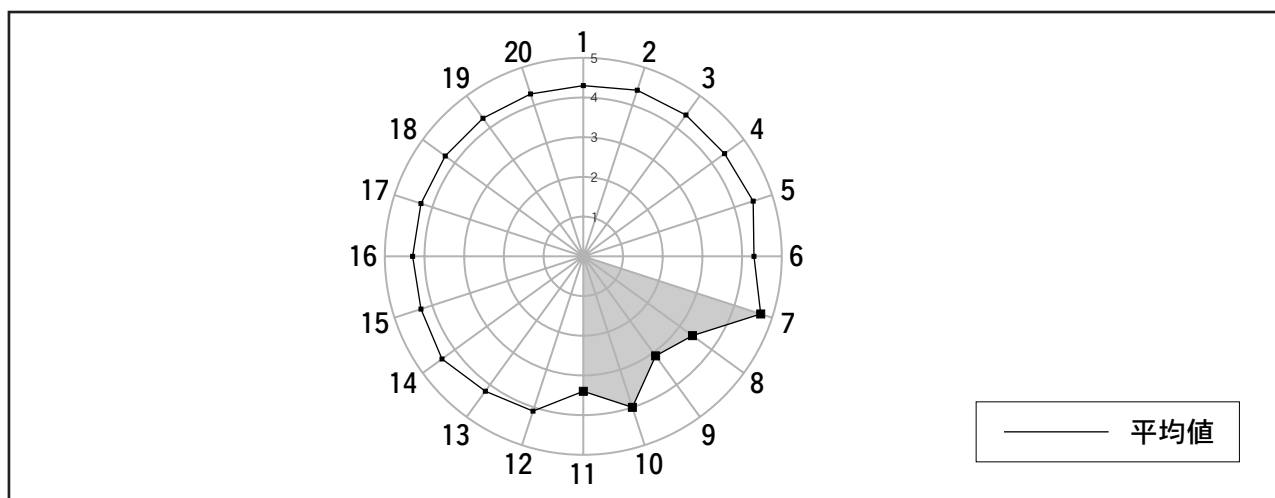
本年度は、各授業時間の最初に算数教育に関する英文の訳を行った。教員採用試験に対して実施する旨を最初に説明したが、学生のブーイングがアンケートに表れているようである。親の心子知らずか。

また、指導案の書き方を講義し、指導案を書かせたが、授業を聴いていないせいか、話にならない指導案が多くあった。もちろん、書かせるだけでなく、一つ一つ添削をし、返却し、清書させた。しかし、清書しても、まだ修正の必要がある指導案については、さらに添削をし、返却し、清書させた。ところが、これもアンケートから判断すると、学生にとっては、じゃまくさく、迷惑なことのようなのである。学生の半分以上は教員として採用されていくのであるが、危機感を抱く次第である。楽しんで手間をかけずが、当世学生気質か。

授業科目名 道徳教育指導論A
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 兼松 儀郎

回答者数 108名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	42	43	10	1	0	12	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	48	37	8	3	0	12	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	49	37	10	0	0	12	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	52	33	10	1	0	12	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	55	32	8	1	0	12	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	48	32	12	2	1	13	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	70	19	7	0	0	12	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	21	18	38	16	3	12	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	18	14	33	21	10	12	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	30	39	21	5	1	12	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	19	20	38	17	2	12	3.4
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	38	33	19	4	2	12	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	39	39	14	3	1	12	4.2
	(14) 熱心に指導した。	55	27	12	2	0	12	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	45	35	14	2	0	12	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	44	38	13	1	0	12	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	50	28	14	3	0	13	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	53	24	14	5	0	12	4.3
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	49	33	12	2	0	12	4.3
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	41	41	10	2	1	13	4.3



教員のコメント

履修者数が多いことから、平成19年度に引き続き、学部1年次生と大学院生との2クラスに分けて授業を行った。授業評価は、学部1年次生のクラスについて行った。

平均値からみて評価の高い項目は、「授業によく出席した。」「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」「授業内容は、授業概要に沿っていた。」「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。」「成績評価の方法は、明確に示されていた。」「熱心に指導した。」であった。授業概要、授業の内容、授業の進め方、授業に対する満足度について、すべての項目が、4.1以上であり、良好といえる。

しかし、学生自身の授業への取り組みに関する項目のうち、予習・復習、授業中の発言や質問などについては、他の項目と比較すると平均値が低く、学生の主体的な勉学を促すことが課題といえる。

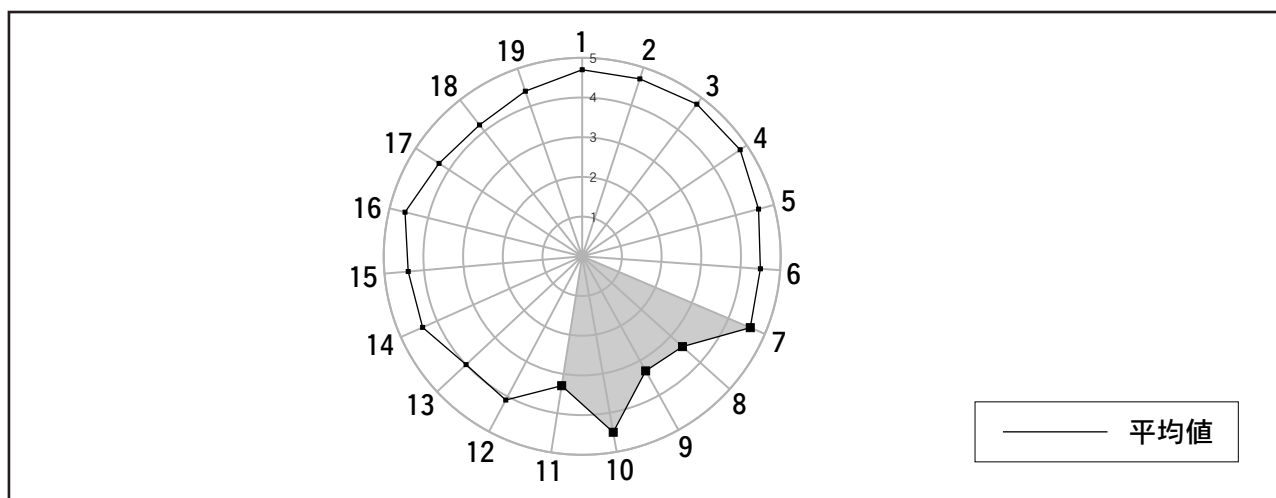
自由記述による学生の意見として、「学習指導案の作成や先輩による教育実習の体験話がよかった。」「道徳教育とはどういうものか基礎から学べた。」「道徳教育の大切さがわかった。」「パワーポイントや資料がわかりやすかった。」等があった。

なお、評価選択人数のうちNAは、欠席者のアンケート用紙も回収したことによると考えられる。

授業科目名 英語科教育論Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月27日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 28名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	19	9	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	21	5	1	0	0	1	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	22	6	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	23	4	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	17	10	1	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	16	11	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	19	6	3	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	7	11	4	1	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	6	8	6	2	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	15	11	1	0	0	1	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	4	13	3	2	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	8	9	0	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	9	6	1	1	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	15	10	3	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	8	5	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	18	6	3	0	0	1	4.6
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	9	5	0	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	11	11	6	0	0	0	4.2
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	10	4	0	0	0	4.4



教員のコメント

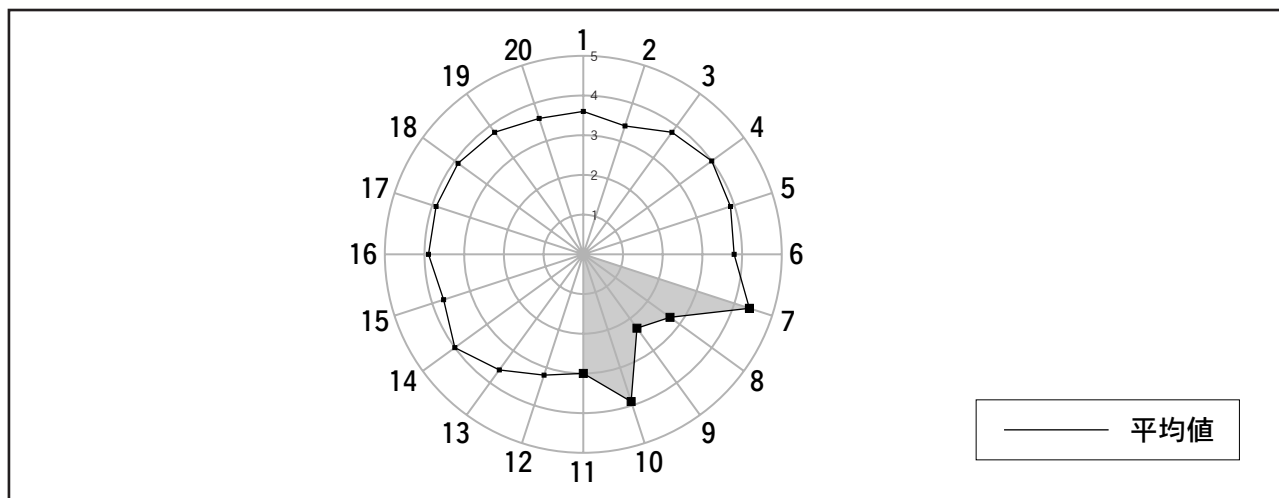
本授業では、英語の授業で取り扱う言語材料をその構成要素（文化・語彙・文法・発音）別に教授・学習の観点から見直すとともに、その効果的指導法を具体例を交えながら論じた。授業への取り組みについての受講生自身の評価はさほど良くなかったが（5項目の平均が3.8）、授業への満足度に関して（質問19）は比較的高い評価（4.4）を得ることができ、評価対象となった19項目全体でも比較的高い評価（4.3）を得ることができた。なお、受講生の授業への取り組みに関する5項目を除いた14項目、つまり授業担当者自身の授業方法に関する14項目の評価の平均は4.5であった。自由記述欄のコメントに関しては、「自分自身が教職に携わる上で非常に役立った」、「課題テストが2回あり、自主勉強しなければいけないので、よく勉強になりました」、「様々な面から指導方法を考えることができてよかった」、「文化、語彙、文法、発音のそれぞれの分野において詳しく学ぶことができてよかった」、「様々な補助プリントがとても勉強になった。専門性を高めるためにも良い授業だった」という好意的意見を受講生から得ることができた。これらの好意的評価は授業担当者にとって大きな励みとなっているが、その一方で、「進むのが速い気がした」、「もう少しゆっくり進めてほしい部分もあった」、「毎回5分以上は授業が長引いていた」という改善意見も寄せられた。今後、これらの改善意見や本学のコア・カリとして実施されている「初等中等教科教育実践Ⅰ～Ⅲ」との整合性をどう確保するかという課題とも連動させながら、受講生の授業への取り組みをより積極的にさせる方法について検討を続けていきたい。

授業科目名 発達心理学

評価実施日 平成21年1月29日

担当教員名 皆川 直凡, 山崎 勝之, 田村 隆宏, 浜崎 隆司, 久米 禎子, 島田 恭仁 回答者数 56名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	27	13	8	1	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	18	22	7	1	0	3.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	32	13	2	1	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	26	9	1	2	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	14	29	10	0	3	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	26	13	2	3	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	33	15	5	2	1	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	11	20	17	7	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	9	14	20	13	0	2.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	31	12	1	1	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	18	23	10	5	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	14	23	10	3	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	21	17	6	1	0	3.6
	(14) 熱心に指導した。	13	32	9	1	1	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	26	20	1	1	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	11	32	12	0	1	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	31	11	1	1	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	13	30	11	1	1	0	3.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	11	27	16	1	1	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	30	10	6	2	0	3.6



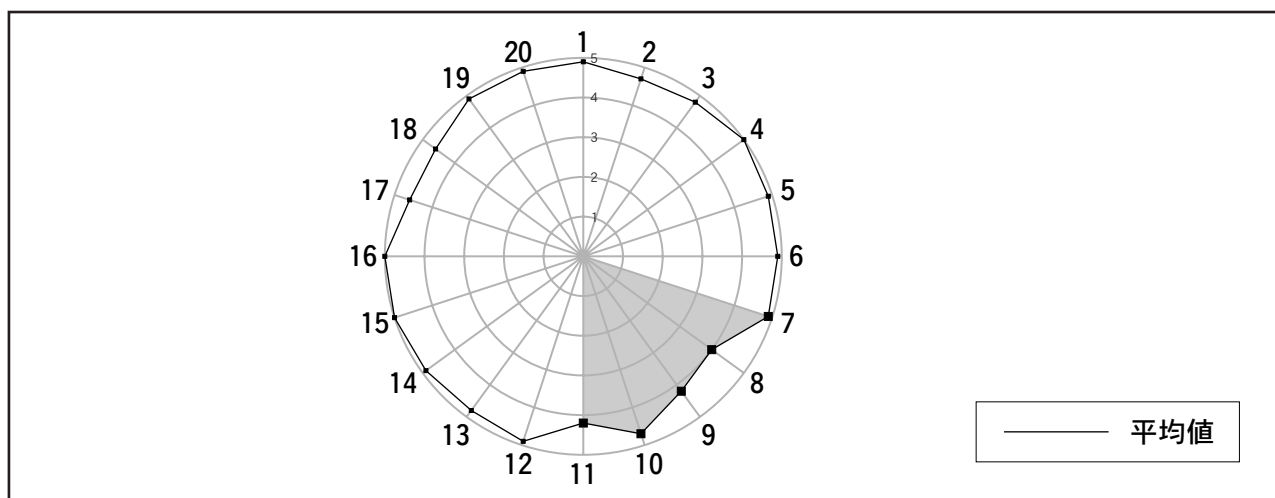
教員のコメント

評価の平均値と評価段階別回答者数分布、および自由記述回答を総合的に考察すると、授業内容は教養や専門性を高め教育に対する見方・考え方を学べるものであり、教材（本授業では、配布資料）や教育用機器（パワーポイントなど）の利用は内容理解の上で適切であったが、成績評価の方法を含めた授業概要の示し方は必ずしも十分とはいえず、学生の理解状況の確認と授業への参加しやすさについては、やや不十分であったと評価されたことになる。予習・復習、調べ学習といった自主的な学習はあまり行われていないことも判明した。今後は、6名の授業担当教員によって話し合い、授業概要の示し方のいっそうの明確化を図るとともに、授業進行上の工夫により自主学習を促し、随時、授業の進め方や理解度についての意見聴取を行うなどして、授業改善に努めたい。

授業科目名 中等家庭科授業論
 評価実施日 平成21年2月5日
 担当教員名 鳥井 葉子

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	1	1	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	2	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	1	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	2	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	1	1	0	1	4.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	1	1	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	4	0	1	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	1	0	0	0	4.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	0	1	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	8	1	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	0	0	0	0	5.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	2	1	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	2	1	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	1	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	1	0	0	0	4.9



教員のコメント

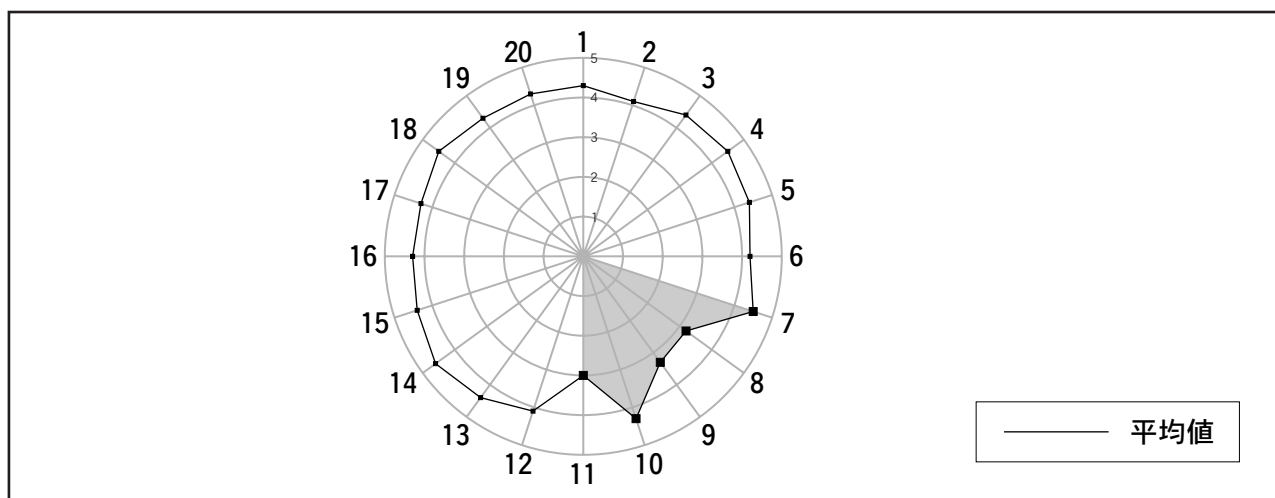
授業の総合的評価と考えられる「5 授業に対する満足度（「22 この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」）」の平均値は4.9とかなり高かった。低かった項目は、「8 授業内容を理解するために予習や復習をした」の4.0、「9 授業中に積極的に発言や質問をした」「11 分からないことや疑問に思ったことは調べた」の4.2であり、学生の授業への取り組みの改善は、以前からの課題でもあり、引き続き検討し新たな指導方法を取り入れたい。

「授業でよかったこと」には次の意見が出された。「全員の模擬授業を受けることができてよかった。指導案の書き方が学べてよかった。」「模擬授業を通して学びが多かった」「学生の前で授業を行うことで自身の問題点や長所に気づいた」「前期の指導案の考察をふまえた模擬授業で細かく分析し具体的な指導方法を学ぶことができ、専門性を高める授業としてとても役立った」「専門性を高める授業だったと思う」「自分で模擬授業を行ったり、他の人の模擬授業を多く見ることができ、とても勉強になった」「模擬授業を一人でやったこと。また、それに対して生徒役からの指摘や先生からの指摘を受け、参考になった。他の人の授業を見るのもよかった」「一人ひとりが模擬授業をやることができたし、いろいろな分野の模擬授業を見ることができたのでとても学びが多く感じられた」「一人ひとりが模擬授業を行い評価し合える点がとても勉強になった」で、今後も模擬授業とその評価中心に進めたい。

授業科目名 図画工作科教育論A
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 65名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	26	30	5	0	1	3	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	21	28	11	1	1	3	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	32	22	7	0	1	3	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	40	17	4	0	1	3	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	33	22	6	0	1	3	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	29	24	5	3	1	3	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	40	18	3	0	1	3	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	17	24	9	5	3	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	15	8	23	10	6	3	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	27	25	9	1	0	3	4.3
	(11) わからないことや疑問に思ったことは調べた。	6	13	25	12	6	3	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	23	26	11	0	2	3	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	37	16	7	1	1	3	4.4
	(14) 熱心に指導した。	45	13	3	0	1	3	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	36	19	6	0	1	3	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	35	17	8	0	2	3	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	34	18	8	1	1	3	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	40	15	6	0	1	3	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	32	20	9	0	1	3	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	30	24	7	0	1	3	4.3



教員のコメント

授業評価の平均値は、17の項目で4.0を超えており、最低の評価でも3.0であることから本授業に対する学生の評価は概ね良好であったと判断できる。

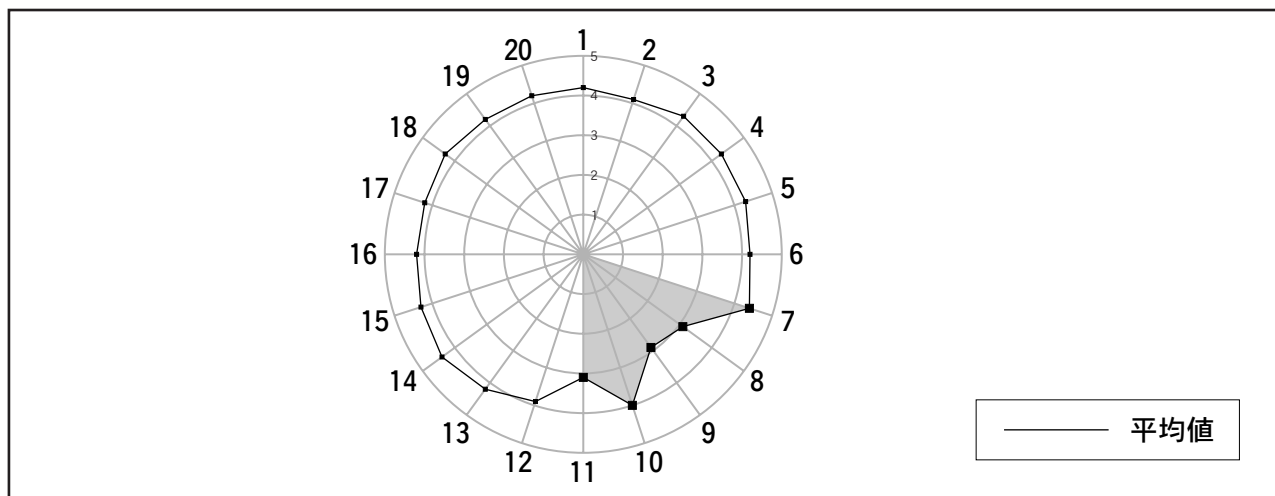
ただ大項目別に見ると、「3あなたの授業への取組について」は、その他の項目と比較して、評価が明らかに低かった。この項目は学生が自身の授業への取組について問うものであるが、小項目(8)予習復習、(9)積極的な発言、(11)わからないことを調べるという3つの項目が極端に低く、授業の仮名での改善の必要性を痛感している。これらの項目は昨年度も同様に低い評価であった。

その他、学生からの提言には「(この)授業の評価基準がわかりやすかった」「実践的な内容であった」「指導案作成がよくわかった」といったプラスのコメントや、「配布プリントが少なかった」「授業時間がオーバーしがちであった」といったマイナスのコメントが示された。プラス点は授業改善として重点をかけていたところなので成果があがったと評価したい。マイナス点については、次年度以降改善を進めていきたい。

授業科目名 生活科教育論
 評価実施日 平成21年2月18日
 担当教員名 村川 雅弘, 西村 公孝, 木下 光二, 善野八千代

回答者数 139名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	48	71	18	1	1	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	47	61	24	6	1	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	58	61	18	2	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	58	62	18	0	1	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	60	60	17	1	1	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	62	54	19	1	3	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	83	37	17	2	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	22	27	47	29	14	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	16	32	40	25	26	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	48	52	35	3	1	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	21	32	48	21	17	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	39	56	37	6	1	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	57	61	18	2	1	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	68	53	17	1	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	61	58	19	1	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	59	52	26	2	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	59	50	28	2	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	67	52	19	1	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	58	52	28	1	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	52	64	19	3	1	0	4.2



教員のコメント

西村, 木下, 村川, 非常勤の善野八千代先生の4人で担当したために、結果は4人の総合評価である。全般的に評価は高いが、項目の8, 9, 11は芳しくない。9については受講生の人数(172名)が多いことが影響している。8と11については授業中での課題や提出課題が比較的多かったために、家庭での学習を奨励しなかったことが要因と考えられる。

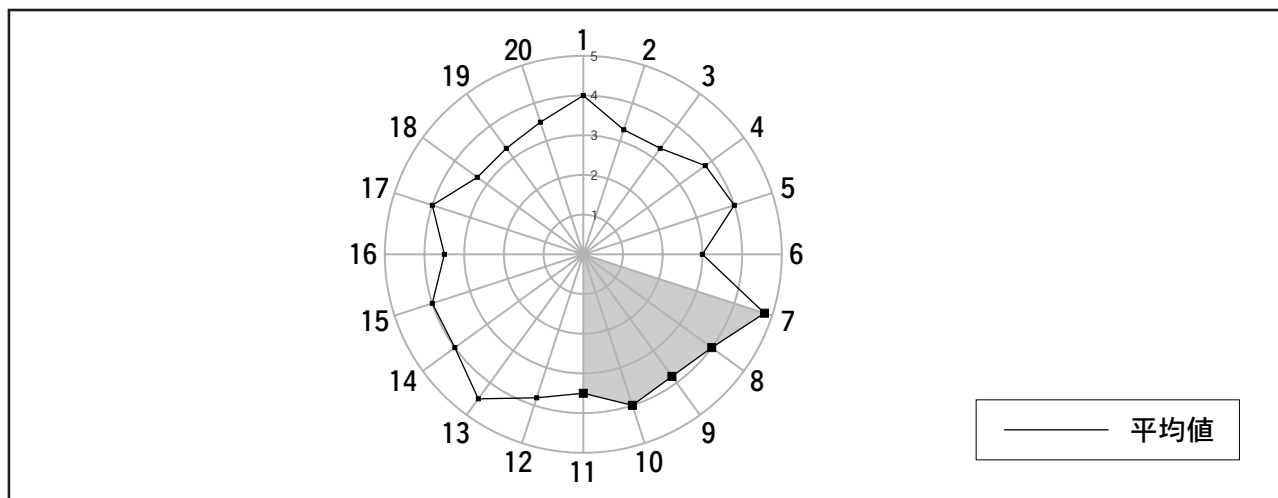
自由記述を見てみる。全体的には肯定的な意見が多い。特に「実践的な話が多く具体的で分かりやすかった」「色々な角度や視点から学ぶことができた」「活動が多く楽しかった」などの意見が多かった。現場出身あるいは現場での実践研究が豊かな教員が担当していることが反映していると考えられる。改善点としては「ペットボトルによるイカダ製作ができなくて残念だった」「オムニバスのために少し一貫性に欠ける」といった意見が各2,3件見られた。前者は実施するのには寒い時期という開講時期の問題である。後者については多面的であることにおける表裏一体の問題である。肯定的な意見の方が多いために今後も踏襲していきたい。

全体的には固定式大教室での大人数授業にも関わらず肯定的な反応が多かった。また、善野先生に対する肯定意見も多く、今後も2コマ程度は非常勤をお願いすべきと考える。

授業科目名 美術科教育特論
 評価実施日 平成21年2月24日
 担当教員名 山木 朝彦, 山田 芳明

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	2	0	2	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	0	2	1	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	1	3	0	0	3.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	1	2	0	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	0	2	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	1	2	1	0	3.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	0	2	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	2	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	1	2	1	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	2	0	0	3.5
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	1	2	0	0	3.8
	(13) 学生参加型の授業だった。	3	0	1	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	2	0	2	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	0	2	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	1	1	1	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	2	1	0	0	4.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	0	2	1	0	3.3
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	0	1	3	0	0	3.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	2	2	0	0	3.5



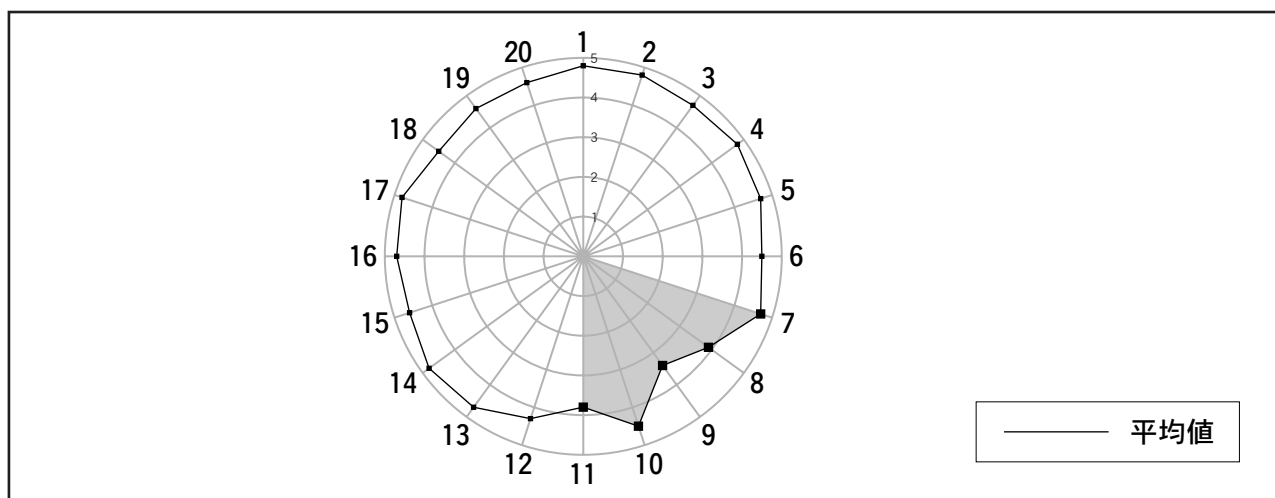
教員のコメント

自由記述欄では、「実際に授業で使える教材をつくることのできた」など評価するコメントが複数あったが、授業に対する満足度は授業者が期待する値よりも低く、3.5に留まった。とくにショックだったのは、「授業内容は、興味・関心を引くものだった」かどうかを問うた問い6が3.0に留まった点である。授業者のねらいは、この項目こそ4.0以上の評価を得たいところであった。平均が4.5と、評価の高い項目は、「学生参加型の授業だった」かどうかを問うた問い13である。逆に低かった項目は、授業の進度と問いへの適切な受け答えに関する項目である。教育実践現場で役立つ鑑賞用教材をたくさん作って欲しいという願いが裏目に出たのであろう。この点を教訓として、次年度の授業では、無理の無い課題の量を心がけたい。

授業科目名 中等社会科授業論
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 草原 和博

回答者数 28名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	23	4	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	24	3	1	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	22	4	2	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	24	3	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	22	4	2	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	17	8	3	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	21	5	2	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	12	7	2	0	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	9	11	2	2	0	3.4
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	17	9	2	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	7	11	7	2	1	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	15	3	0	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	21	6	1	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	24	2	2	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	18	8	2	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	21	5	2	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	23	4	1	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	15	12	1	0	0	0	4.5
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	19	7	2	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	19	8	1	0	0	0	4.6



教員のコメント

おおむね高評価が得られた。評価の平均値は大半の項目で4.5以上あった(学生の取組に関する項目を除く)。とくに平均値が4.7以上あったのは、項目1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 13, 14, 16, 17である。項目12「学生の理解状況の確認」は、平均4.3と昨年に比べて若干改善された。

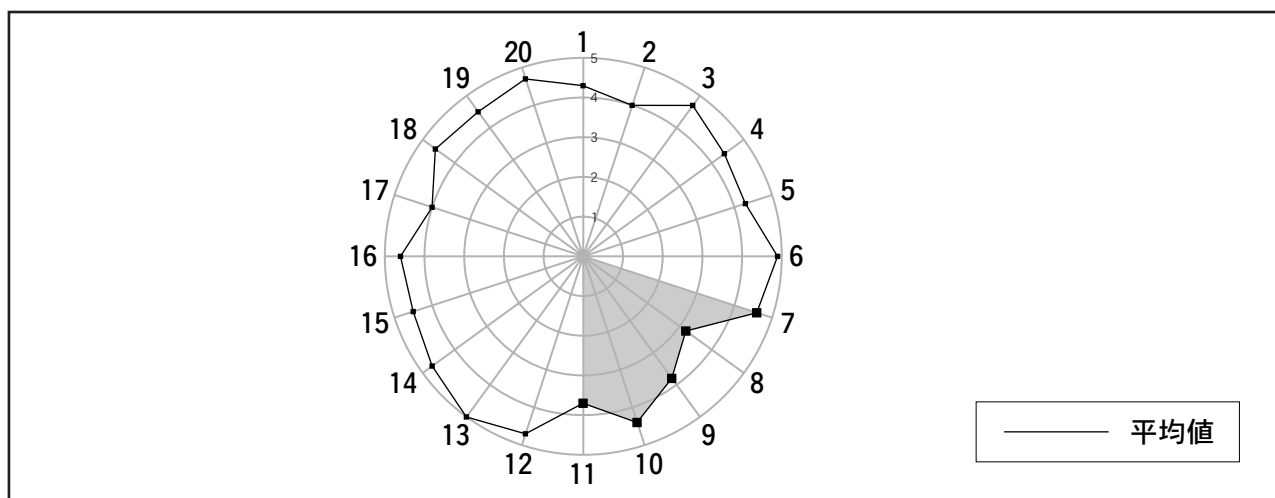
一方、平均値が4.0以下だったのが、項目8「予習・復習」9「授業中の発言」11「授業外の自己学習」である。例年どおり、学生自身の取組に関する項目で、低い数字が出ている。しかし、教員は、受講生の取組の姿を大いに評価している。学生は、毎回の宿題にも真摯に取り組み、質の高い成果を発表していた。その内容は、到達目標をクリアしていた。問題は、教員の認識と学生の認識のズレにある。引き続き、学生が自らの学びの「意義」や「達成度」を実感できる授業の進め方を検討したい。

以下、自由記述の回答を紹介する(一部表現を簡略化)。評価できる点：「教師とは何か、教師として為すべきことが理解できた」「どのような授業が「よい授業」であるかを、VTRで検証・比較することができた」「授業を行う上で、生徒に何を身につけさせたらよいか分かった」「社会科の授業をどのように作っていけばよいか分かった」。改善すべき点：「最後は、資料を読むばかりで少しつまらなかった。もっと全員が参加しながら、授業について話し合う機会が欲しかった」→ご指摘もとてもです。改善します。

授業科目名 国語科教育特論
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	4	3	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	5	1	0	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	7	1	0	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	3	3	1	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	4	6	0	0	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	5	0	0	0	3.7
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(13) 学生参加型の授業だった。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	1	4	0	0	1	4.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	7	2	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	3	0	0	0	0	4.7



教員のコメント

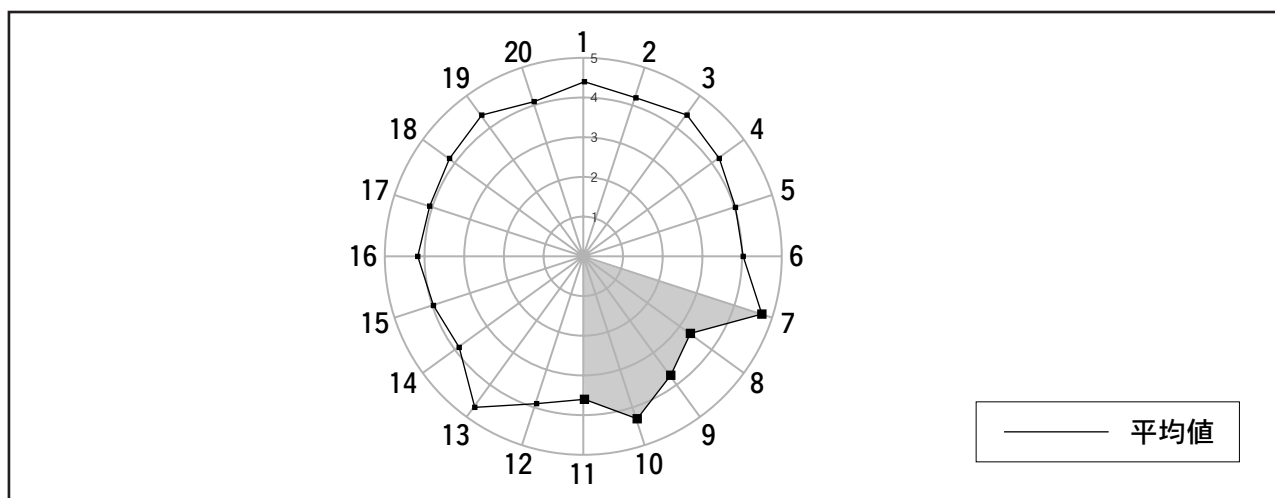
昨年までと同様、授業全体を、スピーチ、ディベート、グループワークの話し合いなど、受講生の活動を仕組む形で構成した。これは、特に話す・聞くことに関する受講生の能力の向上と、こうした活動を組織する際の意義と難しさを学習者の側に立って考えることを企図したためである。こうした授業形態のため、(6)授業への興味・関心についての平均値が4.9、(13)学生参加型の授業についての平均値が5.0と、非常に高い評価を得られた。また、(20)授業への満足度も平均値4.7であり、おおむね肯定的評価を得られたようである。

本授業では、こうした参加型の授業形態が受講生の積極的な授業参加をうながし、授業に対する高い満足度をもたらしたと思われる。次年度以降も、基本的には本年度の方向を踏襲したいと考えている。一方で、受講生の活動をただ仕組むだけでなく、授業で行う際の個々の活動の意義、言語能力向上の手段としての意義を明確にすることも不可欠である。また、各活動を実施する際の校種による違いを考えたかったというコメントもいただいた。こうした点に配慮しながら、実施する活動やふり返りの方法を常に再検討していきたい。

授業科目名 乳幼児心理学
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 35名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	13	4	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	13	16	6	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	16	16	3	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	15	13	6	1	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	9	19	6	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	19	6	1	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	26	6	3	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	8	16	5	1	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	15	12	2	0	0	3.7
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	17	12	5	1	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	8	9	15	3	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	10	12	2	0	0	3.9
	(13) 学生参加型の授業だった。	28	5	2	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	10	13	10	1	1	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	16	5	3	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	17	4	1	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	16	7	0	0	0	4.1
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	13	16	6	0	0	0	4.2
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	18	13	4	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	16	5	2	0	0	4.1



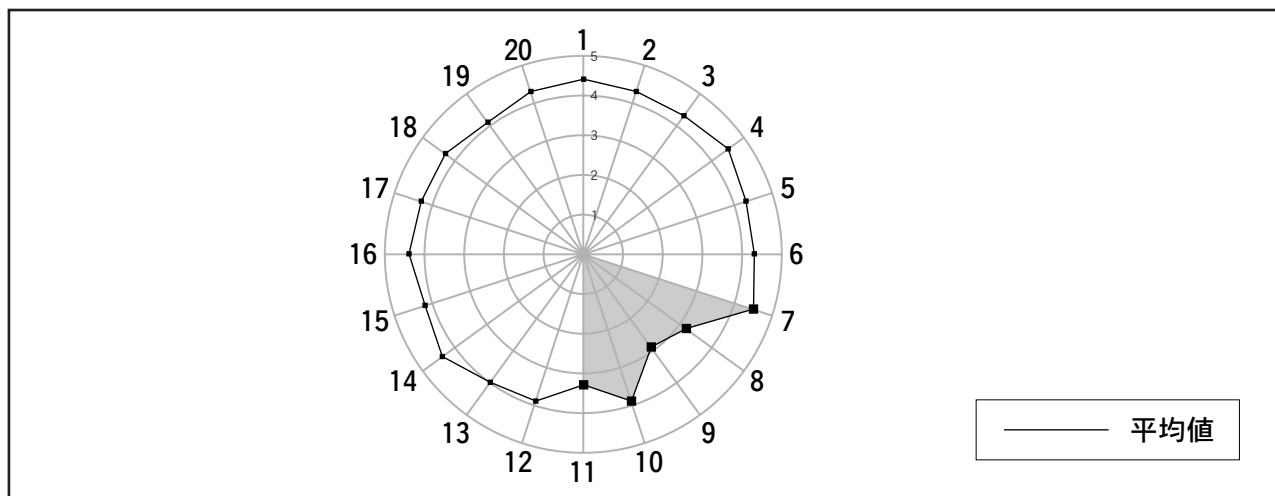
教員のコメント

質問項目の結果は全22項目中17項目において4点台であり、授業概要との対応、内容面、授業の進め方、学生の授業に対する取り組みや満足度については概ね肯定的な評価が得られた。ただし、学生の授業への取り組みに関して「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、「授業中に積極的に発言や質問をした分からないことや疑問に思ったことは調べた」の項目についてはともに3点台の評価点ということで、それほど強い肯定的なものではなかった。これらについては、受講生に対してさらに望ましい取り組み方を促す必要性が示唆され、今後の授業の中で十分に配慮していく必要がある。自由記述の結果では、よかった点として「自ら色々と調べて発表したことが、深く学べてよかった」、「質問など討論することで、より深く知ることができ勉強になった」など発表・討論形式の授業についての利点が多数挙げられた。改善すべき点としては「自分のグループが発表の時はかなり勉強になるが、他グループの発表のときにはあまり勉強しなかった」、「発表を聞いている学生の方はあまり熱心になっていない」など発表を聞く際に問題点があることが複数挙げられた。よい点に関しては、さらにグループ発表の利点が生きるよう、心がけたい。改善すべき点は発表を聞く場合に関わることであるが、この問題点については今後できるだけ学生が熱心に取り組めるよう工夫していく必要がある。

授業科目名 保育内容（環境）
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 43名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	22	17	4	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	20	16	6	1	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	20	19	3	1	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	25	14	3	1	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	21	16	6	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	20	18	4	1	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	24	16	3	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	10	15	9	3	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	5	17	14	2	2.9
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	14	14	11	4	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	10	18	7	2	3.3
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	10	22	10	0	1	3.9
	(13) 学生参加型の授業だった。	11	22	9	1	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	21	19	3	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	16	21	5	1	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	21	20	1	1	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	20	15	8	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	20	18	4	1	0	4.3
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	13	22	8	0	0	4.1
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	18	20	5	0	0	4.3



教員のコメント

受講生からは、視聴覚教材等を通して具体的に保育現場で生かせることを学ぶことができた、製作や戸外での活動も内容を理解する上で役立った、との感想が寄せられ、幼児にとっての保育内容（環境）を理解するという授業の目的を概ね達成できたものと思われる。

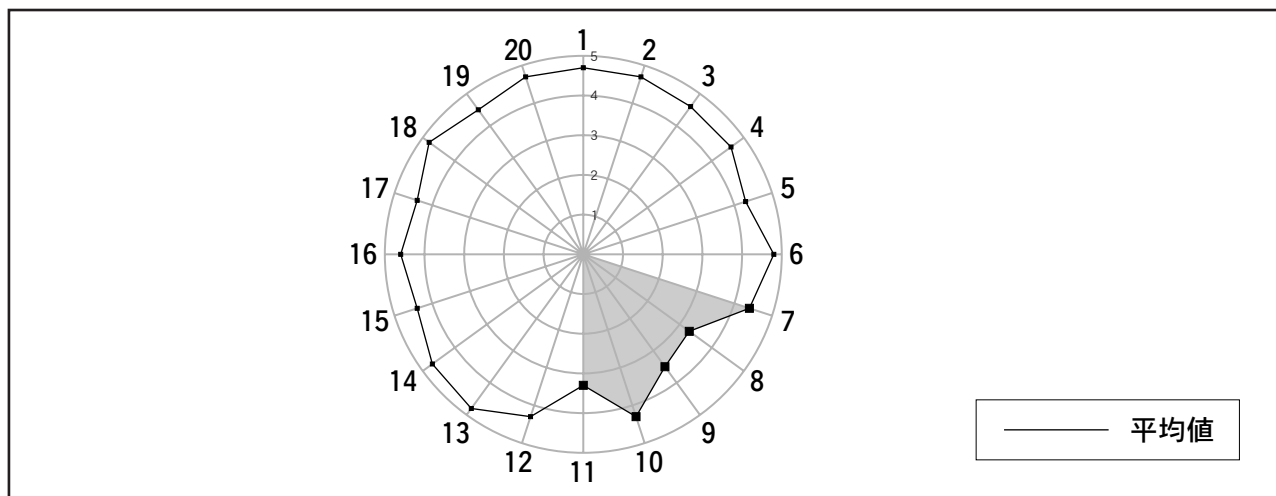
また、昨年度まで導入していたコメントカードを、今年度からノート式とし、受講生自身が授業から学んだことや、そこで考えたことを後で振り返ることができるように工夫した。この点についても受講生から「よかった」との感想があり、受講生の授業への取り組みの「評価選択人数からの平均値」は高くないものの、それぞれに学びがあったものと考えている。

改善点としては板書が見づらいという感想が寄せられているので、さらに工夫したいと思う。

授業科目名 保育内容（表現Ⅱ）
 評価実施日 平成21年2月13日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	4	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	4	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	3	1	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	3	1	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	4	2	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	10	2	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	7	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	6	1	3	1	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	6	1	0	3.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	6	4	2	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	3	4	0	3.3
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	5	2	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	9	3	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	9	2	1	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	4	0	1	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	3	1	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	5	1	0	0	4.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	10	1	1	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	8	2	2	0	0	4.5
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	2	1	0	0	4.7



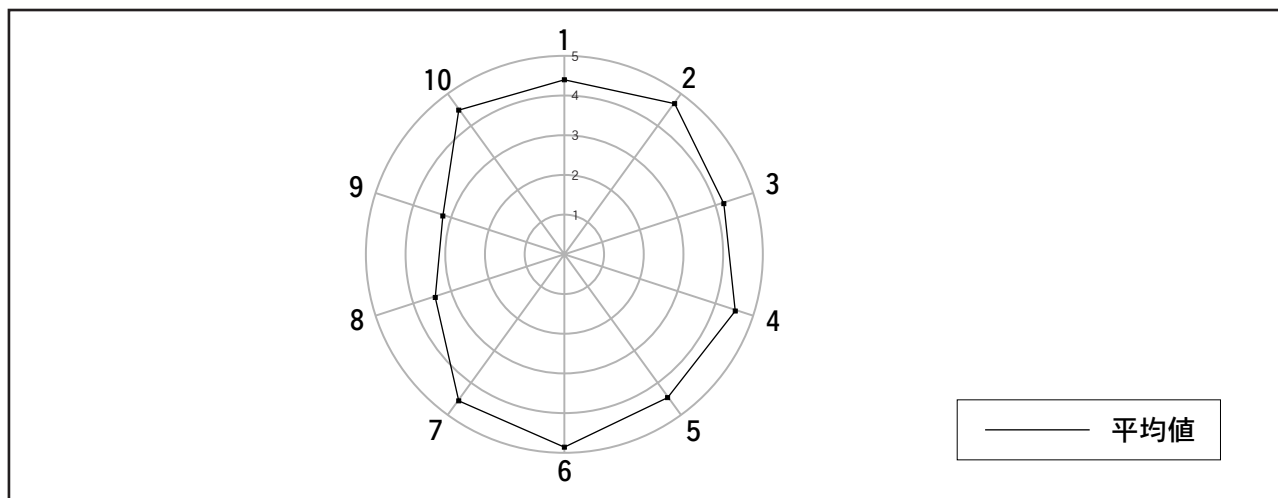
教員のコメント

全般的に評価は高く、安定した授業である。受講生が予習復習を行なったかを問う問い8と、分からないことを調べたかどうかを問う問い11だけが、やや低い状況である。本来、予習も復習も、言葉や意味調べも主体的な意欲によって行なって欲しいと願っているが、今後は、課題などを設定して、これらの項目の充実に努めたい。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 20名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	9	9	2	0	0	0	4.4
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	14	5	1	0	0	0	4.7
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	7	10	3	0	0	0	4.2
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	11	7	2	0	0	0	4.5
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	10	7	3	0	0	0	4.4
	(6) グループ配属の結果に満足している。	16	3	1	0	0	0	4.8
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	12	6	2	0	0	0	4.5
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	2	5	11	2	0	0	3.4
	(9) 発表をうまく行うことができた。	0	7	10	3	0	0	3.2
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	10	9	1	0	0	0	4.5

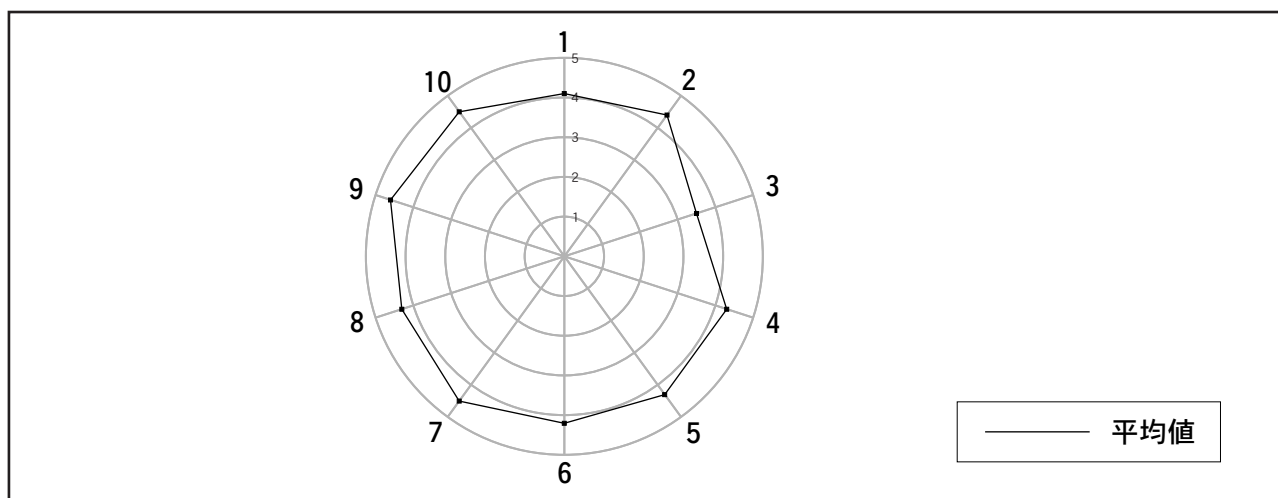


教員のコメント

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 31名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	9	16	6	0	0	0	4.1
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	15	13	3	0	0	0	4.4
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	5	11	11	4	0	0	3.5
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	13	14	4	0	0	0	4.3
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	14	12	5	0	0	0	4.3
	(6) グループ配属の結果に満足している。	17	8	3	2	1	0	4.2
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	16	14	1	0	0	0	4.5
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	13	14	3	1	0	0	4.3
	(9) 発表をうまく行うことができた。	19	11	1	0	0	0	4.6
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	17	13	0	1	0	0	4.5



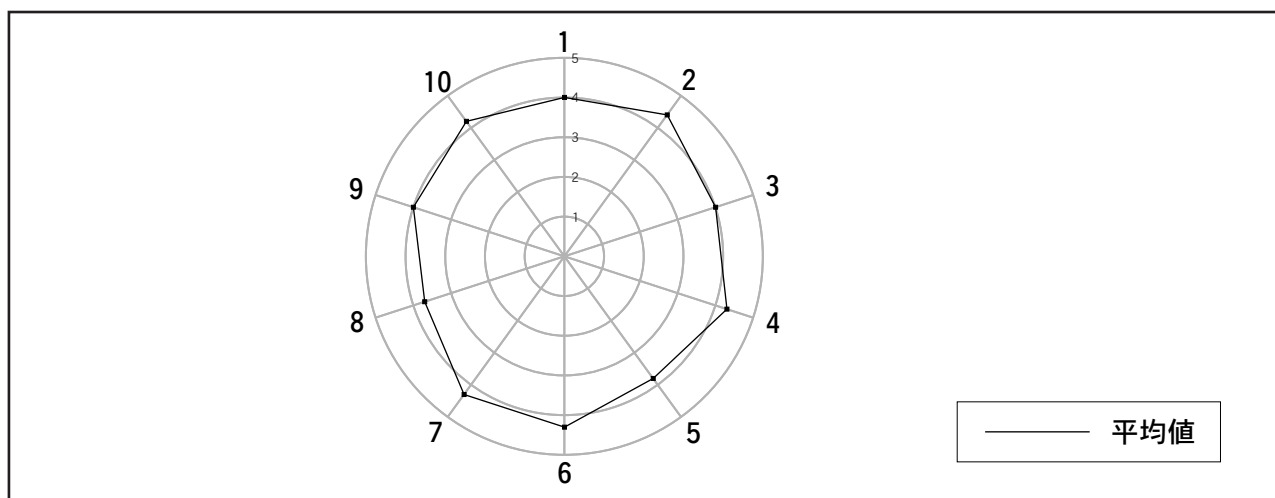
教員のコメント

今年度は例年の倍近くを受講生が集中し、しかもこれまで続けてきた「八重山の歴史と自然」に関する野外活動型体験学習ではないオーソドックスな形式をとったため、非常にやりにくい演習となった。にもかかわらず少なからぬ受講生がそこそこの評価点を与えてくれたことに感謝している。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 21名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	7	9	3	2	0	0	4.0
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	13	4	3	1	0	0	4.4
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	4	12	5	0	0	0	4.0
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	10	8	2	1	0	0	4.3
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	7	6	5	3	0	0	3.8
	(6) グループ配属の結果に満足している。	13	3	4	0	1	0	4.3
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	11	6	4	0	0	0	4.3
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	4	10	4	3	0	0	3.7
	(9) 発表をうまく行うことができた。	7	10	2	2	0	0	4.0
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	10	7	2	2	0	0	4.2



教員のコメント

「総合演習」太田グループでは、「教師力の育成・向上」に関わるコミュニケーション能力について考察したが、最終的には4つの小テーマについて極めて詳細な議論がなされた。

小テーマは以下の通りである。

- 1) 児童・生徒（単数）とのコミュニケーション。
- 2) 児童・生徒（複数）とのコミュニケーション。
- 3) 同僚とのコミュニケーション。
- 4) 保護者、地域の人々とのコミュニケーション。

授業は基本的には学生の自主性を重視し、小テーマ設定等はすべて学生が議論を重ねて決定した。学生のほぼ全員が好意的なコメントを寄せているが、議論を整理するために、もう少し担当者が指示をあたえても良かったかもしれない。

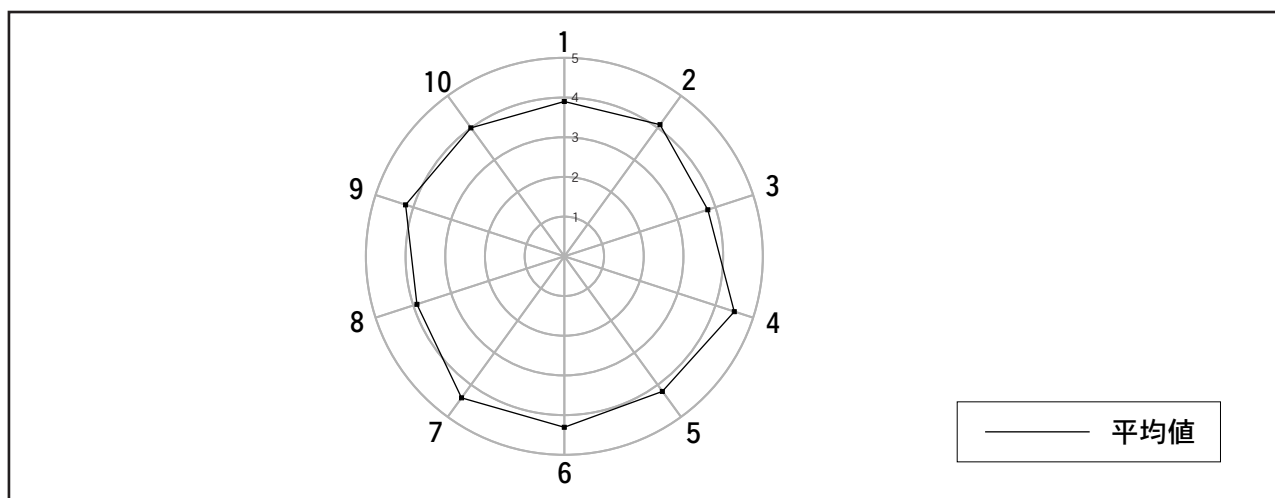
人間関係構築に深く関わるマナーについても、JALアカデミーから特別講演者を招いて特別講義を行ってもらったが、これは受講生たちには極めて好評であった。

受講生たちは実に真剣に議論をし、各々が高いコミュニケーション能力を有す教師像を明確にしたうえで全体発表会に臨んだ。そのプレゼンテーションは高く評価された。授業担当者としては、誠実に議論の出来る受講生に恵まれたことに感謝している。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 近森 憲助

回答者数 21名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	4	10	7	0	0	0	3.9
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	5	13	3	0	0	0	4.1
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	3	11	6	1	0	0	3.8
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	11	10	0	0	0	0	4.5
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	9	7	5	0	0	0	4.2
	(6) グループ配属の結果に満足している。	11	5	5	0	0	0	4.3
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	10	9	2	0	0	0	4.4
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	3	13	4	1	0	0	3.9
	(9) 発表をうまく行うことができた。	6	13	2	0	0	0	4.2
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	5	9	6	0	0	1	4.0



教員のコメント

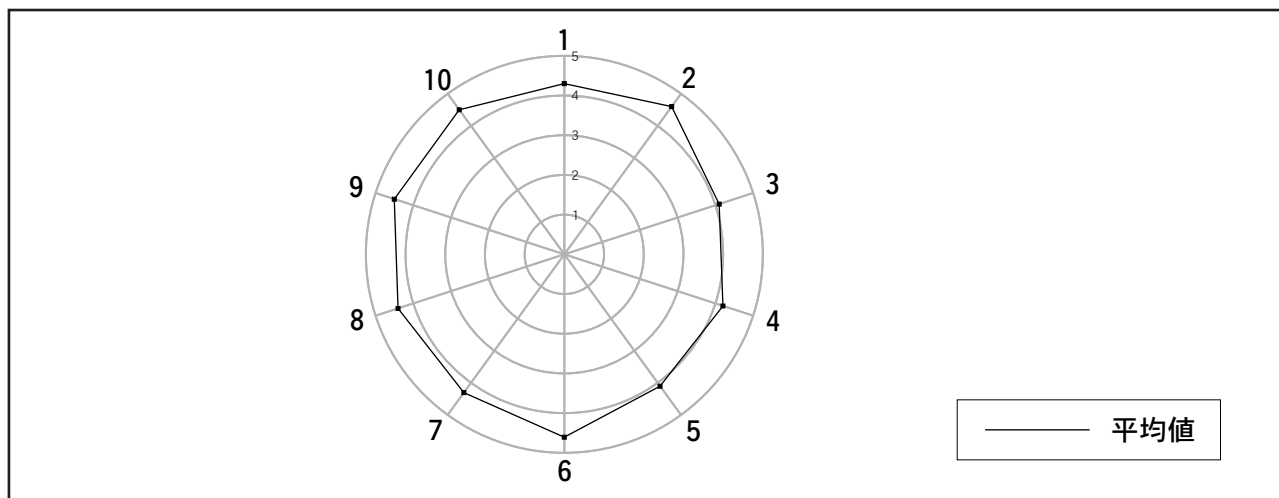
グループ活動については、土についての専門家による講義が半分以上を占めていた。このことについて、「今まで聞いたこともないことを知ることができた」と評価する受講生がいる半面、座学中心であったために物足りなさを感じた受講生もかなり見られた。

また、この講義終了後は、講義内容の振り返りも含めて、発表の準備を行った。指導に関しては、一定の方針を立てることなく、受講生のその時々の方針などを柔軟に取り入れながら順応的に発表の企画を練るようにした。このような指導のありかたを主体的に取り組めたと肯定的に受け入れた受講生もいれば、「結局グダグダのままで全体発表に行ってしまった。先生の言っていることが二転三転し、計画性もなく全体発表会に十分な形で臨めなかった。もっとちゃんとさせてほしかった」と否定的に受け止めた受講生も見られた。すべての受講生が満足する授業を実施することは、本当に難しいことを改めて痛感した次第である。

授業科目名 総合演習
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 藤村 裕一

回答者数 36名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要	(1) 授業概要に書かれた授業計画や内容は、授業を把握する上で適切であった。	16	15	5	0	0	0	4.3
	(2) 授業概要に書かれた授業内容は、興味のあるものだった。	24	11	1	0	0	0	4.6
	(3) 授業概要に書かれた授業の成績評価の方法は妥当であった。	11	17	8	0	0	0	4.1
2 オリエンテーション	(4) オリエンテーションは各グループの趣旨や活動内容を理解する上で役立った。	14	18	2	2	0	0	4.2
	(5) グループ決定までの時間が十分だった。	14	14	6	2	0	0	4.1
	(6) グループ配属の結果に満足している。	26	6	4	0	0	0	4.6
3 全体発表会	(7) 他のグループの取り組みの様子が理解できた。	17	13	5	1	0	0	4.3
	(8) 発表の準備を十分に行うことができた。	16	18	2	0	0	0	4.4
	(9) 発表をうまく行うことができた。	17	19	0	0	0	0	4.5
4 全体に対する満足度	(10) 「総合演習」は自分自身にとって満足できるものであった。	21	13	1	1	0	0	4.5

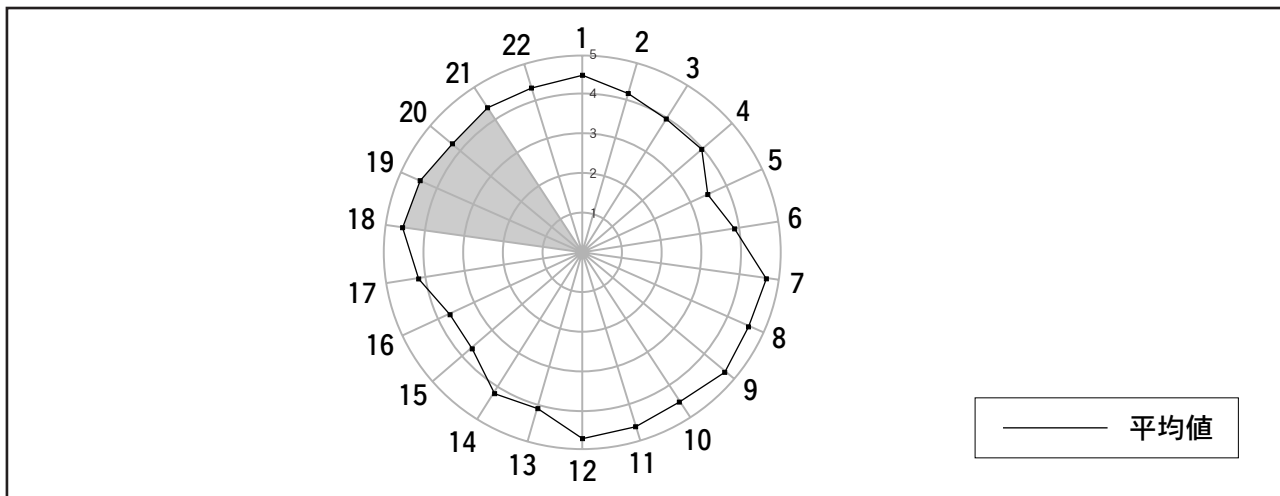


教員のコメント

授業科目名 ふれあい実習
 評価実施日 平成20年9月9日
 担当教員名 清水 茂, 藤原 伸彦

回答者数 77名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 実習概要について	(1) 目標・実習の計画・内容は、明確に示されていた。	44	25	5	1	0	2	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	36	20	17	1	1	2	4.2
2 事前オリエンテーションについて	(3) 事前オリエンテーションによって、実習の概要が理解できた。	25	33	15	4	0	0	4.0
	(4) 事前オリエンテーションは、実習での自分自身の目標を設定するのに役立った。	22	36	14	5	0	0	4.0
	(5) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。	14	24	25	11	3	0	3.5
	(6) 教員の声は、聞き取りやすかった。	25	28	19	4	1	0	3.9
3 交流実習・観察実習について	(7) 附属養護学校での交流実習を通して、障害児教育に対する理解が深まった。	55	20	2	0	0	0	4.7
	(8) 附属学校園での観察実習を通して、授業や保育についての理解が深まった。	51	22	2	1	0	1	4.6
	(9) 鳴門市内の幼稚園での幼児とのふれあい活動を通して、幼児理解が深まった。	55	20	1	1	0	0	4.7
	(10) 実習を通して、子どもと教師の関わりから教師の役割が理解できた。	41	31	5	0	0	0	4.5
	(11) 実習を通して、教職の意義や重要性が理解できた。	47	26	4	0	0	0	4.6
	(12) 実習を通して、教職に対する意欲が持てた。	58	15	4	0	0	0	4.7
4 事後指導について	(13) 事後指導によって、実習で経験したことの意味について理解が深まった。	32	28	13	1	3	0	4.1
	(14) 教育実習録は、実習の内容を振り返るのに役立った。	34	26	13	3	1	0	4.2
	(15) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	15	28	30	3	0	1	3.7
	(16) 教育用機器や設備などの教具の利用は適切だった。	17	20	36	2	0	2	3.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	32	31	11	2	0	1	4.2
5 あなたの实習への取り組みについて	(18) 積極的に実習や事後指導に取り組んだ。	49	22	6	0	0	0	4.6
	(19) 実習に関連した内容について友人や教員と話し合った。	45	26	4	1	1	0	4.5
	(20) 今後、大学で学ぶべき目標が明確になった。	35	29	13	0	0	0	4.3
6 授業に対する満足度	(21) 今後、積極的に幼稚園・小学校・中学校等にボランティアとして関わってみたい。	48	19	10	0	0	0	4.5
	(22) この実習は、自分自身にとって満足のできるものであった。	46	25	3	2	1	0	4.5



教員のコメント

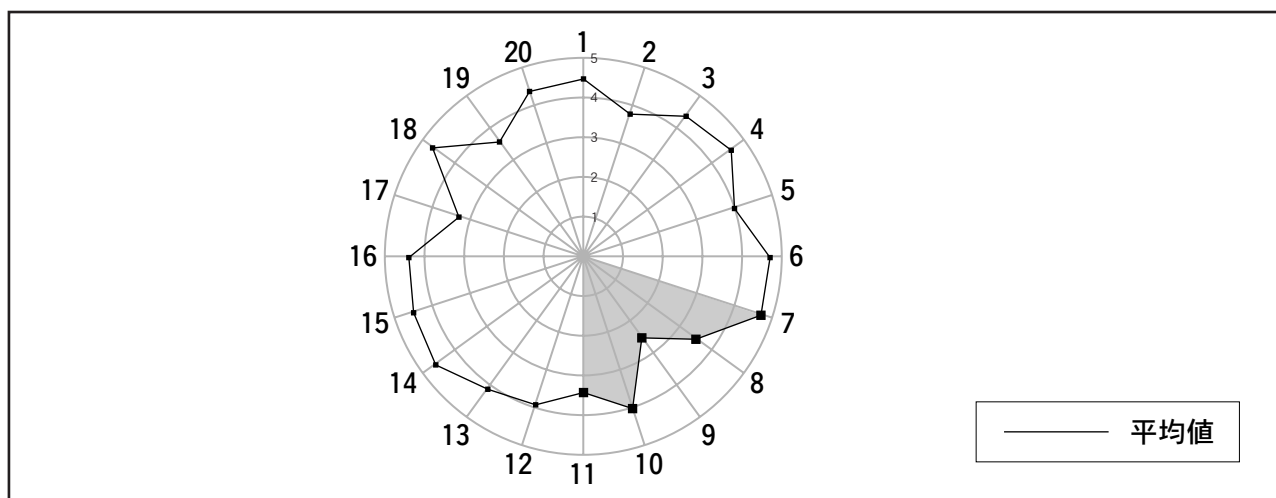
マークシート式のアンケート集計結果では、
 1 実施概要について 3 交流実習・観察実習について
 5 あなたの実習への取り組みについて 6 授業に対する満足度について
 の各項目は、ほぼ4点台であり、ふれあい実習が充実したものであることが伺われる。
 ふれあい実習は、大学に入学して最初の実習科目であり、園児・児童・生徒の実態や学校園の実態を知り、教育現場を体験的に知ることが目的としている。この目的を十分達成しているといえよう。
 1 事前オリエンテーション 4 事後指導について
 のアンケート集計では、得点が3点台のものがみられる。学生の理解状況を確認しながら授業を行うことや、教育機器利用や教師の聞き取りやすい表現には、今後努力したい。
 また、「改善したほうが良いと思うこと」という自由記述の中に、もっと実習期間をふやしてほしいという前向きな意見が多く見られた。今後の検討事項といえよう。

專修專門科目

授業科目名 外国史概論
 評価実施日 平成20年6月5日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	11	1	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	8	8	2	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	13	10	0	2	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	16	9	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	11	6	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	18	7	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	19	4	2	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	9	7	5	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	9	6	6	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	9	6	1	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	5	9	6	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	10	6	2	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	10	10	3	2	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	17	7	1	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	12	13	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	8	2	1	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	8	7	3	2	3.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	17	8	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	9	8	2	1	3.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	10	2	0	0	4.4



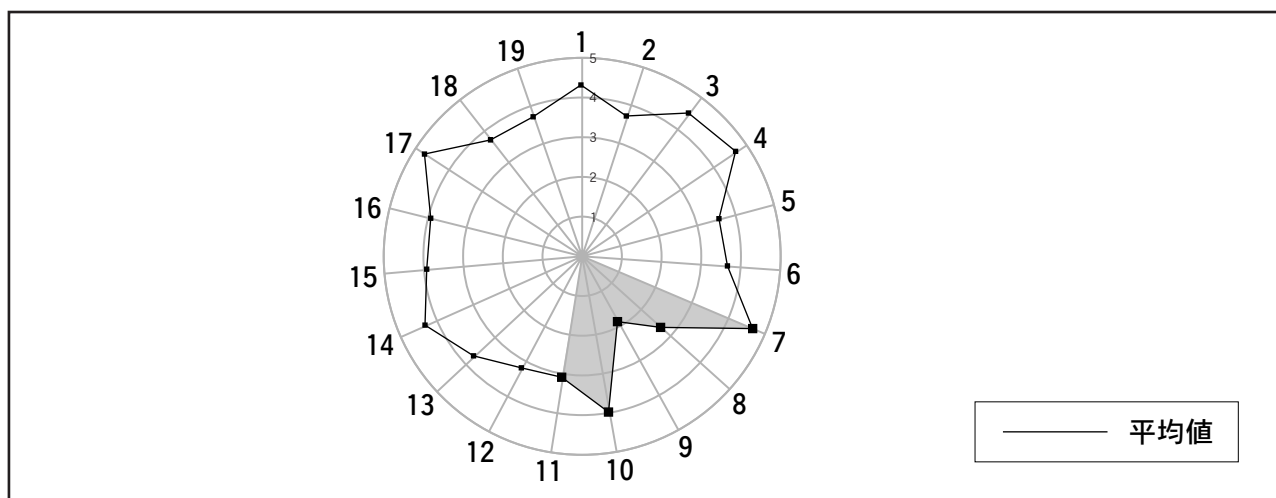
教員のコメント

本授業科目は「日本史学概論」とあわせて半期で開講されている。「概論」という性格上、外国史に関する一通りの説明を盛り込む必要があるが、講義回数との関係でフランス革命から冷戦期までの近現代史を講義内容とした。この講義の内容および進め方については各項目に渡りほとんどの学生が「4」以上と評価しており、とりわけ「授業内容の専門性」、「出席」、「興味・関心」、「教員の熱心さ」、「声の聞き取りやすさ」などの項目での評価が高い。この結果、講義の「満足度」を問う最後の質問では、受講者の大半が「5」もしくは「4」の評価を下している。講義では内容レジюмеをB4サイズで5枚、資料レジюмеを9枚配布したが、「レジюмеが分かりやすかった」という感想からも学生の内容理解に役立ったと考えられる。同時に「外国史に興味を湧いた」、「難しい内容を分かりやすく説明していた」などの感想も多く見られた。ただし、限られた時間数（7コマ）の中で講義内容を急いで消化せざるを得ず、このため学生には講義の進行が「速すぎる」と感じられたようである。多くの学生が15回の講義（2単位）での実施を望んでいる。

授業科目名 生物学の基礎
 評価実施日 平成20年6月2日
 担当教員名 小汐 千春

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	9	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	6	5	1	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	6	1	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	5	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	7	4	2	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	5	4	2	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	2	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	6	4	2	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	3	5	6	1.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	6	3	1	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	6	4	1	3	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	4	4	5	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	3	4	3	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	9	2	4	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	5	4	1	0	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	8	4	0	0	3.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	12	2	1	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	5	3	3	0	3.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	7	2	3	0	3.7



教員のコメント

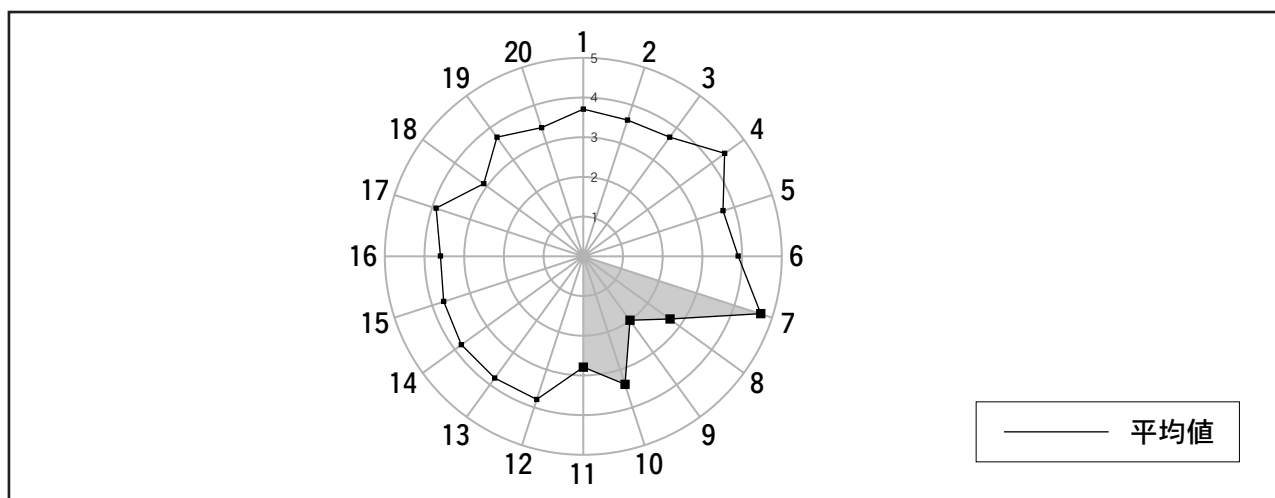
3の学生自身の授業への取り組み、特に予習復習についての項目が低かった。授業中の発言や質問についての項目も低かったが、質問に関しては講義中に折に触れ質問時間を設けていたが、発言に関しては講義中にそのような時間は設定していなかったため(演習ではないのでそもそも発言させる機会はない)、この項目が低いのはやむを得ないといえよう。

成績評価については、示したつもりであったが、あまり伝わっていなかったようで、これは今後改善する必要がある。内容のわかりやすさや速さ・満足度に関してはばらつきがあるが、これは、受講生の多くが高校で生物学を選択していなかったこととも関係があるだろう。他方であまり復習を行っていないと答えている学生が多いため、講義内容への理解が不十分になるのはやむを得ないとも言える。半期のそのまた半分だけで伝えられる内容には限りがあるので、今後更に厳選していく必要があると考えている。

授業科目名 化学の基礎
 評価実施日 平成20年6月2日
 担当教員名 今倉 康宏

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	7	3	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	6	4	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	3	5	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	4	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	5	4	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	7	2	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	4	3	1	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	2	3	4	2.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	1	6	1	0	3.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	2	2	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	5	2	1	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	1	4	1	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	1	6	3	0	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	3	5	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	2	6	0	0	3.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	3	4	0	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	0	5	3	0	3.1
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	2	4	1	0	3.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	4	6	0	0	3.4



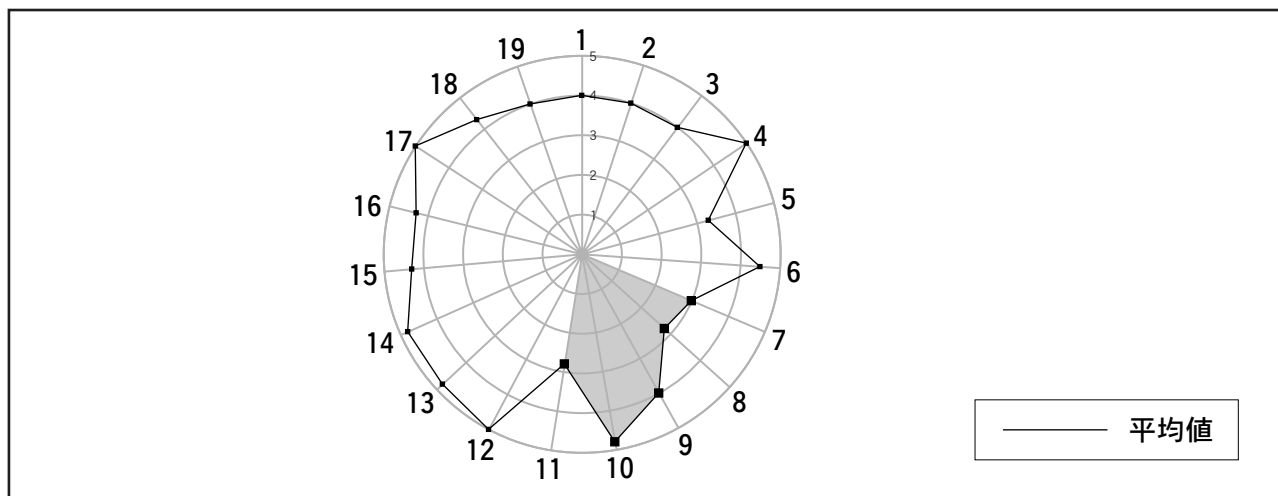
教員のコメント

- 1 授業概要
概ね満足しているようであるが、さらに工夫が必要である。
- 2 授業の内容
以下のコメントから、学生の興味関心を引き出すことはできたと思うが、さらに理解度を高める工夫を必要と感じている。
* 専門的な分野を追求できて良かった。* たとえや実例があってもものすごく理解しやすかった。* 高校ではあまり習うことのなかった名前の由来や発見の理由を知れて良かった。* いきなり難しい内容に入るのではなく理解しやすいことから興味を持ちながら授業が受けられた。* 教科書に載っているようなことだけでなく、授業内容から想像できる話題も聞けて興味深い内容であった。* 少し内容が難しかった。
- 3 授業への取り組み
学生の出席率は高いがほとんど予習・復習をしていなく、受け身の授業参加である。勉強しなければならないムードを持たせる授業展開をする努力の必要性が感じられた。
- 4 授業の進め方
ほぼ満足している結果を得た。
- 5 授業に対する満足度
全般的にはほぼ満足している結果を得ているが、5の評価が一人もいなかった事実からさらなる授業の展開方法を工夫する必要がある。

授業科目名 英語学研究 I
 評価実施日 平成20年7月16日
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	2	1	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	1	0	0	1	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	2	1	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	3	0	0	1	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	2	0	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	2	0	2	0	0	3.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	1	2	0	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	3	0	0	0	1	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	0	1	1	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	3	1	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	3	0	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	3	0	0	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	3	0	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	4	0	0	0	0	4.0



教員のコメント

質問項目(9)の評価平均値が4.0であり、本授業に対する受講生の満足度はかなり高かったようで、授業担当者としてもひとまず満足している。

評価平均値が4.0未満の質問項目は、受講生自身の授業への取り組みについての(7)、(8)、(11)と授業の内容などについての(5)であった。受講生の授業への取り組みに関する質問項目の評価平均値が本科目に限らず本学の授業一般に低いことは前々から指摘されていることである。このことは、本来、受講生自身の問題である、とうっちゃることもできないではないが、受講科目数の多さ、クラブ活動・バイトなどによる忙しさなどの要因調査、授業外学習の促進を図る工夫などを行っていきたく思っている。(5)に関しては、本科目が教科教育ではなく教科専門の授業であることから、本科目の内容が教育に対する見方や考え方を学べるものであることに関して評価が低いことは当然である。しかし、「文法教授法について新たな観点ができた。」という意見があった。

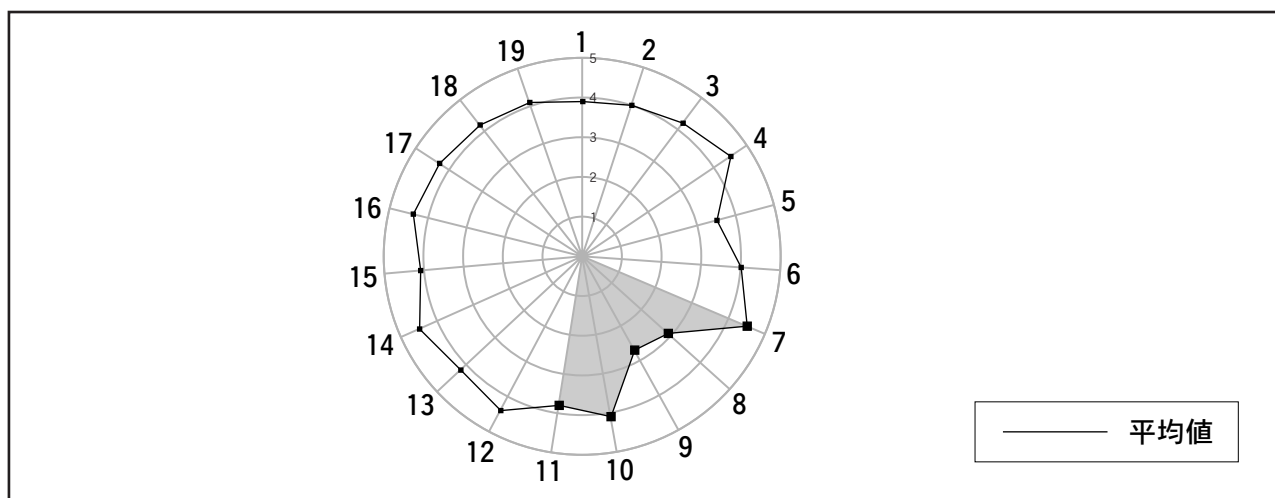
本科目を良いとする意見として、「授業を欠席した人に、丁寧に復習してくれた。」、「英語の普段扱わない深いところまで学習できた。」、「英語の専門知識が高められた。」などがあった。悪いとする意見はなかった。

来年度もより良い授業を目指して、準備、実践を行う覚悟である。

授業科目名 日本史学特論 I (古代・中世)
 評価実施日 平成20年7月17日
 担当教員名 大石 雅章

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	6	4	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	5	1	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	6	2	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	5	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	3	2	1	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	5	2	0	1	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	2	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	5	2	2	0	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	4	4	2	0	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	5	2	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	4	4	0	1	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	5	3	0	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	8	3	2	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	3	3	1	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	3	4	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	6	3	0	0	0	4.1



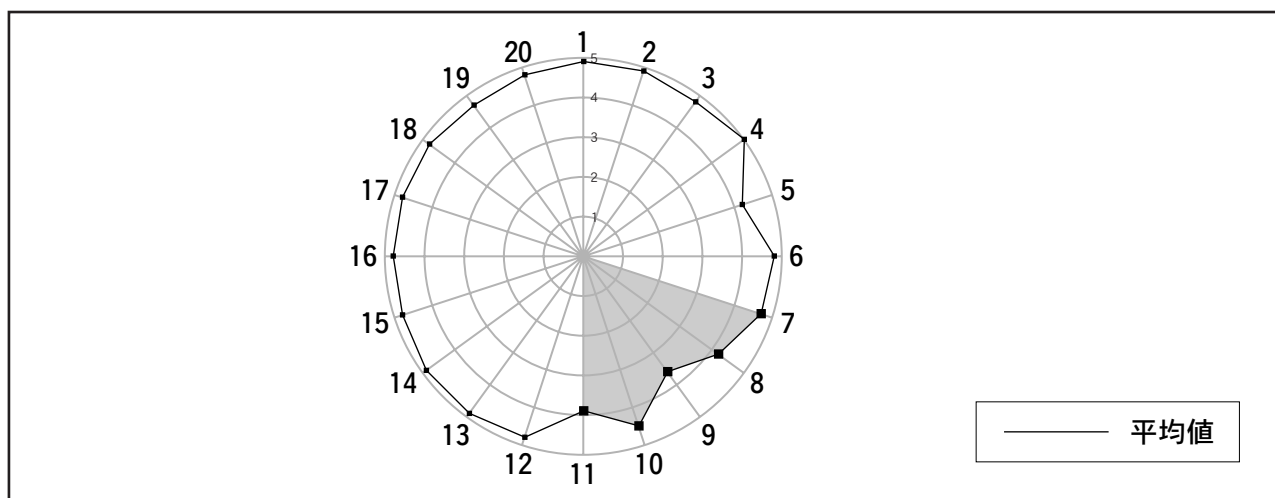
教員のコメント

受講生に予習・復習を問う項目(8)と積極的な発言や質問を求める項目(9)が2点台となったことは、学生が主体的に授業に参加するという点で取り組みが不十分であったことを示している。来年度、この点を反省しながら改善につとめたい。教員の授業の進め方が全て4以上であったことや、4点台の項目が半数以上であったことから、講義としては一応及第点であったといえよう。

授業科目名 スポーツトレーニング論
 評価実施日 平成20年7月22日
 担当教員名 南 隆尚

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	1	0	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	2	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	6	1	1	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	2	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	2	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	7	0	1	0	0	4.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	7	4	1	0	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	7	0	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	3	1	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	2	0	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	11	2	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	2	0	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	10	2	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	11	1	1	0	0	0	4.8



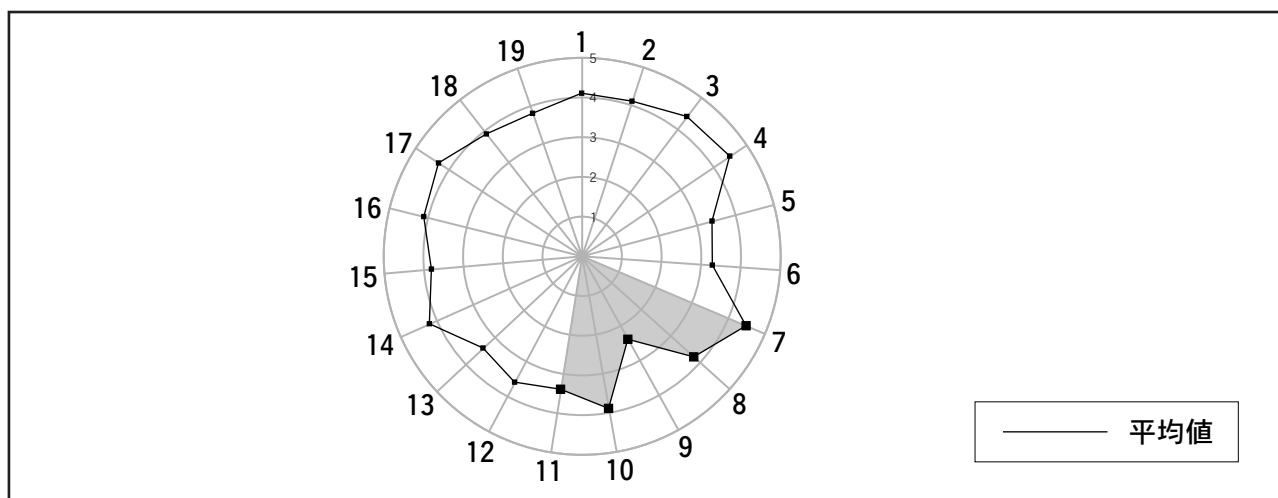
教員のコメント

- 授業の内容等について:例年より評価が高まったことから、授業の進め方からも授業進度が適切となったと考えられる。しかし、毎時間小テストの成績にはそれほど反映出来ておらず、より一層内容を検討する必要がある。
 - あなたの授業への取り組みについて:自ら課題を持って積極的に取り組み、解決する問題提示が少ないことが考えられる。「積極的に発言した」や「分からないことや疑問に思ったことは調べた」の回答平均値も低く、問題提起と解決能力の育成する補助教材を充実させ、学習を援助することが必要である。
 - 教官の授業の進め方について:概ね良好な回答と考えられる。授業の中心がプレゼンテーションソフトを使用し、メモや図表を板書し、計画的な板書ができていないことが反省される。またプレゼンテーションの技術の向上も必要である。
- 本授業は、スポーツトレーニング論という題目であり、学生からはトレーニングの方法論を期待する向きがある。内容的にはスポーツ諸科学とのつながりを鑑みながら、基本知識の習得も大切だが、より実践的で問題を発見・解決する能力の育成機会が少なかったと反省される。特に学生の自主的な参加機会を増やすような授業展開が必要である。

授業科目名 日本史学特論Ⅱ（近世・近代）
 評価実施日 平成20年7月23日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	8	3	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	8	2	1	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	6	2	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	4	2	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	3	5	4	0	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	4	5	2	2	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	6	1	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	6	4	2	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	5	5	4	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	8	5	0	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	7	4	1	2	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	4	7	0	1	0	3.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	5	5	2	1	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	8	4	3	1	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	6	4	2	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	7	1	2	0	0	4.1
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	3	0	0	1	4.3
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	6	5	0	0	1	3.9
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	7	6	0	0	0	3.8



教員のコメント

この授業では、日本の近世社会の成立と構造について、基本的理解を深めること、あわせて文献を読み込み理解する力量をつけることを到達目標としている。具体的には、山口啓二『鎖国と開国』（岩波現代文庫）をテキストに読み進め、必要に応じて授業者が解説や補足素材を提示しながら、進めている。

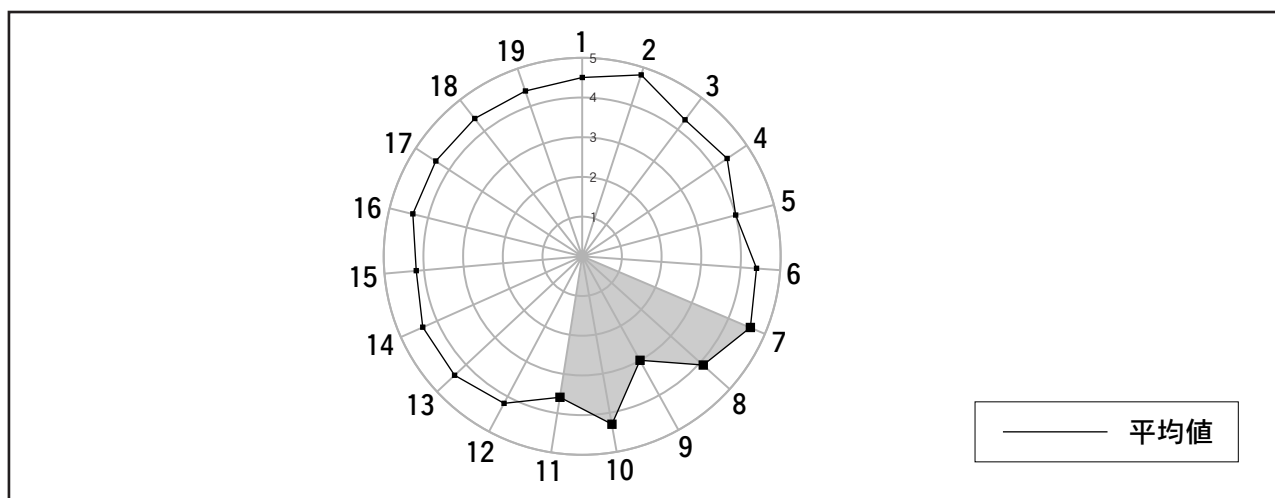
本年も授業概要・計画（1～2）や、授業の進め方（14～18）については概ね評価を得ることができた。授業内容については、「日本史の視点を変えてみるのができた。物事の見方は一つじゃないとわかった」「鎖国についての見方を変えることができました」とその専門性や興味関心を抱く学生がおり、その点で授業の目標はある程度達成したといえる。また「教材を…自ら教材研究し、まとめ発表することでより理解しやすくなっていた」との感想もあった。

しかし一方で、授業内容に興味を十分には喚起できていない結果となった（5・6）。テキスト内容は一般向けかつ内容の濃いものであり、例年よりも授業者の方で、わかりやすい解説を具体的に展開したが、なお改善の余地がある。また、授業中の発言・質問（9）についても、より本質的な問いかけをするよう努力したい。

授業科目名 幾何学 I
 評価実施日 平成20年 7 月24日
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 25名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	9	2	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	19	6	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	10	4	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	13	1	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	12	6	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	10	2	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	17	5	3	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	11	4	0	1	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	6	3	7	4	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	7	5	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	11	7	2	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	15	2	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	14	0	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	12	11	2	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	9	5	0	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	15	6	4	0	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	7	3	1	0	0	4.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	12	10	3	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	7	4	0	0	0	4.4



教員のコメント

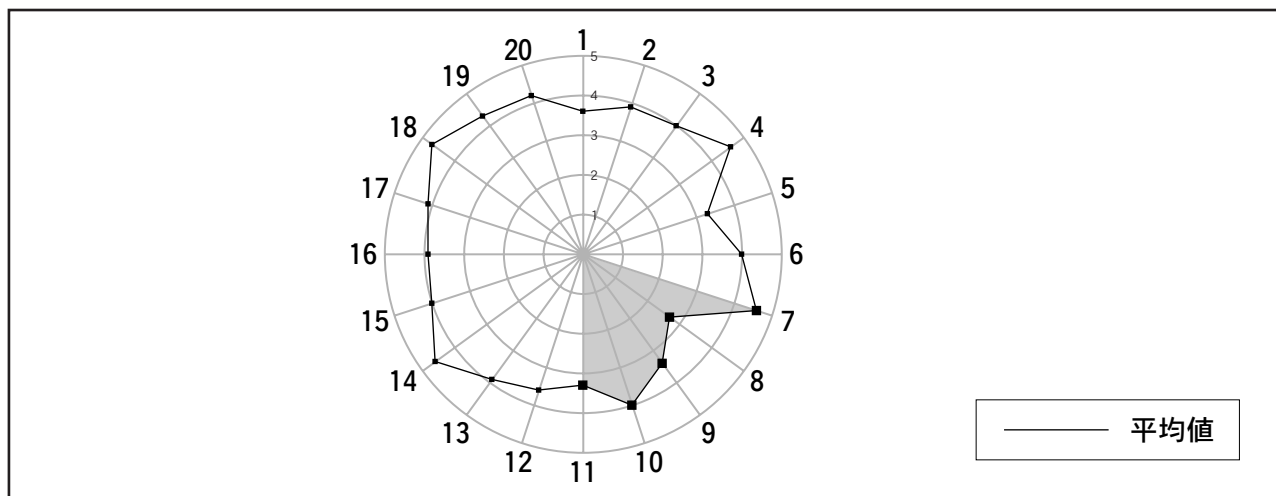
昨年と比べ 16 項目で評点の平均値が上昇しており幅広い改善が見られる。特に大きく上昇した項目 (0.4 ポイント以上) は、成績評価方法、興味・関心を引いたか、予習・復習の程度、教員の説明を聞いたか、指導の熱心さ、説明の分かりやすさ、授業進度 (0.8 ポイント上昇)、満足度であった。昨年度の反省から、重要な部分をより丁寧に説明し、受講生の発表の後でその内容を整理し説明し直すことに努めたが、その効果かもしれない。ただし、受講生の授業への取り組みについては未だ課題が残っている。

「よかったこと」欄には 18 名の回答があった：「実際に作業を行って確かめなどをできた」等 6 件、「毎回確認テストがあり復習できた」等 4 件、「わからないところはわかるまで丁寧に教えてくれた」等 3 件、「見た感じ楕円に思えるとか曖昧なところをちゃんと証明してはっきり楕円と言えるようになるのが面白いと思った」等 3 件、「気軽に参加できる雰囲気があり発表がとてもやりやすかった」等 2 件、「生徒が解説した後に先生が補足するところ。そうすることで分かってないときに友達に質問しやすいし自分で解こうという意欲がわく」、「1 授業ずつ内容がまとまっていた」、「先生が工夫してくれて楽しくうけられた」。改善意見は 4 件：「テストが難しい」、「強いて言うなら説明をもう少し丁寧にしてほしい」、「授業の開始が時間通りではなかったこと」、「時間にルーズ、はっきりしゃべってほしい」。授業開始が遅れたことが一度あったが今後このようなことが無い様にした。

授業科目名 人文地理学特論
 評価実施日 平成20年7月24日
 担当教員名 木原 克司

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	5	4	0	0	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	3	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	3	3	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	5	2	2	0	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	4	1	1	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	3	3	1	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	3	2	0	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	6	0	1	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	3	2	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	4	3	1	0	0	3.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	3	2	1	0	0	3.9
	(14) 熱心に指導した。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	7	1	0	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	3	0	0	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	4	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	3	2	0	0	0	4.2



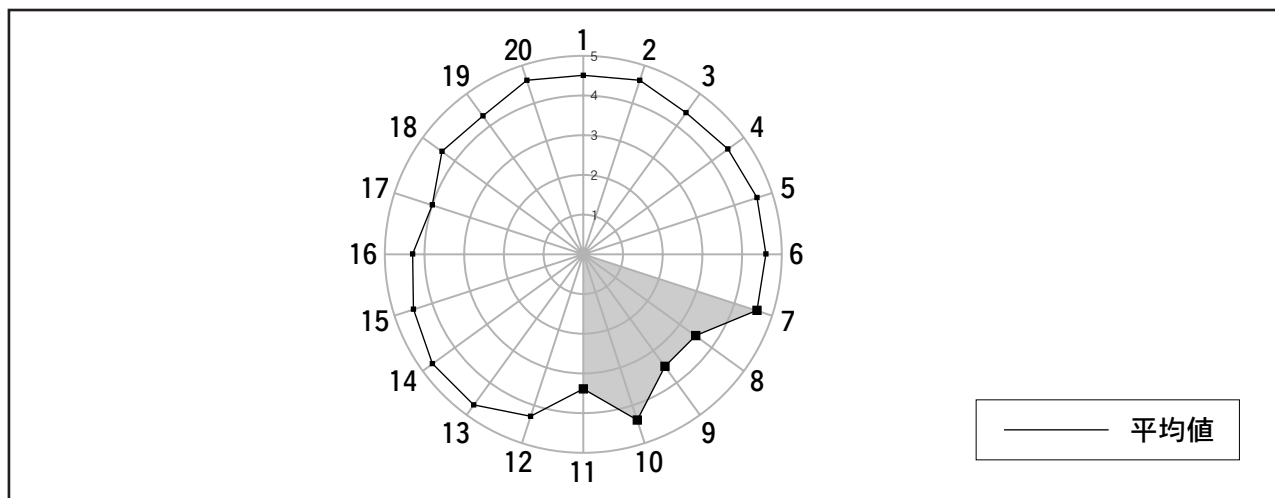
教員のコメント

質問項目の大枠の平均値は、1 授業概要 3.8, 2 授業内容 4.0, 3 学生の授業への取り組み 3.6, 4 教員の授業の進め方 4.1, 5 授業への満足度 4.2である。今年度も授業概要に対する評価が4をやや下回った以外は例年とほぼ同じ結果が出ている。特に、毎年評価が低いのは3の学生の授業への取り組みであり、授業に出席し教員の説明は良く聞けるが、質問はしない、予習・復習はしない、調べ学習はしないという本学学生の特徴が明瞭に出ている。授業内容が演習とは異なり講義型式であるため仕方がないのであるが、この点を改善するためには、実習・演習型式を取り入れて成果の発表をさせるような授業型式にする必要があると思うが、15コマという授業時間の中でそれをやると授業時間の1/3程度をそれにあてる必要がある。よほど授業のテーマを特定のものにしぼる必要があり、検討課題である。また、「教育に対する見方・考え方を学べるもの」に対する評価も例年同様3.3と低かったが、授業の中では、授業で取り上げたテーマを小・中の授業で取り上げるにはどうすればよいかを説明したつもりであり、学生の応用力養成をねらったのであるが、それを学生の方では理解できていないように思える。教科教育の授業開発のように1から10まで説明する必要があるのか疑問である。

授業科目名 学校の組織と集団
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 佐古 秀一, 芝山 明義, 久我 直人

回答者数 52名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	30	18	3	0	0	1	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	33	15	4	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	24	23	5	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	33	14	4	1	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	33	16	3	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	34	15	3	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	38	9	5	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	16	13	11	7	5	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	14	18	6	2	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	28	17	6	0	0	1	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	12	9	19	8	3	1	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	24	22	5	1	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	39	8	5	0	0	0	4.7
	(14) 熱心に指導した。	41	8	3	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	31	16	5	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	29	11	10	2	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	20	15	15	2	0	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	27	19	6	0	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	26	18	8	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	36	12	3	1	0	0	4.6



教員のコメント

「授業概要について」、「授業内容について」は平均値が4.6と高い評価が得られた。逆に、相対的に評価が低かったのは、自身の学習に対する自己評価の項目で、「自主的な調べ学習」(3.4)という結果であった。しかし、授業後の質問やメールでの質問等、積極的な学習への取組をみせる学生もおり、昨年度の評価(3.1)よりも伸長した。これは、授業内容が「教育に対する見方や考え方についての学び」(4.5)や「興味関心を引く」(4.6)と言うものに精選することにより、「教員の説明をよく聞いた」(4.4)という授業への参加の姿勢につながった結果と受け止められる。

また、授業の進め方について、「参加しやすい授業」(4.7)、「熱心な指導」(4.7)、「授業内容のわかりやすさ」(4.5)等について評価が高かった。その結果、「授業満足度」(4.6)も高い評価が得られた。昨年度の授業評価を生かし、全体として、各項目の評価が伸長し、授業改善の内実が数値に表れた。

さらに自由記述を見ると、実践的な内容(実践事例等)を取り上げたことに対して「具体的に考えることができた」「問題の根を探る必要性を感じた」「たくさんの教育的示唆を頂いた」という評価が得られた。また、授業の中に多く取り入れた「グループ討議」に対して「他者の意見を聞けてとても有意義だった」「教師になったときのいい糧になる」という意見が寄せられた。これは、毎時間ごとの感想(自由記述)にも同様の賛同意見が多くあった。また、一方、授業によって「説明資料の多さと説明時間の長さ」についての指摘があり、課題に対して学生自身が考える時間を保障することの重要性を再認識するにいたった。

これらのことを総合して分析・解釈すると、概ね次のような授業改善の方向が見出せる。

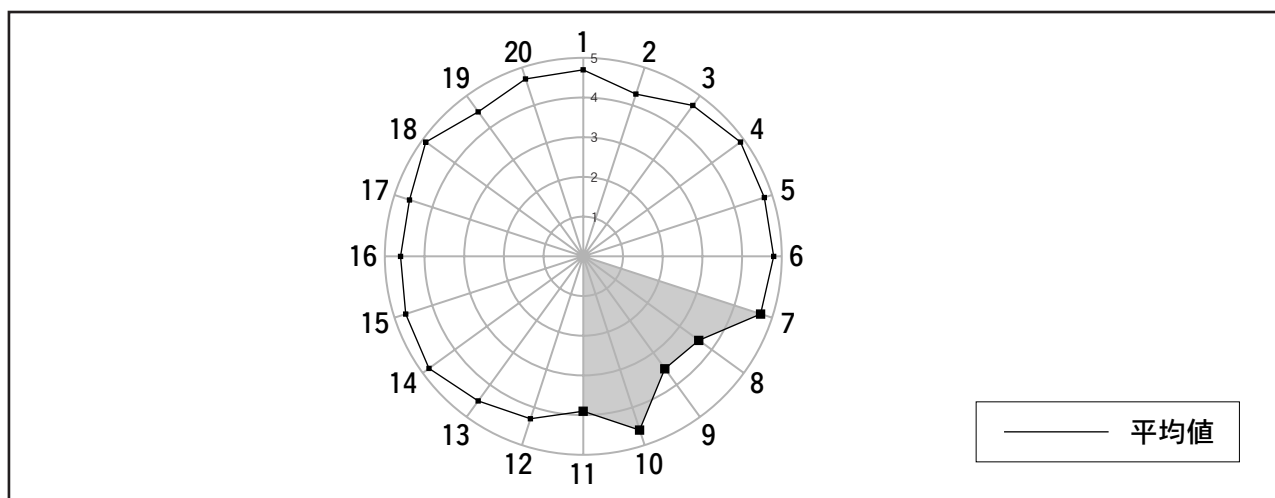
- <1>本授業の目的に適合させて、「基礎的な理論」をベースに、実践的な事例を用いた授業展開をすることにより、理論と実践を往復できるような授業が実現し、受講者の内実性の高い授業とすることができる
- <2>課題を通した受講者同士の討論の時間を確保することにより、課題に対する見方が複眼的になり、実践的な解釈力が増す授業とすることができる
- <3>授業で扱う教育実践上の課題から派生した問題等を作業課題として設定する等によって、授業時間の枠を越えた受講者の自主的な学びを実現する可能性がある

特に<3>の受講者自身の自己評価の向上を今後の課題として、授業改善に望みたい。

授業科目名 障害児教育相談
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 井上とも子

回答者数 54名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	38	15	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	23	25	6	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	40	13	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	47	6	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	42	11	1	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	42	12	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	42	10	2	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	12	15	20	5	2	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	14	22	2	4	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	35	18	0	0	1	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	19	20	9	5	1	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	24	24	6	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	32	18	4	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	41	13	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	38	15	1	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	39	11	2	2	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	39	12	2	1	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	46	8	0	0	0	0	4.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	31	17	6	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	40	13	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

授業全般に関しては、興味関心をもって授業に臨みやすいように、プレゼンテーションの仕方等、授業の進め方に工夫や配慮をしたが、それに関しては概ね、良好な授業評価が得られていた。特に、9グループに分かれて、テーマに沿った話し合いや教育相談のシミュレーションを取り入れたことについて、好評であった。学生は、教育現場がどのようなものか、そこでの問題やその解決も含め、実践に直接関係する内容に強く関心を示し、内容の理解も進むため、今後も学校現場の実態を踏まえた内容を多く取り入れるなどしたい。

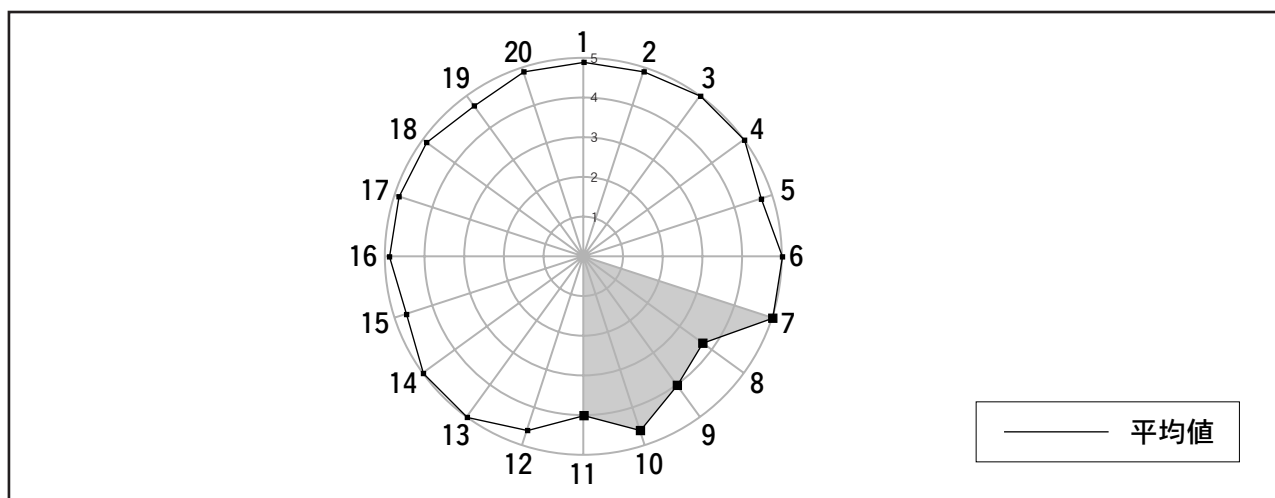
改善点としては、毎回、授業の始めに配布するレジメには、これだけは書き写しが必要と思われる事項以外は、スライドの表題のみ印字したため、「写しきれなかった」とのコメントがあった。このことに関しては、スライド提示の時間等の工夫が必要と考える。

評価の中で、このほか、「あなたの授業へのとりくみについて」が最も評価点が低く、予習や復習をする必要性を感じなかったか、モチベーションが湧かなかったか、ともかくも授業のみの学びになりがちであったことを示している。参考図書・文献を示し、課題を出すなどしながら、自ら学ぶ姿勢を高めるよう、授業を工夫する必要があると感じている。

授業科目名 食品学
 評価実施日 平成20年8月4日
 担当教員名 前田 英雄

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	2	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	0	0	0	1	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	4	1	1	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	2	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	3	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	2	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	3	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	7	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	2	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	1	0	0	0	4.9
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	2	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	0	0	4.9



教員のコメント

本授業科目は家庭科の2年生が対象である。受講生には講義前にその日の内容のプリントを配布している。その理由は学生がノートをとる時間に追われなく、講義内容を理解させることを重視しているからである。しかし、ノートができたと思い、授業中に眠る学生もいる。また、本授業科目は講義科目であるが別の家庭科の授業科目の関係上、例年、2コマ連続の授業である。そのため1コマは講義、1コマはその日の講義内容に関する実験・実習を取り入れて授業を進めているが、2時間連続の授業は学生にとって散漫になるようである。単純評価の平均値は、4.72であった。

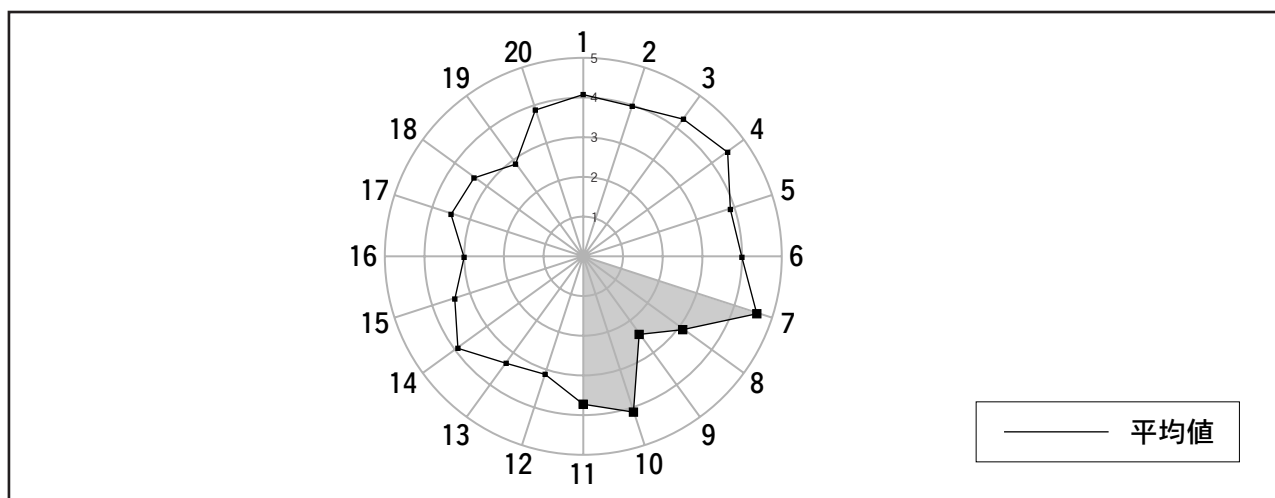
授業評価アンケートを分析すると受講生から教員側の授業内容に関する項目(1-6, 12-19)については概ね高い評価を得られた。これは前述したように簡単な実験や実習を取り入れて授業を展開したことや実際に農場に連れて行って野菜の栽培状態を説明した点などがその評価の対象になったものと思われる。

一方、改善する点として授業中にわからないことや疑問に思ったことを自主的に学習させる工夫、予習や復習をさせるための課題提供、またパソコンを用いた授業改善が来年度の検討課題として残った。

授業科目名 病弱者の心理・生理・病理
 評価実施日 平成20年8月1日
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 52名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	27	8	1	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	22	12	2	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	23	22	6	1	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	30	17	4	1	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	17	17	16	2	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	16	22	11	2	1	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	35	12	5	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	13	25	9	2	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	18	15	12	0	2.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	16	28	6	0	2	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	21	15	5	1	0	3.7
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	13	21	10	3	0	3.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	13	24	8	1	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	19	17	12	2	2	0	3.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	22	19	3	3	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	9	22	8	6	1	3.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	14	15	6	3	2	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	14	16	9	3	0	3.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	11	15	18	4	0	2.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	17	16	3	0	0	3.9



教員のコメント

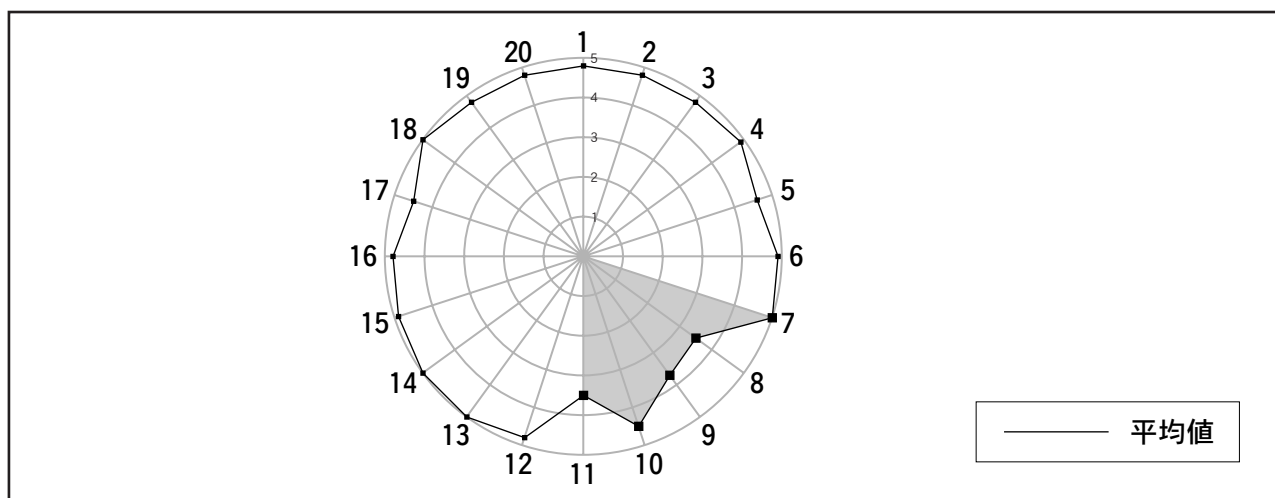
授業概要については、目的・授業計画、および成績評価は明確に示されていたということについては、高かった。授業の内容については、専門性を高めるでは評価が高いが、教育に関する見方ということでは、やや低い評価であった。授業への取り組みについて出席率などはよいものの、質問などについては、改善の余地がある。とりわけ、授業中の発言や質問については低く、もっと学生の授業参加を図る必要を感じる。この授業は、本来、特別支援教育のベースとなる小児の疾患についての理解を主としているため、入学して間もない学生がうける。学生側の理解度、参加の積極性についてはバラツキが多いと考えられる。

内容が、小児の疾患という非常に多量の知識を要求されるため、やや講義が一方的になりやすい傾向があるが、当面は、知識の定着が良くなることを第1に考えていく予定である。

授業科目名 食物学概論
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 前田 英雄, 西川 和孝

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	3	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	9	3	1	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	12	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	6	5	0	1	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	4	0	1	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	3	2	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	7	1	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	13	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	13	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	13	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	12	0	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	0	1	0	0	0	4.8



教員のコメント

本授業科目は家庭科の1年生が対象であり、14名が受講した(アンケートの回答13名)。この授業内容は食物学に関わる関連の分野である栄養学、食品学及び調理実習を含むため、基本的に各内容を3等分して授業を展開しているが、調理実習を多めに実施している。その理由は、家庭科の教員としては実践的及び体験的な授業を実践し、技術技能を高める必要があるからである。

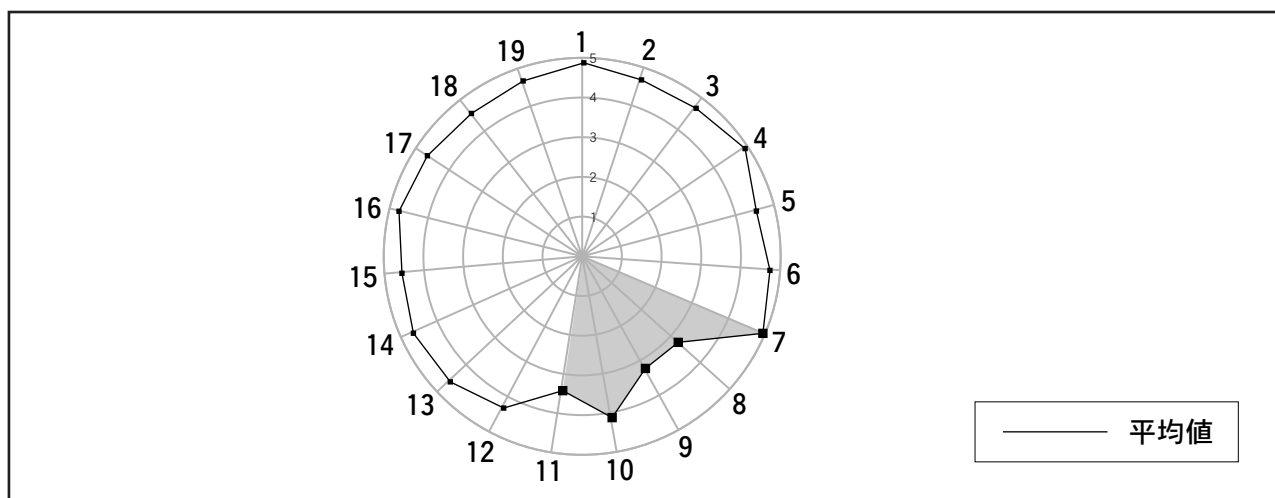
授業評価アンケートを分析すると円グラフからも明らかなように受講生から教員側の授業内容に関する項目(1.2.3.4.6.12.13.14.15.16.17.18.19.20)については概ね高い評価を得られた。質問20項目の単純平均は4.63であった。これはアンケート用紙に学生から「この授業でよかったことを書いてください」というところで、「実践を交えた授業がよかった、講義に実習がつながっている、実習で実技的な力が身に付いた、食生活に役立った、食品や栄養について知ることができた」等の意見に反映されるように、実習を取り入れて授業を展開することがその評価の対象になったものと思われる。

一方、質問項目の8.9.11など学生の授業の取り組みの評価が低いので、課題を出すなど工夫と改善が必要である。

授業科目名 国語学概論（音声言語・文章表現を含む。）
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 27名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	23	4	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	19	8	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	18	9	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	23	4	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	17	6	4	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	20	6	1	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	23	4	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	7	16	2	1	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	7	11	5	1	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	12	5	1	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	10	11	2	1	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	13	10	3	1	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	19	6	2	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	19	7	1	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	19	6	2	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	23	1	2	0	0	4.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	23	2	1	0	1	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	19	6	2	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	20	6	1	0	0	4.7



教員のコメント

評価の平均が4.43であったこと、14項目（質問項目1～7・13～19）で高い評価（4.5以上）が得られたことから、肯定的な評価がなされたと考えている。

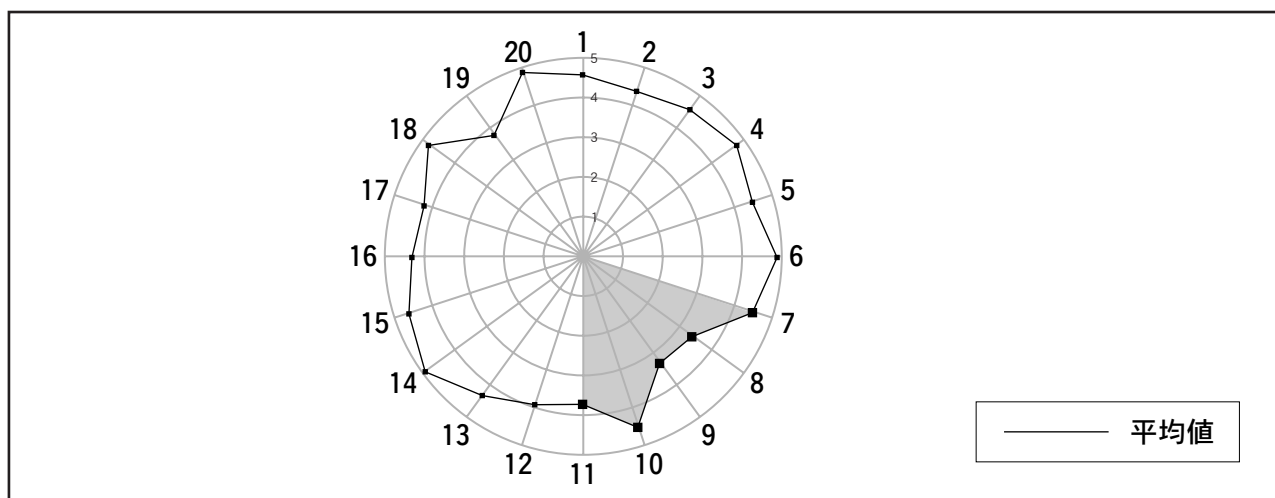
しかし、受講生自身の取り組みに関する項目7～11の評価の平均は3.8であり、今年度も「出席はするが、自主的な学習にはうまくつながっていない」という姿を見てとることができる。ただ、過去3年のデータと比べた場合、これらの項目も、ゆるやかにではあるが改善傾向にあるため、今後もさらに工夫を重ねていきたい。

自由記述項目に関しては、この授業で「よかったこと」は21人、「改善したほうがよいと思うこと」は5人の記述があった。前者は、「言葉のおもしろさを知った」「この授業は将来教員になる私たちの言語や言葉に対する見方をより深めてくれたと思う」など、授業のねらいに沿ったコメントが得られた。また「質問コーナーがあったので気軽に質問できた」など、授業方法も好意的に受け止められている。一方、後者の「もっとたくさんあてて発言させてほしい」という意見は、授業の双方向性を改善するうえで参考にしたい。

授業科目名 法律学特論
 評価実施日 平成20年7月30日
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 18名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	3	1	1	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	4	2	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	5	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	16	1	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	7	1	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	16	2	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	7	1	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	8	7	1	1	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	9	4	3	1	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	9	0	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	10	5	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	6	2	3	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	6	2	1	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	17	0	1	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	7	0	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	8	2	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	5	5	0	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	4	0	0	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	8	5	1	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	2	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

講義に対しては、学生はきわめて主体的に、熱心に受講してくれた。

出席率が高く、私語もなく、真摯な姿勢で受講してくれる学生を前に、教員の側も触発されて、さらに頑張ろうという思いを持つことができるので、とても有難いことであると考えている。鳴門教育大学ならではの教育環境であると思う。また、講義の後に熱心に質問をする学生の数も少なくなく、講義内容を、しっかりと自分のものに消化できているという印象を持った。

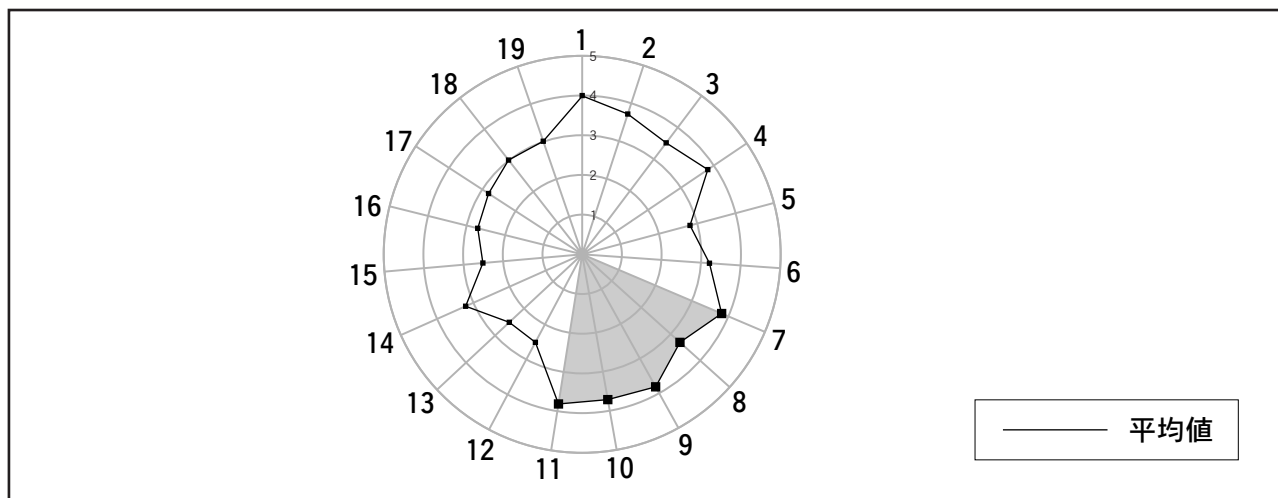
講義の内容について、板書の文字を読みやすくするという課題、話す速度がやや速く、学生がききとりにくいという面があることを自覚した。今後において、この点をしっかり留意しながら、教育に臨みたい。何よりも、学生の立場に立つということが重要であると思う。

まだまだ未熟な教員ではあるが、今後も精進を重ねて、信頼に値する教員になりたいと考えている。

授業科目名 エネルギー変換工学
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 木下 凱文

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	3	1	1	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	2	2	1	0	0	3.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	2	0	2	0	2.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	2	1	1	1	0	3.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	3	2	0	0	0	3.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	1	2	0	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	2	3	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	2	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	0	3	3	0	0	2.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	0	2	1	2	0	2.5
	(14) 熱心に指導した。	1	2	1	1	1	0	3.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	0	2	1	2	0	2.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	0	3	0	2	0	2.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	0	3	1	1	0	2.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	3	0	3	0	0	3.0
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	2	1	1	0	3.0



教員のコメント

今年度は昨年受講しなかった、中学校に加えて小学校(技術)コースの学部3年生ほぼ全員が受講した。受講生の出席状態は非常に悪かった。また、演習を課したが、昨年度と異なり、問題を解こうとする者はほんの2、3人であった。来年度はエネルギーの基礎を教えるのも大変で、止む無く大幅に授業内容を変更(低下)することも考慮したい。

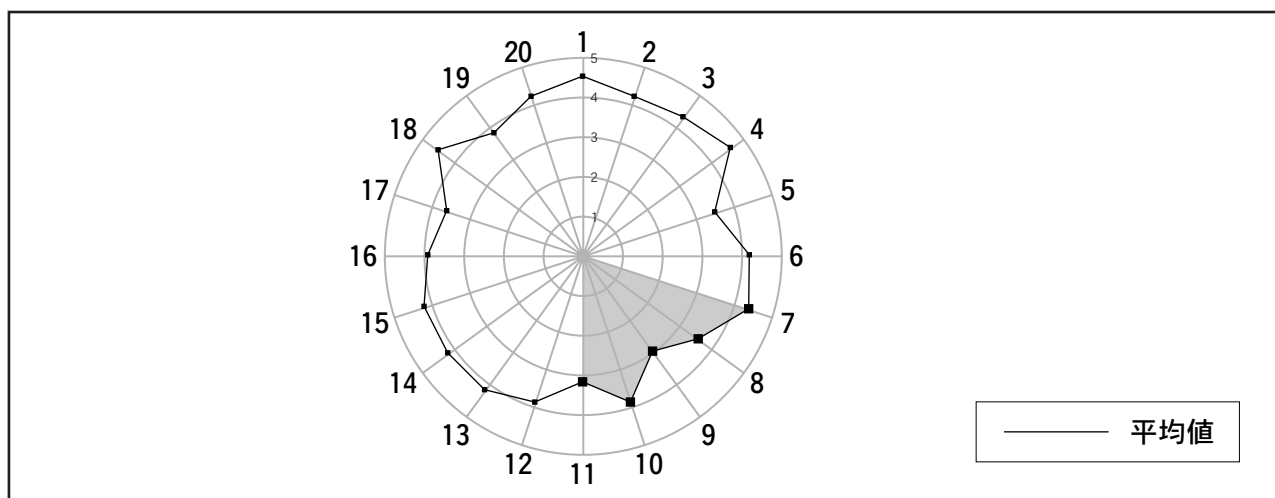
受講生からの提言、改善事項を列挙しておく。評価の参考にしてください。

- ・演習問題が難しかったけれど、頑張って解けた時は嬉しかった。
- ・出席のチェックはしたほうがいいと思う。
- ・少人数なので気軽に質問できた。
- ・技術の詳しい知識が増えた。
- ・解説が少しわかりにくいところがあった。
- ・普段使っているエネルギーについて知ることができた。
- ・学生の事をもっと聞いてほしい。
- ・演習問題をもっとわかりやすく説明してほしい。
- ・板書をわかりやすく書いて欲しいです。

授業科目名 生物学 I
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 米澤 義彦

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	7	1	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	6	2	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	8	2	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	3	2	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	1	11	1	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	8	3	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	4	3	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	7	7	1	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	8	5	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	12	3	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	5	8	3	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	10	4	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	10	2	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	7	7	3	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	10	2	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	7	6	0	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	7	7	1	0	3.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	7	1	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	5	8	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	6	4	0	0	4.2



教員のコメント

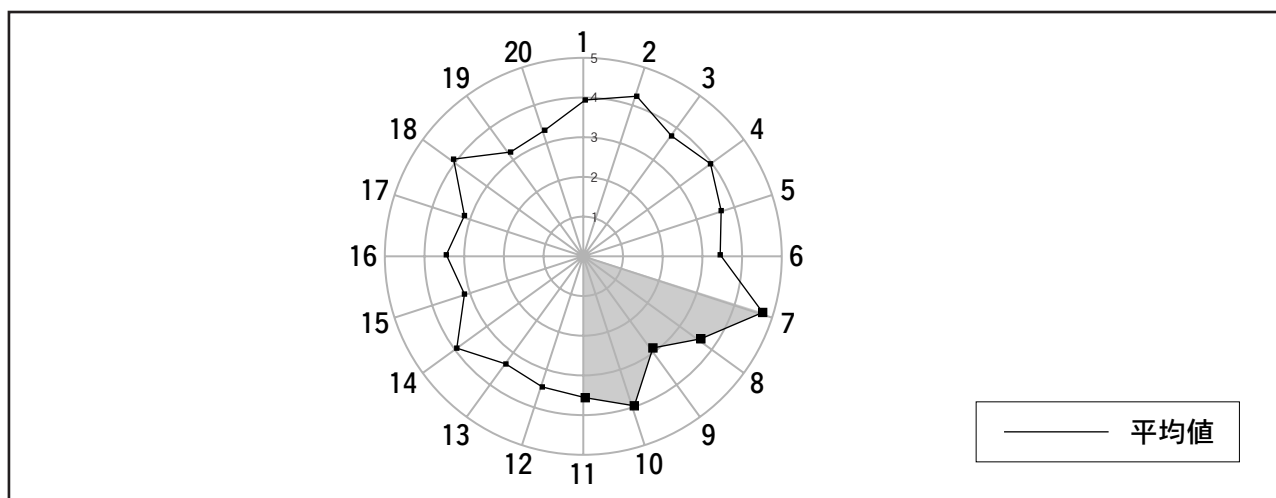
授業内容、教員の授業の進め方についての評価はおおむねよかったが、「授業で改善した方がよいこと」として、「板書が見づらかった」と「英語の資料は復習するときに困った」というのがあった。前者については、私自身気をつけているつもりであるが、急ぐときには読みづらい字体になっていると思われる。板書の内容をOHPあるいはスライドで表示するなどの工夫をする必要があるかも知れない。後者については、一般の辞書には載っていない専門用語があるためと思われるが、そのための参考書等については授業の中で説明しており、学生の「甘え」ではないかと思われる。

今年も、例年のように、学生の授業への取り組みに関する項目の評価が低かった。今年から授業内容を変更したので、予習復習をさせるように心がけたつもりであったが、不十分であったと思われる。2年次前期の授業であるので、教員から指示されなくても、学生自身が予習復習を行うことができると考えていたが、「妄想」であったのかも知れない。来年度からは、英語の資料を「読ます」ことを含めた「課題」を頻繁に与えるようにしたい。

授業科目名 算数A
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 52名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	16	22	10	3	1	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	24	19	6	2	1	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	25	15	3	1	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	22	14	1	1	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	20	15	5	2	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	17	18	6	3	0	3.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	37	14	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	18	20	4	1	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	8	18	14	6	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	26	11	1	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	9	20	18	4	1	0	3.6
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	12	15	17	5	3	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	13	26	2	3	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	16	24	9	2	1	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	13	19	9	4	0	3.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	16	18	4	4	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	7	30	3	4	0	3.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	22	17	10	2	1	0	4.1
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	13	20	5	6	0	3.2
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	13	22	6	3	0	3.3



教員のコメント

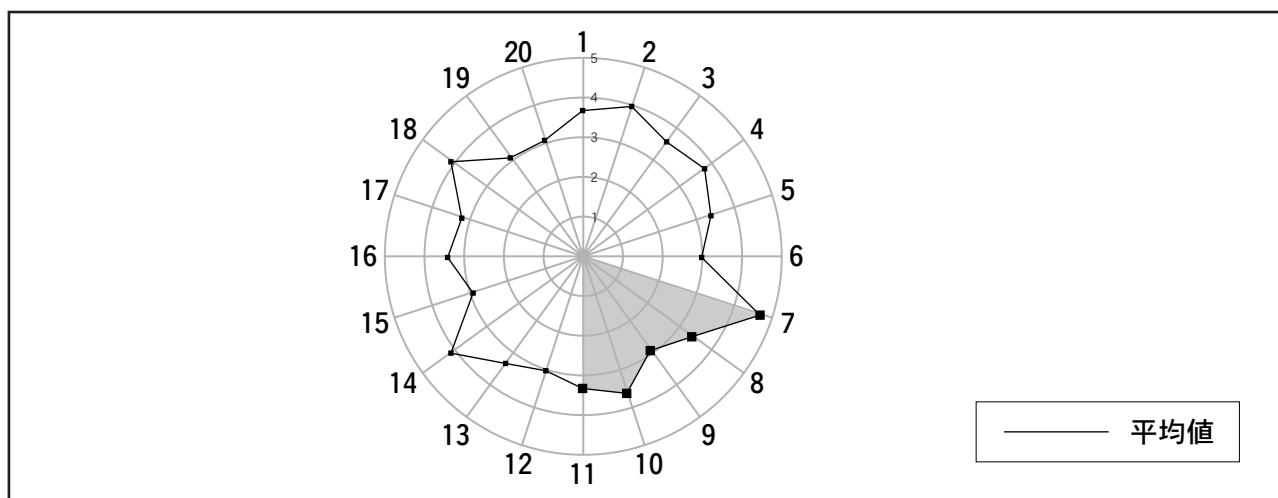
学生は、よく授業に出席していた。欠席者は、あまりいなかった。算数A・Bは、算数の背景となる数学の授業である。この点については、「算数だと思って登録したのに、数学だった」という学生はいなかった。よく頑張っていた。

成績も、昨年に比べ、良かったように思われる。

授業科目名 算数B
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 廣瀬 隆司

回答者数 59名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	23	18	3	2	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	22	22	10	4	1	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	13	20	17	8	1	0	3.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	17	23	10	8	1	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	11	19	16	9	4	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	13	16	10	11	0	3.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	45	10	4	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	13	16	17	7	6	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	9	10	19	10	11	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	18	20	6	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	15	20	7	5	1	3.3
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	9	15	14	11	10	0	3.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	20	14	12	4	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	25	20	11	1	2	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	16	14	11	12	0	2.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	14	17	11	4	0	3.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	11	9	21	9	5	4	3.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	26	18	9	3	1	2	4.1
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	11	12	16	11	8	1	3.1
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	15	16	13	6	2	3.1



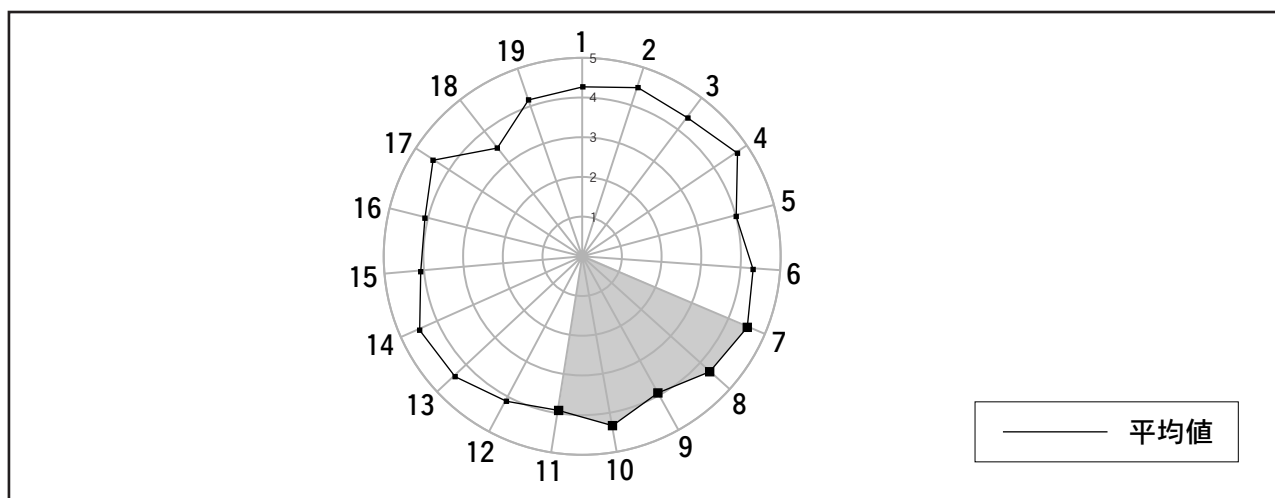
教員のコメント

学生は、よく授業に出席していた。欠席者は、あまりいなかった。算数A・Bは、算数の背景となる数学の授業である。この点については、「算数だと思って登録したのに、数学だった」という学生はいなかった。よく頑張っていた。
 成績も、昨年に比べ、良かったように思われる。

授業科目名 解析学特論
 評価実施日 平成20年7月16日
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	8	1	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	5	1	0	0	1	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	7	1	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	3	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	4	4	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	3	2	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	3	1	1	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	9	2	3	1	0	0	4.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	3	5	1	0	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	6	2	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	3	4	2	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	7	2	1	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	7	1	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	9	5	1	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	8	1	1	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	8	3	0	0	0	4.1
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	4	2	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	5	5	1	1	0	3.5
	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5	2	1	0	0	4.2



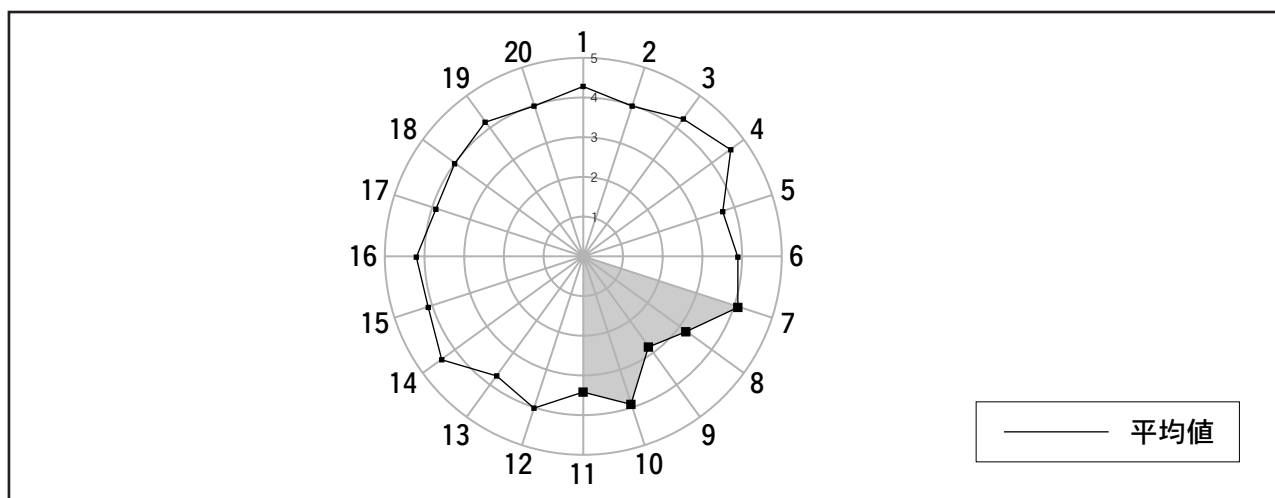
教員のコメント

評価点数は、3項目を除いてすべて4点台とおおむね満足の結果であった。3点台の内、2項目は質問項目3の学生自身の授業への取り組みに属する部分であるが、授業に対する積極的な参加や、調査がいずれも3.9とやや不満な結果となった。例年のことではあるが、大学生として自ら研究しようとする積極的な態度が本学の学生には欠けていることの現れのように思われる。実習等に於いては見違えるほどに積極的に取り組む姿勢を見せて行動することを考えると、何か良いきっかけを与えることでこの問題点は解消することができるのではないかと思われる。これは今後の授業の上で考えていかねばならない問題として捉えた。もう一つの3点台は質問項目(18)の「授業の速さは適切だった」においてであり、3.5の結果であった。解析学特論は3,4年生の専門の授業科目であり、これに続く講義はなく、別に話しておかねばならない内容が課せられていたわけではないが、今回、数学の本質と面白さを味わってもらおうと思、ある程度のレベルに設定して講義を進めた結果と思われる。あなたからの提言の部分に於いても、スピードが速すぎるという意見が2名いた。しかしその一方で、専門的な知識を学べて良かったとか、テンポがいい授業だったと思うといった評価をしている学生もいた。これは学生の授業の捉え方とその姿勢によるものであって、なかなか全員が満足でき、しかも意味のある授業を行うことは授業者の立場からだけでは不可能である。常に学生と接する際に、大学の授業というものに対する共通の認識を持てるよう努力しておくことが必要であることを痛感した。

授業科目名 哲学・倫理学概論
 評価実施日 平成20年8月5日
 担当教員名 齋木 哲郎

回答者数 29名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	11	5	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	6	11	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	15	2	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	10	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	8	8	5	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	11	7	2	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	9	6	2	0	0	4.1
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	5	12	4	3	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	3	8	8	5	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	12	5	3	0	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	8	12	5	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	8	15	5	1	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	10	8	4	0	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	16	10	3	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	12	4	1	1	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	13	10	6	0	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	11	8	0	1	1	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	13	4	3	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	13	10	5	1	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	14	7	0	0	0	4.0



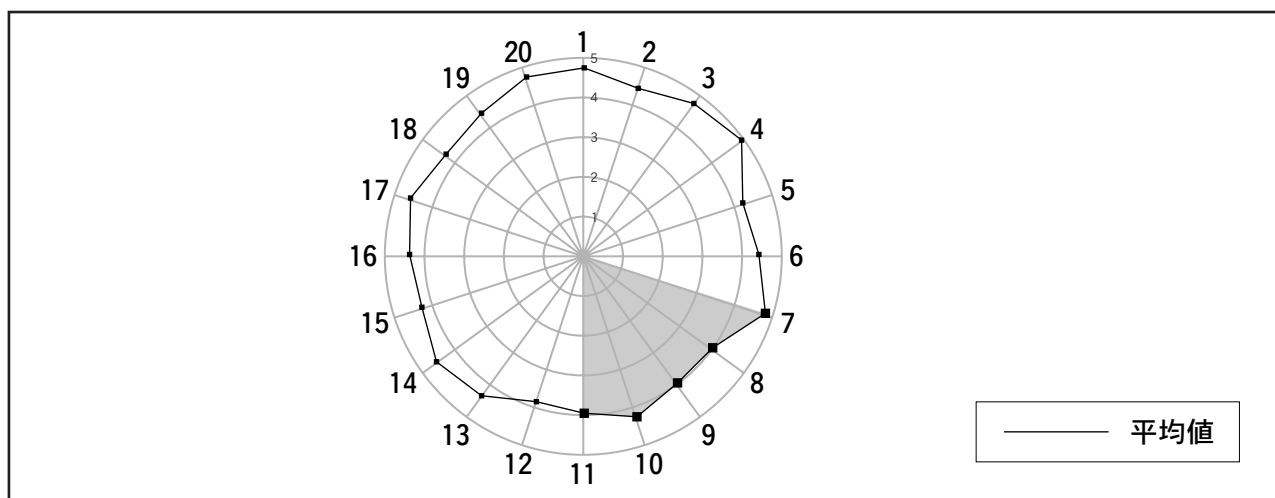
教員のコメント

他の科目と比較してどうかは分からない。ただ、哲学・倫理学という領域では異例の好評を博したように思う。いったい、哲学ないし倫理学というのは、我々が日常的に意識しているわけではないから、その分馴染みがない。逆に意味不明な科目として敬遠されることの方が圧倒的に多い領域である。学生自身のコメントに「興味を持てた」「好きになった」という記述が比較的多かったが、そのこともまた今回の授業が予想外の成果をもたらしていることを物語るようである。ただ、「あなたの授業への取り組みについて」では、受講生の取り組みの消極性が目立つ。おそらくは社会系コース以外の学生が増えたことに起因するのであろうが、そうした学生に対する対応の在り方が、今後に課題を残しているであろう。

授業科目名 住生活学
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 金 貞均

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	3	1	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	4	0	1	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	3	1	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	3	3	0	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	3	3	0	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	1	1	1	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	3	2	1	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	1	2	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(16) 配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	3	1	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	3	0	1	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	3	1	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	1	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

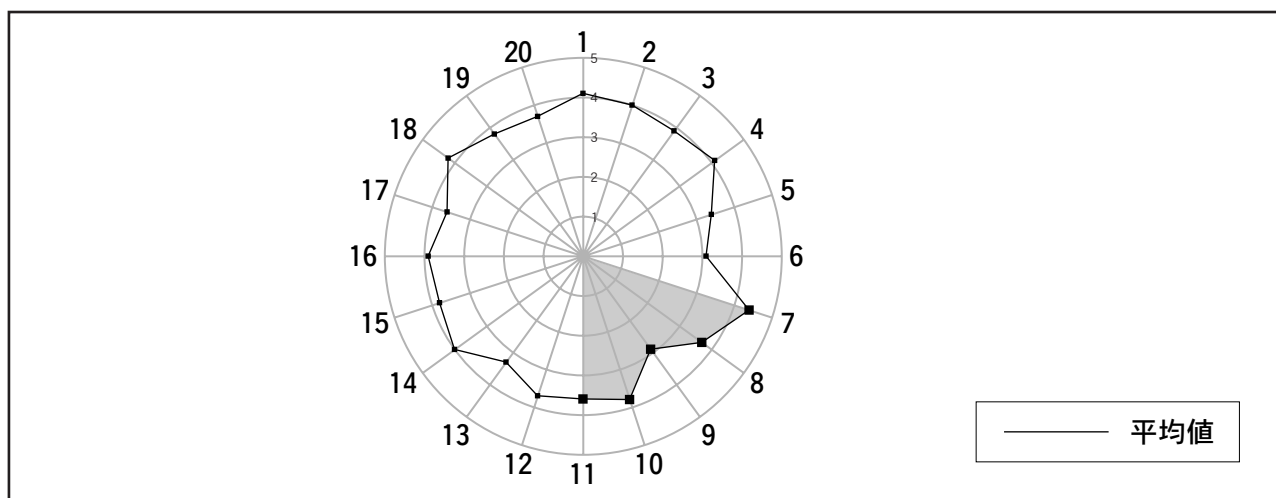
本授業に対する受講生らの評価は全般的に高く、特に「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった(問4)」項目は4.9ポイントであった。「あなたの授業への取り組みについて(問7～11)」つまり学生自身の自己評価がすべて4.0ポイント以上であったことは、大変鼓舞的結果といえる。課題学習が進められる本授業は関連資料の調査からまとめ、プレゼンテーションまで学生の主体的学習活動によって行われる。したがって課題に対する学生さんの取り組み姿勢によって個々人の学習成果は大きく左右される。課題に対して意欲をもって取り組んだことを評価したい。

「この授業でよかったこと(問21)」に対する自由記述では、「住居のことを全体的に学べてよかった」「ビデオで、学んだことを復習したり、実験で検証・裏付けを確認できたりしてよかった」「専門知識と資料が多く得られた」といった意見が述べられ、「授業に対する満足度(問20)」の結果(4.7ポイント)と合わせて本授業の自己成果への評価であると受け止めた。改善点として提案された意見はなかった。ただ、プレゼンテーション能力や発表後の議論の仕方については問題も見えてきたので今後の課題としたい。最後に、「学生の理解状況を確かめながら授業を行った(問12)」(3.9ポイント)に関しては、学生主導型の授業であるので項目の内容と一致しない側面もあるが参考にしたい。

授業科目名 物理学 I
 評価実施日 平成20年 7 月28日
 担当教員名 栗田 高明

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	7	4	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	11	1	1	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	11	3	0	0	0	3.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	10	2	0	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	5	4	4	0	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	7	4	5	0	0	3.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	3	3	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	8	5	1	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	8	4	1	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	11	4	0	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	8	6	1	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	8	5	1	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	6	8	2	0	0	3.3
	(14) 熱心に指導した。	4	8	4	0	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	9	5	0	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	8	5	0	0	0	3.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	8	7	0	0	0	3.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	9	2	0	0	0	4.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	7	6	0	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	8	5	1	0	0	3.7



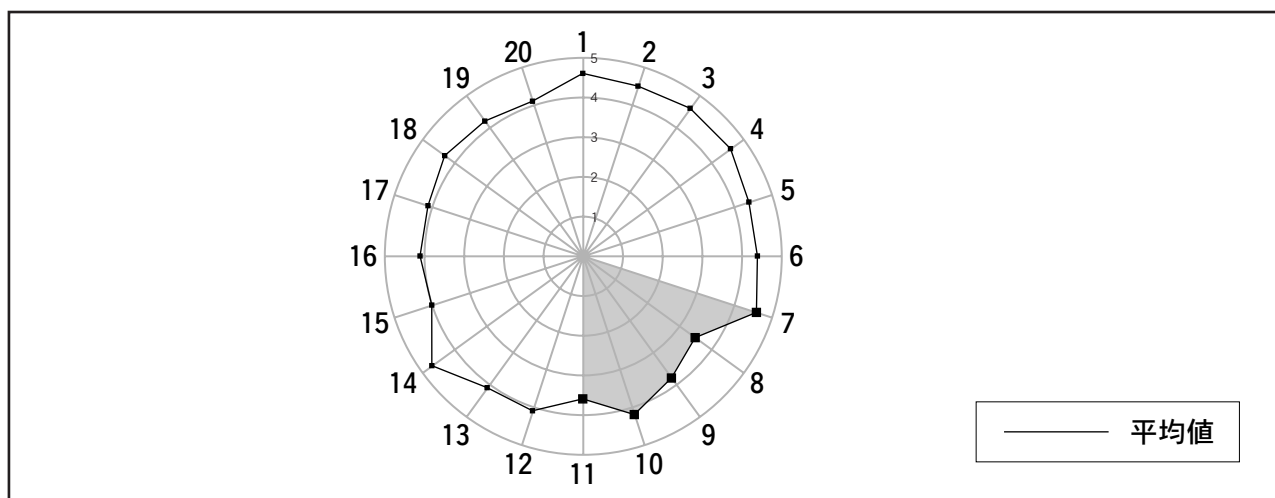
教員のコメント

本授業は、物理学の基礎となる力学の内容を講義するものである。アンケート結果から以下の2点のことが分かった。1つめは、授業内容は興味・関心を惹く（アンケート質問項目では“引く”？）ものであるという質問項目の回答が、他の項目と比較して低いことである。講義の内容に、日常生活の自然現象を例に説明しているのであるが、そのようなことがあまり興味を示さないようである。また受講者の授業への取り組みに対する回答も昨年度通り低いものであった。その他の項目に関しては、概ね満足しているようである。

授業科目名 体育社会学Ⅱ
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 木原 資裕

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	5	0	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	4	1	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	4	0	1	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	2	5	0	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	4	2	0	0	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	2	4	0	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	3	3	0	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	2	4	0	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	1	1	2	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	1	1	2	0	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	3	2	0	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	4	2	0	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4	1	1	0	0	4.1



教員のコメント

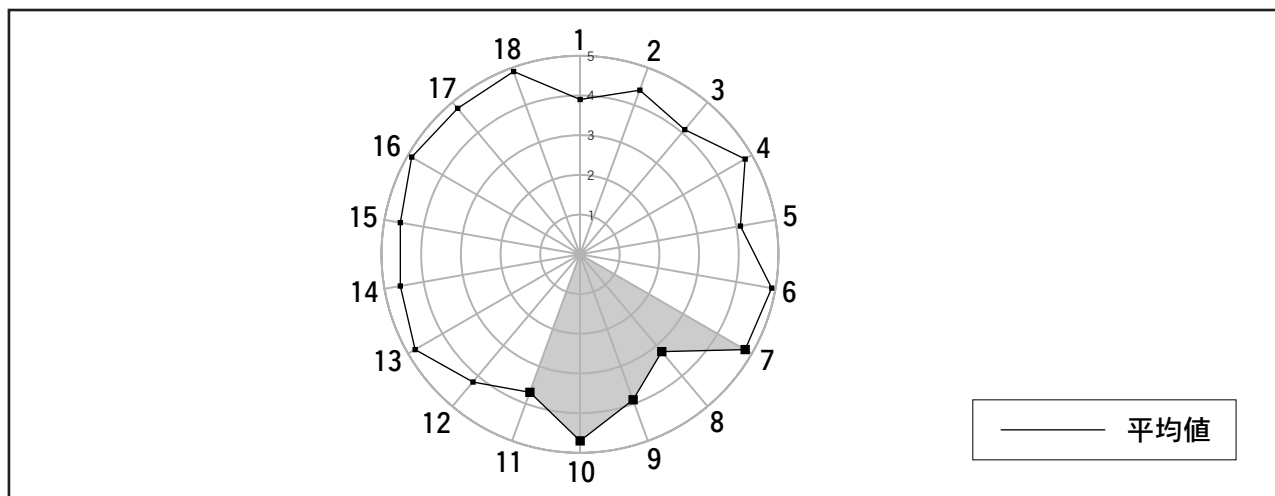
「20. この授業は自分自身にとって満足できるものであった。」の項目に対して、平均値 4.1 であり、受講生の評価に「3」「2」あり、不満を感じる部分もあったことが伺える。全項目中、平均値 4.7 と最も高い値を示したものは「14. 熱心に指導した。」であった。しかし、一方では、「15. 授業内容を分かりやすく説明した」等の教員の授業の進め方に関する評価は平均値 4 点前半が多くあり、今後の授業構想を再検討する必要があることを示唆する評価であると考えている。

一方、全項目中、最も低い平均値を示した項目は、「8. 授業内容をよく理解するために予習や復習をした」(平均値 3.5) であった。次いで「11. 分からないことや疑問に思ったことは調べた」(平均値 3.6) であり、授業にはよく出席するが、授業以外では、授業に関する勉強はしない実態が読みとることができる。このことは、私自身が受講生に予習復習をあえて要求することもなく、授業時間の中で理解し得る程度の内容と授業展開に起因していると思われる。

授業科目名 社会学概論
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 山本 準

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	7	5	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	7	1	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	5	4	0	0	1	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	4	4	1	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	3	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	8	2	1	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	12	1	0	1	0	3.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	5	0	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	4	7	1	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	11	1	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	13	3	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	11	4	1	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	6	0	0	0	0	4.6
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	15	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	12	4	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	1	0	0	0	0	4.9



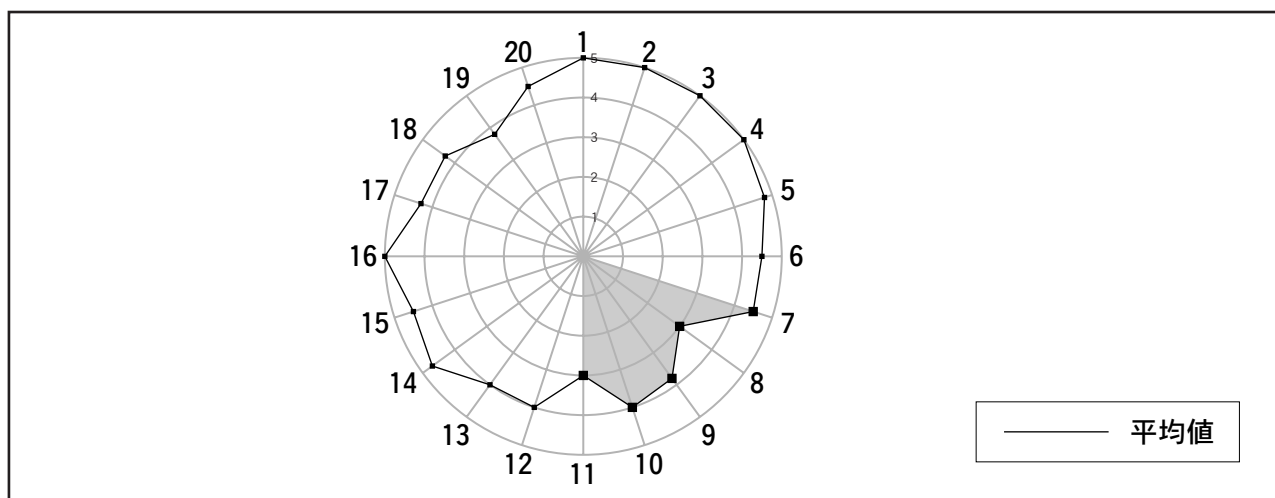
教員のコメント

社会学概論の講義では、できる限り学生の発言を促し、討論形式で授業を進めるように配慮した。社会学の知識は、知識として覚えているだけでは大きな意味は無い。社会学的知は、その知識を利用し現実の社会で起こっている社会的事象を理解するための道具でもある。このためできる限り具体的な社会事象を材料に、講義を進めようと努めた。講義はおおむね好評であったように思える。しかし、視聴覚教材の利用や、討論形式などまだまだ改良する余地はあると考える。今後、学生の要望に叶うよう、一層の授業改革に取り組みたい。

授業科目名 消費者経済学
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 渡邊 廣二

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	1	0	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	2	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	2	1	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	2	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	2	1	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	1	2	1	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	2	1	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	2	1	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	1	1	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	3	0	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	2	0	1	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	2	0	0	0	4.5



教員のコメント

消費者経済学の授業では、市場経済の特徴、商品の選択と購入、支払い方法、消費者契約、特定商取引、消費者信用、家計など、現代の消費生活を理解し、中学校・高等学校において家庭科の授業を行う上で必要な内容を取り扱っている。

一昨年に比べて昨年の評価は全体に低かったが、今年は昨年と比べて改善された項目が多い。とくに「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」、「授業内容は、興味・関心を引くものだった」、および「授業内容をわかりやすく説明した」という3項目で大きく改善された。

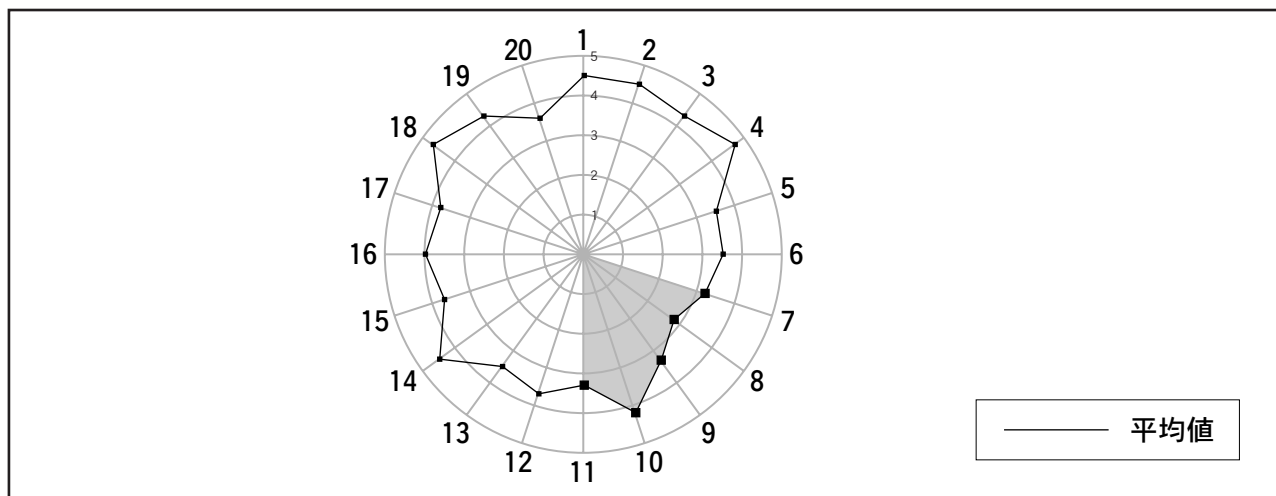
また、この授業でよかったことを記述した意見を見ると、「詳しい内容を学べてよかった」、「深いところまで消費者経済について学べた」、「専門性は高められた」という回答であった。しかし、逆に改善した方がよいと思うことを記述した意見として「学習内容が難しかった」という回答があった。

消費者契約や消費者信用など、受講生にとって身近とはいえない学習内容については、具体的でわかりやすくなるように工夫するとともに、販売方法や支払い方法あるいは悪質商法などについては、中学校・高等学校の教科書の内容とも関連づけて、受講生の学習意欲を高めるよう努めたい。

授業科目名 材料力学
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 宮下 晃一

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	3	0	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	4	0	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	1	1	2	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	0	4	1	0	0	3.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	3	2	0	0	2.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	4	1	0	1	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	5	0	0	0	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	5	0	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	2	3	0	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	3	1	0	1	0	3.5
	(14) 熱心に指導した。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	3	1	1	0	0	3.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	3	1	0	0	2	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	2	1	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	2	1	1	0	1	3.6



教員のコメント

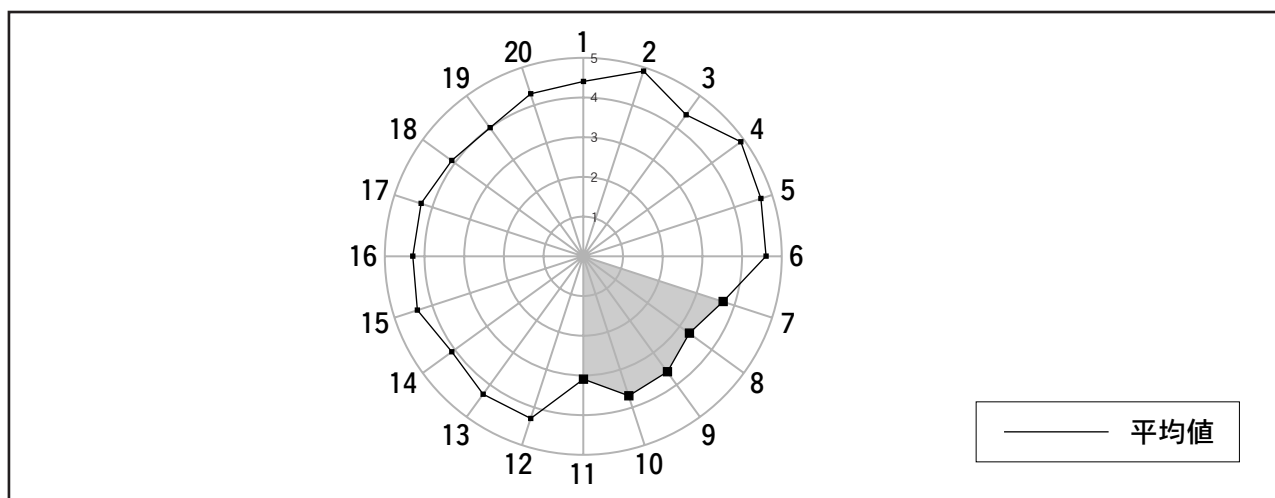
全20項目のうち平均値4.0以上が9項目、3.0以上が10項目、3.0未満が1項目であり、概ね良好な評価を得たと考えている。

3.0未満であったのは「(8)授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」であったことに関して特にコメントする。この授業の内容は本学の学生にとっては相当に難しい内容を含んでいる。したがって宿題として課した演習問題を解くことだけでもかなりの負荷が掛ったと推察され、予習・復習にまで手が回らなかったのが実情であると思われる。そのような理由で、この項目でやや低い評価となったのは仕方がない面があるが、受講生も教員も熱心に取り組んだことには相違ない。

授業科目名 児童福祉論
 評価実施日 平成20年8月5日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	3	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	2	0	1	1	0	3.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	4	1	0	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	2	1	0	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	5	2	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	4	1	0	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	5	0	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	2	4	1	0	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	4	0	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	3	1	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	5	0	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	6	0	0	0	0	4.1
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	3	2	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	1	0	0	0	4.3



教員のコメント

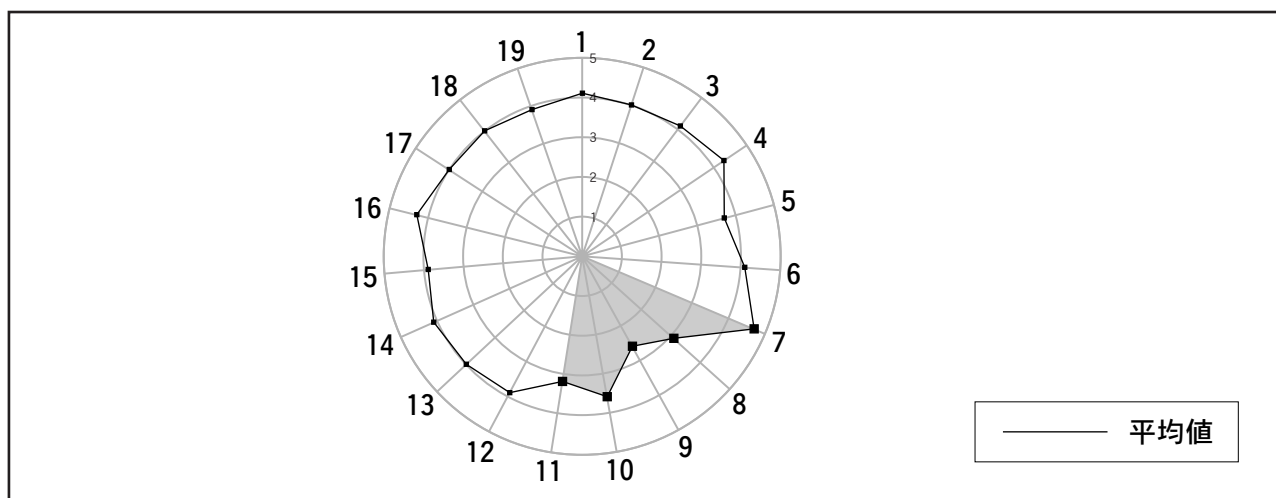
「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」「4 教員の授業の進め方について」と比較して、「3 あなたの授業への取り組みについて」の5項目の評価得点が低い結果となっていた。このことは、学生の知的好奇心を刺激し、さらなる探究心を育むような授業でなかったことを如実に現している。特に、幼児教育専修において、「児童福祉」は専門職（幼稚園教諭・保育士）の根幹を成す部分であるにもかかわらず、積極的な授業への参加（発言・自発的予習・復習）を促すことができなかったことは、残念なことである。今後は、「児童福祉」を学ぶことの意義や意味について、学生と共有しながら授業を進めることで、学生の探究心を育めるよう努めたい。

また、「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」「4 教員の授業の進め方について」はいずれの項目も評価得点が4以上となっていたが、中でも「授業の進む速さ」「教員の声の聞き取りやすさ」などは改善の余地があると考え、次年度の講義では十分考慮したいと考える。

授業科目名 地学の基礎
 評価実施日 平成20年8月4日
 担当教員名 村田 守

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	5	4	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	1	7	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	6	4	0	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	7	2	0	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	7	6	0	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	6	2	1	0	1	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	3	1	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	3	2	3	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	6	2	4	0	2.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	7	7	0	0	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	6	4	3	1	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	6	5	0	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	3	6	0	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	4	8	3	0	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	11	3	0	0	0	3.9
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	8	1	0	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	7	4	0	0	0	4.0
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	7	4	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	6	3	1	0	1	3.9



教員のコメント

入試制度が変更になり、全員が高校の理系コース出身であったために、高い理解度を期待したが、成績は例年に比べ悪かった。例年、アンケートの裏面の自由記述はほぼ全員記入していたが、今年は以下の4名のみであり、基礎学力不足のため、講義についてこれず、講義にも積極的に関わられなかったようである。

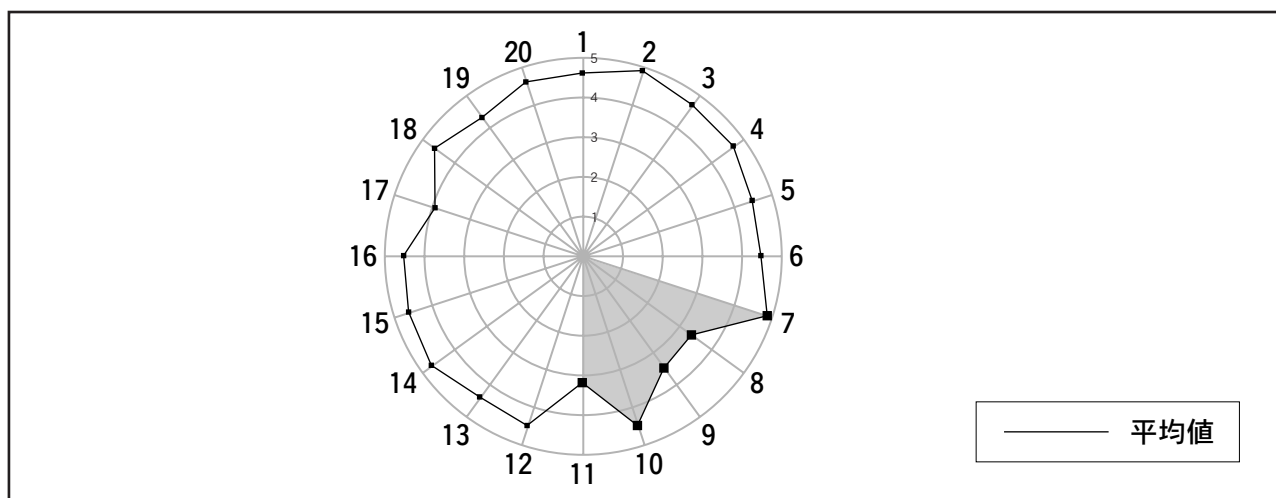
以下学生の自由記述（原文ママ）

- 大学で初めて地学を勉強して、その導入としていい授業内容だった。
- 先生がおもしろかった。
- 図があってわかりやすかった。
- 勉強しやすいかんきょうであった。

授業科目名 家族論
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 黒川 衣代

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	4	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	1	0	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	3	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	2	1	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	9	4	2	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	5	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	7	4	3	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	3	7	2	0	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	7	0	0	0	1	4.5
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	7	4	4	0	0	3.2
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	6	1	0	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	7	1	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	12	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	2	2	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	5	1	0	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	2	7	0	0	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	2	2	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	4	3	0	0	0	4.3
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	4	1	0	0	0	4.6



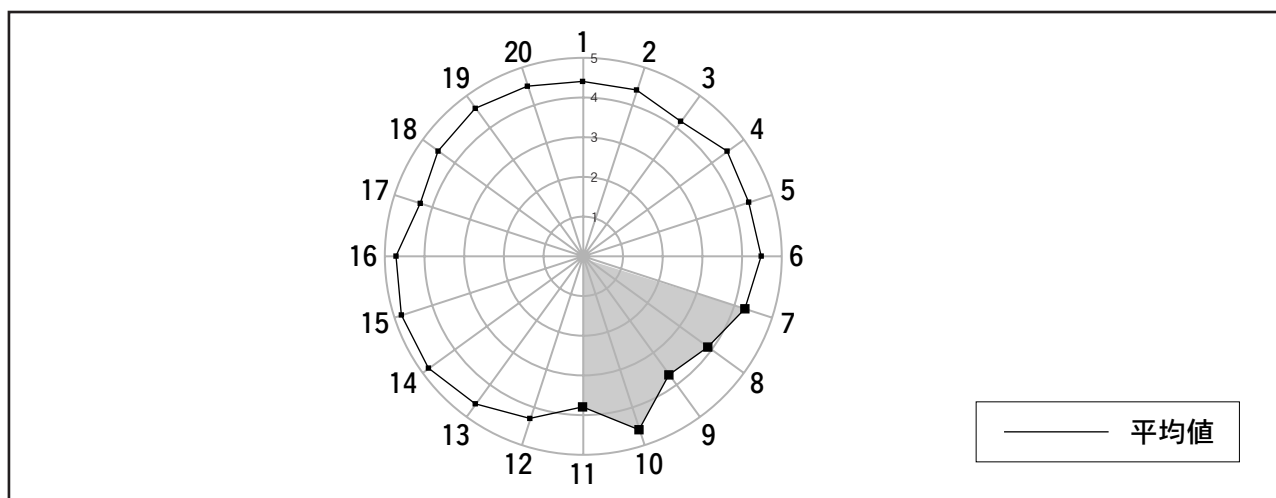
教員のコメント

全体的に肯定的な評価が得られている。学生の授業への取り組みを尋ねた項目を除くと、項目17以外は、4.3以上の評価であった。授業内容を見直し、各内容の授業時間配分を再検討したこと、講義一辺倒にならないよう様々な方法や活動を取り入れたことがよかったのではないかと思う。学生の自己評価においても、「出席」と「説明をよく聞いた」ことの評価が高いのは、授業に興味・関心を持ったことの現れであろう。ただ、学生の主体的な取り組みの点では改善の余地があるので、意欲を高める手立てを考えていきたい。

授業科目名 比較文化研究Ⅱ
 評価実施日 平成20年8月7日
 担当教員名 前田 一平

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	4	2	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	5	3	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	6	0	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	4	0	1	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	4	1	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	6	1	2	0	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	4	0	1	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	5	0	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	2	4	2	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	8	5	0	0	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	4	0	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	4	1	0	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	9	3	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	2	2	0	0	0	4.5



教員のコメント

各質問項目に対する評価平均値はほとんどが4.5前後であるので、高い肯定的評価を得ていると判断される。しかし、いずれの授業でも同じような傾向があるが、受講生自身の取り組みに関してはやや低い自己評価がなされている。受講生の自学習を促す授業を模索しなければならない。

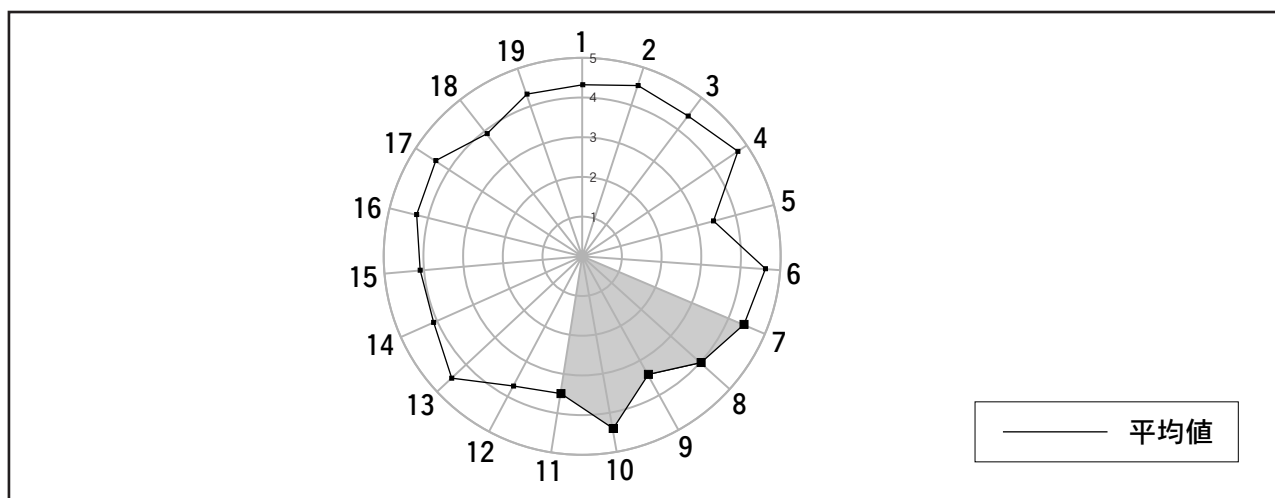
受講生からの提言は回答者13名中11名からあった。「アメリカ文化について詳しく、興味深く学べた」という意見がほとんどであった。改善点の指摘は小数であったが、2名から「もっと日本との文化比較があればよい」というような指摘があった。

若干の改善が必要な点はあるものの、受講生の満足度の高い(平均値4.5)授業を提供できたと判断する。

授業科目名 幾何学Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月4日
 担当教員名 松岡 隆

回答者数 20名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	11	2	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	11	7	2	0	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	10	1	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	6	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	6	5	4	1	0	3.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	6	1	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	4	4	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	7	5	0	1	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	6	8	2	1	0	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	10	8	2	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	7	10	0	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	9	4	3	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	11	8	1	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	6	10	3	1	0	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	9	5	0	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	9	3	0	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	8	1	1	0	0	4.4
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	5	9	4	2	0	0	3.9
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	10	2	0	0	0	4.3



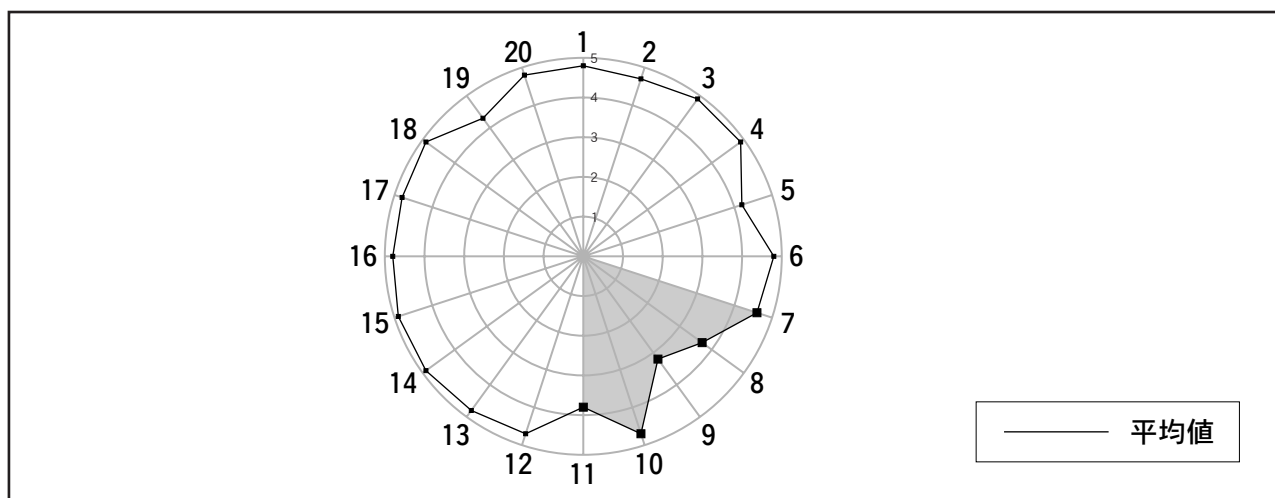
教員のコメント

平均値が4.0未満の項目は5, 9, 11, 12, 18であった。5については授業が幾何の内容自体を扱うものであり特に問題とは考えない。9, 11については未だよい改善方法を思いついていない。12, 18は、受講生の理解の状況に大きな差があるため中間層を基準として授業を進めていることの表れであるが、今後改善策を検討したい。「よかったこと」欄には以下の回答があった。「日常生活と結びついてよかった」、「画面に映る内容が難しかったが日常的で面白い」、「普段学校でしそうな内容もしたので楽しかったし興味をもてた」、「いろいろな証明方法を考えられた」、「専門性を高めるものでした。射影などやったことがないのも面白かったです」、「とても専門性が高くおもしろかった」、「数学的センスを磨けた感じがしました」、「発想の転換が身についた」、「考えさせてくれる授業」、「中学での忘れていたことをしっかり復習できたのでよかった」、「去年に比べ面白い内容が多かった」、「専門的な知識を深めるためにとりためになった」、「内容が面白い。毎回小テストがあるので勉強する」、「一人一人の理解状況に合わせて授業をしてくれたこと」。今年は身近な問題に関する新しい内容を導入したが、回答の一部から好評であったことが分かる。改善点欄には以下の回答があった。「もっとわかりやすく説明を丁寧に」、「進むペースが速い」、「小テストの時間をもっと長く」（2名）

授業科目名 外国史特論
 評価実施日 平成21年2月4日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 18名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	4	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	12	6	0	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	17	1	0	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	17	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	8	3	0	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	3	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	7	0	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	7	6	0	1	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	7	2	2	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	14	3	1	0	0	0	4.7
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	11	5	0	0	0	3.8
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	13	5	0	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	14	4	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	17	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	16	2	0	0	0	0	4.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	4	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	14	4	0	0	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	17	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	9	6	3	0	0	0	4.3
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	4	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

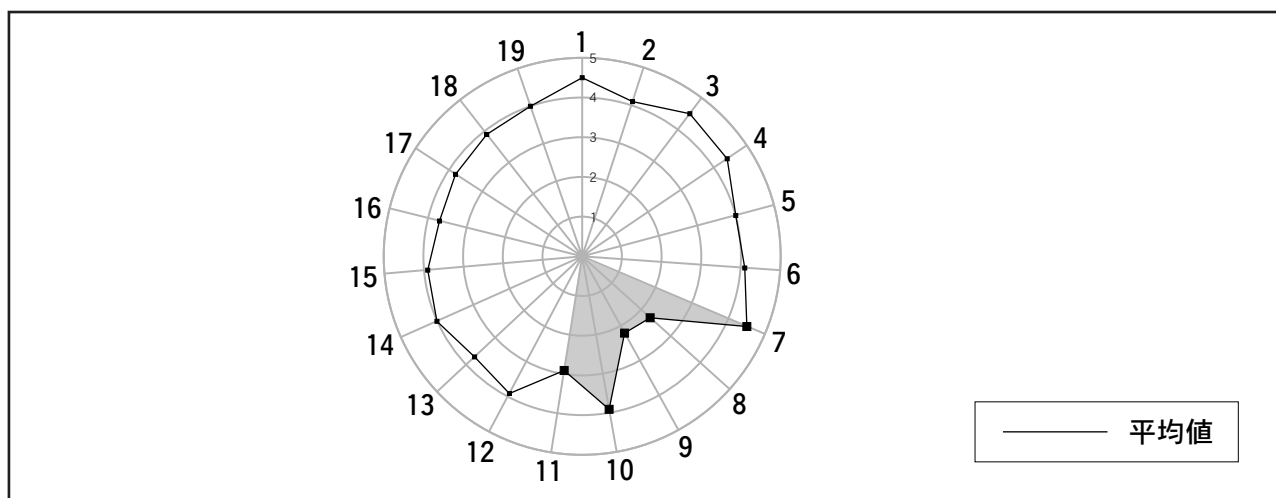
「外国史特論」は学部2年次生を対象とした専門科目である。今年度も昨年と同様に、1930年代から第2次世界大戦期までのヨーロッパの状況を「ナチス・ドイツ」の動向を中心に取り上げ、終盤にはナチズムの過去を背負った戦後（西）ドイツの「過去の克服」にも言及した。

この講義の満足度を問う項目(20)では、アンケート回答者18人全員が「5」または「4」の評価を下しており、学生は概ねこの講義に満足したといえる。項目(6)・(7)の結果が示すように、学生は講義内容に興味・関心を示し（全員が「5」・「4」と回答）、ほとんど欠席者はいなかった。また、授業の進め方に関する8つの質問についてもすべての質問でほぼ全員が「5」または「4」の評価を下しており、この点についても概ね目標は達成されたものとみなすことができる。学生のコメントも概ね好意的なものが多かった。講義レジュメをB4判で10枚、資料を同じくB4判で20枚以上配布したが、これらは学生の講義理解の一助となり、また学生は興味を持って資料に接したようである。また、ビデオや現地で授業者自身が撮影した写真などを盛り込んだことも受講者には好評で印象に残ったようで、この点は来年度も継続したい。ただし、授業進度に関しては3名が「3」と回答しており、若干速く感じられたようである。この点については今後配慮する必要がある。

授業科目名 障害児心理学Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月13日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 15名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	8	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	6	4	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	8	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	7	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	7	4	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	9	1	1	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	7	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	2	3	4	5	2.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	2	4	6	2.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	7	3	1	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	4	4	2	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	11	3	0	0	3.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	4	6	0	1	3.7
	(14) 熱心に指導した。	5	7	2	0	1	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	8	3	1	0	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	9	3	0	1	3.7
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	7	4	1	0	3.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	9	2	1	0	3.9
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	10	1	1	0	4.0



教員のコメント

今年度の障害児心理学Ⅱでは、特別支援学校の教免法改正にともなうカリキュラム改定に基づいて授業内容を変更し、LD・ADHD・高機能自閉症等の近年の研究に触れつつ、心理学的なアセスメントと指導について具体的な事例をまじえて論究した。

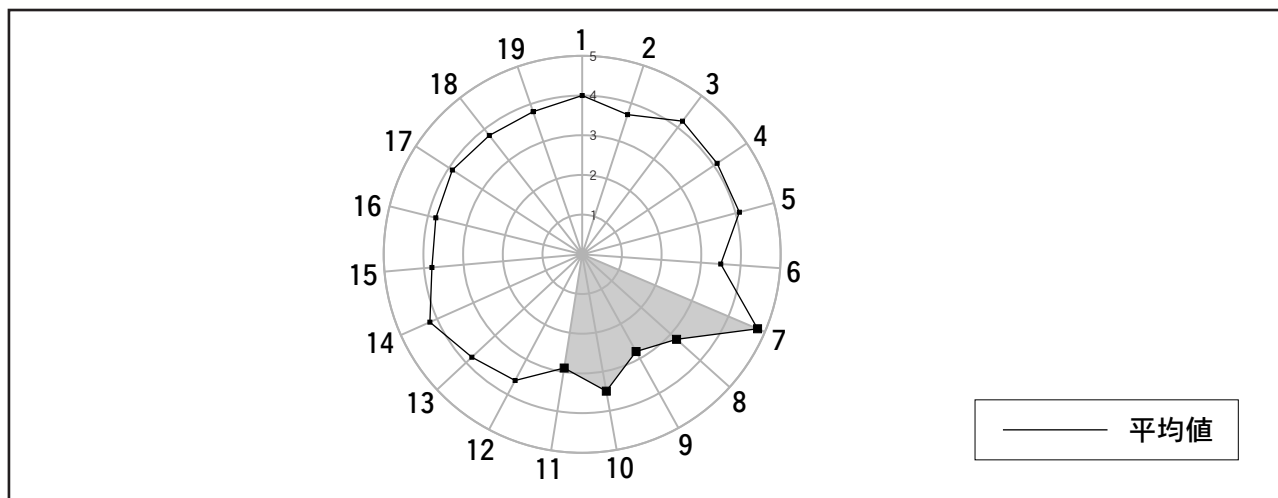
授業評価アンケートの結果、問1「目標・授業計画・内容は明確に示されていた」、問3「授業内容は授業概要に沿っていた」、問7「授業によく出席した」では全員が5または4の高い評定を行い、また、問4「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」、問6「授業内容は興味・関心を引くものだった」でも全般に高い評定値が得られた。従って、授業は計画的に進めることができ、発達障害に関する心理学的な知識を浸透させることに成功したとすることができる。

一方、問8「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、問9「授業中に積極的に発言や質問をした」、問11「分からないことや疑問に思ったことは調べた」では評定値が全般に低かったことより、学生は受身的な姿勢であったことが示唆された。発達障害児に適用する継次処理型指導と同時処理型指導について、学習指導案のサンプルをもとに解説したが、時間の関係で概括的な説明で終わったためだと思われる。教材や指導場面のスライドを呈示し、一層具体的なイメージがもてるように工夫してみたい。

授業科目名 保健体育科教育論Ⅲ
 評価実施日 平成21年2月12日
 担当教員名 吉本佐雅子

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	7	3	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	5	6	0	0	0	3.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	3	4	0	0	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	4	4	0	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	6	3	0	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	5	4	2	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	3	3	2	2	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	7	2	2	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	6	5	1	0	0	3.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	4	4	1	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	6	6	0	0	0	3.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	5	4	1	0	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	5	6	2	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	5	4	1	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	6	5	0	0	0	3.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	4	5	0	0	0	3.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	5	5	0	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	7	4	0	0	0	3.8



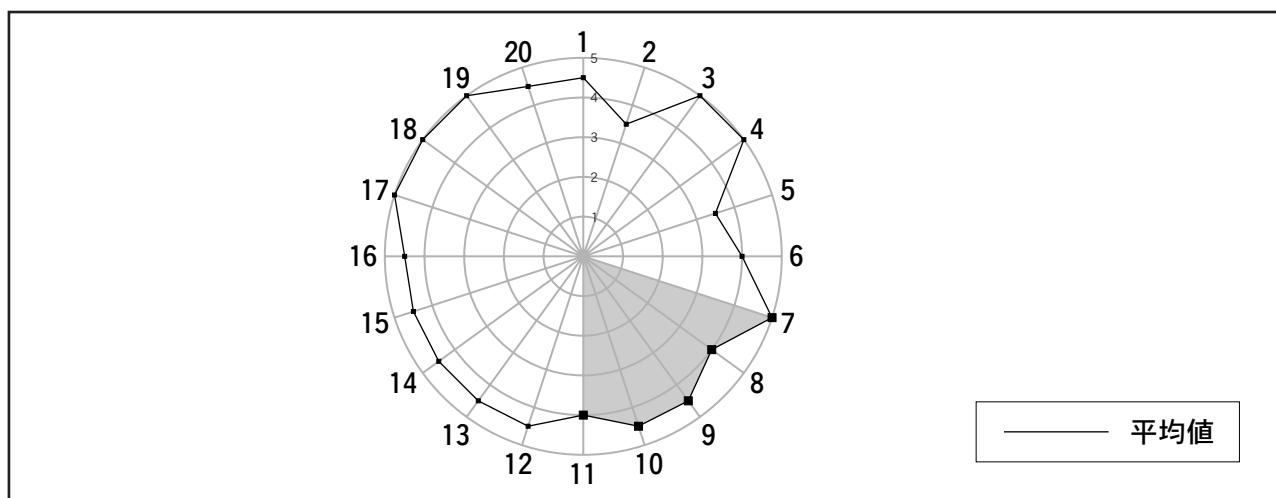
教員のコメント

全体として授業内容や授業の準備は適切であったと考えるが、学生の当講義への積極的な関心を引き出せなかったこと（設問6）を痛感している。このことは当講義では理論的な内容を多くしたこと、学生の理解度の確認が不十分（設問12）であったことに原因があると思われる。今後、授業のはじめに、当日の授業のねらい、目的などを説明し、授業の流れを毎授業、確認させる必要があると考えた。

授業科目名 バイオメカニクス
 評価実施日 平成21年2月18日
 担当教員名 松井 敦典

回答者数 2名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	1	1	0	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	1	1	0	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	0	1	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	1	0	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	1	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	1	0	0	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	0	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	0	0	0	0	4.5



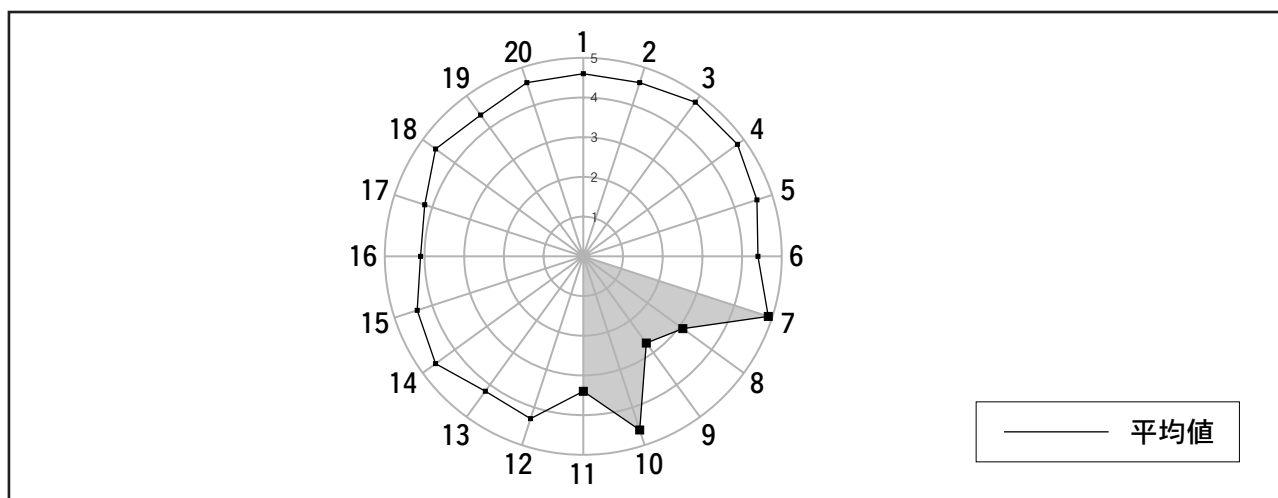
教員のコメント

本授業は、保健体育科の教免に関わる選択科目である。
 例年であれば体育科・保健体育科に所属する2年生のほぼ全員が履修していた。しかし、本年度は同時に副免取得に関わる他教科の授業が参入してきたため、多くの学生が副免取得のためにその授業を履修せざるを得ず、履修者がわずか2名という寂しい授業となった。
 本授業で取り扱う内容は、現行の免許法が制定された後に萌芽した分野であり、選択科目であるものの保健体育科教員養成に必要な内容が多く含まれており、質の良い教員を輩出するためにも、時間割上の制約から履修不可能となるような事態を極力避けなければならない。
 さて、2名の受講生の評価は、そのサンプルの規模から多くを語ることはできないが、少人数であるが故に受講生の学習の進捗を見ながらすすめることができたため、概ね良好な評価を得ることができていると考えられる。
 次年度以降は開講時間の見直しを含めて、体育科・保健体育科コース学生の利益につながるよう改善していきたい。

授業科目名 保健体育科教育論Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 坂本 和丈

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	11	4	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	7	0	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	5	1	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	7	0	1	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	5	6	3	1	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	7	3	3	0	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	7	0	0	0	0	4.6
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	4	9	0	1	0	3.4
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	10	1	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	6	2	1	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	10	6	0	0	0	0	4.6
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	4	3	0	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	8	3	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	7	5	4	0	0	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	7	0	0	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	7	1	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	7	0	0	0	0	4.6



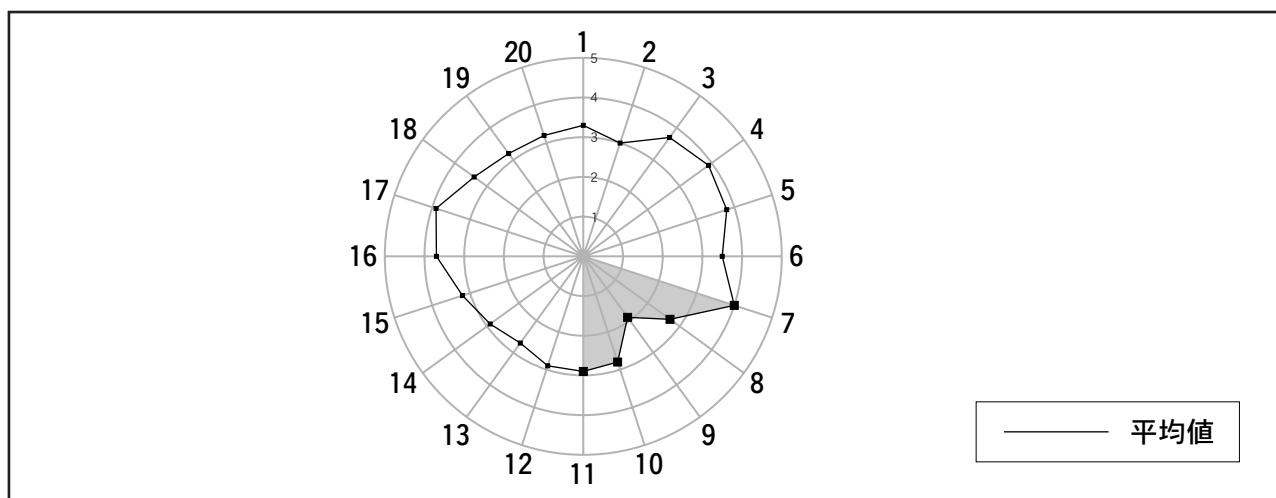
教員のコメント

本授業科目は学部1年生が履修対象となっている。授業形式は講義形式であるが、質疑応答形式も取り入れて行っている。しかし、学生は質疑応答形式では活発な意見や質問ができないようである。この点については、教師の工夫や発問の支援を検討しなければならないと考えている。授業評価の結果からみると、学生の理解度はかなり高いと考えられることから、2年次の関連授業に反映できるものと思われる。

授業科目名 地図学概論
 評価実施日 平成21年3月3日
 担当教員名 立岡 裕士

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	3	4	2	0	0	3.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	4	2	1	0	3.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	5	4	0	0	0	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	2	2	2	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	3	3	2	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	4	3	0	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	4	3	1	0	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	2	2	5	0	1.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	3	3	3	1	0	2.8
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	3	3	1	0	2.9
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	3	3	4	0	0	2.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	3	3	2	2	0	2.7
	(14) 熱心に指導した。	0	4	3	1	2	0	2.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	2	5	2	0	0	3.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	3	1	0	0	3.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	5	3	0	0	0	3.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	6	2	2	0	0	3.4
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	0	3	6	1	0	0	3.2
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	5	2	3	0	0	3.2



教員のコメント

この授業の改善すべき点（問22）として下記の3件が挙げられた。

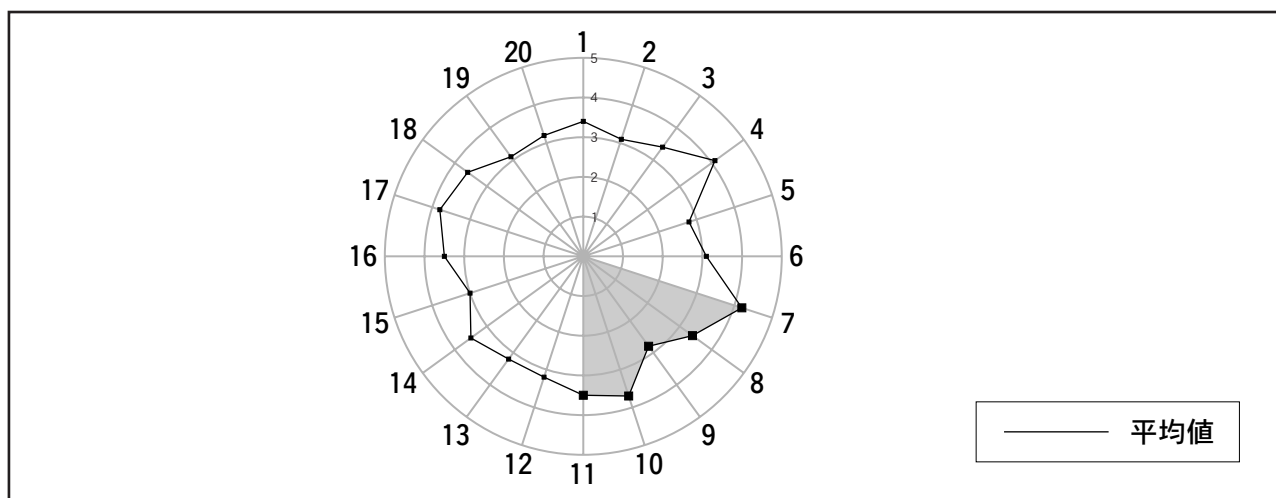
- ・「何の説明もせず丸投げした課題に文句だけ言うのはやめてほしい あと、もっと分かりやすい話を」
- ・「話が専門的すぎるのかよくわからなかった」
- ・「すこしわかりにくい説明」

説明がわかりにくいという問題に関しては、授業中に質問できなかった点は参考書にあたるなどの方法があったと思われる。参考書は20冊以上指示しているので、具体的にどの文献のどの部分がわかりにくいかを明記していただければ参考になった。

授業科目名 地誌学概論
 評価実施日 平成21年3月4日
 担当教員名 立岡 裕士

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	5	4	1	0	0	3.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	3	6	0	1	0	3.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	4	3	2	0	0	3.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	4	1	1	0	0	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	2	4	4	0	0	2.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	4	3	3	0	0	3.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	3	1	1	0	0	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	6	0	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	4	4	0	0	2.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	7	3	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	5	5	0	0	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	4	5	0	1	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	5	3	1	1	0	3.2
	(14) 熱心に指導した。	3	2	3	1	1	0	3.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	3	5	1	1	0	3.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	6	3	1	0	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	5	2	1	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	4	5	0	0	0	3.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	0	3	5	2	0	0	3.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	5	2	3	0	0	3.2



教員のコメント

この授業の改善すべき点（問 22）として下記の 2 件が挙げられた。

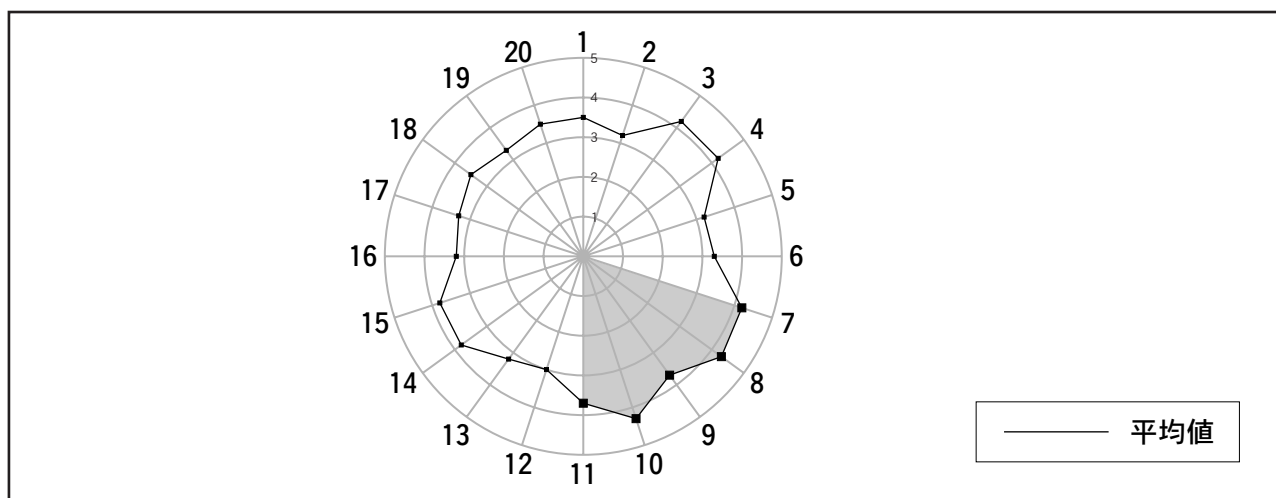
- ・「出席はとるべき」
- ・「内容が分かりづらい」

出席を採るべき理由が書かれていないため適切に応えようがないが、出席を採る必要は特にないため今後も採る必要がないと考える。

授業科目名 化学Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 今倉 康宏

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	2	2	1	0	1	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	3	1	0	1	3.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	1	2	0	0	1	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	1	2	0	0	1	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	2	3	1	0	1	3.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	4	0	2	0	1	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	3	1	0	0	1	4.2
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	2	1	0	0	1	4.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	3	0	0	1	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	2	1	0	0	1	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	2	0	0	1	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	3	1	1	1	1	3.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	2	3	1	0	1	3.2
	(14) 熱心に指導した。	1	3	2	0	0	1	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	3	2	0	0	1	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	3	2	0	1	1	3.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	3	2	1	0	1	3.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	4	1	1	0	1	3.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	0	3	2	1	0	1	3.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	3	0	2	0	1	3.5



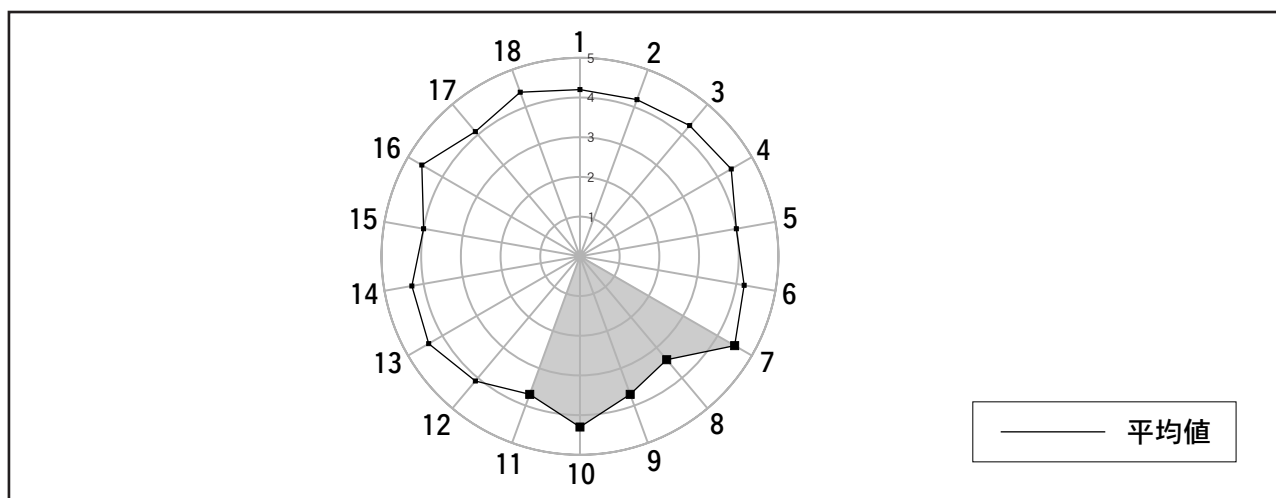
教員のコメント

- 1 授業概要について (評価平均 3.4)
更に明確に示す必要がある。
- 2 授業の内容について (評価平均 3.7)
本授業は、有機化学分野の教養や専門性を高める授業 (評価 4.2) であることは、受講生は理解をしているが、小学校・中学校の教員を目指していることもあり、少し難しく感じ小・中校の教育現場でどの場面で本授業内容が還元されるのかが想像できない受講生がいるのかも知れない。次年度からは、この点を考慮した授業を展開する予定である。
- 3 授業への取り組みについて (評価平均 4.1)
授業を理解しようとする努力の様子がうかがえられるが、授業態度と成績に現れていないように思われる。
- 4 教員の授業の進め方に関して (評価平均 3.4)
教科書を購入している学生 (評価高い) と購入していない学生 (評価低い) 間で評価が異なっているようである。授業の進め方を考慮する必要性は感じるが、次年度は受講生全員に教科書を購入するように指導する予定である。(3に関する項目の評価との矛盾)
- 5 満足度 (評価平均 3.5)
教科書を購入している学生 (評価高い) と購入していない学生 (評価低い) 間で評価が異なっているようである。

授業科目名 中等理科（化学分野）
 評価実施日 平成21年3月2日
 担当教員名 武田 清

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	8	1	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	7	2	0	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	7	3	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	7	2	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	2	2	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	3	4	2	1	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	5	6	0	0	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	7	1	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	5	3	2	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	10	1	0	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	6	1	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	6	5	2	0	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	7	3	0	0	0	4.0
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	5	0	0	0	1	4.6
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	3	7	2	0	0	1	4.1
	(18) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	8	0	0	0	0	4.4



教員のコメント

一般的質問項目に対しては特にコメントはない。

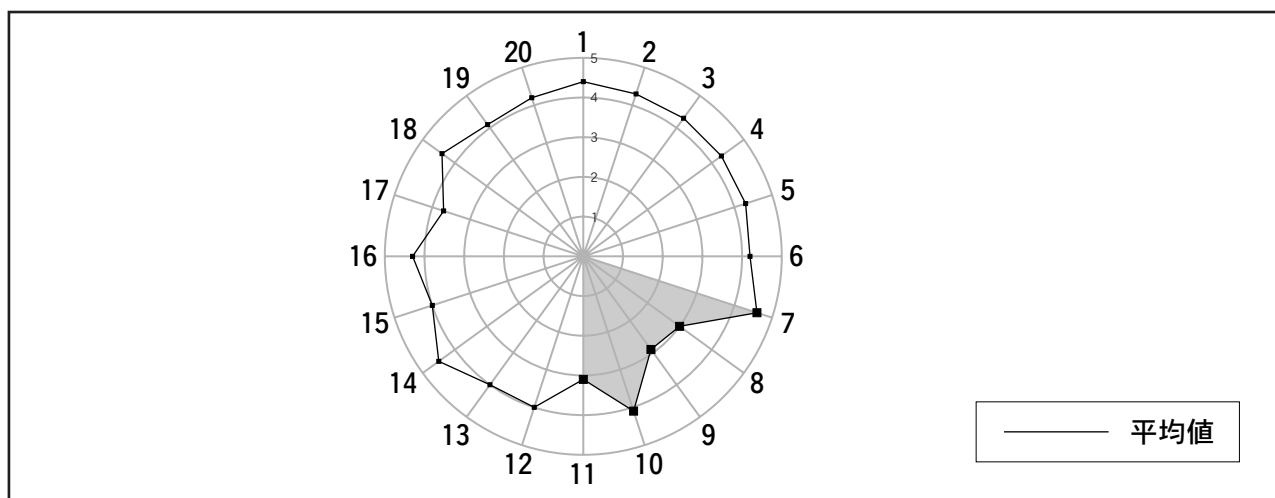
授業時間をオーバーすることがあったことについては、基本的にこちらの落ち度であり、お詫びするしかないが、実験を含めると、しばしば授業が長引くことがあるもので、いかんともしがたい。授業終了後に残った受講者に対して実験を見せたことがあるが、基本的に授業内容とは独立した内容についてそうしたに過ぎず、この場合は授業の一部と考えていない。見たければ残ればよい。

試験をもっと早い時期に、という指摘があった。個人的にはもっと早い時期に試験が終了するような日程を組みたいが、授業回数と試験期間が決まっている以上、これよりも速く試験をすることは物理的に不可能である。

授業科目名 初等国語B
 評価実施日 平成21年2月23日
 担当教員名 村井万里子

回答者数 48名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	26	16	6	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	23	16	9	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	21	20	7	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	23	19	5	1	0	0	4.3
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	23	18	5	1	0	1	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	21	16	10	0	0	1	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	34	10	3	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	7	11	15	6	9	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	12	13	6	11	0	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	15	24	8	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	11	19	7	5	0	3.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	18	18	9	2	1	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	18	16	12	2	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	30	14	4	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	22	9	1	1	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	21	19	7	1	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	11	12	22	1	0	2	3.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	26	17	4	1	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	16	21	9	2	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	18	22	6	2	0	0	4.2



教員のコメント

50名の受講生を対象に、「小学生の作文の発達のすじみち」を「評価実験」とその解説を行う「講義」を中心に進める授業であるため、毎回の作業シートに対して授業担当者（教員）の注ぐ労力は最大限のレベルにある。「3」の項目を除いて、すべての数値がほぼ「4」を示しているのは、教員の注いだ力がほぼまっすぐに受講者に受けとめられていると捉えられる。

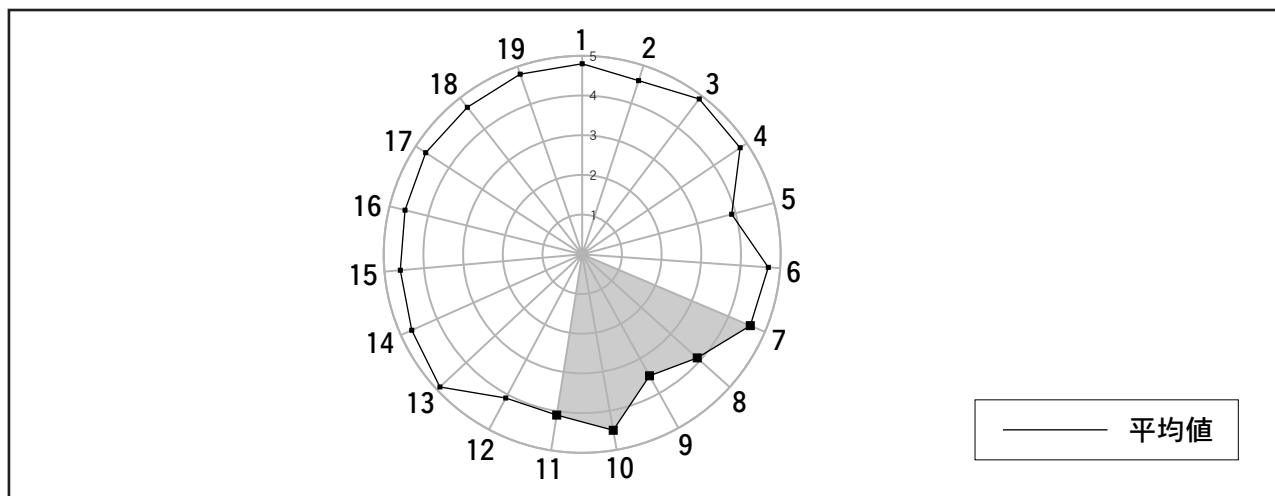
国語科教育の歴史上、かなり自覚困難で本質的な事実を、「実験」によって確かめながら「解説」していく講義なので、この内容を続けるかぎり、質問項目8（予習・復習）、質問項目9（積極的発言・質問）の数値が低いのは、当然の結果である。

「自由記述」では、「作文の発達がわかって有益だった」(3)「他にはみられない内容である」(1)「自分の問題意識に重なっていたので非常によく分かった」(1)というプラス評価の記述がある一方、「理論・説明がむずかしかった」(2)、「なぜ作文だけなのか」(1)「文例の古さが気になる」という否定的な言葉もある。後者をゼロにすることは客観的には不可能であるかもしれないが、その意見の出所・根拠を掘り下げて消化し、内容の分かりやすさを高め、かつ新鮮さを維持していくことが、授業者にとって次の「挑戦」である。

授業科目名 国語学特論 I
 評価実施日 平成21年 2月23日
 担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	2	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	5	1	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	0	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	3	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	6	4	1	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	5	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	4	0	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	8	3	1	0	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	7	4	3	0	0	3.5
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	10	5	0	1	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	6	4	0	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	5	5	0	0	0	4.1
	(13) 学生参加型の授業だった。	14	2	0	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	11	5	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	7	0	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	5	1	0	0	0	4.6
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	11	5	0	0	0	0	4.7
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	11	5	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	12	4	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

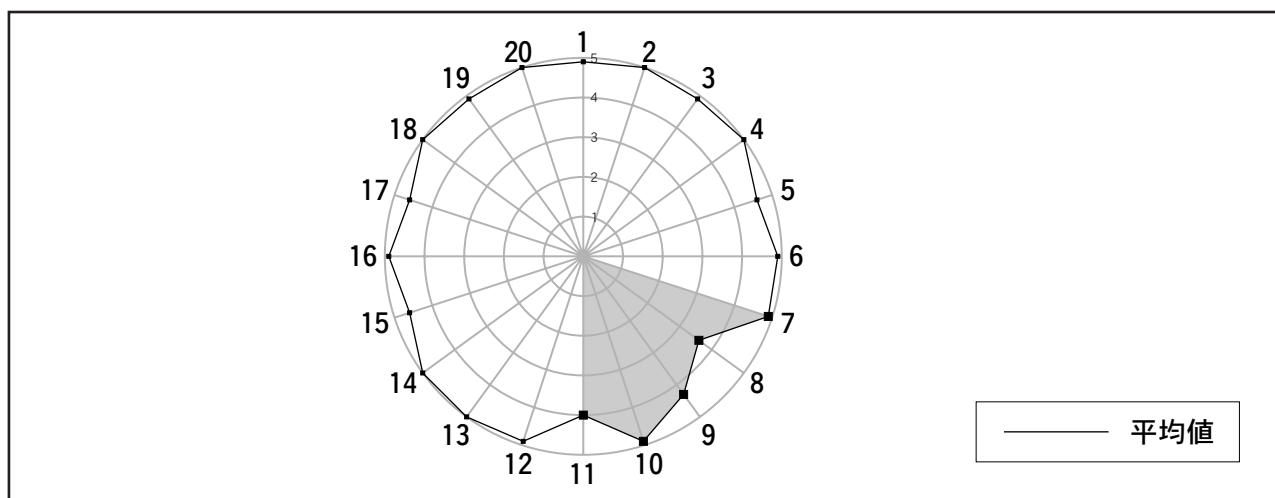
受講生が「ことば」の意味分析、類義語の意味分析を行い、発表し討論するという形式で授業を進めてきた。「満足度」で4.8という評価を得たことから、授業は成功したと考えられる。学生からは、「ことばについて深く考えることができた」「ことばに対する興味が湧いてきた」「今まで考えたことのない側面から日本語の一部を考えることができた」など、「ことば」そのものへの興味・関心を述べた感想や、「知識もついたが、質問する場、また発表する場を与えていただき、少しでも慣れる機会ができたことが良かった」「教材研究の大変さや、発表の難しさ、自分の考えを言葉として、他人に伝えることの大切さと難しさを体験できた。十集前で良かった」「授業を通じて教育現場では「実例」が「何よりだ」というのが、つくづく感じられた」など、発表と質疑という授業形態から学んだこと、さらには教育実習に向けて学んだことが寄せられた。

一方、改善点としては「人によって発表時間が異なり、もう少し時間配分をしっかりとしてほしい」「前半の人と後半の人を最初から決めておいたり、時間をしっかりと分けた方が良い」など、発表時間に対する意見が出された。これについては、発表時間の指示を行い、長すぎる場合には適宜注意しているのであるが、今後は、さらに徹底していきたい。

授業科目名 衣生活学
 評価実施日 平成21年 2月24日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	3	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	4	3	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	3	1	0	0	4.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	1	0	0	0	4.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	2	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	6	1	0	0	0	4.9
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	7	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	7	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	3	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	3	0	0	0	4.6
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

授業概要, 授業の内容ともに評定平均値が4.6以上であった。授業への取り組みは予習や復習ができておらず、評定平均値が3.6と最も低かった。教員の授業の進め方は学生にとってわかりやすく、学生が参加しやすい授業であった。そのため、授業に対する満足度についても受講者全員が5の評定を行った。

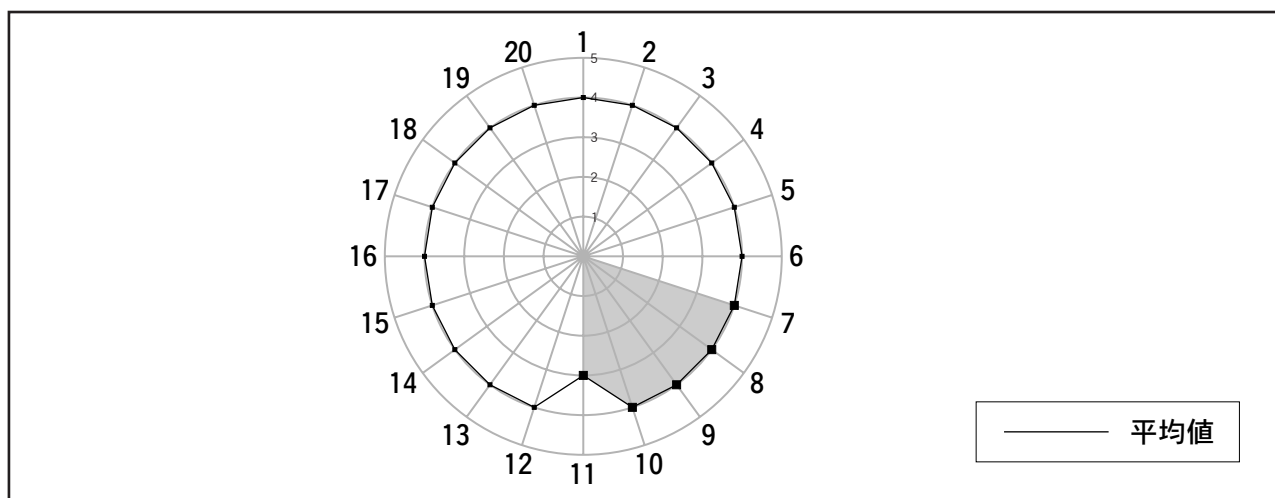
この授業でよかったことは、「被服分野の内容を詳しく細かいところまで知ることができたこと。被服分野を教える上で必ず役に立つと思う。」「被服についての専門知識の勉強ができた。布など実物を見せながら説明したのがよかった。」「専門的なことからちょっとした豆知識のようなことまで知れてよかった。私たちが知りたいこと(浴衣の着付け)に合わせて授業が行えてよかった。小テストもためになった。」「専門的なことについて深く学ぶことができた。」「小テスト」「進度を学習状況にあわせ学生が参加しやすい授業だった。実験や浴衣の実習等があったこともよかった。」「実験や実習を効果的に組み込み実物などを見せ身近な例と照らし合わせながら授業を行ったこと」であり全員が回答していた。

この授業で改善したほうがよいと思うことは、「なかなか授業が進まずに計画していた内容を消化しきれなかったように思う。専門の授業なのである程度の知識はこの授業で学んでおく必要があると思う。」であり、来年度の授業で改善していきたい。

授業科目名 英語学研究Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 1名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	1	0	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	1	0	0	0	0	4.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	1	0	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	1	0	0	0	3.0
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	0	1	0	0	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	0	1	0	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	1	0	0	0	0	4.0



教員のコメント

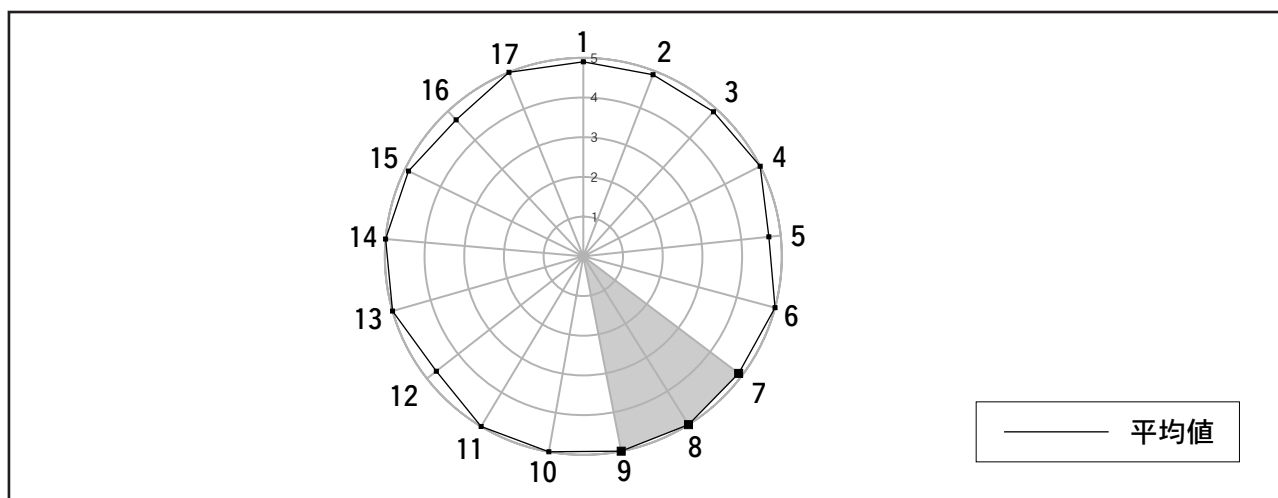
質問項目(11)「分からないことや疑問に思ったことは調べた。」の評価が3であった以外、他の項目の評価は総て4であった。この結果から、この授業は受講者にとって概ね満足がいくものであったと結論づけることも出来るが、なにせ、受講生が一人であり評価者が特定できるという状況での評価であることも言い添えておかななくてはならない。評価者がいみじくも次のように言ってくれている:「受講者数を増やしてほしいといっても無理ですが…」平成21年度から私はこの科目を担当しないので、この科目に関しては受講生を増やす工夫をすることは出来ないが、他の科目に関しては、これからも常に受講生が多くなるような授業をしたいと思っている。

評価者は良かった点として次のようなコメントもしてくれている。「新しい視点から英語を学べたこと。」「驚きの連続だった。」これらのコメントを励みにこれからも授業の工夫をしていきたいと思っている。

授業科目名 彫刻 I
 評価実施日 平成21年 2 月23日
 担当教員名 長岡 強

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	2	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	4.9
	(8) 積極的に実技等に取り組んだ。	7	0	0	0	0	5.0
	(9) 教員の説明をよく聞いた。	7	0	0	0	0	5.0
4 教員の授業の進め方について	(10) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	7	0	0	0	0	5.0
	(11) 熱心に指導した。	7	0	0	0	0	5.0
	(12) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	2	0	0	0	4.7
	(13) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	0	0	0	0	5.0
	(14) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	0	0	0	0	5.0
	(15) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(16) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	5	2	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(17) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

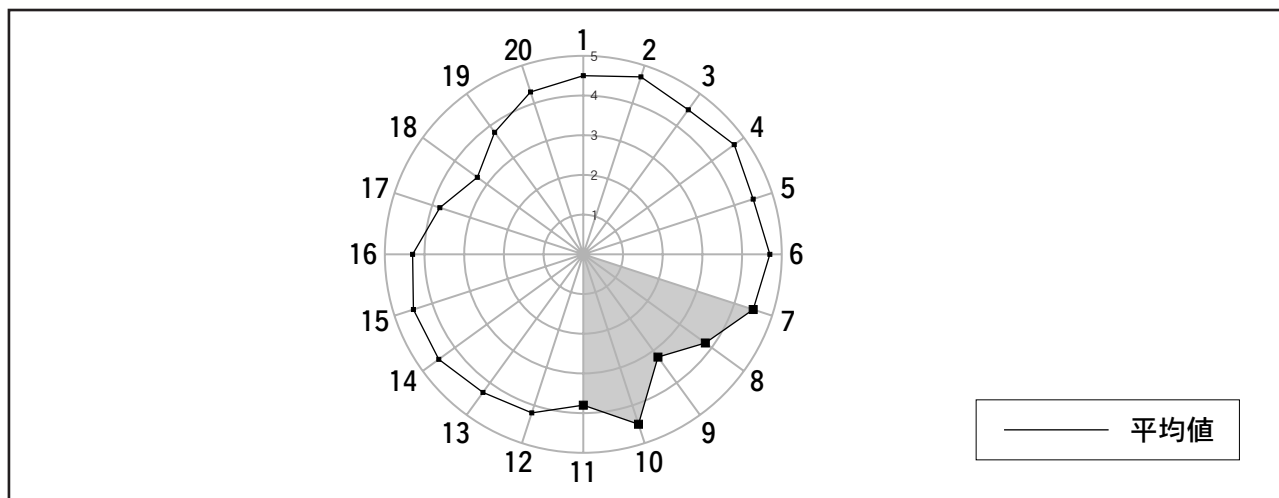
受講生は、美術コース1年生全員の6名と他コース大学院長期履修生1名、合わせて7名であった。指導が徹底したため平均値4.9の肯定的な評価を得た。この授業は、彫塑分野の基礎・基本の授業として、必修科目として位置づけてある。この授業では、粘土による原型制作に加えて、強化プラスチックによる成型作業が加わり、受講生には、かなりのオーバーワークだったけれども、十分満足のいく授業であったようだ。

今後さらに授業改善を図り、充実した授業にしていきたいと考える。

授業科目名 生物学Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月23日
 担当教員名 工藤 慎一

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	2	0	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	5	1	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	3	1	0	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	5	1	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	5	0	0	0	0	4.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	2	2	0	0	1	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	0	2	2	0	0	3.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	2	1	1	0	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	2	1	0	0	0	4.3



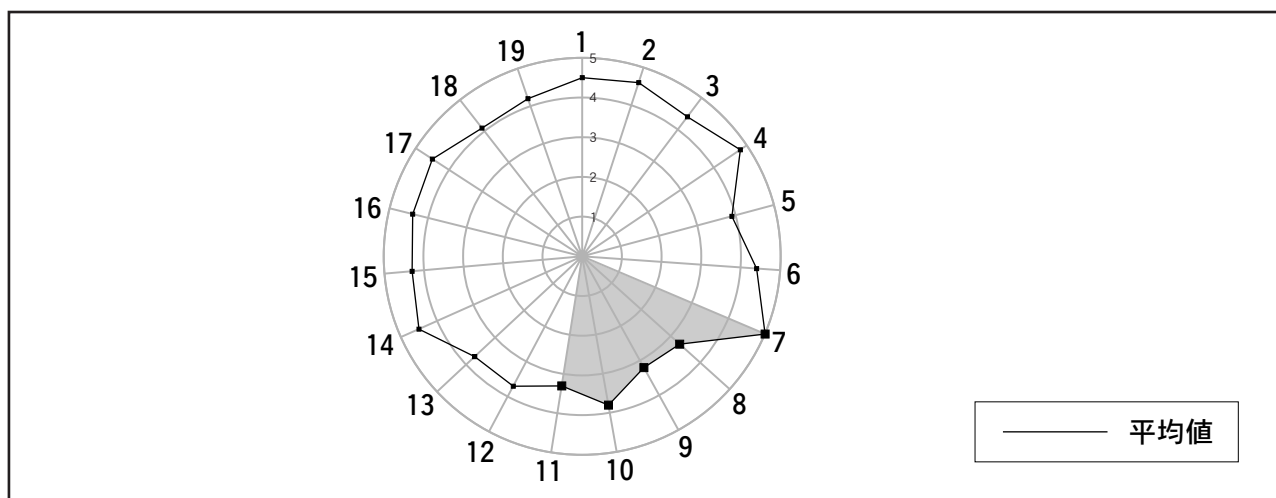
教員のコメント

授業内容や方法に大きな問題は無いと考えている。

授業科目名 中等理科（生物学分野）
 評価実施日 平成20年12月15日
 担当教員名 小汐 千春

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	8	6	1	0	0	1	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	7	0	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	10	0	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	4	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	5	6	0	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	8	1	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	16	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	5	6	2	1	0	3.3
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	8	3	0	0	3.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	6	5	1	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	5	8	2	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	8	5	1	0	0	3.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	7	7	0	0	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	8	8	0	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	10	1	0	0	0	4.3
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	7	1	0	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	6	1	0	0	0	4.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	8	4	2	2	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	9	2	0	0	0	4.2



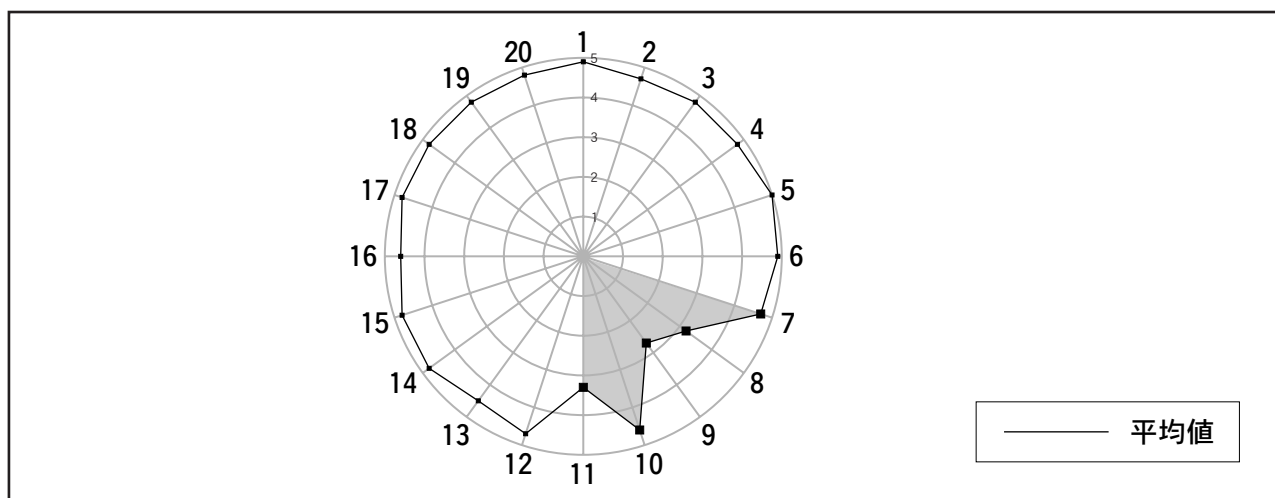
教員のコメント

本年度は高校で生物学を受講していない学生が多かったにもかかわらず、アンケート結果を見る限り、比較的学生の興味を引くことが出来たようである。
 また、毎回学生から講義に関連した質問などを記述させ、翌週の最初にこれらの質問への回答を配布して説明することで、プラスαの知識や理解を得られるように工夫したが、学生からの自由記述のコメントでもこれに触れているものが複数あり、この方法が好評であったことがわかった。

授業科目名 障害児教育概説 I
 評価実施日 平成21年 2月19日
 担当教員名 八幡ゆかり

回答者数 32名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	30	2	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	24	7	1	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	26	5	1	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	26	6	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	31	1	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	30	2	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	24	7	1	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	12	10	6	2	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	6	12	5	7	2.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	20	10	2	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	11	9	6	2	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	24	5	3	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	20	8	4	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	27	5	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	26	6	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	23	6	3	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	27	3	2	0	0	4.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	27	4	1	0	0	4.8
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	25	6	1	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	26	6	0	0	0	4.8



教員のコメント

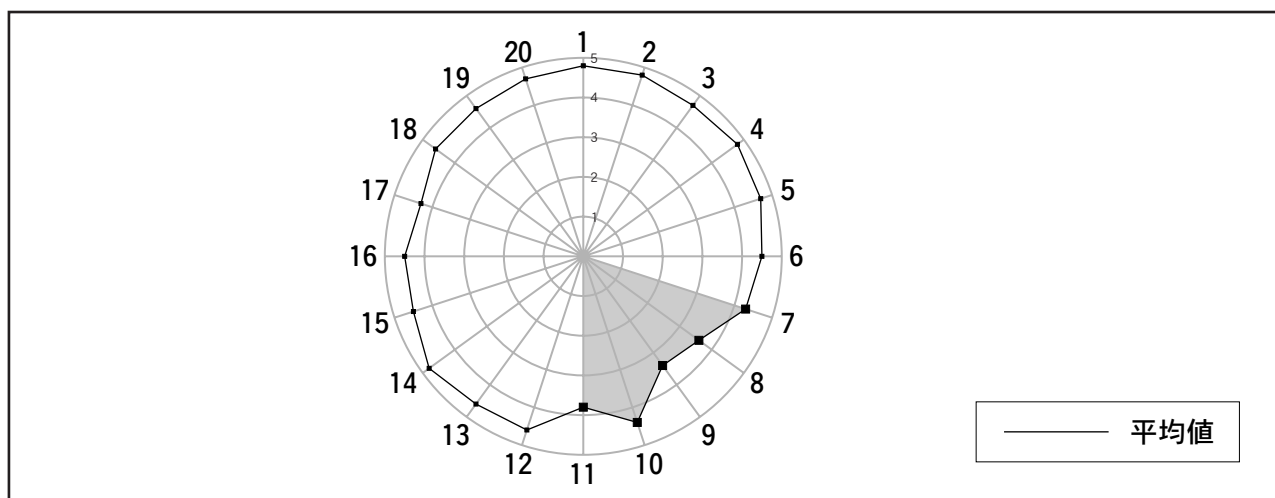
教員に対する評価は、5の評価が全ての項目にわたって多かった。そのうち、最も高い評価は5で、問5「教育に対する見方や考え方を学べる」であった。次いで4.9で、問1「目標・授業計画・内容の明確さ」と問6「授業内容は興味・関心を引く」であった。さらに、次の8項目が4.8であった。問3「授業概要に沿う」、問4「教養や専門性を高める」、問14「熱心に指導」、問15「分かりやすく説明」、問17「視聴覚機器及び教育用機器の利用」、問18「教員の声の聞き取りやすさ」、問19「授業の進む早さ」、問20「授業は満足できる」。これらの評価のうち、問4、問5の結果から、本授業の目的を達成したと言える。

学生自身の本授業への取り組みについて見ると、問7「授業によく出席した」が4.7、問10「教員の説明をよく聞いた」が4.6と、評価が高かった。しかし、問9「授業中に積極的に発言や質問をした」が2.7と低かった。この点について、より一層、学生の発言を促す工夫をする必要があると考えられた。

授業科目名 障害児教育課程論
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 八幡ゆかり

回答者数 21名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	17	4	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	16	5	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	7	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	17	4	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	16	4	1	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	6	2	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	7	2	1	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	9	9	1	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	8	9	1	1	3.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	9	0	1	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	12	3	1	1	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	15	4	2	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	15	4	2	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	16	5	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	3	2	1	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	14	4	2	1	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	4	5	0	0	4.3
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	16	2	3	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	15	3	3	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	5	1	0	0	4.7



教員のコメント

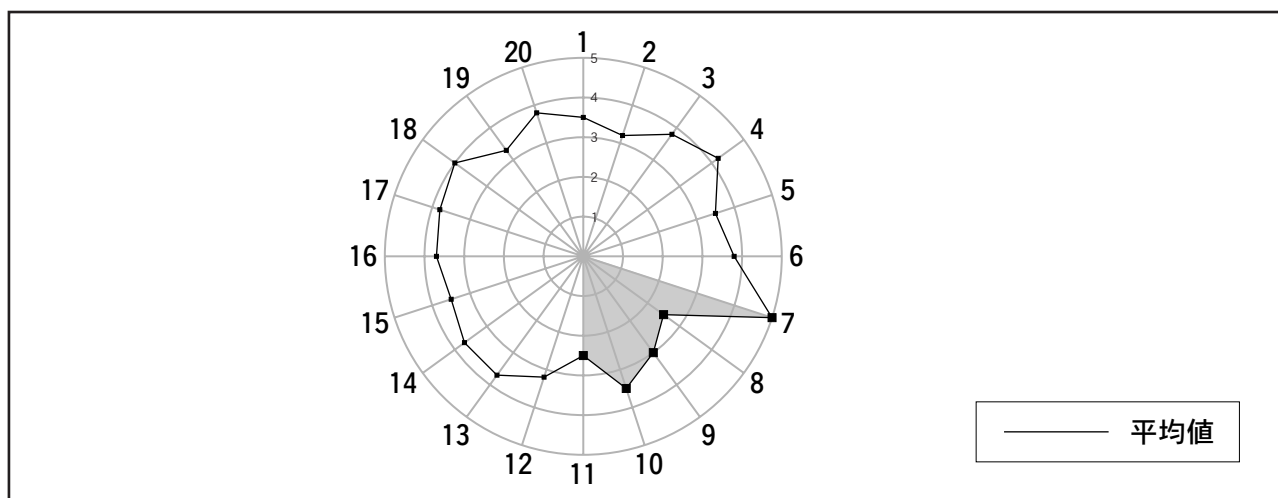
教員に対する評価は、全ての項目にわたって5の評価が最も多かった。そのうち、最も高い評価は4.8で、次の4項目であった。問1「目標・授業計画・内容の明確さ」、問2「成績評価の方法」、問4「教養や専門性を高める」、問14「熱心に指導」。次いで高い評価は4.7で、次の3項目であった。問3「授業概要に沿う」、問5「教育に対する見方や考え方を学べる」、問20「授業に満足」。これらの設問のうち、問4や問5は、特に本授業の目的と合致しており、本授業の進め方は、概ね、適切であったと言えよう。

本授業で工夫したことは、次の3点であった。①受講生同士による話し合いの場を設け、授業内容の確認や、提示した課題について検討するように促した。②毎回、ワークシートに学習の目的・内容・感想を書かせて翌週に評価をして返却した。③ワークシートの内容が優れている受講生に発表してもらい他の受講者への参考にした。これらのうち、昨年度に付け加えたのは、①の受講生同士による授業内容の確認であり、板書で再度確認した。このことが、学生自身の評価である問10「教員の説明をよく聞いた」(4.4)や、問11「わからないことや疑問に思ったことは調べた」(3.8)に結びついたと考えられた。特に、昨年度は問9「授業中に積極的に発言や質問をした」が2.7と低かったが、今年度は3.4に上がっており、本授業の工夫の効果があったと考えられた。

授業科目名 小児保健
 評価実施日 平成21年 2月19日
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	1	4	0	0	0	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	1	2	2	0	0	3.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	3	2	0	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	2	2	1	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	3	2	0	0	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	0	2	1	2	0	2.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	1	3	0	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	2	2	1	0	0	3.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	0	3	1	0	2.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	0	4	1	0	0	3.2
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	1	3	1	1	0	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	2	1	2	1	0	0	3.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	0	3	1	0	0	3.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	1	2	1	0	0	3.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	1	0	2	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	2	2	0	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	1	3	1	0	0	3.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	3	2	0	0	0	3.8



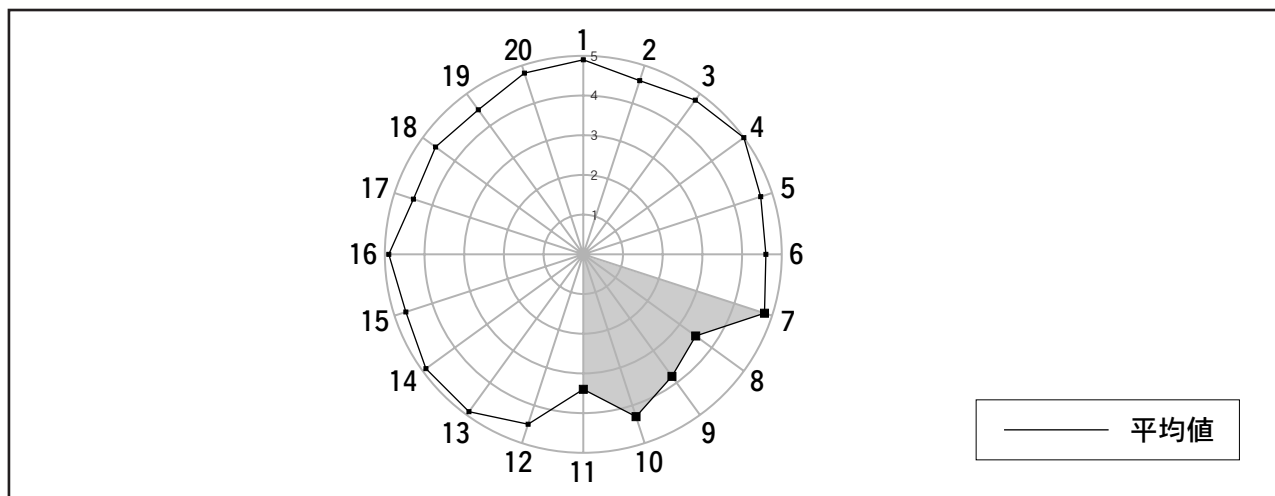
教員のコメント

「授業概要について」と「あなたの授業への取り組みについて」の項目において、評価の低いものが多い。授業概要は、直接、授業内容の理解に関係するものではないが、改善する余地があると考えられる。授業内容を理解させる授業の進め方を通じて、どのように学生の授業への取り組みを活発にさせるかが課題である。

授業科目名 住居学概論（製図を含む）
 評価実施日 平成21年2月12日
 担当教員名 金 貞均

回答者数 13名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	1	2	0	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	3	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	10	2	1	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	3	1	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	11	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	9	3	0	1	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	6	0	0	0	3.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	7	1	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	7	1	0	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	6	0	0	0	0	4.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	4	0	0	0	0	4.7
	(16) 配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	3	2	0	0	0	4.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	3	1	0	0	0	4.6
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	4	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	3	0	0	0	0	4.8



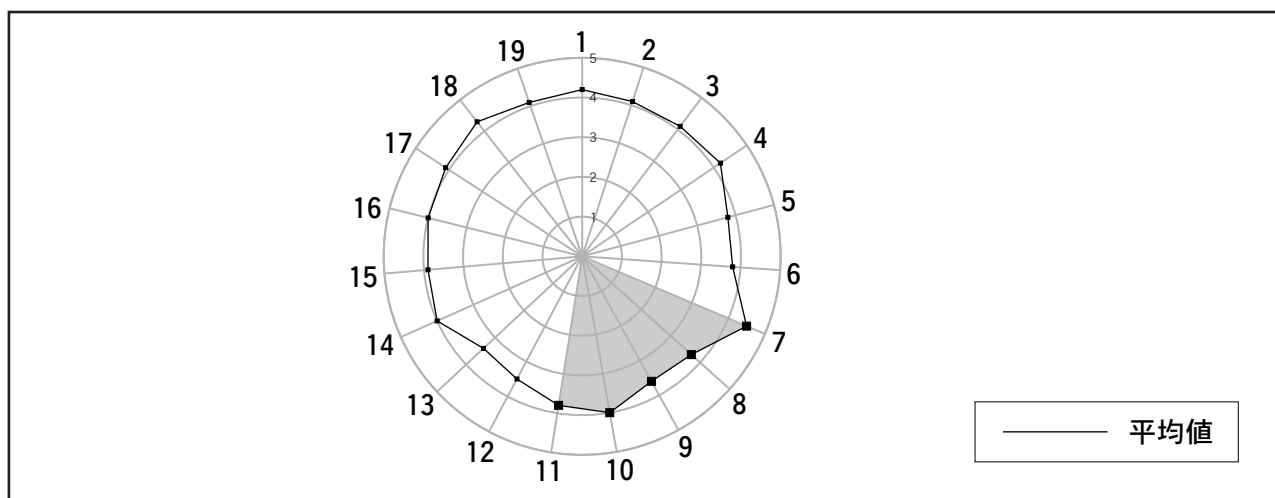
教員のコメント

本授業に対するアンケートの質問群のうち、「1 授業概要」「2 授業の内容」「4 教員の授業の進め方」に対する評価は全般的に高く、特に「授業内容は、教養や専門性を高めるものだった（問4）」項目は5.0ポイントであった。ただし、「3 あなたの授業への取り組み」群のうち特に積極的な学習姿勢を示す「予習・復習（問8）」「分からないことや疑問に思ったことは調べた（問11）」はそれぞれ3.5ポイントと3.4ポイントの自己評価であった。しかし、多くの課題を受講生らが誠実にこなしており、ある程度の効果はあったと考える。「この授業でよかったこと（問21）」に対する自由記述では、「身近なことを学ぶことができよかった」「ビデオを見せていただいたり、一人一人に質問して下さったり、とても分かりやすい授業だった」「製図が楽しくてよい経験になった」「専門に関して深く学べた」「住居についての知識を得ることができた」「専門的なことを学べてよかった。課題もいろいろあって真剣に取り組むことができた」「実際にやってみることがおこった」「身近なことなので勉強になったし、視点が変わった」「実践的であった」「絵本を使った授業もあることを知った」などの意見が述べられ、「授業に対する満足度（問20）」の結果（4.8ポイント）と合わせて本授業への評価として受け止めたい。改善点の意見としては「課題が多い」「授業の終了時間が延びることがある」ことがあげられた。課題数は適正であると判断されるが、終了時間は守りたい。

授業科目名 学校保健Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月12日
 担当教員名 吉本佐雅子

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	7	3	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	9	3	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	7	4	0	0	0	4.1
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	7	3	0	0	0	4.2
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	5	8	0	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	5	6	1	0	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	7	1	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	5	7	1	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	5	5	4	2	1	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	8	3	4	2	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	5	3	3	0	0	3.8
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	7	6	2	0	0	3.5
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	6	6	3	0	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	5	7	5	0	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	6	6	0	0	0	3.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	7	5	0	0	0	4.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	7	3	1	0	0	4.1
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	7	8	2	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	7	4	0	0	0	4.1



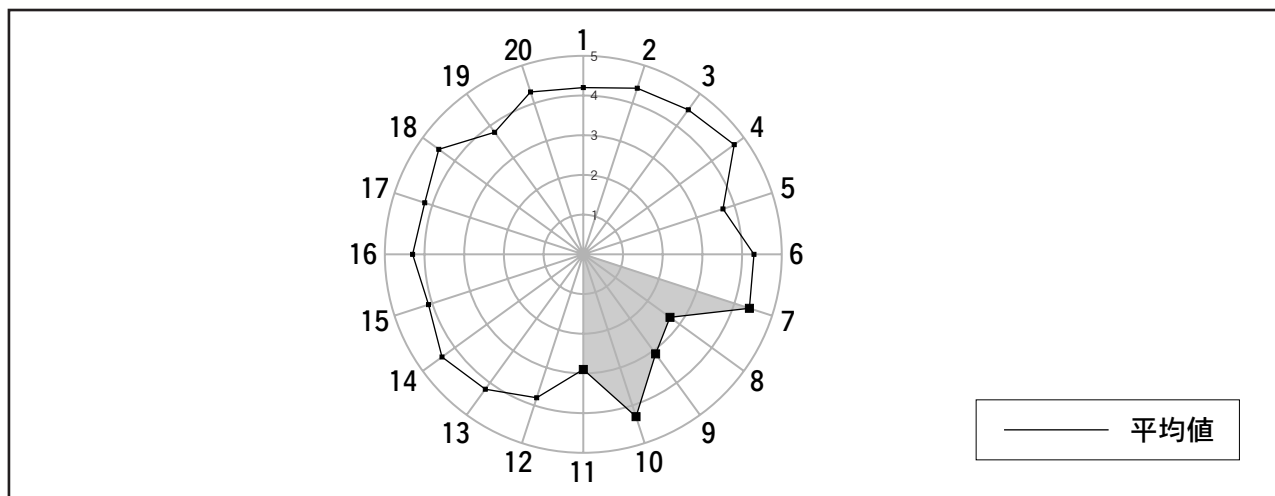
教員のコメント

全体として授業内容や授業方法は良好であった。しかし、授業内容への関心度（設問6）と学生の理解度の確認（設問12）、授業参加の意欲（設問13）については不十分な評価であった。今後、授業内容としては理論的な部分を減らし、より専門的な内容を取り入れる方が関心度を高めることが出来るものと考え、それでは本授業の目的から離れることにもなり、この点に関して、来年度は熟慮して試みてみるつもりである。また、授業中の学生とのコミュニケーションが足りなかったこと、授業の流れを十分理解させることができなかったことなどを反省点として受け止めている。これらを今後の課題とし、改善に努めたい。

授業科目名 考古学
 評価実施日 平成21年2月12日
 担当教員名 木原 克司

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	6	2	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	2	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	2	2	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	4	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	1	6	1	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	3	3	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	2	1	1	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	5	3	2	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	3	2	2	3.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	5	2	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	1	6	4	0	2.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	4	2	2	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	4	6	2	0	0	4.2
	(14) 熱心に指導した。	6	5	1	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	3	4	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	2	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	3	2	1	0	4.2
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	2	2	0	0	4.5
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	3	5	3	1	0	3.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	4	2	0	0	4.3



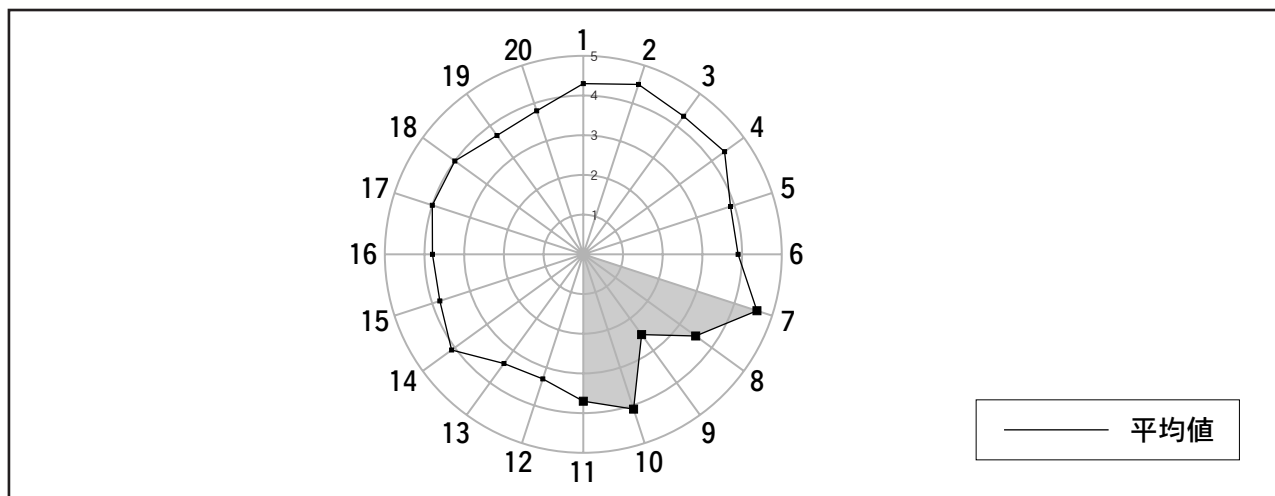
教員のコメント

20項目中、大項目3の学生の授業への取り組みを除く15項目の平均値は4.2であり、授業に対する学生の評価を具体的に示す質問項目である2・4・5の大項目に関しても、平均値はそれぞれ4.3、4.16、4.3であり、ほとんどの学生が高い評価を与えていることがわかる。それ故に、授業内容や授業の進め方については、自分自身も満足しており、今後も同じような授業方法を継続したいと考えている。特に、授業の中で、鳴門市教育委員から借りた実物の土器を使用した遺物説明、石材を使った勾玉の製作（徳島県埋文センター提供）、土曜日を活用した鳴門市内の古墳発掘現場や徳島県埋文センター資料展示室（板野町）の見学などを取り入れたことを、学生は高く評価しており、自由記述の大項目6の(21)の授業でよかったことに対して12名中すべての学生が、講義だけの授業を脱却した面白い授業であり、専門性を高める授業として評価している。ただ、授業の反省点としては、板書の速度をもう少し遅くすることや学生の理解度を確かめるなどを考慮し、授業全体のスピードを再度検討することなどがあげられる。

授業科目名 初等理科
 評価実施日 平成21年 2月16日
 担当教員名 本田 亮, 今倉 康宏, 米澤 義彦, 村田 守

回答者数 108名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	52	36	16	3	1	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	67	28	11	1	1	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	51	40	13	3	1	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	59	34	13	1	1	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	33	44	22	7	2	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	32	41	29	3	3	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	74	22	11	1	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	16	44	36	4	8	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	10	8	38	24	28	0	2.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	37	49	21	1	0	0	4.1
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	26	38	31	10	3	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	20	23	42	15	8	0	3.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	21	32	34	16	5	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	40	45	19	3	1	0	4.1
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	32	34	30	9	3	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	36	36	21	10	5	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	42	32	25	8	1	0	4.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	38	42	23	5	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	34	29	32	9	4	0	3.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	30	41	27	7	3	0	3.8



教員のコメント

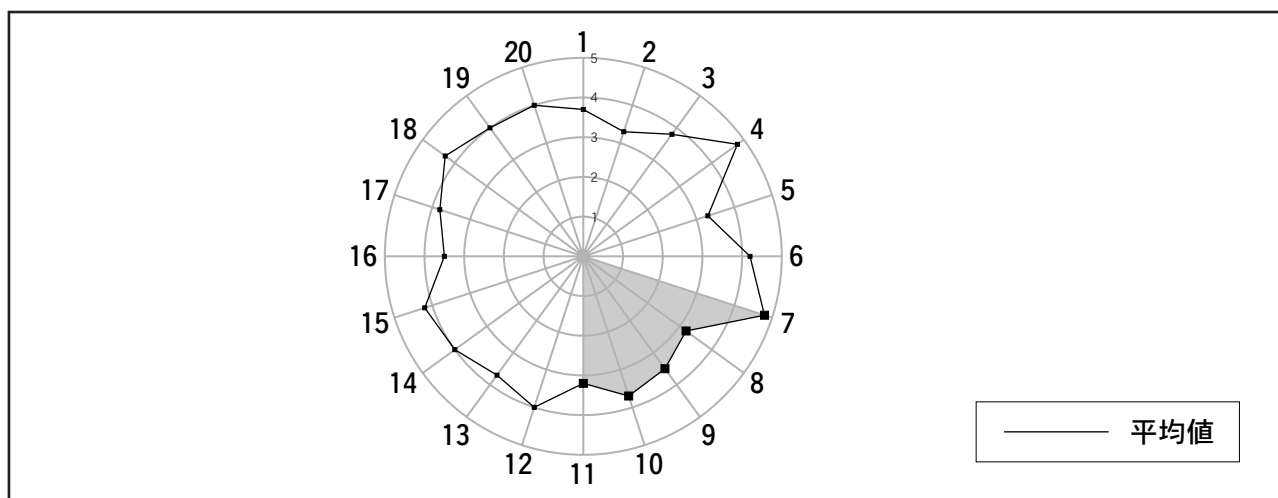
アンケート結果から、学生は授業には良く出席したが、積極的に質問をするわけでも、予習復習をするわけでもなく、受動的に座っていただけということが良く分かる。一部の分野が難しいとのコメントがあったが、これは、受講生が本講義内容に高校入試レベルを期待するため、本講義を難しいと感じるようである。その原因として、自由表記に「高校で未履修の教科はしんどかった。逆にやっている科目は簡単だった。」とあるように、高校での未履修にある。これを解決するために、シラバスにも明記してあるが、前期に補償教育として、理科4分野の基礎科目を開講しているの、高校で一部の分野の未履修者は受講、あるいは自学自習すべきであろう。万一補償科目を履修できず、学生が講義内容を難しいと感じたとしても、質問しなかったり、その部分を自学自習しない限り、試験に合格することはないであろう。出口補償が求められる昨今であるので、今後の単位認定はより厳しくなさざるをえないであろう。

なお、自由表記に、「苦手な理科の科目を4つの分野に分けて専門性の高い授業であった分、内容を把握するのは大変だったが得るものは大きかったと思います。」の記述があり、本講義の当初の目的は達成されているようである。

授業科目名 小児地域保健
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	4	2	0	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	4	0	0	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	5	1	0	0	0	3.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	2	4	0	0	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	5	0	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	3	1	0	0	3.2
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	3	3	0	0	0	3.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	4	2	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	0	4	1	0	0	3.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	4	2	0	0	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	1	4	1	0	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	5	0	0	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	1	4	0	0	0	3.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	5	1	0	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	4	0	0	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	4	1	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	4	1	0	0	0	4.0



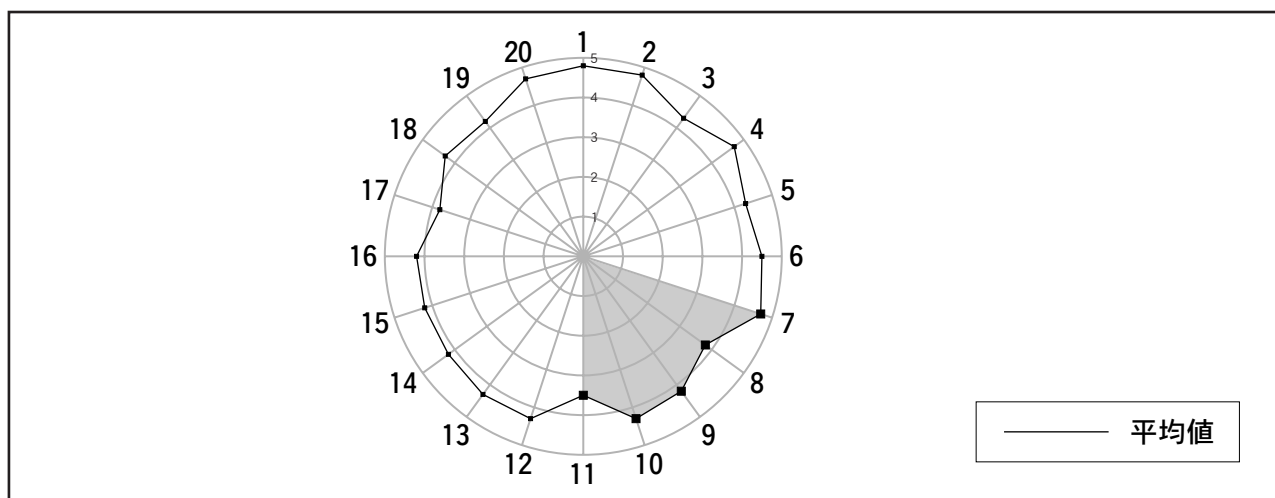
教員のコメント

全般的に5つも大項目の内のどの項目においても、中以上の評価をしている。小児地域保健は1年生において小児保健を学んだ学生であり、授業のつながりの面から見ても授業の構築を行ないやすい。本人の授業への取り組み態度においても中以上の評価をしている。学生の側における「大学で学ぶ意識」が育ってきていることを示すものと考えられる。

授業科目名 養護原理
 評価実施日 平成21年2月18日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	1	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	4	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	2	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	2	1	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	3	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	2	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	2	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	5	0	0	0	4.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	4	0	0	0	4.3
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	1	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	4	0	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	4	0	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	1	5	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	5	0	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	3	1	0	0	4.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	5	1	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	4	0	0	0	4.3
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	2	3	1	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	2	0	0	0	4.7



教員のコメント

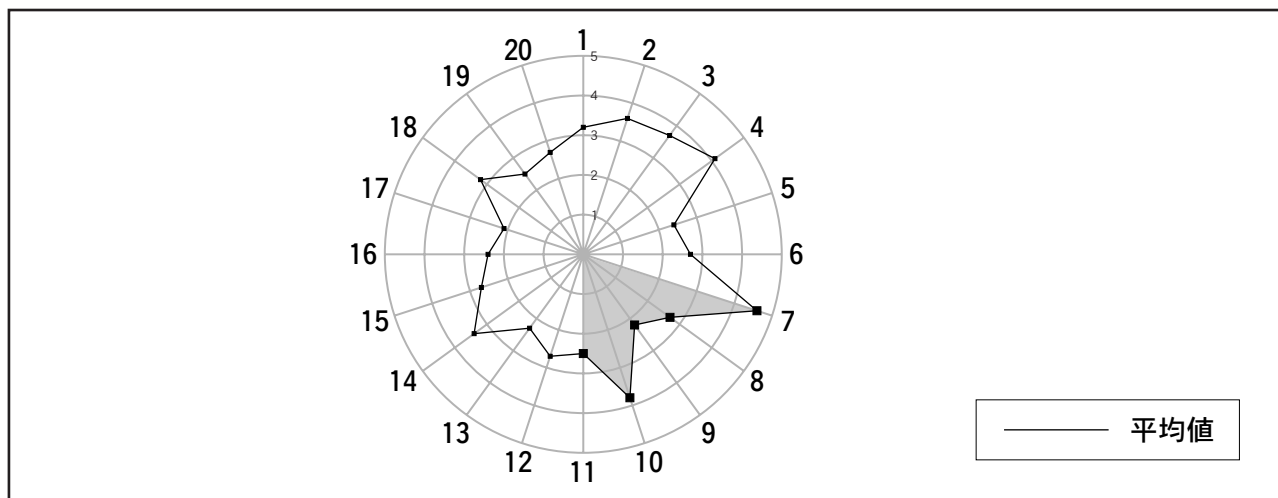
「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」「4 教員の授業の進め方について」と比較して、「3 あなたの授業への取り組みについて」の5項目の評価得点が低い結果となっていた。中でも、「(8)授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」「(11)分からないことや疑問に思ったことは調べた」については、3点台後半となっており、改善が必要である。しかし例年、この項目についての評価を改善することができないでいる。復習用の課題を授業プリントとして提示しており、授業後に復習するために出していることを伝えている。今後どのようにすれば、よいのか現時点では策が思いつかない。

また、「1 授業概要について」「2 授業の内容等について」「4 教員の授業の進め方について」は、一定水準の評価を頂いているが、「(8)授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」「(11)分からないことや疑問に思ったことは調べた。」が低い水準となっていることは、学生の知的好奇心を刺激し、さらなる探究心を育むような授業でなかったことを如実に現している。特に、幼児教育専修において、「養護原理」は専門職（幼稚園教諭・保育士）の根幹を成す部分であるにもかかわらず、積極的な授業への参加（発言・自発的予習・復習）を促すことができなかったことは、残念なことである。今後は、「養護原理」を学ぶことの意義や意味について、学生と共有しながら授業を進めることで、学生の探究心を育めるよう努めたい。

授業科目名 確率・統計学
 評価実施日 平成21年1月28日
 担当教員名 樋上 和弘

回答者数 21名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	7	8	3	1	1	3.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	7	4	2	2	1	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	8	9	0	0	1	3.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	4	3	3	0	1	4.1
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	7	6	5	1	2.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	0	9	3	5	1	2.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	5	0	1	0	1	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	5	3	9	2	1	2.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	4	9	5	1	2.2
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	3	9	1	0	1	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	9	3	5	1	2.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	2	9	5	3	1	2.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	0	1	7	9	3	1	2.3
	(14) 熱心に指導した。	4	4	8	4	0	1	3.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	6	8	2	1	2.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	0	9	5	5	1	2.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	1	8	2	8	2	2.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	2	9	4	1	1	3.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	2	6	7	4	1	2.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	0	7	7	3	1	2.7

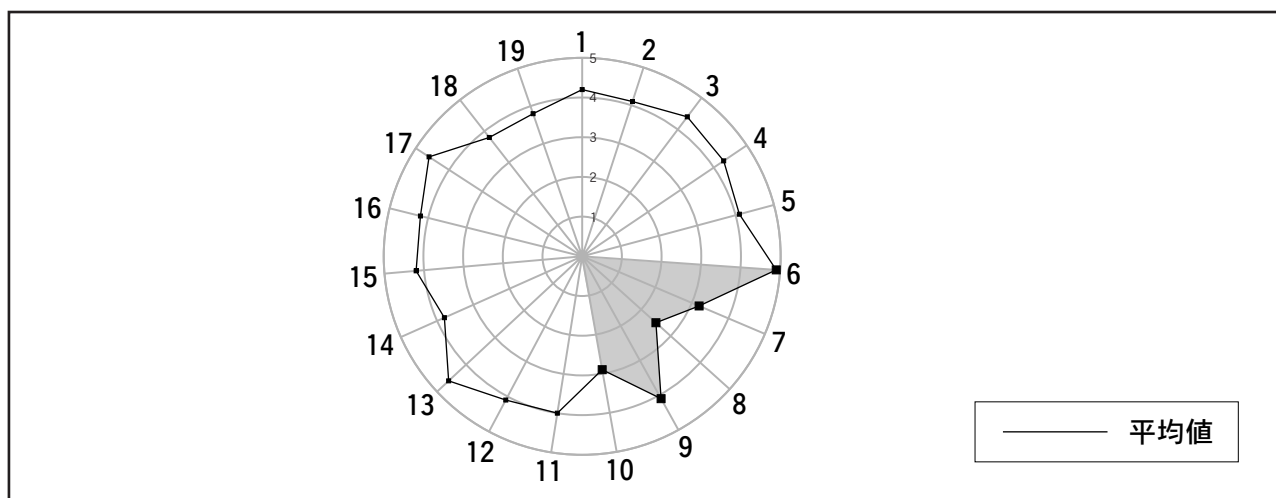


教員のコメント

授業科目名 中等理科（物理学分野）
 評価実施日 平成20年12月8日
 担当教員名 栗田 高明

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	7	3	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	6	4	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	8	6	0	1	0	1	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	5	1	1	0	2	4.3
	(5) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	1	5	0	0	4	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(6) 授業によく出席した。	15	1	0	0	0	0	4.9
	(7) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	8	4	3	1	0	3.2
	(8) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	7	4	3	0	2.5
	(9) 教員の説明をよく聞いた。	4	9	3	0	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(10) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	7	2	3	0	2.9
	(11) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	11	1	1	0	0	4.0
	(12) 学生が参加しやすい授業だった。	5	8	2	1	0	0	4.1
	(13) 熱心に指導した。	10	6	0	0	0	0	4.6
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	5	6	1	0	0	3.8
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	7	3	0	0	0	4.2
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	11	1	0	0	0	4.2
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	10	5	1	0	0	0	4.6
(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	6	5	1	0	0	3.8	
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	7	3	2	0	0	3.8



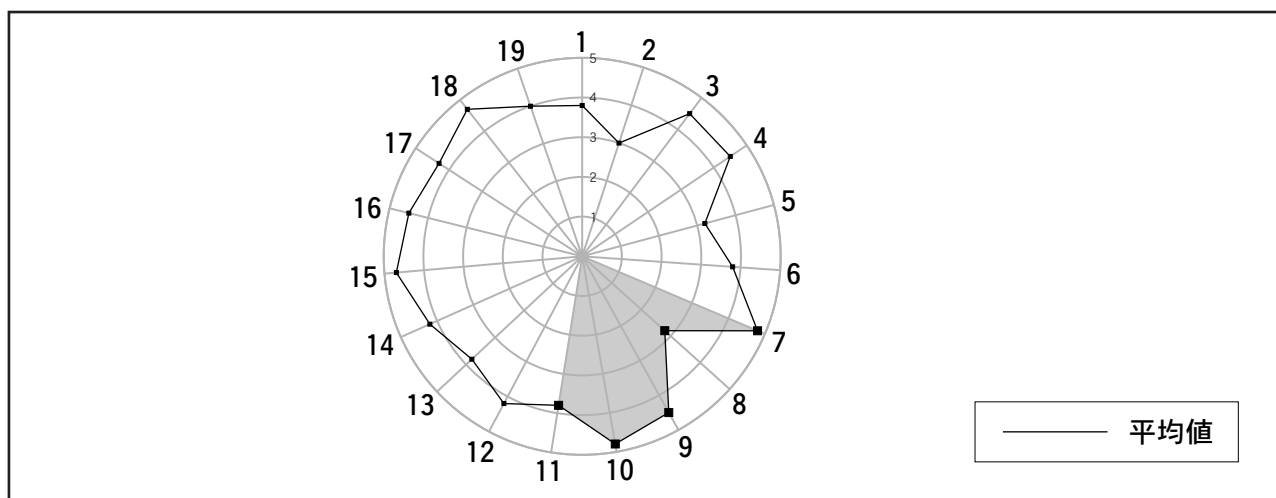
教員のコメント

3「学生の授業に対する取り組み」に関する項目の質問以外は、ほぼ満足できる結果となっている。質問項目(6)～(10)は授業に対する評価とは全く関係が無く、学生自身の勉学に対する意欲に関する質問項目であるので、質問項目から即刻削除していただきたい。

授業科目名 構成・デザインⅡ
 評価実施日 平成21年1月29日
 担当教員名 松島 正矩

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	3	2	0	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	3	0	1	0	3.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	3	2	0	1	0	3.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	3	0	0	1	0	3.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	1	4	0	1	0	2.8
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	3	0	0	1	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	2	0	1	0	0	4.2
	(13) 熱心に指導した。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(15) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(17) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(18) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	3	0	1	0	0	4.0



教員のコメント

この授業は、マルチメディア教育実習室のコンピュータを利用して2コマ連続で行われた。3時間連続でモニタ画面に向かうのは無理があるため、自由に休憩をとってよいこととし、学生間の会話も気兼ねなくできるよう配慮した。さらに、プロジェクタ画面で提示しながら説明したり、プリントした作品を見せながら講評したり、学生のコンピュータを直接操作して質問に応えたりと、なるべく変化をつけるように工夫している。

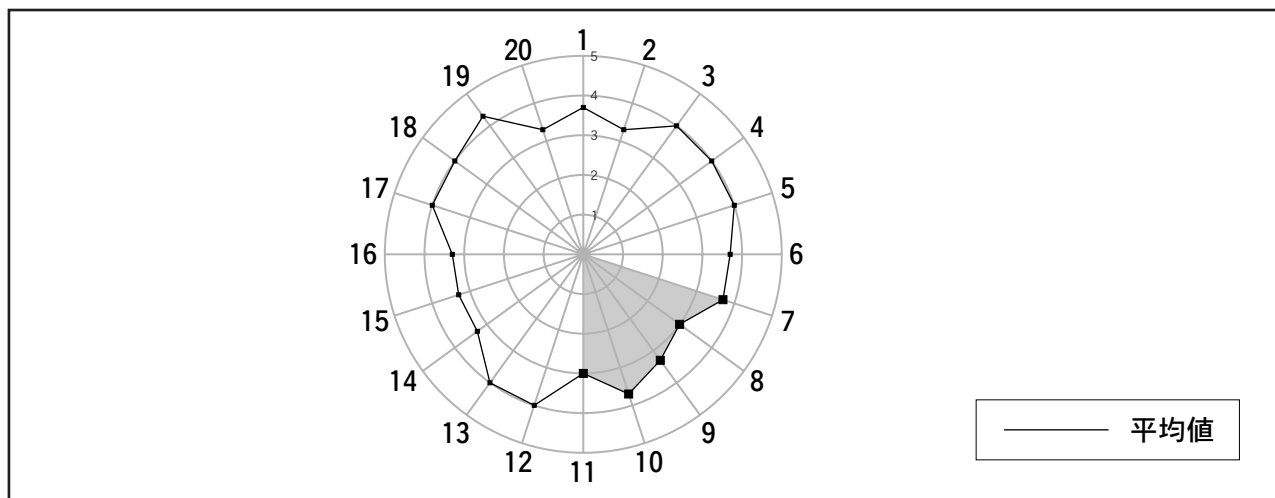
ほとんど遅刻、欠席がなく、ほぼ全員が10種の色彩構成の練習課題を完成させることができたので、この授業は例年よりうまくいったと感じていた。ところが、1人の学生が授業内容が全く興味・関心あるものではなかったと指摘したのである。これまで100人以上の学生のほとんど全員が良い評価をしてきていたので、この授業内容には自信があり、今後も継続していくつもりでいたので愕然とした。授業中にはまるでそのような素振りを見せず、不満も聞かれなかったのが意外である。

8番の項目がよくないのは、この授業で使用したドロー系の図形制作ソフトは高価であり、学生が自分のパソコンにインストールして課題を練習するのは無理であることから、できるだけ授業時間内に完成させ、疑問点は授業時間内に解決するように指導したためである。19番の項目からは、1人の学生以外はこの授業に満足してくれたことがうかがえるので、何とかよい評価をもらったのではないかと考えている。

授業科目名 機械加工学
 評価実施日 平成21年1月29日
 担当教員名 宮下 晃一

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	2	1	0	0	0	3.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	0	1	0	0	3.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	1	0	1	0	0	3.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	2	1	0	0	0	3.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	0	3	0	0	0	3.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	0	1	2	0	0	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	0	2	1	0	0	0	3.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	3	0	0	0	3.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(13) 熱心に指導した。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	2	0	1	0	0	3.3
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	2	0	1	0	0	3.3
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	0	2	0	1	0	0	3.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	1	1	0	0	0	4.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	1	2	0	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	2	0	1	0	0	3.3



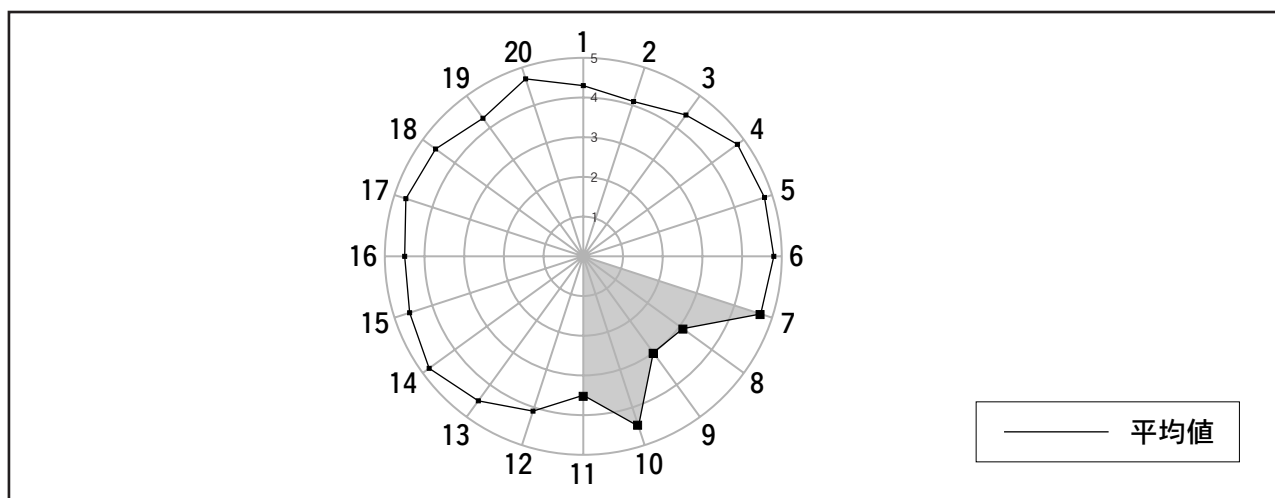
教員のコメント

朝1時間目の授業であり、遅刻してくる学生もあり、旋盤を用いた金属加工実習においては計画以上の時間がかかり、シラバス通りに進められなかった。また、学生自身が描いた製図にしたがって実習を進めたところ、図面を忘れて実習に支障をきたすこともあった。次年度は対策を講じたい。

授業科目名 総合学習論
 評価実施日 平成20年12月21日
 担当教員名 村川 雅弘

回答者数 88名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	41	31	13	2	0	1	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	32	35	17	4	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	48	31	9	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	76	10	1	1	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	76	10	1	1	0	0	4.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	74	10	3	1	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	67	16	5	0	0	0	4.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	27	35	14	6	0	3.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	29	30	15	10	0	3.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	52	29	5	2	0	0	4.5
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	10	35	32	7	4	0	3.5
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	32	35	18	3	0	0	4.1
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	55	26	5	2	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	71	12	5	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	57	24	7	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	56	24	6	2	0	0	4.5
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	70	12	4	1	1	0	4.7
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	66	13	8	1	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	48	24	12	3	1	0	4.3
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	65	20	2	1	0	0	4.7



教員のコメント

全体的に高い評価を得ているが、項目(8)(9)(11)の「学生自身の授業への取り組み」に問題が残る。(8)(11)については、本授業は毎回ワークシートを配布し、各自の考えを書かせた上で解説する方法をとっている。そのために学生に予習・復習や確認を求めていることが反映している。(9)については人数が多いため(103名)、一つの課題について数人の意見を求めるにとどまっていた。次年度は学生同士のちょっとした話し合いの場や質問の機会を意図的に増やしていきたい。

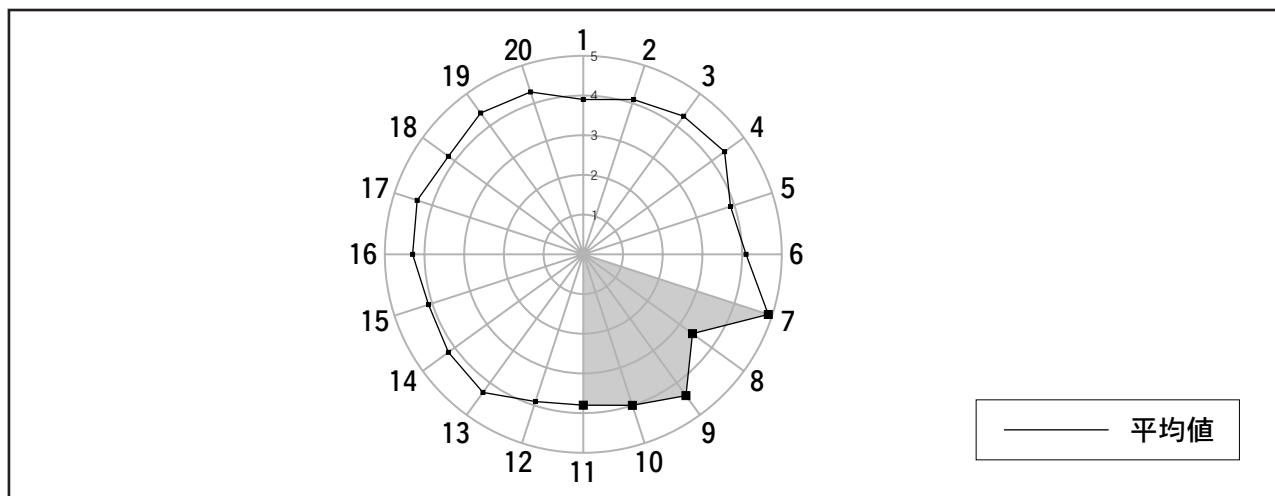
子どもの頃に大半の学生は総合的な学習を体験していない。そのために映像等で具体的な事例を紹介し、指導に長けた現職教員(酒井達哉教諭)を招聘した。また、集中講義のよさを生かしチームによる体験的な活動(総合表現)を組み入れた。そのことにより、「多くの優れた実践に出会えた」「総合に対する認識が大きく変容した」「劇づくりがよかった」「子どもの立場に立って理解できた」「教職への意識が高まった」「素晴らしい実践家の話を直接聞いてよかった」など肯定的な指摘を数多く受けることができた。一方、「書く時間が足りなかった」「映像が多かった」などの指摘も受けた。この点は改善していきたい。

酒井教諭を招いたこと(殆どが5)と集中講義形式(殆どが5または4)に対しては肯定的意見が多かった。次年度以降も酒井教諭の招聘と集中講義形式を踏襲したい。

授業科目名 地学実験Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 小澤 大成, 村田 守, 香西 武

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	7	5	0	0	0	3.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	9	3	0	0	0	4.1
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	11	0	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	9	0	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	9	4	0	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	9	1	1	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	5	5	2	1	0	3.4
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	8	1	0	0	0	4.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	5	7	3	1	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	6	1	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	8	5	0	0	0	3.9
	(13) 熱心に指導した。	6	9	1	0	0	0	4.3
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	9	2	0	0	0	4.2
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	10	2	0	0	0	4.1
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	4	12	0	0	0	0	4.3
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	10	0	0	0	0	4.4
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	11	1	0	0	0	4.2
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	7	9	0	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	8	2	0	0	0	4.3



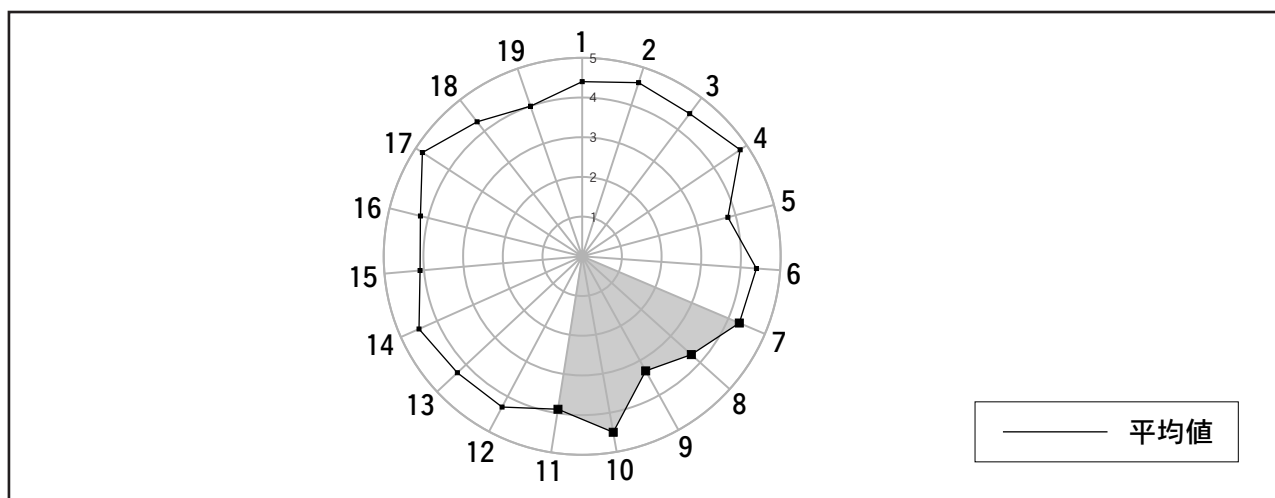
教員のコメント

1. 授業概要については、「目標・授業計画・内容が明確に示されていた」に対し、平均3.9と若干低い評価であった。
2. 授業の内容等については、概ね4以上の評価であったが、「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった」が平均3.9と若干低い評価であった。
3. 「あなたの授業の取り組みについて」は、概ね4以上であるが、「授業内容を良く理解するために予習や復習をした」が平均3.4「分からないことや疑問に思ったことは調べた」が平均3.8と若干低い評価であった。
4. 教員の授業の進め方については、概ね4以上であるが、「学生の理解状況を確認しながら授業を行った」が平均3.9と若干低い評価であった。
5. 授業に対する満足度は平均4.3でまずまずの水準である。
 受講生からのコメントは、良かった点として「普段できない観察実験ができた」「プレパラート作成を学べた」「地学について学べた」等であった。
 本年度は、評価調査を反映し、「目標・授業計画・内容を具体的に示す」「学生の理解状況を確認する質問をはさむ」等の改善を行い、授業をよりものにしていきたい。

授業科目名 解析学Ⅲ
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 成川 公昭

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	7	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	3	1	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	6	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	10	2	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	6	1	2	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	5	1	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	6	0	1	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	6	3	0	1	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	4	2	4	0	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	6	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	2	0	1	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	7	1	0	0	4.3
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	5	2	0	0	4.3
	(14) 熱心に指導した。	7	4	1	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	7	2	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	6	2	0	0	4.2
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	3	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	6	3	3	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	8	2	0	0	4.0



教員のコメント

質問項目1, 2, 4, 5中、2(5)の項目を除いて、平均値が4以上の結果であり、講義者の意図が伝えられた講義であったと判断できる。項目2(5)の「教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」については5または4をつけたものが12名中9名いたが、2をつけたものも2名おり、専修専門科目ではあるが、もう少し現場の学校教育の内容との関わりを詳しく解説したほうがよかったかも知れない。質問項目3の、「あなたの授業への取り組みについて」の部分に於いては、予習・復習、授業中における発言や質問に対する項目が3点台となっておりこの授業への学生の関わりが今ひとつ積極的でなかったことが反省させられる。演習問題をプリントとして配り、自学の手助けになるよう工夫したつもりであったが、これに対する解説や講義中での演習を行う余裕がなく、学生の自主性に委ねざるを得なかったこともあり、この点に於いて今後対策を考える必要があると感じた。

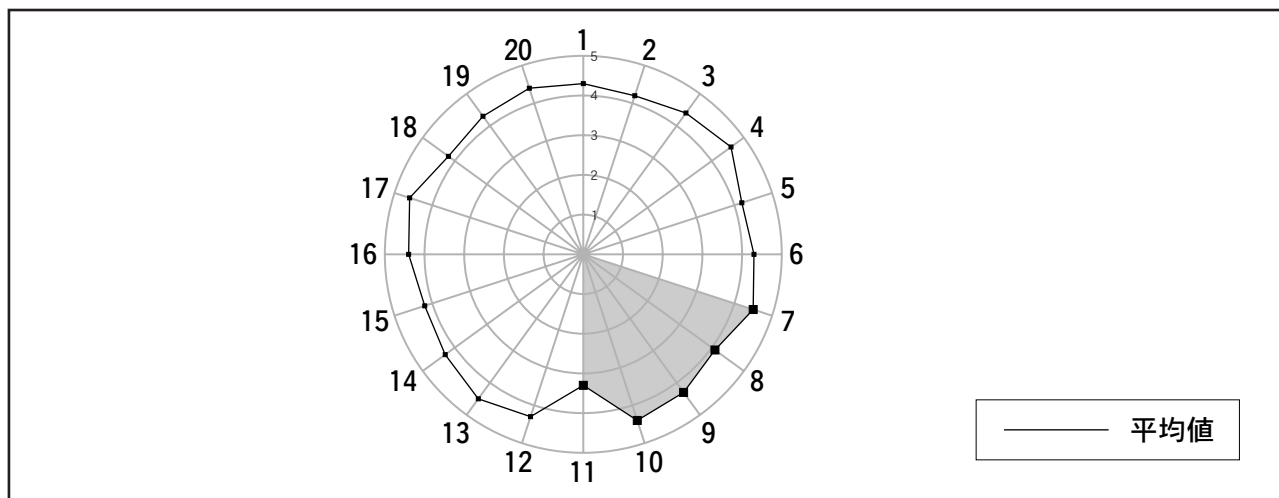
項目6の「あなたからの提言」では、「専門性を高めることができた。」「質問がしやすかった。」「丁寧に定理や公式を追っていった。」「内容を丁寧に教えてもらったので、はじめはわからなくても復習をすることで理解できた。」「理解できなかった点は個人的にも教えてくれた。」「学生一人ひとりの理解定着を確認しながらの授業だった。」等の評価があった一方で、「勉強するための本を1, 2冊紹介して欲しかった。」「授業を聞いている際は証明もよくわかるが、具体的にどう扱うのか、わかりづらい。もっと演習したい。」といった改善の要求があった。今後これを参考によりよい授業の方策を考えていきたい。

授業科目名 初等音楽 I

評価実施日 平成21年 2月 6日

担当教員名 木村 正邦, 山田 啓明, 草下 實, 山根 秀憲, 村澤由利子, 森 正, 頃安 利秀, 松岡 貴史 回答者数 103名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	44	48	10	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	42	39	21	1	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	56	36	11	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	66	30	7	0	0	0	4.6
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	46	30	25	1	1	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	49	37	16	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	70	21	10	2	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	40	34	26	1	2	0	4.1
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	58	25	17	3	0	0	4.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	56	30	16	1	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	20	19	42	17	5	0	3.3
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	56	27	19	1	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	68	22	11	2	0	0	4.5
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	51	34	18	0	0	0	4.3
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	43	40	19	1	0	0	4.2
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	59	30	12	2	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	77	16	9	1	0	0	4.6
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	49	30	17	5	1	1	4.2
5 授業に対する満足度	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	56	28	18	1	0	0	4.3
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	55	34	13	1	0	0	4.4



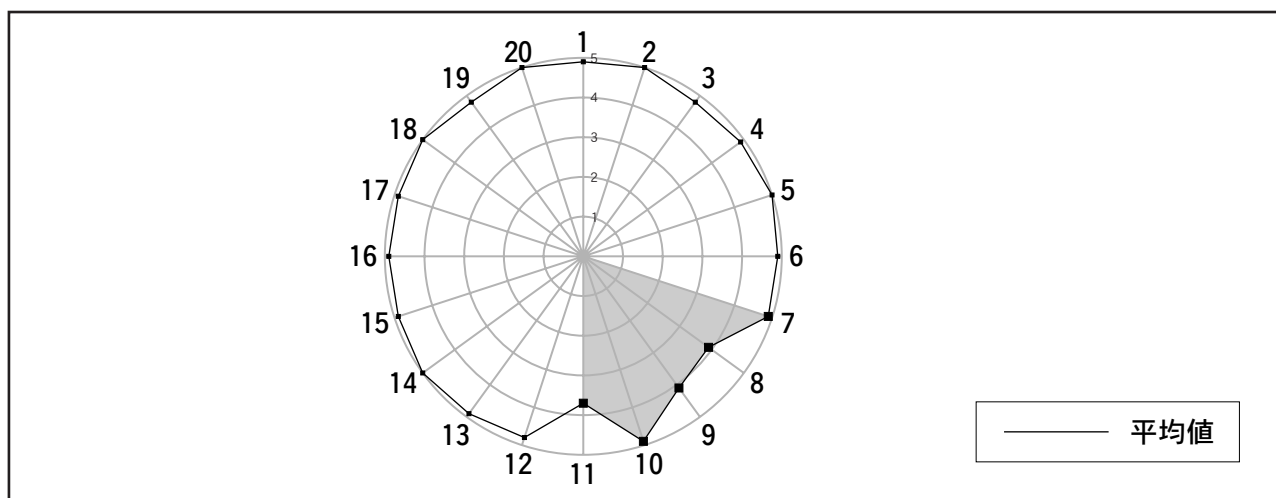
教員のコメント

概して、全ての項目に関して評価レベル4を保持できたことは、大方の受講者にとって、授業が魅力的で充実していることを示していると思う。特に、項目(4)授業の教養・専門性、(7)出席、(13)教員の指導の熱心さ、(17)教員の声の明瞭性は評価が高い。個々の授業者の専門性が活かされた、個人実技指導も含めた授業内容に満足であることが分かる。僅かに項目(11)については唯一評価レベル3であった。これは学生の予習復習が消極的であることを示すものである。今後の課題として授業の際、宿題、課題等をしっかり与えるなど、自学自習を促していきたい。

授業科目名 障害児教育概説Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月5日
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 14名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	12	2	0	0	0	0	4.9
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	14	0	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	13	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	14	0	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	2	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	8	2	0	1	0	3.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	5	2	1	0	0	4.1
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	13	1	0	0	0	0	4.9
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	8	5	0	0	0	3.7
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	13	1	0	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	14	0	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	13	1	0	0	0	0	4.9
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	2	0	0	0	0	4.9
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	2	0	0	0	0	4.9
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	14	0	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	11	3	0	0	0	0	4.8
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	14	0	0	0	0	0	5.0



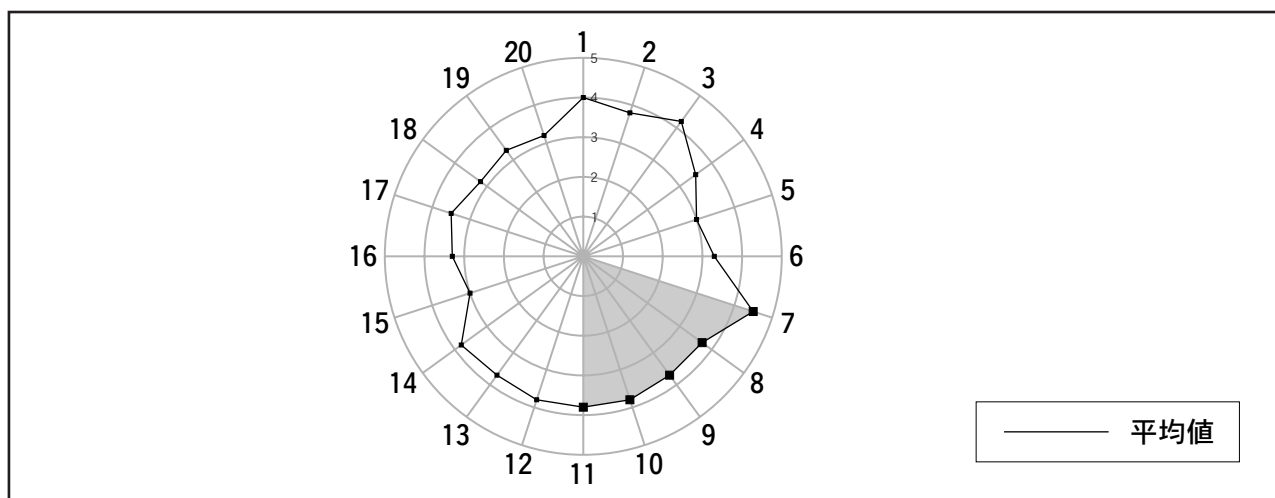
教員のコメント

授業に対する満足度は平均値が5.0であり、全ての受講生にとって今回の授業は満足できるものだったようである。授業概要、授業の内容、授業の進め方に関する得点平均をみると、4.9～5.0、4.8～5.0、4.8～5.0であり、3側面とも比較的评价が高かった。これらのことが授業の満足感につながったのではないだろうか。一方、受講生自身の授業への取り組みには課題も認められる。授業中の積極的な発言や質問に関しては、受講生間で違いが大きく、さらにきめ細かな受講生への対応を心がける必要があるようである。

授業科目名 物理学Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月5日
 担当教員名 松川 徳雄

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	2	0	0	1	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	3	0	0	1	0	3.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	1	0	0	1	0	4.2
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	1	1	1	0	3.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	2	0	2	1	0	3.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	2	2	0	1	0	3.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	1	1	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	4	0	0	1	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	1	3	2	0	0	0	3.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	2	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	2	2	0	2	0	0	3.7
	(14) 熱心に指導した。	2	1	3	0	0	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	2	0	2	1	0	3.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	1	1	1	1	0	3.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	2	1	2	0	1	0	3.5
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	2	1	1	1	0	3.2
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	1	2	2	0	1	0	3.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	3	0	1	0	3.2



教員のコメント

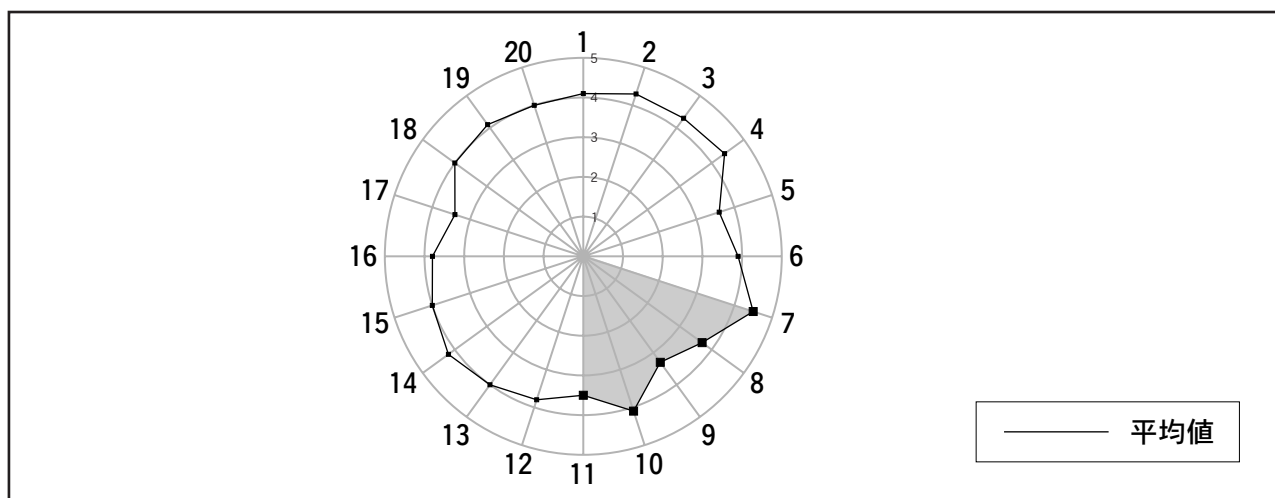
この科目は教えにくいし、学びにくい科目である。これまでの授業経験から、詳しい説明は後回しにして(説明しても理解できないと思いが止まってしまう)、基本的な計算、グラフ描き作業を多くして、現象がどう表せるか考えることに慣れるよう、実習に主力をおいた。現象例としては比較的簡単に結果をだしやすいものを使ったため、なまじ物理学学習歴のある学生には難しいと感じさせたかもしれない。学生の評価は5と1とに比較的広い分布を示した。実際、成績分布をみると、高校で物理履修歴のない学生が目立ってのびた結果が得られている。

学生の評価をみると、何処の何が分からないということを具体的、正直に考えている例があり、学生の評価として正直な感想があり、自分の経験したことを考える力を付けさせたともいえる。

授業科目名 代数学 I
 評価実施日 平成21年 2 月 5 日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 23名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	11	5	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	10	3	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	12	2	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	6	2	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	8	6	4	0	0	3.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	8	7	1	0	0	3.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	15	5	3	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	9	9	0	1	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	4	7	4	6	1	1	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	11	5	0	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	8	7	4	0	0	3.5
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	8	6	1	1	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	9	2	3	0	0	4.0
	(14) 熱心に指導した。	8	11	4	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	11	5	1	0	0	4.0
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	11	8	0	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	4	11	1	1	2	3.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	9	5	1	0	0	4.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	8	9	6	0	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	12	3	1	0	1	4.0



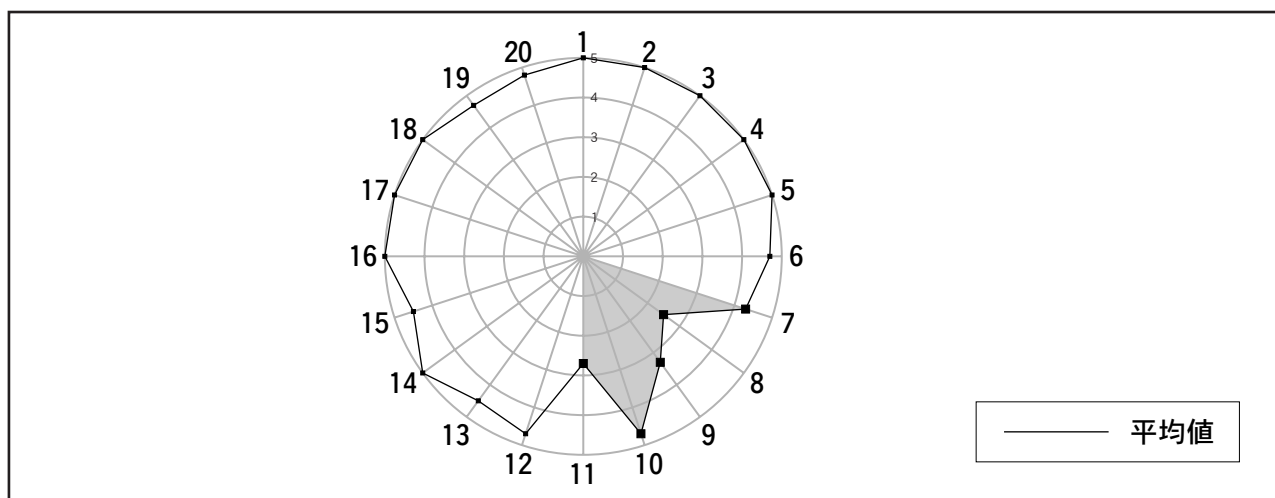
教員のコメント

全般的に値が3～5に集中しており、「この授業は自分自身にとって満足のいくものであったか」という問いに対する項目分析 20では、4、5が78%以上、「熱心に指導した」という項目分析 14では、4、5が82%以上を占めていたこと、授業内容を分かりやすく説明したことに対する評価も良かったので、受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞いてくれて、自らの専門性を高めてくれたことに対しては感謝したい。教科書を指定したことで、受講生が予習できるようにしたし、レポートを課すことにより復習する機会をあたえたが平均値が3.7ということは受講生にはそうは感じていないようである。視聴覚機器や教育用機器をあまり利用しなかったこと、受講生の発表、発言する場をあまり与えなかったは反省すべきかもしれない。数学は講義を聴くだけでなく、受講生が自ら問題を解くことが理解する上で大切であるので、小テストを度々行なった。このことを通して、学生の理解を確かめながら授業できたが、受講生自身もこのことを評価してくれたことは喜ばしい。

授業科目名 保育原論
 評価実施日 平成21年2月5日
 担当教員名 橋川喜美代

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	6	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	0	2	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	0	3	1	2.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	1	1	1	1	3.3
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	2	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	0	5	0	1	2.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	2	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	3	0	0	0	4.5
	(14) 熱心に指導した。	6	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	0	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	0	0	0	0	5.0
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	0	0	0	0	5.0
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	2	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	0	0	4.8



教員のコメント

評価得点から判断して、受講生は本授業に概ね満足していると言える。受講生はこの授業のよかった点として、「海外の新しい保育方法を知り、とても興味深く、印象的だった」「実習の準備、実践、反省会などを通して、実践的なことを学べた」「実際のエピソードに基づく考察を通して、幼児の行動の意味が分かりやすくなった」こと等を上げており、本授業の目標は概ね達成されていると判断できる。

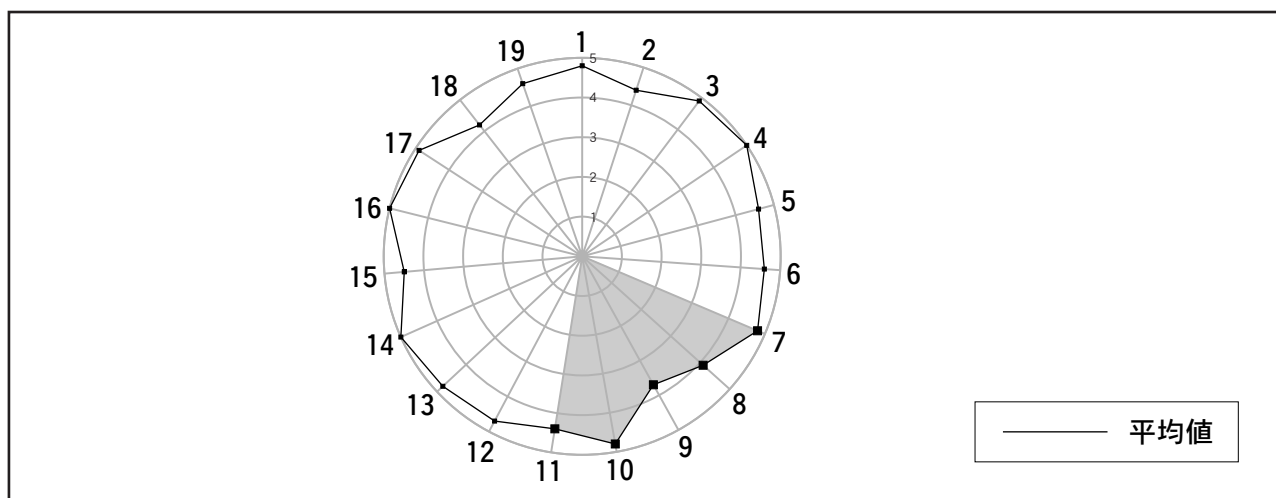
また、「実習や演習などがあるが飽きなかった反面、専門的で深い内容が多かったため、理解が難しいことが多々あった」と述べている受講生がいる。この受講生は自分で努力することの必要性に気づけたとも書いているが、そうした内容を調べたり、積極的に質問したりしたとは答えていない。本授業では、受講生の自学自習の場として、授業外で手作りの人形を作り、保育園の子どもたちに見せる人形劇の練習などを重ねさせてきた。今年度はチャイルド・ウォッチングと称して、幼年期までの親子の観察を加えたが、こうした時間を自学の場とは認識していないようである。

今後は、さまざまな方法で自学自習への対策を講じるとともに、受講生達が意識化できるよう指導していく必要がある。さらに、項目(13)(15)に留意しながら、改善の方策を講じていきたい。

授業科目名 生理学 I・II
 評価実施日 平成21年2月19日
 担当教員名 田中 弘之

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	3	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	2	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	11	1	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	3	1	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	8	3	1	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	2	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	5	3	0	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	5	4	1	0	3.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	9	3	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	6	5	1	0	0	4.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	4	0	0	0	4.7
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	9	3	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	12	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	3	1	0	0	4.5
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	12	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	1	0	0	0	4.9
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	4	7	0	1	0	4.2
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	1	0	0	4.6



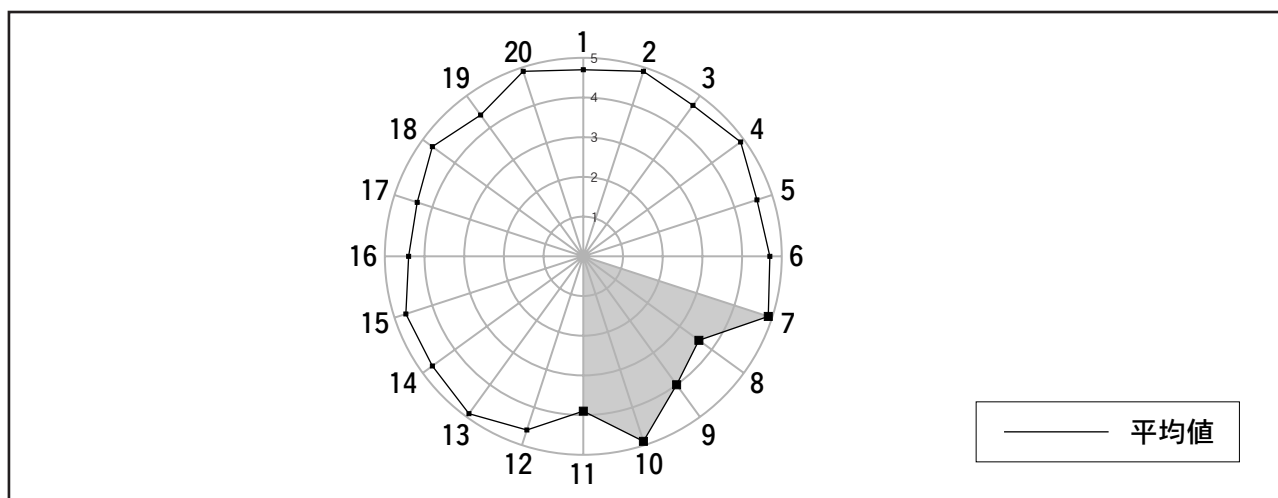
教員のコメント

全体の集計結果における平均値は、4.62であり、概ね良い評価が得られたものと推察される。
 学生による自由記述の概略では『専門的な知識を学ぶことができた』『とても難しかったが勉強になった』『難しかったところをうまく説明してくれた』『納得のいく授業だった』『保健体育教師として求められる資質・能力について考えることができた』『身体に関する知識が得られて飽きなかった』『難しいことにチャレンジさせてくれた』などを【よかったこと】と評価し、『覚えなないといけないことがたくさんで大変』『授業の進行が少し速い』『もっと授業時間数を増やした方がいい』『難しい』などを【改善したほうがよいと思うこと】と評価していた。
 これらの意見を参考にして、さらなる授業内容の厳選等を今後の改善課題としたい。

授業科目名 体育経営管理学Ⅰ・Ⅱ
 評価実施日 平成21年2月24日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	6	1	0	0	0	0	4.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	2	0	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	2	1	0	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	4	0	1	0	0	4.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	2	1	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	3	0	0	0	0	4.6
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	6	1	0	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	2	1	0	0	0	4.4
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	2	0	0	0	0	4.7
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	4	2	1	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

項目ごとの平均値は以下の通りである。すべての項目が4.0以上の評価であり、授業に対する満足度が4.9であることから、総合的には高い評価を得たと考えている。

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 授業概要について (4.8) | 4 教員の授業の進め方について (4.6) |
| 2 授業の内容等について (4.7) | 5 授業に対する満足度 (4.9) |
| 3 授業への取り組みについて (4.2) | |

「この授業でよかったこと」について、7名中3名が回答しており、その内容は以下の通りである。

「体育授業や運動部の指導上の留意点が具体的に分かった」

「クラブサービスの内容が面白かった」

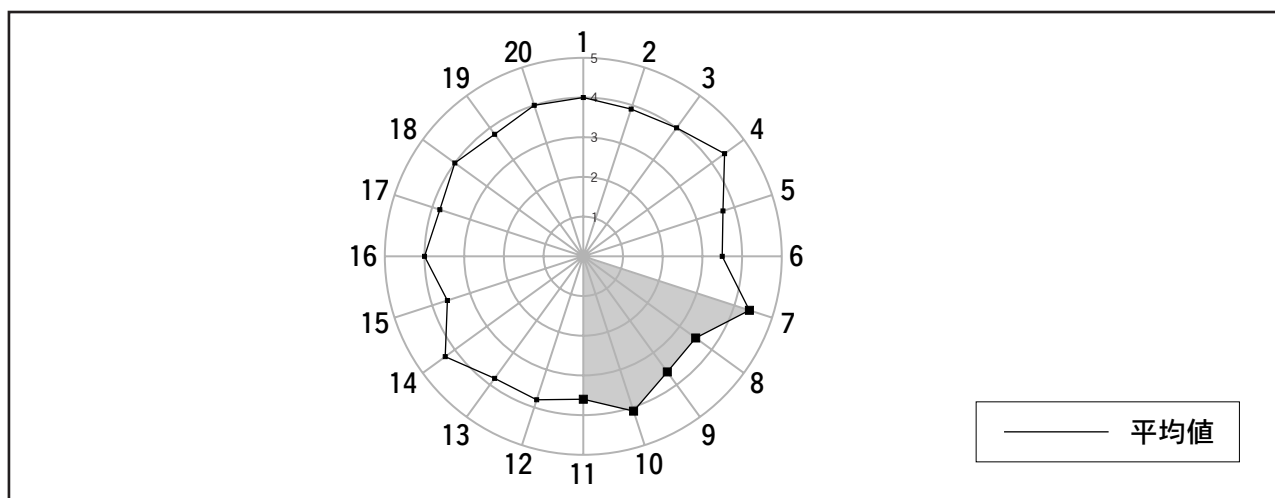
「体育経営管理の仕事が分かった」

今後は、復習を促すような小テストやレポートの課題提示などに取り組みたい

授業科目名 運動学Ⅰ・Ⅱ
 評価実施日 平成21年3月2日
 担当教員名 乾 信之

回答者数 21名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	13	3	1	0	0	4.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	12	4	1	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	9	3	2	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	7	3	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	13	4	2	0	0	3.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	7	6	4	0	1	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	12	5	4	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	7	6	4	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	6	7	2	6	0	0	3.6
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	12	3	0	0	0	4.1
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	9	3	5	0	0	3.6
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	6	6	7	2	0	0	3.8
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	5	9	5	2	0	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	8	11	2	0	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	7	8	2	0	0	3.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	9	3	2	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	4	10	5	2	0	0	3.8
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	9	5	1	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	6	6	7	2	0	0	3.8
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	6	8	7	0	0	0	4.0



教員のコメント

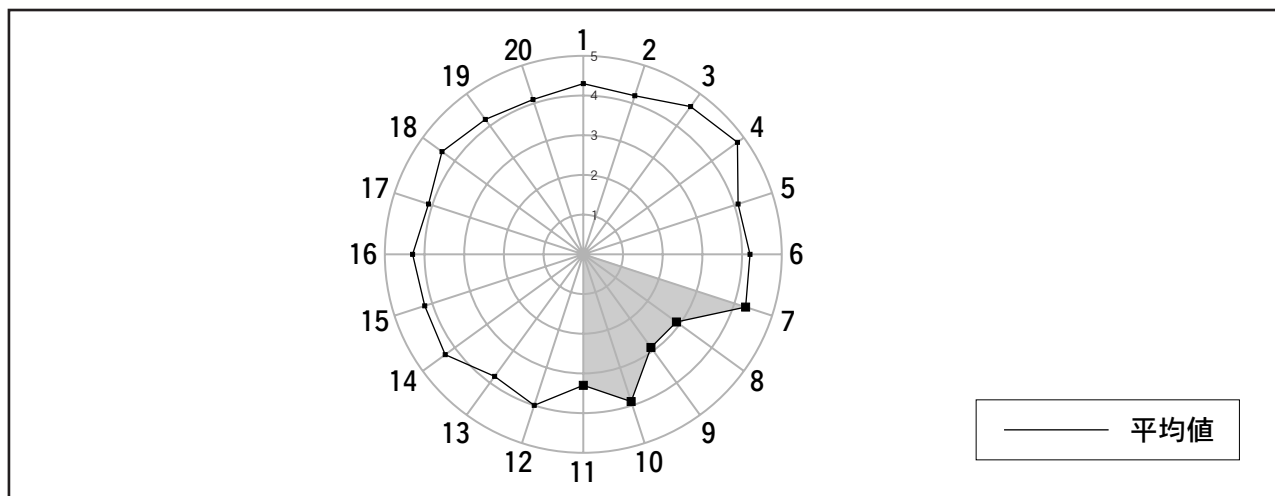
運動学Ⅰでは運動の制御と学習を心理学的なレベルで講義し、運動学Ⅱでは運動の制御と学習を生理学的に講義している。いずれも入門的な講義であるが、受講生にとっては新奇性に富み、かなり専門的な内容と受け取られている。

受講生の興味を引き、運動の制御と学習の一般法則の理解を高めるためには、受講生が日頃行っているスポーツ場面での具体例をできる限り多く準備しておくことである。

授業科目名 博物館概論
 評価実施日 平成21年 2月13日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	9	1	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	5	9	2	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	6	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	12	4	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	7	4	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	8	1	1	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	7	2	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	3	5	4	2	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	2	3	4	3	3	2.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	7	4	1	0	3.9
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	5	4	5	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	8	4	0	0	4.0
	(13) 学生が参加しやすい授業だった。	3	6	7	0	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	8	5	3	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	6	7	3	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	8	2	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	8	3	0	0	4.1
	(18) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	8	1	0	0	4.4
	(19) 授業の進む速さは、適切だった。	5	9	2	0	0	4.2
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	9	1	1	0	4.1



教員のコメント

博物館概論では、学芸員としての基本的な資質の育成と、教員としての博物館利用の教育力向上を目標とし、開かれた学習の場としての博物館のあるべき方向・課題を検討している。

アンケートによれば、授業内容や配布教材については、ある程度の評価を得ることができた。博物館学の理論的な側面だけでなく、博物館の実際の活動、また社会の中での博物館の意義を歴史と現状から、具体的に提示したことを反映したものと考える。ただ、資料がどうしても多くなり、メリハリを求める声もアンケートには一部みられた。今後の改善点である。

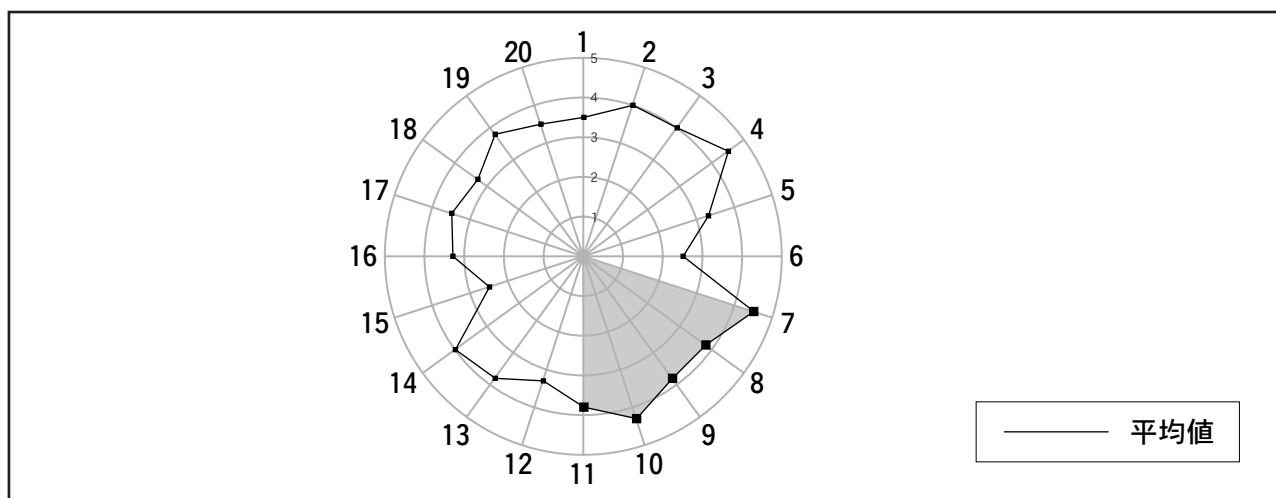
また、ともすれば一方的な講義形式に終始した面が強く、昨年度はこの点を改善するべく、博物館ミニ报告会などを行い好評だったので、今年度も最終日に実施した。受講生が秋の特別展や冬休み等を利用して、博物館を取材し、全体で発表しあうというものである。学生自身もこれには主体的に参加し、また他分野の博物館の実態、博物館の多様性について多くの関心を持つことができたようである。こうした受講生が積極的に参加できるような工夫を今後していきたい。

しかし、全般的に授業中の発言・質問等については少なかった。これを促すような授業者の努力と、受講生の姿勢が必要であると痛感している。今後も受講生の意欲を引き出せるような授業に取り組むよう努力したい。

授業科目名 情報回路（実習を含む。）
 評価実施日 平成20年7月24日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	0	2	2	0	0	0	3.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	1	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	2	1	0	0	0	4.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	1	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	2	1	1	0	0	3.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	0	3	0	1	0	2.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	2	0	0	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	1	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	3	1	0	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	1	3	0	0	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	1	0	0	0	3.8
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	2	1	1	0	0	3.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	0	3	1	0	0	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	1	0	0	4.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	1	1	1	1	0	2.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	1	3	0	0	0	3.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	2	2	0	0	0	3.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	2	1	1	0	0	3.3
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	2	2	0	0	0	3.5



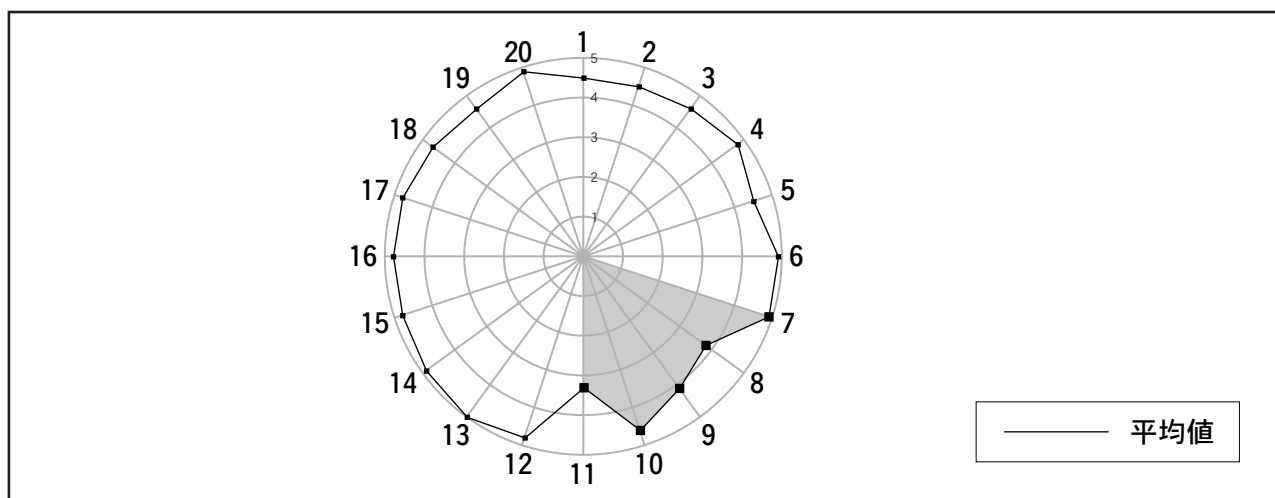
教員のコメント

反応の良かった項目は、「専門性を高める内容」、「成績評価方法」、「授業の出席」、「積極的に課題に取り組んだ」、「熱心に指導した」、等であり、逆に反応の悪かった項目は「興味関心の薄さ」と「授業内容のレベル」であった。本科目は高等学校情報免許のために開設されており、学生の自由記述では「情報回路の基礎を知ることができた。」、「回路を設計できるようになった。」、「専門知識が身に付いた。」等の好意的な回答のみであった。また、実験等を含めて現実のホームオートメーションやホームセキュリティに関連させて授業を行っており、授業内容を現実問題へ対応させることはできるようになっているようである。専門的な授業内容であるために学生は教育との関連を掴めないでいるようで、今後は授業の質を落とさない範囲で学校現場に関連させた話題を含めるよう授業内容を改善したい。

授業科目名 指揮法
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	3	1	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	2	0	1	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	7	1	2	0	0	0	4.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	6	3	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	5	2	0	0	0	4.1
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	3	4	2	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(13) 学生参加型の授業だった。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	9	0	1	0	0	0	4.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	7	2	1	0	0	0	4.6
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	9	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

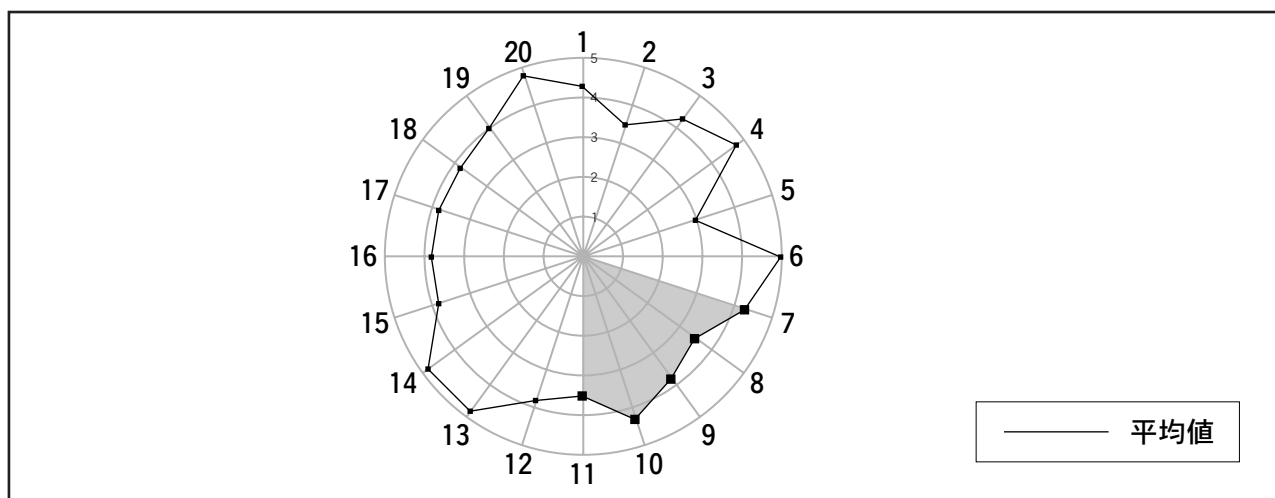
学生からの提言欄には授業が楽しかったとのコメントがいくつか見られた。指揮は学生が初めて取り組む分野であり。ピアノや管楽器とは異なり、学生間の実力にあまり差がないことも理由のひとつと考えられる。

なお、授業の内容上、あまり予習を必要としないこと。初めての分野のため、疑問を持つようにも持ちようがなかったであろうことが、アンケートの集計結果から見てとれる。

授業科目名 絵画特別演習Ⅱ
 評価実施日 平成20年7月14日
 担当教員名 武市 勝

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	3	0	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	2	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	3	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	1	2	1	0	3.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	0	0	0	0	5.0
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	1	0	0	4.3
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	2	0	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	2	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	1	1	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	2	0	0	3.5
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	3	1	0	0	3.8
	(13) 学生参加型の授業だった。	3	1	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	3	1	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	0	3	1	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	0	3	1	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	1	2	0	0	3.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	1	2	0	0	3.8
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	0	4	0	0	0	4.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	1	0	0	0	4.8



教員のコメント

今年度は、腐食・直刻法による銅版画、および感光法によるシルクスクリーンをとりあげた。迷った末、木版画を含めなかったのは、伝統技法と学校現場での技法が異なるためでもある。

それよりも大学在学時にしか修得する機会が少ないであろう、この二種の技法を経験させたかったことが優先された。銅版画の繊細さと腐食という特性、またシルクスクリーンという技法の自由さと版画概念の拡大ということを理解させたかったこともある。

ただ、版画と言えば木版という観念が強いこともあり、これを排除したのはいくらか忸怩たる思いがしている。

以前15コマで3種類の技法を詰めることも試みたが、あまりにも忙しくなる。

2, 3年この計画でやってもう一度見直す機会とするつもりである。

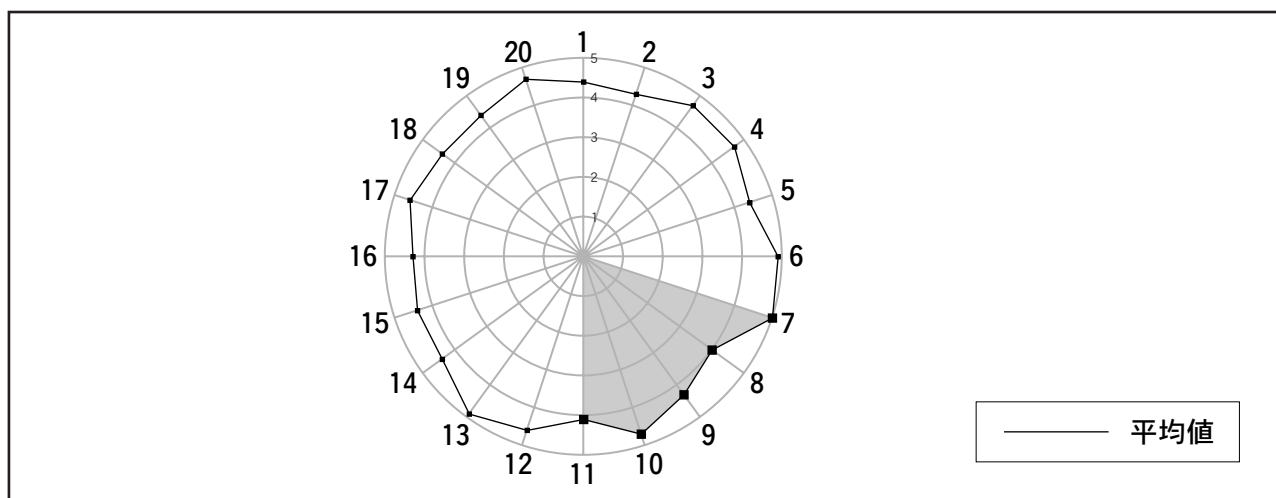
今年度の反省としては、この2種類の技法の格差が強いため、学生にとまどいのようなものがあったのではないかと感じている。銅版画の禁欲的、不自由さと、シルクの開放的なあり方とでは、「同じ版画」という感じがしなくなるのである。そのため、作品のアイデアが切り替えにくい。

教師としては、版や用具にとらわれない自由さも味わってほしいと思うので、切り替え時のアプローチに留意しつつ進める所存である。

授業科目名 マルチメディアと教育技術（実習を含む。）
 評価実施日 平成20年7月29日
 担当教員名 林 秀彦

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	2	1	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	3	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	0	1	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	2	0	0	0	4.7
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	4	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	1	3	0	0	4.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	3	1	0	0	4.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	5	2	0	0	0	4.7
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	2	2	0	0	4.1
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	1	1	0	0	4.6
	(13) 学生参加型の授業だった。	6	1	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	4	2	1	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	2	1	0	0	4.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	2	0	0	4.3
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	5	1	1	0	0	4.6
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	3	4	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	5	0	2	0	0	4.4
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	2	0	0	0	4.7



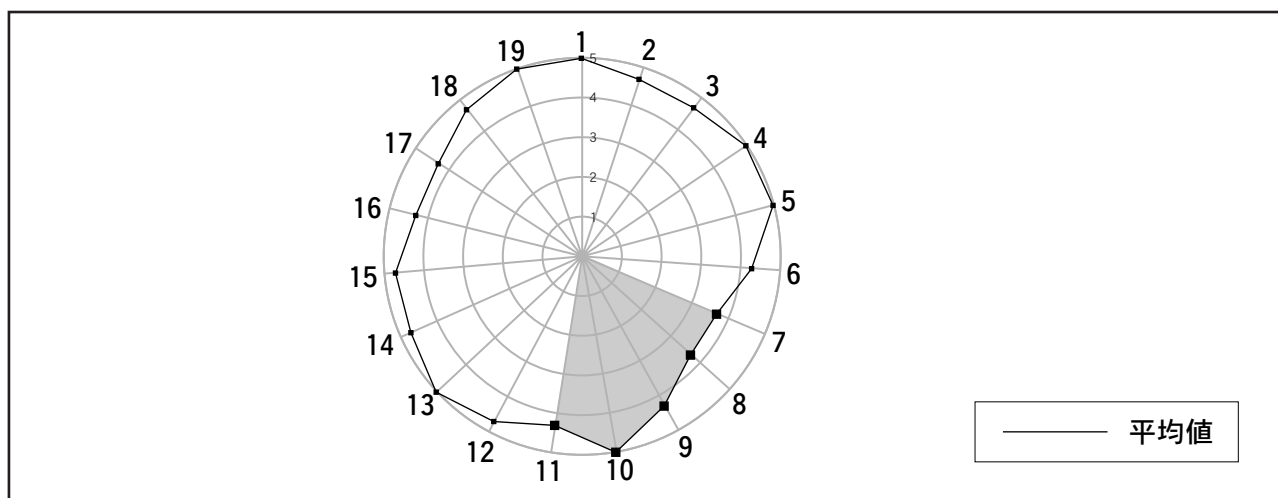
教員のコメント

本授業では前半と後半で授業内容を分けて進めており、前半は情報メディアの理論的な側面を取扱い、後半は実習に重点をおいた授業内容である。理論的な側面では、抽象的な内容を含んでおり、学生の課題の取組みから考察すると、少し難しい内容であったようであるが主体的に調べることができたようであった。実習ではICTを活用した映像作品を制作してコンテストに入賞することを目指した。グループでの制作過程や各役割を前半で学習したこともあり後半はグループワークとして円滑に進めることができた。受講生が同学年同コースのメンバーであったこともあり、高いチームワーク力を発揮して授業時間外でも活発に主体的に打合せ等を進めていたようであった。その結果、コンテストのテーマに沿った素晴らしい作品が出来上がったが1001作品の力作が応募されており入賞するには至らなかった。来年度は反省点も踏まえてより良い結果を残していきたい。アンケート結果は、こうした授業の先の目標を受講者と共有できたこともあり、学生も主体的に行動して高い評価であった。また、実践情報教育Iでも活躍した学生主導型の学習支援者（ラウンジコーディネーター）が、本授業においても効果的にサポートできたこともあり、ラウンジ活動は試験的に導入された取組であるが情報教育関連科目の全般に有効に機能する可能性が示唆される。

授業科目名 彫刻材料研究
 評価実施日 平成20年7月30日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 3名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	1	0	0	0	4.7
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	1	0	0	0	4.7
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	0	0	0	0	5.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	2	0	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	0	2	1	0	0	3.7
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	1	0	0	3.7
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	2	0	0	0	4.3
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	0	0	0	0	5.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	0	0	0	4.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	1	0	0	0	4.7
	(13) 学生参加型の授業だった。	3	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	2	1	0	0	0	4.7
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	1	0	0	0	4.7
	(16) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	1	2	0	0	0	4.3
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	1	2	0	0	0	4.3
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	2	1	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本授業の大きな特徴は現代美術を多く解説、紹介し、課題として現代美術的造形表現を様々行っている点である。それは例えば小学校図画工作の表現領域の一つである「造形遊び」を念頭においてのことであり、それにもまして、鑑賞教育に資するためである。

授業評価の点では、本年度も学生側の「あなたの授業への取り組みについて」が他の項目に比較して平均値が全体的に低かった。この傾向は例年のことではあるが、前年度と比較すると、かなり良くなっている。

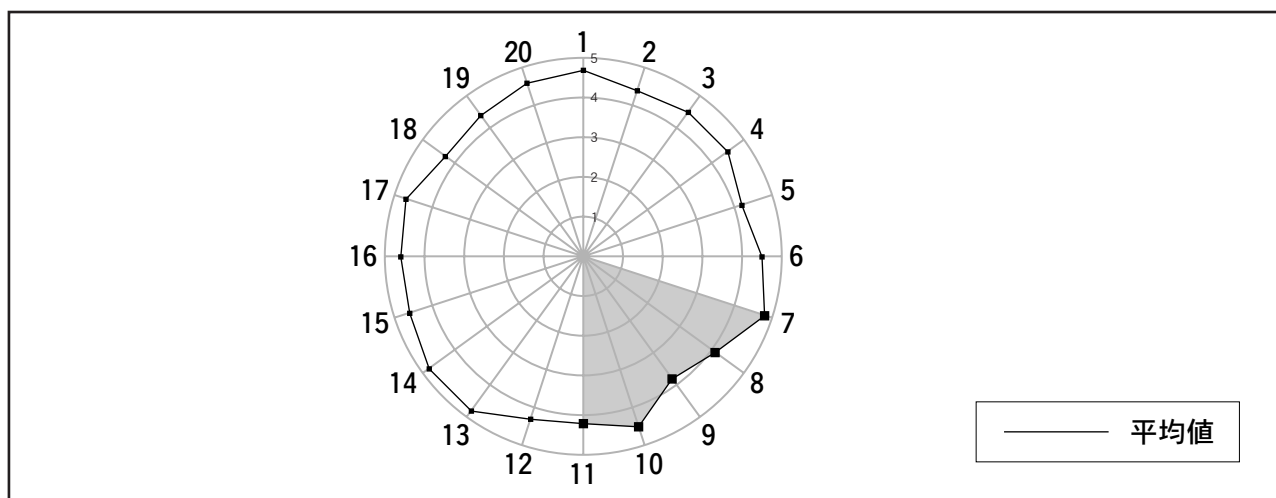
特に「積極的に課題に取り組んだ。」が良くなった理由は授業中の発問を多く行ったり、課題に取り組むやすいように的確な支援を行ったりしたためと考える。

今後も学生が授業に積極的に取り組めるように工夫をしていきたい。

授業科目名 情報技術基礎（実習を含む。）
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 伊藤 陽介, 菊地 章

回答者数 12名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	9	2	1	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	3	2	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	6	0	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	6	2	0	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	7	4	1	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	2	0	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	3	4	0	0	0	4.1
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	4	1	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	7	4	1	0	0	0	4.5
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	6	2	0	0	0	4.2
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	7	1	0	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	10	2	0	0	0	0	4.8
	(14) 熱心に指導した。	9	3	0	0	0	0	4.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	8	3	1	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	5	0	0	0	0	4.6
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	8	4	0	0	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	5	5	2	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	7	3	2	0	0	0	4.4
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	3	1	0	0	0	4.6



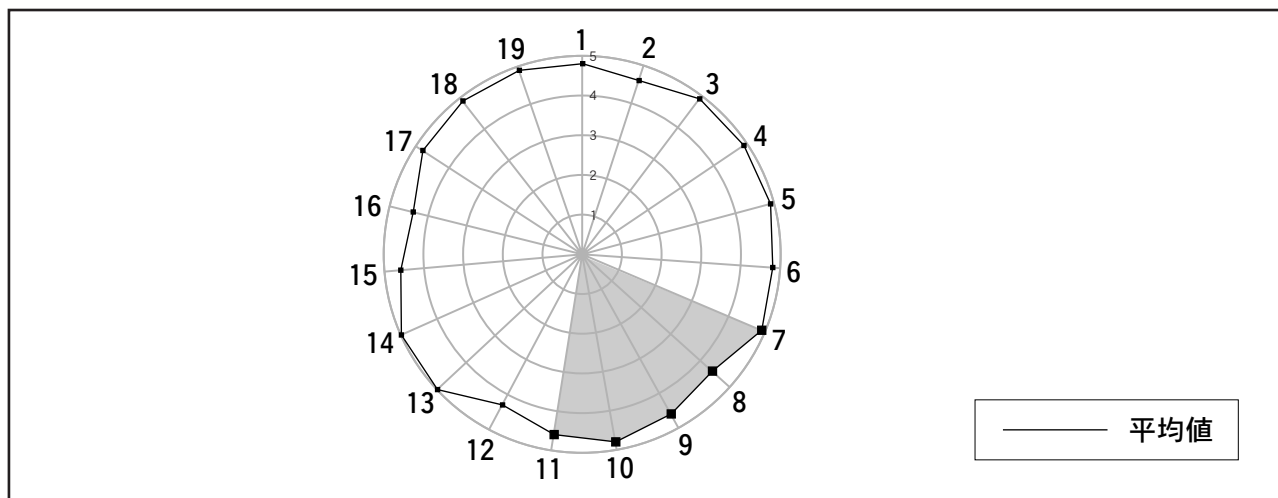
教員のコメント

授業内容についてはシラバスに記載した授業概要に沿って講義と実習を連携しつつ実施したため、全体的にほぼ満足できる評価結果となっている。特に、「学生参加型の授業だった。」、「熱心に指導した。」という質問項目の平均値はそれぞれ4.8となり、本授業方法については学生から高い評価が得られている。一方、「授業中に積極的に発言や質問をした。」の項目では、3.8となり、授業中の学生との対話不足が指摘された。学生による毎回の授業内容のレポート作成・提出と、授業者によるレポートの評価と質問に対する回答を繰り返し実施し、個々の学生の習得状況を把握できていたつもりであったが、今後、授業中における積極的な学生との対話を重視したい。

授業科目名 語学・文学総合演習 I (国語学)
 評価実施日 平成20年 8 月 5 日
 担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 16名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	NA	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	13	3	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	5	1	0	0	4.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	2	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	2	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	14	2	0	0	0	4.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	13	3	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	2	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	8	6	2	0	0	4.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	12	2	2	0	0	4.6
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	13	3	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	11	4	1	0	0	4.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	7	2	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	16	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	16	0	0	0	0	5.0
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	10	6	0	0	0	4.6
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	9	5	2	0	0	4.4
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	13	2	1	0	0	4.8
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	14	2	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	15	1	0	0	0	4.9



教員のコメント

1年次・2年次で学習してきた国語学的な知見を総合し、教育実習前に模擬授業を行うことによって基礎的な実践力を養うことを目的として授業を進めた。

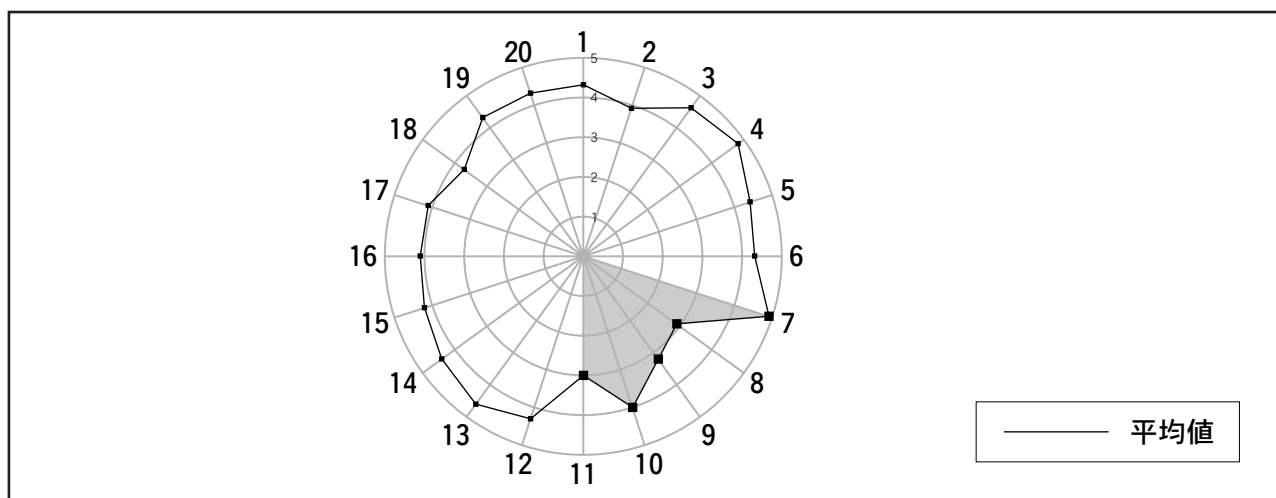
授業の良かった点として、「模擬授業の経験を積めた」「自分の授業の悪い所を意識させてくれた」など、「実習前にとっても役に立つ授業だった」「先生方からのつつこみが恐かったです、実習に向けてすごく力になった」という感想が寄せられた。これらの感想からも知られるように、学生にとっては、満足度の高い授業（評価 4.9）であったようである。

現在の授業に満足しつつ継続していくとともに、今後は、教育実習における学生の授業観察を通して、問題点を洗い出し、その解決を図るような指導を盛り込んでいくように努力を重ねたいと考えている。

授業科目名 障害児心理学演習
 評価実施日 平成20年7月25日
 担当教員名 島田 恭仁, 高原 光恵

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	2	2	0	0	4.3
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	3	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	2	1	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	5	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	4	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	8	1	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	2	0	3	2.9
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	3	3	1	1	3.2
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	3	3	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	4	2	2	1	3.0
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	4	1	0	0	4.3
	(13) 学生参加型の授業だった。	6	2	1	0	0	4.6
	(14) 熱心に指導した。	4	5	0	0	0	4.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	3	2	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	6	1	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	3	4	2	0	0	4.1
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	1	5	2	1	0	3.7
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	3	6	0	0	0	4.3
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	4	1	0	0	4.3



教員のコメント

今年度の障害児心理学演習の授業では、特別な教育的ニーズをもつ児童生徒についての理解を深めるために、生理心理学的・認知心理学的な基礎事項（測定法・検査法）を、演習を通じて体得することを目的とした。

授業評価アンケートの結果、問7「授業によく出席した」、問4「授業内容は教養や専門性を高めるものだった」で評定値が極めて高く、問3「授業内容は授業概要に沿っていた」、問13「学生参加型の授業だった」でも高い評定値を得ることができた。従って、授業を通じて、測定法と検査法に関する専門的な知識を浸透させることに、成功したと思われる。

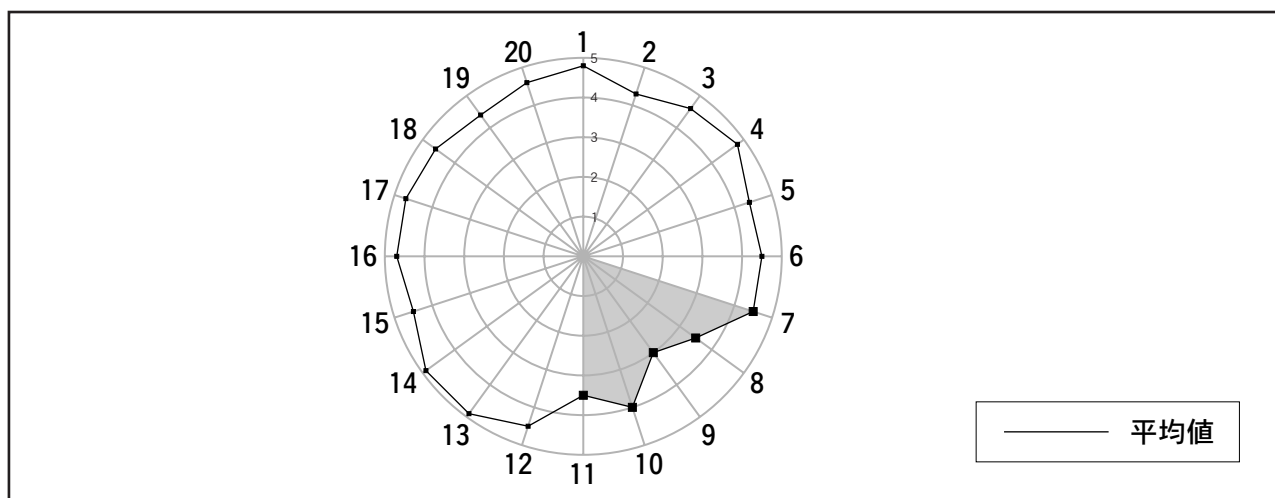
一方、問8「授業内容をよく理解するために予習や復習をした」、問9「授業中に積極的に発言や質問をした」、問11「分からないことや疑問に思ったことは調べた」では評定値が全般に低かったことより、学生は受身的な姿勢であったことが示唆された。演習内容が幾分多過ぎたため、ついて行くので精一杯という状況があったと推察できる。

今後「学生参加型の授業」を一層実り多いものにするためには、演習量を適量に設定して、習得した知識・技能を十分に定着させる工夫が求められる。

授業科目名 英語オーラルコミュニケーションⅠ
 評価実施日 平成21年2月4日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 24名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	18	6	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	12	1	1	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	15	9	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	18	6	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	13	8	2	1	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	7	2	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	14	8	2	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	7	10	3	0	3.5
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	3	4	11	2	4	3.0
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	8	9	7	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	11	8	3	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	13	0	0	0	4.5
	(13) 学生参加型の授業だった。	22	2	0	0	0	4.9
	(14) 熱心に指導した。	21	3	0	0	0	4.9
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	6	3	0	0	4.5
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	16	8	0	0	0	4.7
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	18	5	1	0	0	4.7
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	17	4	3	0	0	4.6
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	13	7	4	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	16	7	1	0	0	4.6



教員のコメント

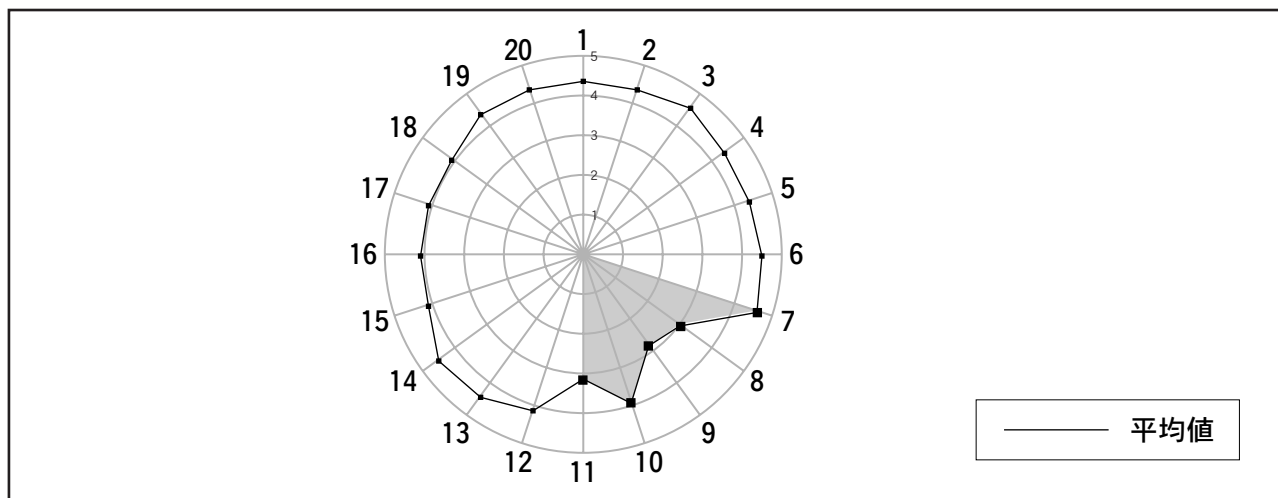
大項目3「あなたの授業への取り組みについて」以外の項目は全て4点台であり、授業の内容と方法の面については高評価を得た。しかし、大項目3の項目(8)「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。(3.5)」、項目(9)「授業中に積極的に発言や質問をした。(3.0)」、項目(11)「分からないことや疑問に思ったことは調べた。(3.5)」が相対的に低い評価得点であった。特に項目(9)については、誰に対する発言や質問であるかを明示すれば、異なる結果を得たように思う。例えば、授業者に対する発言・質問なのか、その他の受講生に対する発言・質問なのか、など。本授業は受講生同士の英語によるコミュニケーションが主たる学習活動であるため、後者を想定した場合、ほとんどの受講生が英語で発言や質問をしていることになる。誰に対する発言や質問であるかの解釈の違いが、同項目に対する反応のばらつきに表れていると考えられる。また項目(9)や項目(11)については、具体的な手だてを継続的に考えていきたい。本授業の目的は他者(児童・生徒)に対して教室英語を使用するための技能の獲得にあるため、一般的に一人で行うことが想定される予習・復習といった類の学習活動とは性格を異にする。つまり、本授業のために何を予習あるいは復習すべきかが受講生にとって必ずしも明確ではないと考えられる。今後、そのあたりを明確にしていく必要がある。

授業科目名 発達臨床心理アセスメント

評価実施日 平成21年2月13日

担当教員名 久米 禎子, 今田 雄三, 粟飯原良造, 吉井 健治, 中津 郁子 回答者数 14名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	.7	5	2	0	0	0	4.4
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	9	2	2	1	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	10	3	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	3	1	1	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	3	3	0	0	0	4.4
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	10	1	3	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	3	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	1	7	3	1	0	3.0
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	3	5	6	0	0	2.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	4	5	4	1	0	0	3.9
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	4	5	4	0	0	3.1
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	8	1	1	0	0	4.1
	(13) 学生参加型の授業だった。	8	4	2	0	0	0	4.4
	(14) 熱心に指導した。	9	3	2	0	0	0	4.5
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	6	2	1	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	4	4	0	0	0	4.1
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	6	4	4	0	0	0	4.1
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	7	3	3	1	0	0	4.1
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	7	5	2	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	5	2	0	0	0	4.4



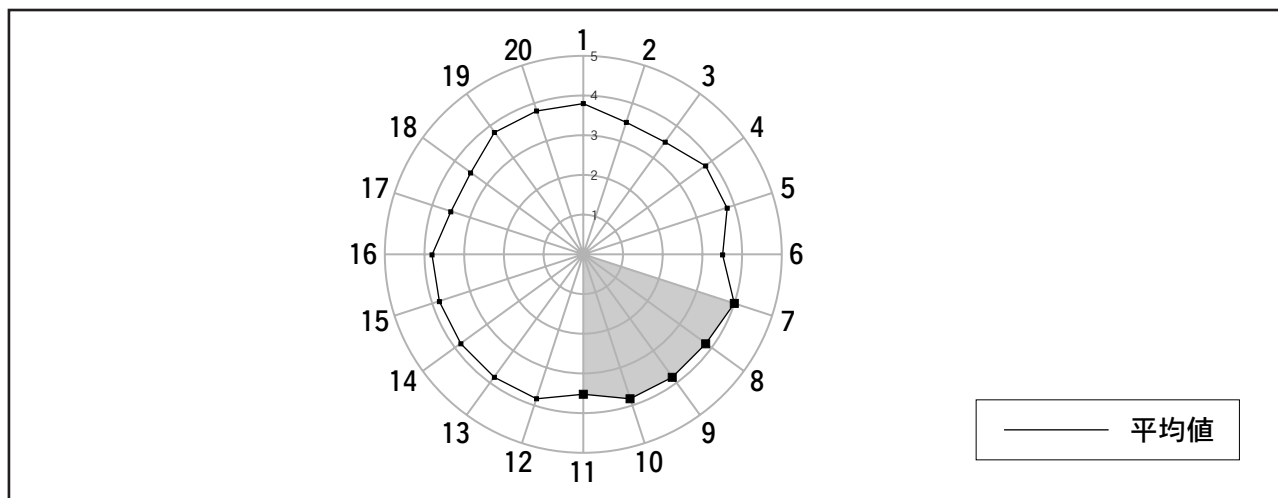
教員のコメント

「授業概要」、「授業内容」、「教員の授業の進め方」、「満足度」など、全体的に高く評価されている。学生の授業への取り組みについては、「授業への出席」や「課題への積極的取り組み」以外は2～4の評価が多い。これらの項目は、「予習や復習をした」「分からないことや疑問に思ったことは調べた」という自学自習に関するものと、「授業中に積極的に発言や質問をした」という授業への自発的参加を問うものであった。授業時間以外での学習を促し、授業内容の理解をさらに深める工夫が今後の課題である。

授業科目名 制御情報処理
 評価実施日 平成21年2月17日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	2	2	0	0	0	3.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	0	2	2	0	0	0	3.5
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	0	2	2	0	0	0	3.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	1	2	1	0	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	3	1	0	0	0	3.8
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	1	1	2	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	2	2	0	0	0	3.5
	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(13) 学生参加型の授業だった。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(14) 熱心に指導した。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	2	2	0	0	0	3.5
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	2	2	0	0	0	3.5
5 授業に対する満足度	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	1	1	2	0	0	0	3.8
	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	1	2	0	0	0	3.8



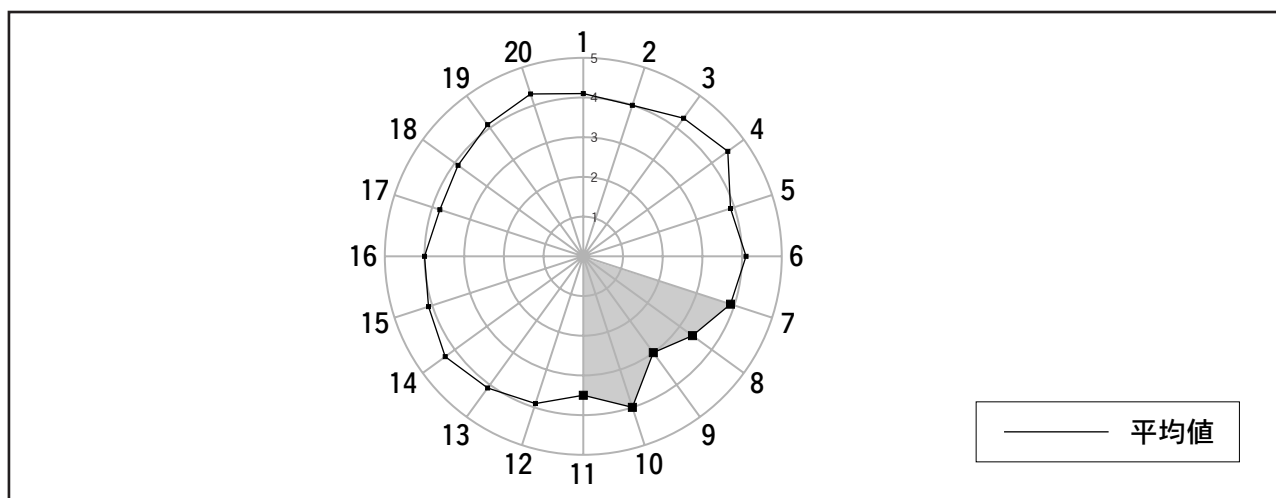
教員のコメント

学生の自由記述で「授業の進度を学生に合わせてくれたので授業に集中できた。」とのコメントがあった割には「学生の理解状況を確認しながら授業を行った。」の評価が低いのは疑問のあるところである。本授業科目は高等学校情報の免許指定科目であり、従来は積極的な受講生が多かったが、本年度に関しては受動的な学生が多かったようである。学生の質が年々低下していることを考慮して実習の配分をもう少し増やすなど、今後の授業進行について検討する必要がある。

授業科目名 史料講読
 評価実施日 平成21年3月3日
 担当教員名 大石 雅章, 町田 哲, 原田 昌博

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	7	0	0	0	4.1
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	6	1	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	2	6	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	4	0	0	0	4.5
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	5	2	0	0	3.9
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	3	2	0	0	4.1
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	2	2	1	0	3.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	2	2	1	1	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	4	1	2	1	3.0
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	2	4	2	0	0	4.0
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	2	3	0	1	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	7	1	0	0	3.9
	(13) 学生参加型の授業だった。	2	5	1	0	0	4.1
	(14) 熱心に指導した。	3	4	1	0	0	4.3
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	5	1	0	0	4.1
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	4	2	0	0	4.0
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	6	2	0	0	3.8
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	7	1	0	0	3.9
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	2	5	1	0	0	4.1
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	2	6	0	0	0	4.3



教員のコメント

5の項目の授業に対する満足度に対する評価が、5が2人、4が5人であり、ほぼ全体としてそれなりの評価を得たといえよう。

3の項目の学生の授業の取り組みの評価と4の項目の教員の授業の進め方の評価と比例する傾向にあり、その点を今後踏まえながら改善していく必要がある。

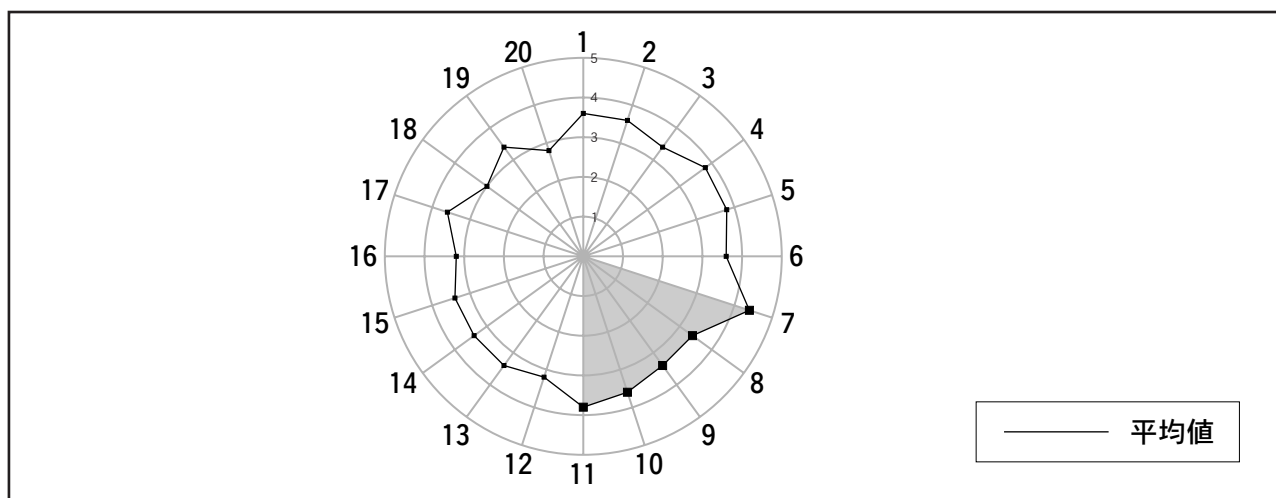
6の記述の項では「日本史中世・近世、世界史それぞれ違った内容であったのがよかった」と時代や地域によって異なる史料を扱ったことに対する評価や、「史料が興味深く、専門的な知識を身につけることができた」「外国語文献や中・近世文書（日本史）をしっかりと読む演習だったのでためになった（中略）教科書暗記の歴史のイメージがかわって、きっとよい歴史授業がこの先作れるようになると思う」など、専門的な能力を高めることが、良い授業づくりに役立つという評価を得た。

今後も、教師力をアップのための授業作りを目指す。

授業科目名 ソフトウェア演習（実習を含む。）
 評価実施日 平成21年2月27日
 担当教員名 伊藤 陽介, 菊地 章

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	1	2	1	1	0	0	3.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	0	3	2	0	0	0	3.6
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	1	0	4	0	0	0	3.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	2	1	1	1	0	0	3.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	1	1	1	0	0	3.8
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	1	3	0	0	0	3.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	3	0	0	0	3.4
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	0	2	3	0	0	0	3.4
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	0	3	2	0	0	0	3.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	0	0	0	3.8
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	0	2	2	1	0	0	3.2
	(13) 学生参加型の授業だった。	1	2	1	0	1	0	3.4
	(14) 熱心に指導した。	1	1	2	1	0	0	3.4
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	1	2	1	0	0	3.4
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	1	0	3	1	0	0	3.2
	(17) 視聴覚機器及び教育用機器の利用は、適切だった。	0	3	2	0	0	0	3.6
	(18) 授業の進む速さは、適切だった。	0	2	2	0	1	0	3.0
	(19) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	1	0	4	0	0	0	3.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	0	2	1	1	1	0	2.8



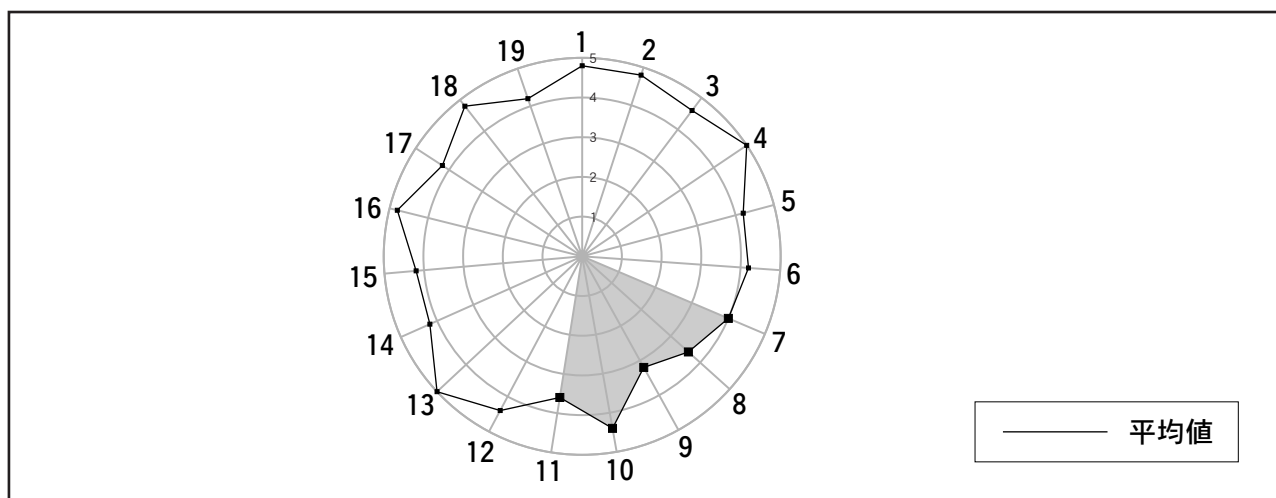
教員のコメント

授業概要については、授業計画と成績評価方法をあらかじめ明示することで高い評価を得ている。「個別に課題を設定し、その課題に基づくソフトウェアを制作」を目標として効果的に授業を進めるために、今年度より本授業の支援用Webページを開設した。本Webページを通じて教材等を提供し、プログラムの入力に要する時間を少なくし、受講生がソフトウェアの仕組みを理解する時間を確保した。受講生の要望に応じるように個別課題を設定し、受講生はその課題を解決するためのソフトウェアを制作するとともに、プログラムの構成を発表できた。しかし、一部の受講生から求められたやや難易度の高い課題については十分な指導ができていない側面もあり、今後、より受講生の理解度に応じた個別課題にするように配慮しつつ、ソフトウェアに対する探究心を高め既習事項の定着を図るような授業内容にしていく必要がある。

授業科目名 家庭経営学演習
 評価実施日 平成21年2月20日
 担当教員名 渡邊 廣二

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	1	0	0	0	0	4.8
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	2	0	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	0	2	0	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	1	4	0	0	0	0	4.2
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	2	1	2	0	0	0	4.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	3	0	0	1	0	3.6
	(9) 授業中に積極的に発言や質問をした。	1	1	2	0	1	0	3.2
	(10) 積極的に課題に取り組んだ。	3	1	1	0	0	0	4.4
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	1	1	0	1	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	3	0	0	0	0	4.4
	(13) 学生参加型の授業だった。	5	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 熱心に指導した。	1	4	0	0	0	0	4.2
	(15) 授業内容を分かりやすく説明した。	1	4	0	0	0	0	4.2
	(16) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	1	0	0	0	0	4.8
	(17) 授業の進む速さは、適切だった。	2	2	1	0	0	0	4.2
	(18) 学生の疑問や質問に適切に答えた。	4	1	0	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	1	4	0	0	0	0	4.2



教員のコメント

この授業は演習の授業科目なので、学生たちが自主的に授業に参加できるようにという配慮から、毎回、次週の授業で取り扱う内容に関する課題を与えた。授業では、課題にもとづいて意見交換をした。少人数の授業でもあり、学生たちは、毎週、きちんと課題に応えた。したがって、「(13)学生参加型の授業だった(5.0)」という高い評価を得た。

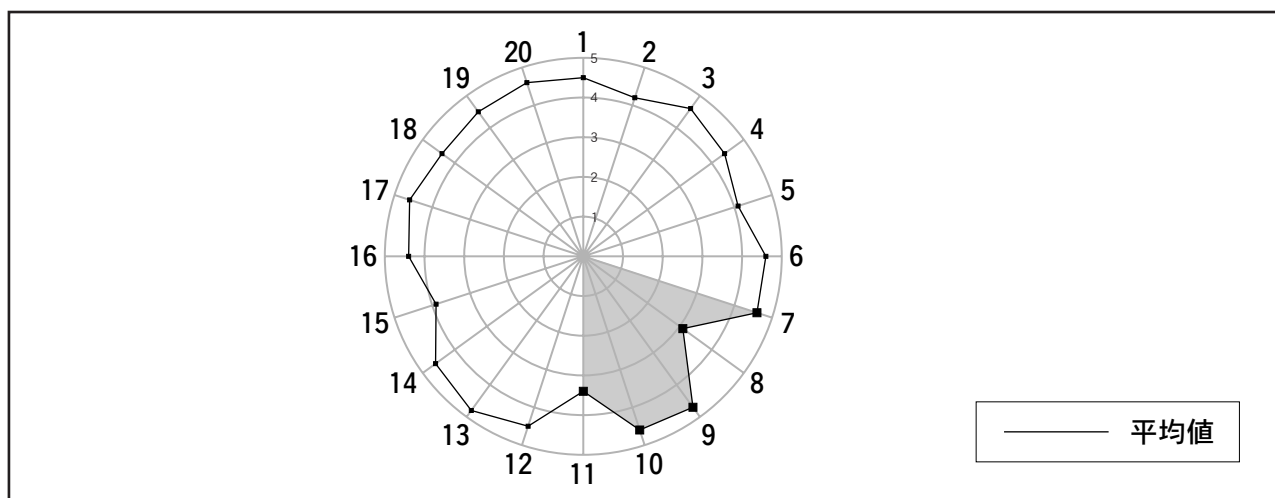
それにもかかわらず、学生による授業への取り組みについては、次のように決して高い評価とはいえない。すなわち、「(9)授業中に積極的に発言や質問をした(3.2)。(8)授業内容をよく理解するために予習や復習をした(3.6)。(11)分からないことや疑問に思ったことは調べた(3.6)」

よく課題に応じて、授業にも熱心に出席しているにもかかわらず、学生自身による授業への取り組みに対する評価は厳しい。これらのギャップがなぜ生じるのか。これは今年度の当該授業での課題である。

授業科目名 図画工作Ⅱ
 評価実施日 平成21年1月29日
 担当教員名 内藤 隆, 野崎 窮

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	10	6	1	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	8	6	1	2	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	12	4	1	0	0	0	4.6
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	11	2	4	0	0	0	4.4
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	5	1	3	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	11	6	0	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	13	3	0	0	1	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	4	4	3	3	0	3.1
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	12	5	0	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	6	0	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	4	1	3	0	3.4
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	11	4	2	0	0	0	4.5
	(13) 熱心に指導した。	14	3	0	0	0	0	4.8
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	11	5	1	0	0	0	4.6
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	6	5	5	0	1	0	3.9
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	9	1	0	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	11	5	1	0	0	0	4.6
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	8	8	1	0	0	0	4.4
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	10	6	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	10	7	0	0	0	0	4.6



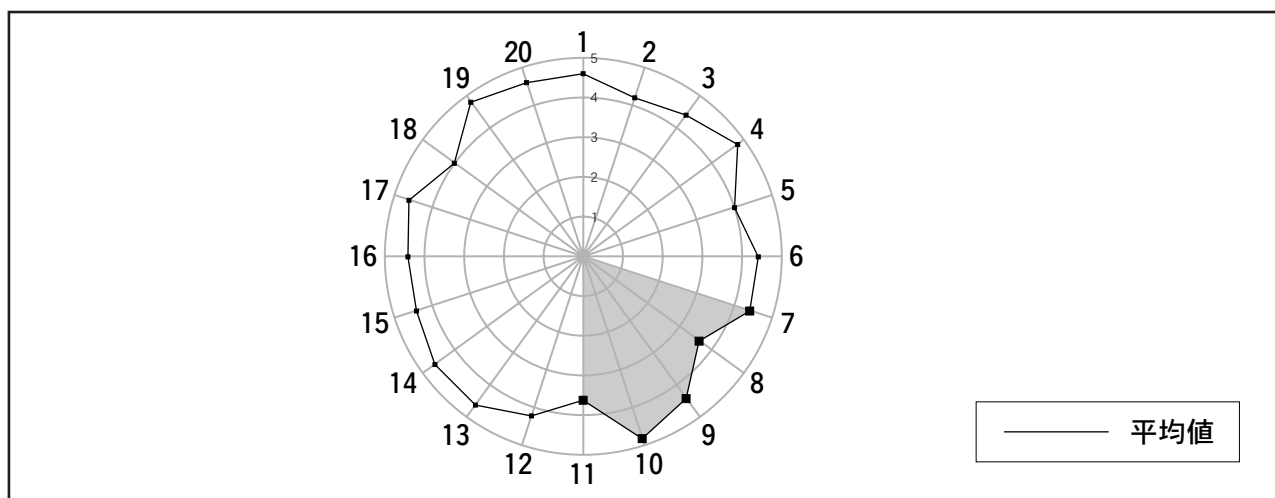
教員のコメント

受講者本人の受講態度（毎回の事だが、この部分は自己評価が厳し目になるため）以外で、4を割り込んだ部分が殆どなかった。全体の印象から、受講生には大方良い評価を得ていると考えられる。唯一、質問15「教科書や配布資料等の教材は、内容理解の為に適切」という項目が3.9であったが、実技中心の授業である為、配布資料や特定の教科書を使っていない事がこの理由になると思われる。理由はこの評価点に影響しているのがこの項目に1を付けた受講生の評価だが、この学生は他に項目8, 11, にも1を付けており、一方それ以外の項目は全て5を付けている（デジタルと言って良い評価の方法をとっている）ためである（また、自由記述に大きな不満が無い）。自由記述を見るとまず良かった事が「実際に物が作れた（作品を残せた、普段体験できなかった事をできた）」（7名）、「作品が出来上がる行程が楽しかった」（2名）、「他者の作品を見て講評等を聞いた」（2名）、他「図工の基礎に触れた」「平面・立体の構成を学べた」「進んでやらなければならないことを受けて良かった」が各1名、他は無記名であった。一方改善を求める自由記述は「美術科ではないので用具の説明・アドバイスを詳しくして欲しい」「説明が長く計画性を持って欲しい」「雨の日の石膏取り」があった。これら痛い意見こそ大切に感じる。今後心して改めたいと考える。

授業科目名 絵画材料研究
 評価実施日 平成21年2月5日
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 5名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	2	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	1	0	0	4.2
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	1	1	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	1	3	1	0	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	2	3	0	0	0	4.4
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	3	1	1	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	1	1	3	0	0	3.6
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	1	1	0	0	4.4
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	1	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	2	0	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	0	2	0	0	4.2
	(13) 熱心に指導した。	3	2	0	0	0	4.6
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	2	0	0	0	4.6
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	3	0	0	0	4.4
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	3	1	1	0	0	4.4
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	4	0	1	0	0	4.6
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	2	1	2	0	0	4.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	4	1	0	0	0	4.8
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	0	1	0	0	4.6



教員のコメント

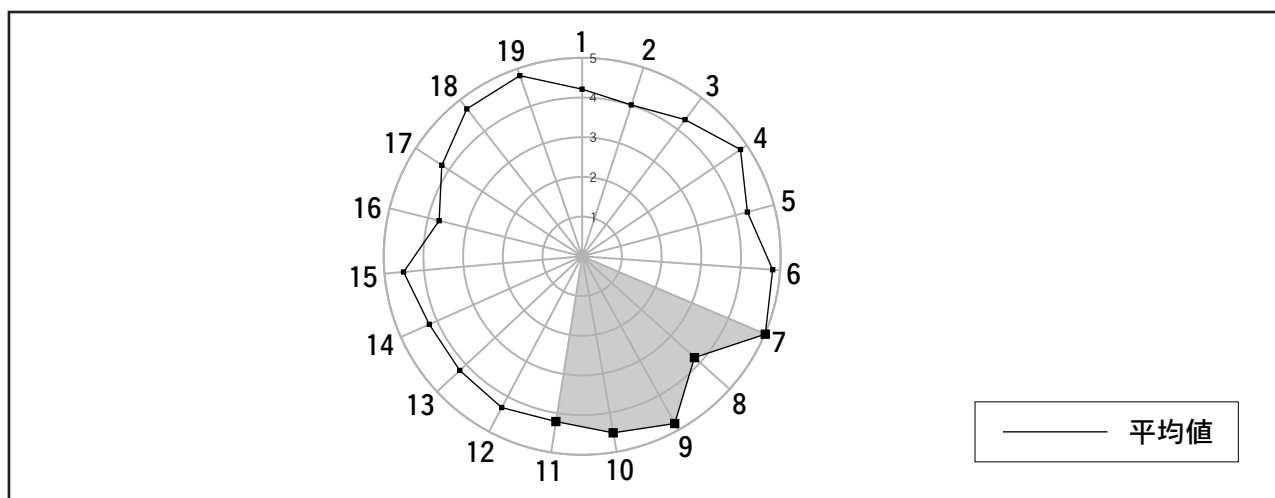
質問項目については概ね好意的数値と言えよう。特に(20)の満足度が平均値で4.6であったことは授業者としても満足できるものである。平均値が4を下回ったのは(8)と(11)であるが、後半部分が絵画材料の実習体験中心であったため学生が自重気味に記入したためではないかと思われる。

学生からの提言では良かったこととして専門的内容であったこと、テンペラ実習の体験、また前半を学生による発表形式で行ったことによる知識の獲得をあげている。しかし現場で生かせる内容であったとあげたものが少数であったことは反省材料であろう。今後ともより現場での展開、教材としての可能性を取り上げたい。改善の提言では毎年であるがテンペラ実習の時間が少ない点をあげたものがいた。今後、授業の時間内で学生に達成感を持たせられるテンペラ実習等を検討したい。

授業科目名 構成・デザイン材料研究
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 松島 正矩

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	2	2	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	1	0	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	2	2	1	1	0	0	3.8
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	5	1	0	0	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	3	3	0	0	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	1	2	0	0	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	2	1	0	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	2	3	1	0	0	0	4.2
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	2	2	1	0	0	1	4.2
	(15) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	4	1	1	0	0	0	4.5
	(16) 教員の声は、聞き取りやすかった。	2	2	0	2	0	0	3.7
	(17) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	1	2	0	0	0	4.2
	(18) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	4	2	0	0	0	0	4.7
5 授業に対する満足度	(19) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	0	0	0	4.8



教員のコメント

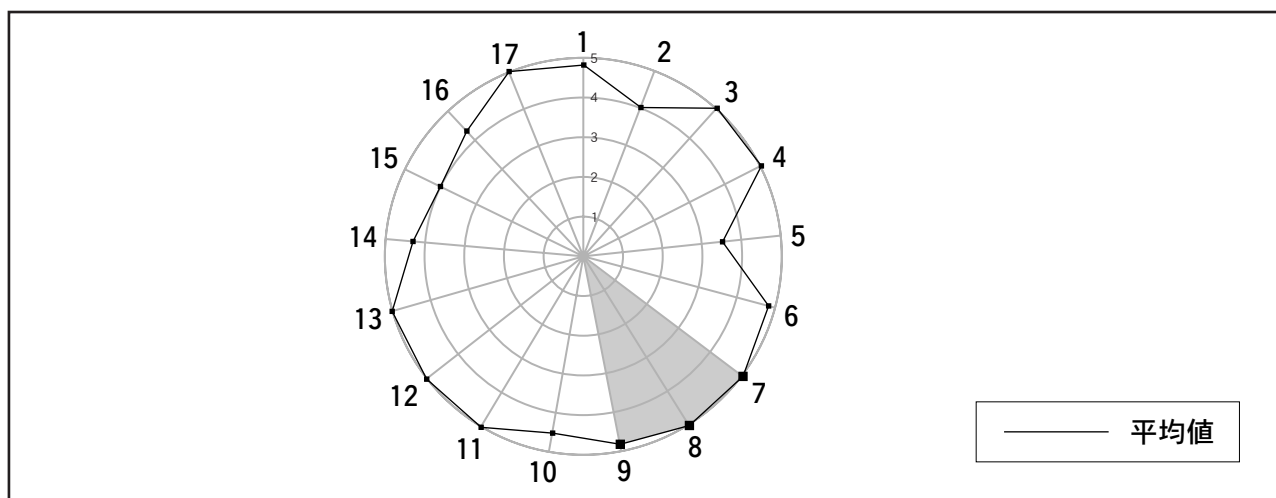
この授業は、標準履修年次が4年の選択科目であるため、受講人数が不安定なこともあるが、本年度は、美術の学生全員と院生1名が受講してくれた。しかし残念なことに、学部生1名の出席が極端に悪く、他の学生の迷惑にもなっていることから、初めての経験であるが、途中から受講を諦めてもらった。他の学生の出席は完璧で、熱心に課題に取り組んでくれたため、予定どおりの授業内容をこなすことができた。

評価の総平均値は4.4であるから、この授業は、まずまずの評価を受けたようであるし、19番の項目からは、全員が満足してくれたことがわかり、大変うれしく感じている。8番の項目において、予習や復習があまりされていないような結果が出ているが、これは、この授業がマルチメディア教育実習室のコンピュータを利用しており、特殊なアプリケーションを使うため、授業時間内で完結するように授業を行ったことが影響していると思われる。16番の項目では、教員の声が聞き取りにくいよう指摘されている。今後、すべての科目にわたって注意していかなければならないと反省させられた。提言の欄には、授業者に自信を与えてくれるような言葉が並んでいて励まされた。

授業科目名 彫刻特別演習
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 長岡 強

回答者数 4名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	3	1	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	2	1	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	4	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	0	2	2	0	0	3.5
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	1	0	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	4	0	0	0	0	5.0
	(8) 積極的に実技等に取り組んだ。	3	0	0	0	1	5.0
	(9) 教員の説明をよく聞いた。	3	1	0	0	0	4.8
4 教員の授業の進め方について	(10) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	2	2	0	0	0	4.5
	(11) 熱心に指導した。	4	0	0	0	0	5.0
	(12) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	0	0	0	0	5.0
	(13) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	4	0	0	0	0	5.0
	(14) 教員の声は、聞き取りやすかった。	1	3	0	0	0	4.3
	(15) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	2	1	0	0	4.0
	(16) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	2	1	1	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(17) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

受講生が、わずか4名であったため、個別指導が徹底し概ね肯定的な評価を得た。
 2以下の評価をした項目は皆無であり、ほとんどの項目で4, 5の評価が多く、十分満足のいく授業であったようだ。

21, 22の自由記述欄の回答は、ほとんど見られず、「時間が足りなくて大変でした。」という意見が二人あった。

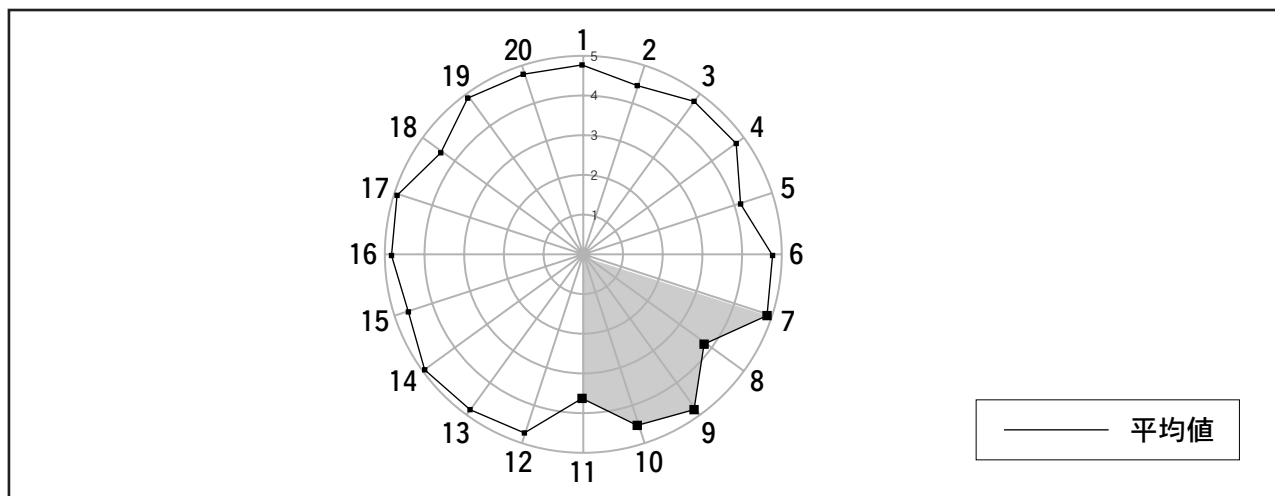
この授業は、授業時間以外に授業時間数の倍ぐらいの制作時間を必要とし、学生の負担は大きいものであったが、受講生全員よく頑張り立像を完成させた。

この授業は、学生に過重負担を強いることを覚悟で、今後も立像制作である本授業を塑造制作の根幹として位置づけていきたいと考えている。

授業科目名 被服学概論（被服製作実習を含む。）
 評価実施日 平成20年7月28日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 17名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	14	3	0	0	0	4.8
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	10	6	1	0	0	4.5
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	14	3	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	14	3	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	8	5	4	0	0	4.2
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	15	1	1	0	0	4.8
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	15	2	0	0	0	4.9
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	6	4	5	2	0	3.8
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	14	2	1	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	11	4	2	0	0	4.5
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	4	5	6	2	0	3.6
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	14	2	0	1	0	4.7
	(13) 熱心に指導した。	13	4	0	0	0	4.8
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	15	2	0	0	0	4.9
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	12	4	1	0	0	4.6
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	13	4	0	0	0	4.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	16	1	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	8	7	2	0	0	4.4
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	15	2	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	13	4	0	0	0	4.8



教員のコメント

今年度の本講義では受講生が例年より2倍ほど多く、被服製作実習の際には、教室が狭く、ミシンの台数も不足した。教員1名の担当であり、指導内容の徹底に時間を割いた。

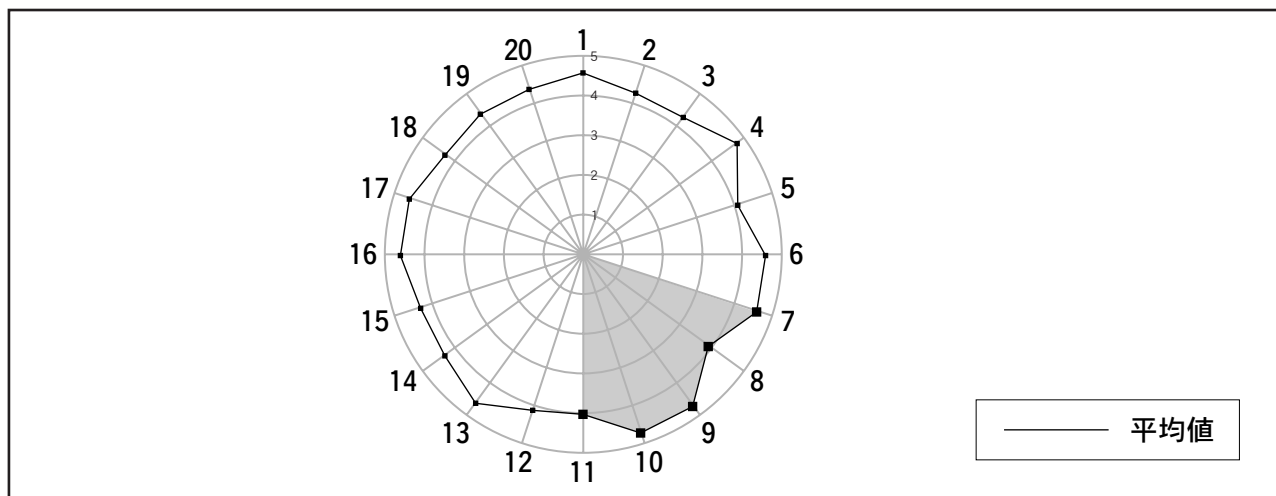
この授業でよかったことでは、「毎授業に目標が明確に提示されてよかった」、「実際に製作をしたので、家庭科教育の中での製作の大切さや、被服分野の重要性を学ぶことができた」、「布地のデザインの仕組みに興味深く学べた」、「ショートパンツの製作過程についてよく理解できた」、「先生とはしゃべりやすく質問しやすい雰囲気だった」、「型紙を自分で作ったのでやりがいがあった」、「おもしろかった」、「家庭科の専門的な知識を知ることができた」、「専門の知識や技術が高まった」、「すぐためになった」、「実践力が身に付いた」、「できなかったところができるようになった」などであり、17名中14名から好意的な意見が寄せられた。

この授業で改善したほうがよいと思うことでは、「周りがうるさいときには、もう少し注意して欲しい」、「受講生の授業態度」、「特になし」5名、「クーラーが欲しい」、「授業の展開が早すぎるのももう少しゆっくりでもよい」、「教室が暑かった」などである。教室の環境整備は予算の関係から改善できないが、受講生の態度や授業の進捗については来年度から改善を図りたい。

授業科目名 材料加工学 I
 評価実施日 平成20年7月24日
 担当教員名 尾崎 士郎, 米延 仁志

回答者数 9名

質問項目	評価選択人数	評価選択人数						平均値 (科目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	4	4	1	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	3	6	0	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	7	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	3	1	1	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	2	1	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	2	1	2	0	0	3.9
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	3	0	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	1	1	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	3	4	1	1	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	3	4	2	0	0	0	4.1
	(13) 熱心に指導した。	5	4	0	0	0	0	4.6
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	2	2	0	0	0	4.3
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	5	2	2	0	0	0	4.3
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	2	1	0	0	0	4.6
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	4	1	0	0	0	4.3
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	5	3	1	0	0	0	4.4
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	3	1	0	0	0	4.4



教員のコメント

全ての項目について評価の平均値が4.0以上であり受講生からはおおむね高い評価を得た。当授業では教員2名が常時チームティーチングを行うことで、学生との緊密なコミュニケーションを図っている。その結果、項目6(1)では、「細やかな指導で良かった」、「大変熱心な指導でよく勉強になった」などのポジティブな評価が得られたと考えられる。その反面、項目6(2)では「急かされるのが嫌だった」との意見も見られた。来年度からは木工室の機械類が大幅に更新されることから、より効率の良い授業運営を心がけたい。

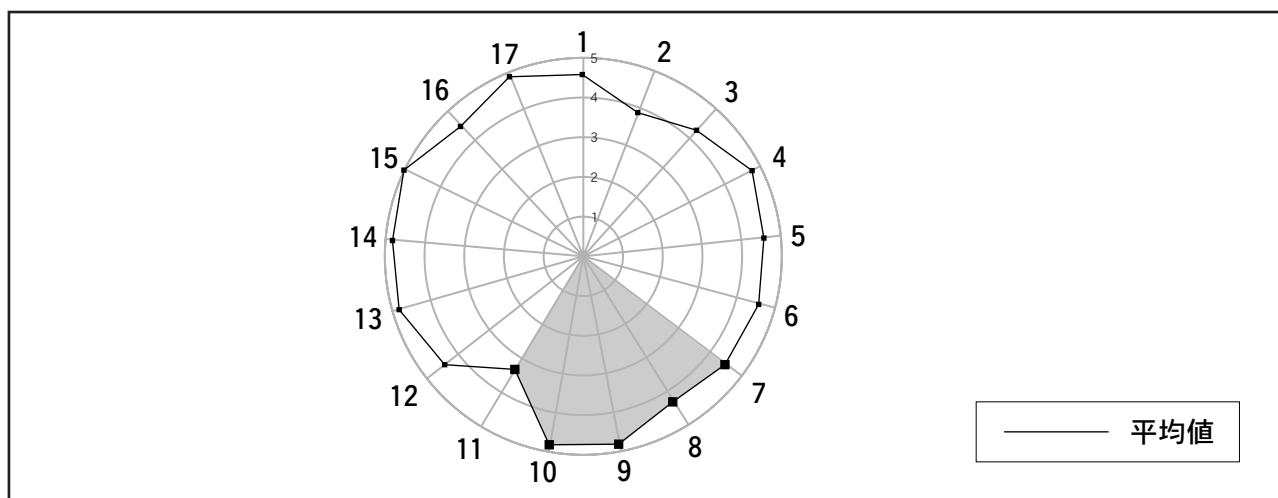
授業科目名 器楽（合奏及び伴奏を含む。）

評価実施日 平成20年7月14日

担当教員名 村澤由利子, 森 正, 山根 秀憲

回答者数 8名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	NA		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	1	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	1	5	2	0	0	0	3.9
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	2	2	0	0	0	4.3
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	3	0	0	0	0	4.6
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	1	1	0	0	0	4.6
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	1	0	1	0	0	4.5
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	4	3	0	1	0	0	4.3
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	2	0	0	0	0	4.8
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	0	3	4	1	0	0	3.3
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	4	3	1	0	0	0	4.4
	(13) 熱心に指導した。	7	0	1	0	0	0	4.8
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	0	1	0	0	0	4.8
	(15) 教員の声は、聞き取りやすかった。	8	0	0	0	0	0	5.0
	(16) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	5	2	1	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(17) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	1	0	0	0	0	4.9



教員のコメント

学部1年生を対象とした授業で、大学生活に多少不慣れな中で行われた。本学の教育上の目的、理念等を1年生がどの程度理解しているかが授業の開始時には多少気になったが、それらを十分に踏まえた受講生からこの授業は高く評価された。

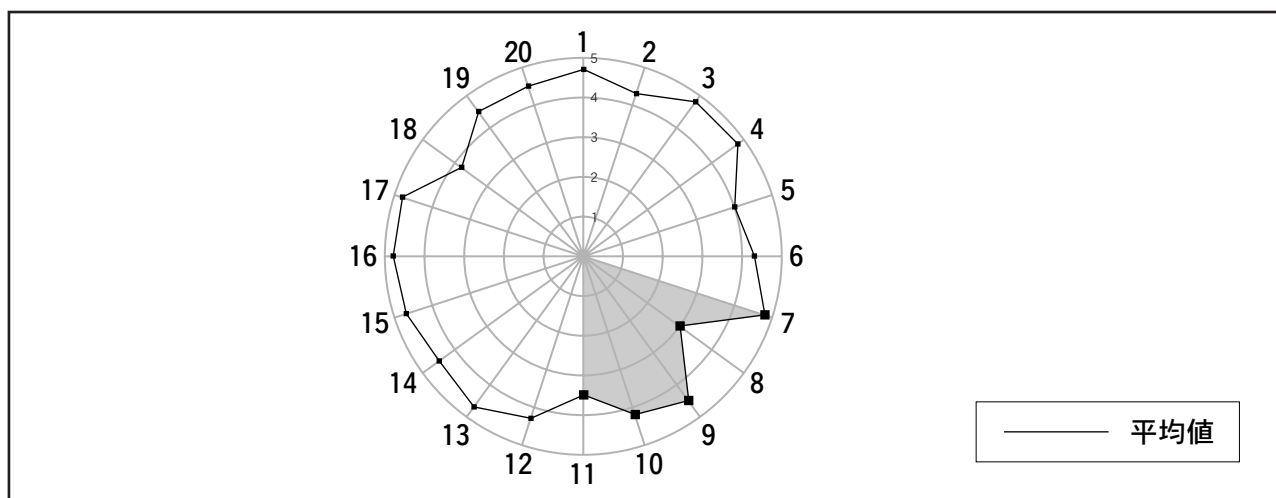
この授業で、今までに触れることのなかった多種多様な楽器に接することができたことは、今後、実際の教育現場において役に立つ経験であり、ほとんどの受講生から高い評価を得ていた。また、実際に授業を行う際には必要不可欠であるピアノの実技についても、受講生は積極的に授業に参加し、成果を上げたようである。

受講生の自主的な取り組みを問う設問(11)では、他と比較すると低い評価がされていた。1年生ということで、自主的な取り組みに対しても、最初は具体的な指示、指導が必要となるようで、どのようにこれらの点について対応するかは今後の課題である。

授業科目名 彫刻Ⅱ
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 6名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	4	2	0	0	0	4.7
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	4	0	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	5	1	0	0	0	4.8
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	5	1	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	1	1	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	3	2	1	0	0	4.3
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	5	1	0	0	0	4.8
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	0	2	3	0	1	3.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	3	3	0	0	0	4.5
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	2	3	1	0	0	4.2
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	1	2	2	1	0	3.5
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	3	2	1	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	4	2	0	0	0	4.7
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	3	3	0	0	0	4.5
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	4	2	0	0	0	4.7
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	5	1	0	0	0	4.8
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	1	0	0	0	4.8
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	3	2	0	0	3.8
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	3	3	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	3	0	0	0	4.5



教員のコメント

木彫と石彫の基本的な技法の習得と教材研究をおこなっている。学生コメントを見ると、初めての本格的な木彫及び石彫である場合が多く新鮮な体験になっているようだ。

授業に対する満足度「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」は4.5である。他の評価もおおむね高い評価になっている。

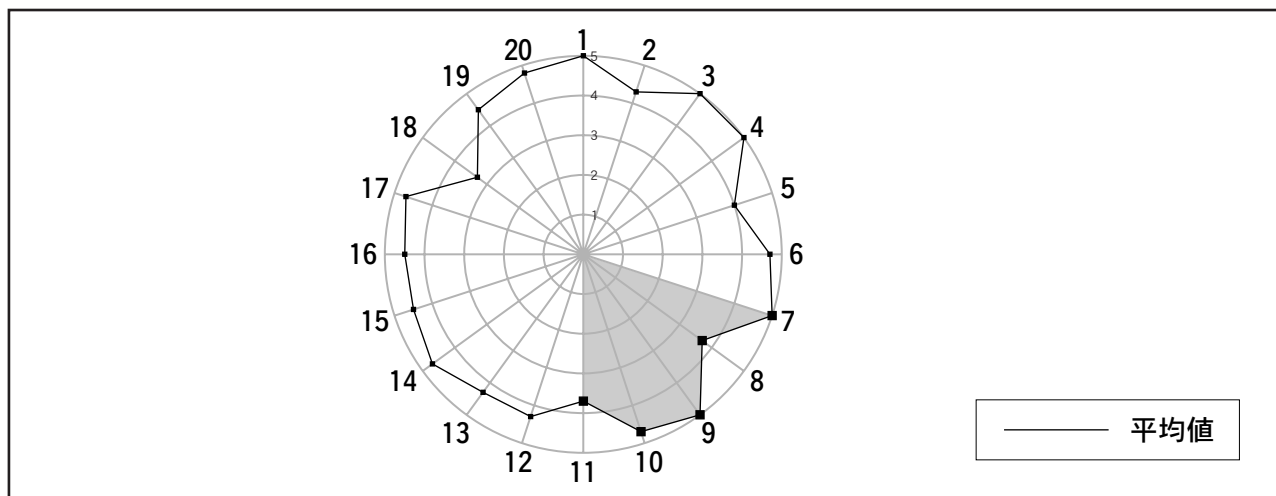
昨年度の授業評価より良くなった点は「成績評価の方法は、明確に示されていた。」と「授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。」である。

昨年と比較して進歩が見られなかったのは「授業内容をよく理解するために予習や復習をした。」であり、その対策として、実技が中軸の授業であるので授業以外で学生が制作するように、各週の授業終了時に次週にむけて具体的に制作における宿題をだすことである。

授業科目名 絵画 I
 評価実施日 平成20年 7 月28日
 担当教員名 西田 威汎, 鈴木 久人

回答者数 6 名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	6	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	3	2	1	0	0	4.3
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	6	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	0	0	0	0	5.0
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	3	1	1	1	0	4.0
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	4	2	0	0	0	4.7
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	0	1	2	0	3.7
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	6	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	4	2	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	0	4	0	0	3.7
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	2	4	0	0	0	4.3
	(13) 熱心に指導した。	2	4	0	0	0	4.3
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	4	2	0	0	0	4.7
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	3	3	0	0	0	4.5
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	4	1	1	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	5	0	1	0	0	4.7
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	1	1	3	1	0	3.3
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	3	3	0	0	0	4.5
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	5	1	0	0	0	4.8



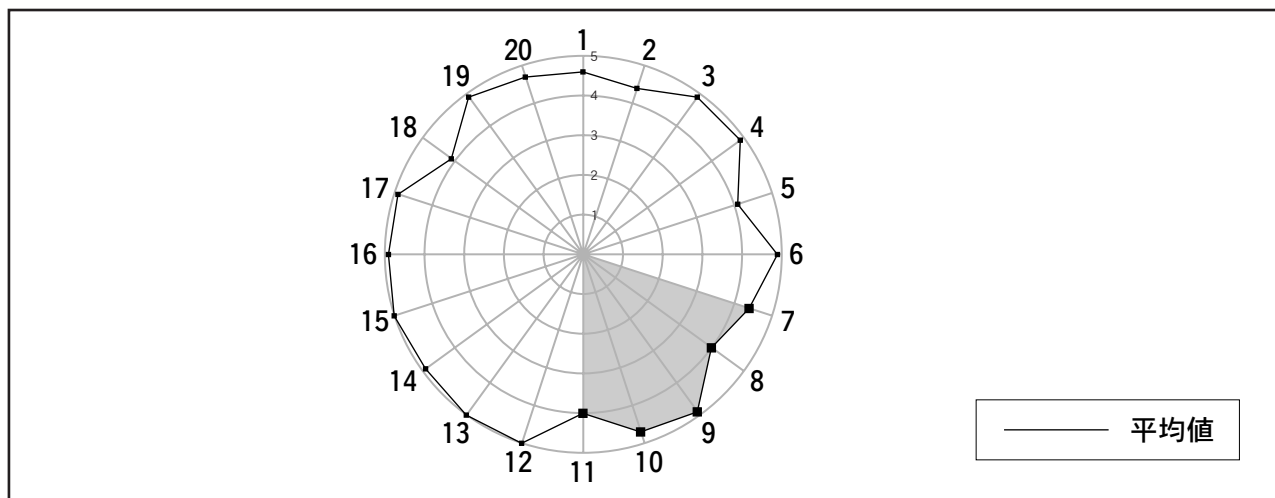
教員のコメント

本授業は絵画制作の基礎的技能と知識等の獲得を目的とした実技・実習の科目である。
 概ね、好意的な評価であった。3の学生自身の授業への取組状況を問う設問以外で気になる数値を見せるのは4-(18)である。これは与えられた課題のレベルや分量を問うものであるが、ここで評価が低かった理由としてはレベルというよりはその分量であろう。9時間から12時間で1点の油彩画制作を課題としているが、この時間では確かに短く、時間外の制作が必要となる。しかし学生には予習、復習のない実技・実習の科目であるため提出までにある程度の時間外制作を求めると伝え、また理解してもらっていると考える。このような設問に学生は素直に答えたと思われるが、今後とも適正な課題量を模索していきたい。3-(8)の数値が低いのもこれに関連しての理由であろう。

授業科目名 構成・デザイン I
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	2	1	0	0	0	4.6
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	0	3	0	0	0	4.4
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	4	3	3	0	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	9	1	0	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	6	2	2	0	0	0	4.4
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	1	3	1	0	0	4.0
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	2	6	2	0	0	0	4.0
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確認しながら授業を行った。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(13) 熱心に指導した。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	9	1	0	0	0	0	4.9
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	4	3	3	0	0	0	4.1
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	9	1	0	0	0	0	4.9
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	8	1	1	0	0	0	4.7



教員のコメント

本授業では「手作業で行えるデザインの学習」を基本概念に、美術分野での予備教育の無い者に対し、制限された時間内に出来る限りデザイン力の育成を図ることを目的としている。内容は、タイポグラフィ、シンボルマーク、写真の構造理解及び暗室・スタジオ操作、映像メディアとしてフォトレタッチソフト操作の初歩、図法の簡単な解説とその演習、簡易な木工による遊具考案とその制作、と言った初等図工中等美術教育に適合した内容を必要最低限の範囲で揃えている。

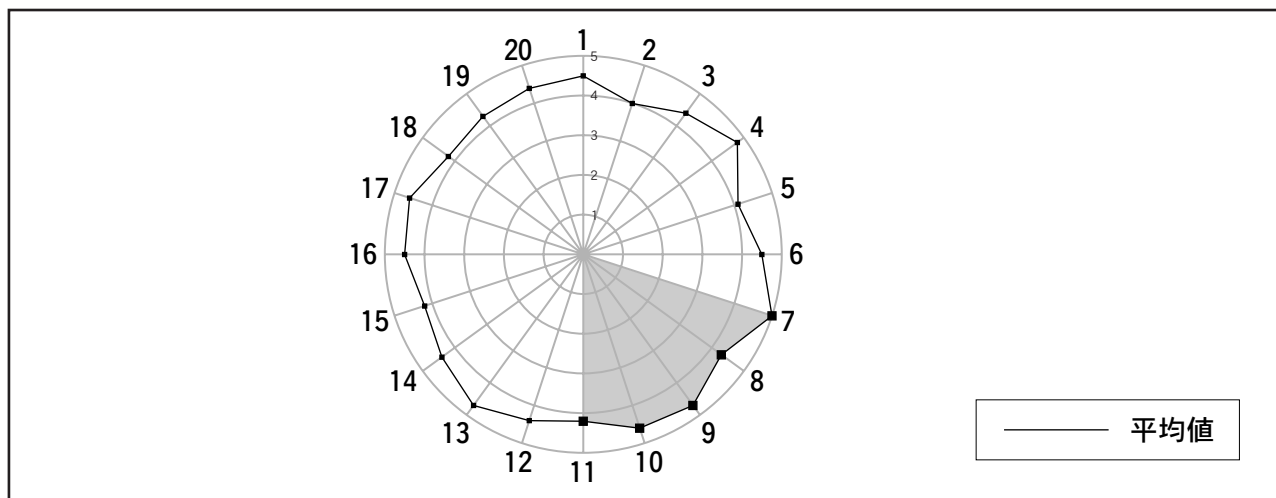
評価の値は概ね例年通りと考えられる。昨年より評価が高いのは、美術コースの院生（美大出で教職志望、当方の出題意図を最初から理解している）が多く混ざっていた為であると考え。まず昨年は概要における「評価方法」の記述に対する点がやや低かったが、授業開始時に説明を加えたせいか若干上がった。なお今回は4を切った部分はなかった。4.0は2カ所あったが、この授業がリサーチを求めない内容である事と学生自身の評価は厳しめになる事が理由で、これも例年通りの傾向である。平均が4.1とこれについて低い部分は(5)の教育に対する見方、(18)の課題の分量の2点。これについても例年通りの反応である。(5)については、この授業では原理的知識・制作体験を重視しており、現場への即席応用を目指していない。(18)については、内容を10年かけて最低限この時期に教えるべきものを選び抜き、負担も少なくなる様改善しており、これ以上の譲歩は質の低下を招くと考える。

自由記述から（必要なのは「痛い意見」だけなので）改善希望点の記述のみ挙げるが、「課題が多くて大変なことがあった」「課題の量」の2件のみであった。課題の量については、より効果的で短期で済む内容が見つかれば、減らす。

授業科目名 化学実験Ⅱ
 評価実施日 平成20年7月31日
 担当教員名 今倉 康宏

回答者数 10名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	2	6	2	0	0	0	4.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	4	6	0	0	0	0	4.4
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	8	2	0	0	0	0	4.8
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	2	7	1	0	0	0	4.1
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	5	5	0	0	0	0	4.5
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	10	0	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	3	7	0	0	0	0	4.3
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	2	3	0	0	0	4.2
4 教員の授業の進め方について	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(13) 熱心に指導した。	7	3	0	0	0	0	4.7
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	5	4	1	0	0	0	4.4
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	2	8	0	0	0	0	4.2
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	5	5	0	0	0	0	4.5
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	6	4	0	0	0	0	4.6
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	3	6	1	0	0	0	4.2
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	3	7	0	0	0	0	4.3
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	4	6	0	0	0	0	4.4



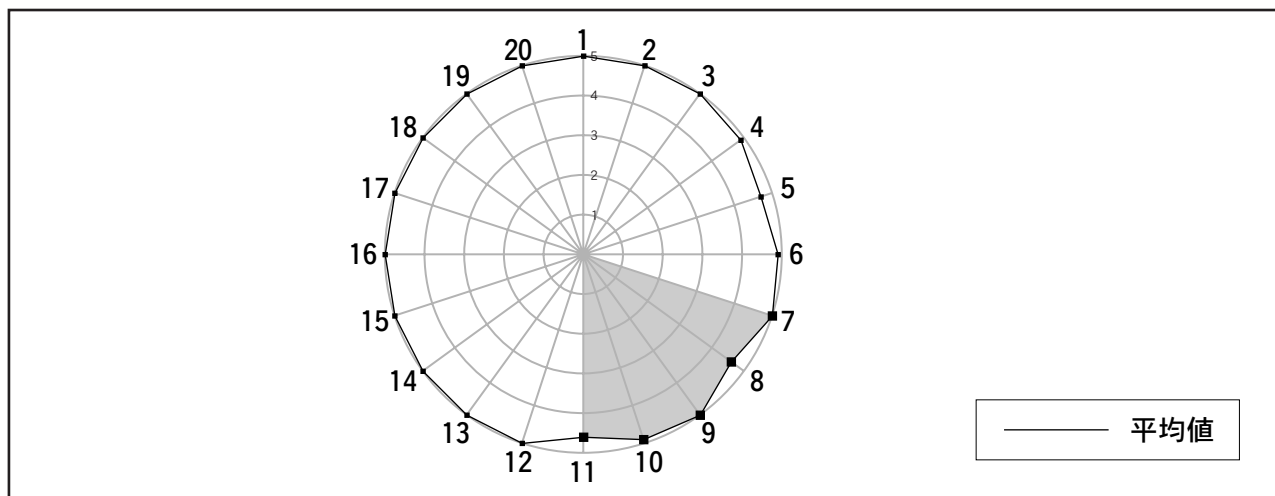
教員のコメント

- 1) 授業概要について
平均4.3と高い評価を得ている。これは、授業の目的・到達目標を明確に示したからであろう。
- 2) 授業内容について
平均4.5と高い評価を得ている。簡単な実験体験を通して、多くの化学技術を学び科学的に探究する方法を学べる構成を重視したことによると思われる。
- 3) 授業への取組について
平均4.6と高い自己評価をしている。これは学習者が本実験プログラムに興味関心を持ち実験授業に参加できたものと思われる。
- 4) 授業の進め方
平均4.4と高い評価を得ている。全ての項目で学習者は満足しているものと思われる。次年度も学習者の興味関心・理解度を高めるように更なる工夫を凝らすつもりである。
- 5) 満足度
4.4と高い満足度を示している。次年度もこの評価を維持できるように実験実習を充実させたいと思っている。

授業科目名 調理実習
 評価実施日 平成20年6月2日
 担当教員名 西川 和孝

回答者数 7名

質問項目	評価選択人数						平均値 (科目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
1 授業概要について	(1) 目標・授業計画・内容は、明確に示されていた。	7	0	0	0	0	5.0
	(2) 成績評価の方法は、明確に示されていた。	7	0	0	0	0	5.0
2 授業の内容等について	(3) 授業内容は、授業概要に沿っていた。	7	0	0	0	0	5.0
	(4) 授業内容は、教養や専門性を高めるものだった。	6	1	0	0	0	4.9
	(5) 授業内容は、教育に対する見方や考え方を学べるものだった。	5	2	0	0	0	4.7
	(6) 授業内容は、興味・関心を引くものだった。	6	1	0	0	0	4.9
3 あなたの授業への取り組みについて	(7) 授業によく出席した。	7	0	0	0	0	5.0
	(8) 授業内容をよく理解するために予習や復習をした。	5	1	1	0	0	4.6
	(9) 積極的に実験、実習、実技等に取り組んだ。	7	0	0	0	0	5.0
	(10) 教員の説明をよく聞いた。	6	1	0	0	0	4.9
4 教員の授業の進め方について	(11) 分からないことや疑問に思ったことは調べた。	5	1	1	0	0	4.6
	(12) 学生の理解状況を確かめながら授業を行った。	7	0	0	0	0	5.0
	(13) 熱心に指導した。	7	0	0	0	0	5.0
	(14) 授業内容を分かりやすく説明した。	7	0	0	0	0	5.0
	(15) 教科書や配布資料等の教材は、内容を理解する上で適切だった。	7	0	0	0	0	5.0
	(16) 設備、器材、用具等の利用は、適切だった。	7	0	0	0	0	5.0
	(17) 教員の声は、聞き取りやすかった。	7	0	0	0	0	5.0
	(18) 与えられた課題のレベルや分量は、適切だった。	7	0	0	0	0	5.0
	(19) 安全に対する指導と配慮は、適切だった。	7	0	0	0	0	5.0
5 授業に対する満足度	(20) この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	7	0	0	0	0	5.0



教員のコメント

本実習は、主に2年生を対象としている（本年度の受講者数は8名（内公欠1名）であった）。例年通り、学生の要望がある自由献立を1回取り入れた。また、毎回、プリントや資料を配布し、それに従って実習を行っている。授業評価では、一部（質問項目(8), (11)）を除き、5, 4の高い評価であった。特に、質問項目(1), (2), (3), (7), (9), (12)から(20)はすべて5の評価であったが、本実習は安全指導が最も重要であるので、今後も注意していきたい。さらに、今回課題となったところは、改善していきたいと考えている。

あ と が き

本学では、平成12(2000)年度より「学生による授業評価」を全学規模で実施して以来、この評価報告の結果を踏まえて、授業改善に取り組んできた。今年度は、教育実践コア科目、教養基礎科目、専修専門科目、教職共通科目すべての総評価平均が4点を越えた。教育実践コア科目と専修専門科目の総合評価は昨年も4点を越えていた。昨年、わずかに4点を下回っていた教養基礎科目、教職共通科目が今年度は4点を上回る結果となっている。各教員が授業改善に努力した結果と見なしたいところである。しかし昨年のアンケート実施数と比較するなら、教養科目は11科目から10科目と1科目の減であるが、教職共通科目は52科目から45科目へと7科目もの未実施科目がある。これでは単純に喜べない。全教科目のアンケート実施が義務づけられる次年度には、今年度の評価結果が実施科目数の減少によるものなのか、教員の努力によるものなのかが明確になるものと思われる。

個人的なことだが、このあしがきを書くのは2度目である。初回の平成12年度報告書において、私は「授業者の工夫・努力によって、学生が満足している授業であっても、学生が自学自習している痕跡は見られない。つまり、満足度の高い授業＝自学自習を促す授業ではない」という結果から、「授業評価アンケートの中身の検討に加え、学生の学習意欲を喚起する方途が明確にされなければならない」と指摘している。この8年間に、実践力を目指す教育実践コア科目が新たに開設され、アンケート項目もその都度、検討を繰り返し、科目の趣旨に添った中身に変えてきた。そうした努力の積み重ねの結果だと即断はできないが、学生の満足度の高い授業＝自学自習を促す授業に近づいてきている。

こうした変化が、昨年度から導入したレーダーグラフによって細かく読み取ることができる。「学生の授業への取り組み」と教員の授業の進め方等を比較した場合、教育実践コア科目等の演習科目や実験・実習・実技などの科目では、学生の自主的、主体的な授業への取り組みが見られるのに対して、講義科目では、授業によく出て、教員の説明をよく聞くといった消極的な授業態度になっている。特に、講義科目では授業中に積極的に発言や質問をすることが最も低くなる。種類別に見てみると、専修専門科目、教職科目、教養科目の順に、消極的態度が顕著となっている。教職科目や教養科目の場合、受講生の数も多く、授業中ではなく、授業後、個別に質問してくる学生が増えており、当然の結果だと頷ける。質問の中身によっては人に聞かれたくないものもあるが、学生の一般的傾向でもある。講義科目を担当する授業者は、具体的な事例を使った話題の豊富さ・話術の巧さに加え、双方性の授業形態を適宜導入する工夫が今後さらに求められるのかもしれない。

先にも触れたが、次年度からは全教科目のアンケート実施が義務づけられ、他種類に分けていたアンケート項目もほぼ単一のものに改良して取り組むことが決まっており、新たな授業評価体制が始まる。この節目に、数年間の授業改善を振り返る機会が与えられたことに感謝している。

最後に、本報告書の作成にご尽力、ご協力いただいた学部教務委員会、学生による授業評価専門部会、学部授業担当教員ならびに学生、事務職員の方々に心より感謝の意を表します。

平成20年度学校教育学部教務委員会
学生による授業評価専門部会主査

橋 川 喜美代

鳴門教育大学学校教育学部教務委員会 委員名簿

(平成 20 年度)

委員長	田中雄三	理事		
副委員長	橋川喜美代	幼年発達支援	(教授)	(学生による授業評価専門部会主査)
委員	皆川直凡	人間形成コース	(准教授)	
"	井上とも子	特別支援教育専攻	(准教授)	
"	茂木俊伸	言語系コース(国語)	(准教授)	
"	藪下克彦	言語系コース(英語)	(准教授)	
"	木原克司	社会系コース	(教授)	(学生による授業評価専門部会委員)
"	秋田美代	自然系コース(数学)	(准教授)	
"	佐藤勝幸	自然系コース(理科)	(教授)	(学生による授業評価専門部会委員)
"	菊地章	生活・健康系コース(技・工・情)	(教授)	
"	金貞均	生活・健康系コース(家庭)	(准教授)	
"	森正	芸術系コース(音楽)	(准教授)	
"	野崎窮	芸術系コース(美術)	(准教授)	(学生による授業評価専門部会委員)
"	吉本佐雅子	生活・健康系コース(保健体育)	(教授)	
"	大石雅章			(地域連携センター所長)
"	清水茂	地域連携センター	(准教授)	
"	大堀耕嗣		(教務課長)	
"	近森憲助	現代教育課題総合コース	(教授)	

平成 20 年度 学生による授業評価実施報告書

平成 21 年 12 月発行

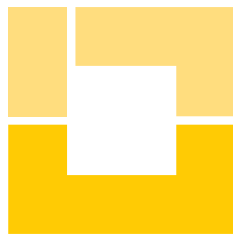
編集 鳴門教育大学学校教育学部教務委員会

発行 鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島 748

電話 088-687-6093

FAX 088-687-6107



国立大学法人
鳴門教育大学

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地
<http://www.naruto-u.ac.jp/>

